

# Annual Report 2021

---

年報 2021年(令和3年)度



JA 広島総合病院  
JA. HIROSHIMA General Hospital

# Annual Report 2021

---

年 報 2021年(令和3年)度

# Contents

巻頭言	病院長の言葉	4
-----	--------	---

## トピックス

2021年8月よりがんゲノム医療連携病院になりました	6
リウマチ・膠原病科が開設されました	7
第18回 市民公開講座「ソナエント君と聴こう、救急医療のいろんなはなし」 オンデマンドにて配信しました	8
廿日市市の市道総合病院連絡線が開通しました	9

## 退職者挨拶

アマノリハビリテーション病院	小深田 義勝	10
	松原 昭郎	11

## 病院の概要

病院概況	14
JA 広島総合病院のあゆみ	15

## 活動報告

総合診療科	18
呼吸器内科	19
循環器内科	21
腎臓内科	23
糖尿病代謝内科・糖尿病センター	24
消化器内科	25
小児科	27
外科	28
乳腺外科	29
整形外科	30
形成外科	31
脳神経外科	32
呼吸器外科	35
心臓血管外科	36
皮膚科	37
泌尿器科	38
産婦人科	39
眼科	40
耳鼻咽喉科	41
放射線治療科	42
画像診断部	43
麻酔科	44
歯科口腔外科	45
救急・集中治療科	46
健康管理センター	48
病理診断科・病理研究検査科	50
研修医室	51
看護部長室	52
外来	53
外来治療センター	54
地域救命救急センター 救命病棟	55
ICU	56
西4階病棟	57
西5階病棟	58
西6階病棟	59
西7階病棟	60

西 8 階病棟	61
東 3 階病棟	62
東 4 階病棟	63
東 5 階病棟	64
東 7 階病棟	65
手術室	66
居宅介護支援事務所	67
訪問看護ステーション	68
薬剤部	69
臨床研究検査科	70
放射線科	71
臨床工学科	72
リハビリテーション科	73
栄養科	74
診療情報管理科	75
医療安全管理室	76
地域医療連携室	77
総合医療相談室	78
人事課	79
情報企画課	80
災害対策ワーキングチーム (DMAT)	81
栄養サポートチーム (NST)	82
呼吸療法サポートチーム (RST)	83
感染防止対策質 (ICT)	84
緩和ケアチーム	85
心臓リハビリテーションチーム	86
がん化学療法チーム	87
「臍がん・胆道がん教室」運営チーム	88
認知症ケアサポートチーム	89
各種委員会	90

## 実績

著書・論文	102
書籍・雑誌編集	106
学会発表	107
学会での座長	116
研究会講演・発表	117
研究会座長	122
地域活動	125
雑誌投稿・テレビ・ラジオへの出演	127
合同カンファレンス	128

## クラブ活動

伯友会 (ゴルフ同好会)	130
--------------	-----

## 資料

統計資料	134
------	-----



## 巻 頭 言

2020年に始まった新型コロナウイルス感染症の世界的流行は、私たちの期待も空しく2021年も終息の見通しが立たないまま時が過ぎました。感染力の強い変異株「デルタ株」などの出現で流行のピークが3度訪れ、そのたびに病床逼迫が起こるのでは？病院機能に支障が出るのでは？と心配が絶えない1年でした。しかし、2021年2月にワクチン接種が始まって人類とウイルスの戦いも新しい局面に入り、またウイルスの特徴が徐々に解明されるにつれ、少しずつですが「with コロナ」の生活に慣れていった年でもありました。

長引くコロナ禍で我慢の日々が続く中、日本人に元気や勇気を与える出来事も数多くありました。4月にはゴルフメジャー大会の一つであるマスターズ・トーナメントで、松山英樹選手がアジア勢初優勝の快挙を成し遂げました。8月には1年延期となった東京オリンピックが「原則無観客」での開催となりましたが、金27・銀14・銅17と歴代最多の計58個のメダル獲得で盛り上がりました。アメリカ・メジャーリーグでは大谷翔平選手が野球界の常識を打ち破って投打の「二刀流」で歴史的活躍を見せてMVPを受賞しました。将棋の世界では、藤井聡太さんが史上最年少の19歳3か月でタイトル四冠を達成しました。また、9月に衆議院広島1区選出の岸田文雄氏が第100代総理大臣に選出されたことは広島に住む者にとっては大きなニュースで、被爆地広島から世界に平和のメッセージが届くことを期待します。

広島総合病院の2021年は、前年に続きコロナ対応病床維持のため使用病床数減少維持を余儀なくされましたが、コロナ対策会議を重ねながら大過なく運営できたと思います。コロナ病棟・トリアージ外来・PCR検査・ICT活動など、労を惜しまず勇敢に戦ってくれた全ての職員とそれを支えていただいたご家族の皆様へ、心より感謝と敬意を表します。

前年に続き制約の多い年でしたが、各部署で創意工夫を凝らして行った活動を本年報で披露させていただきました。トピックスでは、リウマチ・膠原病科新設のご紹介、がんゲノム医療連携病院の活動開始、病院と立体駐車場を結ぶ横断歩道橋の完成、初めてオンデマンドで開催した市民公開講座の話題を取り上げました。コロナ禍が長引き、対面交流の再開が未だ見通せませんが、この年報をご一読いただき当院職員たちの奮闘ぶりを感じていただければ幸甚です。

終わりに、長年にわたり年報編集委員長を務めて下さる辻山修司先生をはじめ、多忙な日常業務下で発刊に尽力された全ての職員の皆様に深謝申し上げます。

2022年10月

広島県厚生農業協同組合連合会  
広島総合病院  
病院長 石田 和史



## 2021年8月より がんゲノム医療連携病院になりました

2019年からがん遺伝子パネル検査の保険適応がはじまり、当院も2021年8月よりがんゲノム医療連携病院として検査を行うことが可能となりました。

現在「FoundationOne® CDx」・「FoundationOne® Liquid CDx」・「OncoGuide™ NCC オンコパネルシステム」の3種類の検査は、標準治療がない又は終了見込みの固形がん患者さんが適応となっています。

がん遺伝子パネル検査は「F1 CDx：324個、NCC オンコパネルシステム：124個」のがんに関係する遺伝子の異常（変異）を一度に検査することが可能であり、遺伝子変異をもとに治療薬を探索することができます。

がんゲノム医療拠点病院である広島大学病院と複雑ながん遺伝子パネル検査の結果を解釈・検討する会議（エキスパートパネル（EP））を行ったのち、正式な報告書として患者さんに結果を伝えることとなります。

エキスパートパネルでは遺伝子変異の解釈とともに、現在行われている治験情報・臨床試験・生殖細胞系列の遺伝子変異（二次的所見）の可能性についても検討されます。

### ■スタッフ

医師：呼吸器外科 渡 正伸  
 乳腺外科 大原 正裕、梶谷 桂子  
 看護師：古井 良子（※）、益田 尚恵（※）、  
 九十九 渚（※）  
 薬剤師：白井 敦史（※）、埋橋 賢吾（※）、  
 檜垣 麻友美（※）、井手 淑江（※）  
 臨床検査技師：高田 愛（※）、住田 美栄（※）  
 事務：総務課 乃美 嶺司  
 診療情報管理科 井本 真美  
 （※：がんゲノム医療コーディネータ）

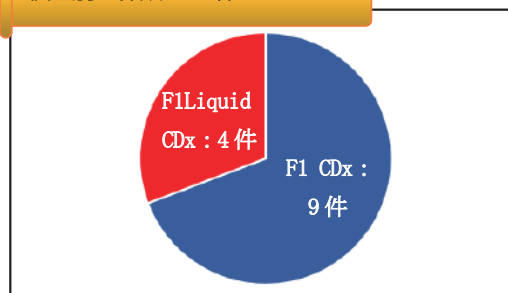
### ■活動報告

対象期間：2021/8/1～2022/3/31

- 1) 同意取得件数：13件（重複あり）
- 2) 出検数：12件（重複あり）

- 3) エキスパートパネル（EP）：10件
- 4) 結果説明：10件
- 5) エキスパートパネル（Webにて）  
毎週火曜日 16:00～
- 6) その他
  - ・同意取得から結果説明までの平均日数  
10症例：平均76.8日
  - ・治験情報：6件/10件（実際には未到達）
  - ・患者申し出療養：0件/10件
  - ・EP結果より治療実施した件数：1件/10件
  - ・二次的所見：1件/10件

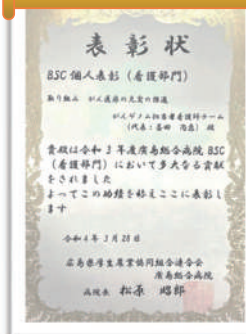
検査別の件数：13件（重複あり）



### エキスパートパネルの風景



### BSC個人表彰 （看護部門）



### 院内ふれあいポスター展 ☆ラッキー賞☆



# リウマチ・膠原病科が開設されました

2021年4月より当院にリウマチ・膠原病科が開設されました。当科では慢性関節炎を呈する関節リウマチ、脊椎関節炎やリウマチ性多発筋痛症を始め、全身性エリテマトーデス、混合性結合組織病、皮膚筋炎・多発性筋炎、血管炎症候群といった膠原病の診断や治療を行なっています。

開設当初は私（吉田）が広島大学病院からの派遣で週1回（木曜終日）外来をスタートしましたが、すぐに通院患者さんの数が増え、2022年4月からは週2日（火曜午後：吉田・木曜終日：木戸口）の2名体制とさせていただいております。非常にアットホームなスタッフに囲まれ、不自由なく診療ができております。

膠原病は多臓器疾患であるため、総合診療科・腎臓内科・呼吸器内科・糖尿病代謝内科・皮膚科・整形外科などの多くの診療科の先生にご協力いただきながら日々診療しています。重症の膠原病患者さんは、一旦広島大学病院で入院していただき、病状が落ち着いた段階で当院の外来に戻ってきていただいております。また、外来では超音波を使った大型血管や関節の評価をしており、機器の貸し出しやメンテナンスをしていただいている放射線科の皆さまにもこの場を借りて感謝申し上げます。

膠原病分野の治療進歩は目覚ましく、近年さまざまな新規薬剤が登場しています。当院通院中の患者さんも関節リウマチや脊椎関節炎は、メトトレキサート・生物学的製剤・JAK阻害薬を、全身性エリテマトーデスはヒドロキシクロロキン・タクロリムス・ミコフェノール酸モフェチル・ベリムマブなどの薬剤を用いて治療させていただいております。もともと院内未採用であった薬剤も多く、これらの薬剤の使用に関しては薬剤部の皆さまにご尽力いただいております。

これからも皆さまに支えてもらいながらになりますが、地域の皆さんの健康と笑顔のために頑張っ

ていく所存ですので、今後とも何卒よろしくお願いいたします。





## 第18回 市民公開講座「ソナエント君と聴こう、救急医療のいろいろなはなし」オンデマンドにて配信しました

当院の市民公開講座は、平成22年より年2回、平成29年以降は年1回の定期開催としており、令和2年は救急医療について準備を進めておりましたが、新型コロナウイルス感染症の流行により開催を断念する状況となりました。

今回、令和3年には2年越しのテーマである「ソナエント君と聴こう、救急医療のいろいろなはなし」をオンデマンド配信いたしました。年度当初は市民の皆様に参加いただけての開催を検討しておりましたが、感染状況は第4・5波と収束の兆しも見えず、感染対策レベルが引き上げられるなどの状況となりました。このため、YouTubeを活用したオンデマンド配信へ切り替えることにしました。

佐伯地区医師会 松浦渉先生に「佐伯地区の医師会初期救急医療の取り組みと現状」として、地元医師会が担当されている廿日市休日夜間急患センターに関するお話を中心にしていただきました。廿日市市消防本部 松本浩樹先生には「廿日市市における救

急の現状について」救急車の出動状況など全国との比較も交えてお話していただき、同消防本部の皆様の「いざというときにソナエント（備えん）！～もしも大切な人が突然、目の前で倒れたら・・・～」の寸劇が披露されました。ご覧いただく皆様に興味を持っていただけるよう、白熱の演技でした。最後はJA広島総合病院 吉田研一先生より「救急車を呼ぶとき、留意していただきたいいくつかのポイント」のお話をしていただきました。演者の先生方のお話から、救命措置や救急車を呼ぶときのポイントなど“いざという時”の備えを理解する機会となっていたなら幸いです。

オンデマンド配信は次回の講座開催を予定している時期までの9ヶ月とし、閲覧件数は645件でした。過去の来場者の年齢構成は60歳以上が50%以上であり、YouTube配信が皆様のご意向に添えていたかについては、引き続き検討していきたいと考えています。



【配信動画】廿日市市消防本部による寸劇の様子

## 廿日市市の市道総合病院連絡線が開通しました

令和3年7月12日、JA広島総合病院と立体駐車場を結ぶ市道総合病院連絡線（以下横断歩道橋）が開通しました。

この横断歩道橋整備は、平成26年10月に病院・広島厚生連・廿日市市の3者で締結した「廿日市市地域医療拠点等整備に関する協定」から始まった廿日市市地域医療拠点等整備事業の中に位置づけられている事業の1つです。廿日市市と民間事業者とで整備する官民複合施設やJA広島総合病院と南側に位置する商業施設や立体駐車場の行き来には国道2号線を横断する必要があります。各施設利用者が安全・安心に国道2号線を横断することを目的に、両側を直接結ぶ横断歩道橋の設置が計画され、工事期間約1年を経てこの度完成しました。車いす等の通行に配慮し、エレベーターも設置されています。

待望の横断歩道橋の完成により、当院利用者からも「安全でスムーズな来院ができる。」と喜びのお声をいただいております。

今後、広島総合病院では新棟増築、医療機器等整備、既存棟の改修工事など、より良い医療環境の整備を行う予定です。





## 急性期病院勤務を終えて

アマノリハビリテーション病院  
小深田 義勝

平成7年4月より令和3年8月末まで26年5ヶ月の広島総合病院勤務が終了となりました。昭和55年に医師となり、泌尿器科 仁平門下生となって42年が経過しました。国立福山、尾道総合、マツダ、広大、三次中央、広島総合病院と急性期病院勤務でした。大学では、尿路結石の内視鏡手術(TUL,PNL)を山崎君と二人で始めました(仁平先生の指示により)。その後、尾道総合まで結石手術が中心でした(ESWL 保険適応前)。三次から医長になり、すべての手術習得に向けて、かなりハードな生活でした。指導いただいた、松木、碓井、鵜飼、藤井先生の先輩方、同期の森山君に感謝、感謝です。43歳から廣総で広本先生のもと、当時広島県内では、ほとんど施行されていなかった前立腺全摘術(開腹)の習得に励みました。術中出血、術後の尿漏れなどが気になり、手術前夜、不眠状態が結構長く続きました。

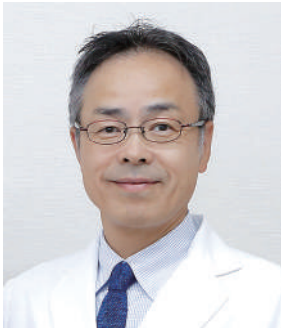
57歳(廣総勤務14年目)で主任部長となり、以後30人弱の後輩医師とともに広島県西部の泌尿器科治療にあたりました。上田君をはじめ、皆さんご協力ありがとうございました。後半10年は、病院幹部として泌尿器科単体から病院全体に目を向ける仕事でした。臨床目標としては、垣根のない相互診療、廿日市市民病院としての廣総、などでした。

仕事以外では、やはり、年末の創立記念パーティー(病院忘年会)が一番の思い出です。450名の出席、年間表彰、研修医の出し物など壮観でした。長い間、司会をさせていただきましたが、毎年楽しくできました。

69歳まで急性期泌尿器科医ができました。ちなみに小生、野球部医学部が8年間でした。入学1浪、国試浪人1年を加えて医師になるまで10年かかりました。入学時、家族に「医者になりたくないのに医学部に行くことになった、だから10年ぐらいかかるよ。」と口にしてしまいました(実家は農業です)。宣言した通りになりました。口は災いの元です。医師になり、結婚もし、子供も授かったころ、初めて父親に謝りました。「長いこと遊ばせてもらい申し訳ない。」父曰く、「人様より遊んだ4年間、人より長く仕事をしなさい。」約束は果たせたかな?と考えています。

最後に、小生と関わっていただいたすべての職員の皆様、ご協力ありがとうございました。令和3年もコロナ感染症のため、送別会などは一切出来ず、感謝の念が伝えられず大変残念です。急性期病院勤務は終了しましたが、もう少し世のため人のために医師を続けようと考えています。よろしくお願ひします。

令和4年9月22日



## ご 挨拶

松 原 昭 郎

令和4年3月末をもちまして病院長を退任いたしました。令和2年度に藤本吉範前病院長の後任として病院長に就任してからの2年間、皆様には多大なご支援、ご協力を賜りまして深甚なる感謝を申し上げます。

着任当時は、JA広島厚生連の理念「やさしさと思いやりを持って接し、真心のこもった奉仕に努める」を忘れず、皆様が働きやすいような職場環境改善に取り組み、大学での経験を生かして当院の更なる発展に尽瘁したいとの思いでしたが、直ぐにそれは難しいと悟りました。早めに退任し、当院を一番良く知っておられる石田病院長にバトンタッチする方が当院のためになるのとの結論に至り、退任することになった次第です。

当院に来るまでは、大学の視点でしか物事を見ることができていませんでしたが、当院の病院運営に携わる機会を与えて頂いたこと、広島総合病院愛に溢れる多くのスタッフと出会ったことで視野が広がり考えを深めることができました。当院での生活が私に新たな気づきを与え、人として成長させてくれたように思います。この2年間は私の財産であり、大切な思い出として心に刻まれています。

現在、私は当院の泌尿器科診療のお手伝いをさせて頂くことで、原点に戻って自己研鑽に取り組むとともに、以前からやりたかったリベラルアーツに浸かり、人間力をアップさせて、あらたな仕事への準備を進めているところです。

これからも皆様とのご縁を大切に、微力ながら当院を応援して行きたいと思っています。皆様のみまますのご発展、ご健勝をお祈り申しあげ、ご挨拶とさせていただきます。

2年間、本当にありがとうございました。



■ Annual Report 2021 2021年(令和3年)度 年報 ■

---

# 病院の概要



# JA 広島総合病院のあゆみ

昭和21年6月、佐伯郡内の町村長および町村農業会長の代表の方々が県農業会を訪れ、廿日市方面の緊急対策として、原子爆弾による負傷者に対する医療施設を設置するよう強い働きかけがあった。そのため、佐伯郡37ヶ町村および農業会が出資して、地御前村元旭兵器(株)の工員宿舎を買収し、農業会病院の誘致を決定する。

昭和22年12月23日、4診療科、スタッフ総員20名、60床の病床を有する農業会佐伯病院として開設された。その後、昭和37年と40年に相次いで増床と診療体制の充実を図り、昭和41年には総合病院の認可を受け、名称も佐伯総合病院と改称された。

爾来、同地域は広島市のベッドタウンとして開発が進み、診療圏人口の増加に伴って施設の狭隘化を来したため、昭和54年には大幅な増改築が行われ、これを機会に名称も現在の広島県厚生農業協同組合連合会 広島総合病院と改められた。その後更なる人口増加に伴う医療需要の増大により、地域の中核的病院の性格をもつに至り、昭和55年には二次救急病院の指定を受け、また昭和59年および平成元年には増築増床工事が実施され430床となる。

更に平成9年5月には、施設の狭隘化と老朽化に対する対策として、新棟建設と既存棟の改築工事が開始され、平成10年10月末に新棟完成、平成12年2月には全工事が完了し、同年4月より578床となる。その後透析用ベッドへの転用により平成15年に570床、外来化学療法用ベッドに転用により平成20年に561床となる。

広島西二次保健医療圏の三次救急患者への速やかな高度医療の提供と、広島都市圏域全体の救急医療体制の充実強化のため、平成22年8月から平成23年2月にかけて救急棟新築工事が行われ、平成23年4月には「地域救命救急センター」19床を開設した。

昭和21年	8月	佐伯郡37ヶ町村および農業会が出資して地御前村元旭兵器(株)の工員宿舎を買収し農業会病院の誘致を決定
昭和22年	12月	診療科目(内科・外科・耳鼻科・歯科)、病床数60床、職員20名で広島県農業会佐伯病院として発足
昭和23年	4月	婦人科開設
昭和23年	6月	眼科新設
昭和24年	12月	結核病棟開設(一般49床、結核11床)
昭和25年	5月	外来診療室拡張のため(一般44床、結核11床)計55床に変更
昭和26年	3月	一般病床25床、結核病床25床 計50床に変更
昭和29年	6月	一般病床37床、結核病床42床 計79床に変更
昭和31年	7月	小児科新設
昭和37年	1月	病棟増築(一般130床、結核20床)
昭和37年	6月	皮膚泌尿器科新設
昭和37年	7月	整形外科新設
昭和40年	2月	病棟増築(一般160床、結核20床)
昭和41年	2月	総合病院の認可を受け、佐伯総合病院となる
昭和49年	9月	結核病床20床一般病床へ転用、16床増床し196床に変更
昭和54年	1月	脳神経外科新設、皮膚泌尿器科が分離独立し皮膚科・泌尿器科となる
昭和54年	4月	現在の広島県厚生農業協同組合連合会広島総合病院に名称変更
昭和55年	2月	第二次救急医療指定病院となる
昭和59年	7月	病棟増築100床(一般370床)
昭和60年	4月	麻酔科新設
昭和60年	9月	放射線科(治療部門)新設
昭和60年	10月	放射線治療棟完成
昭和63年	4月	心臓血管外科新設
昭和63年	7月	放射線科(診断部門)開設
平成元年	4月	精神科・心療内科新設
平成元年	4月	大竹市栗谷診療所の委託運営開始
平成元年	6月	病棟増築60床(430床)
平成2年	8月	形成外科新設
平成2年	11月	MRI棟完成
平成4年	3月	院内保育園開園
平成6年	5月	訪問看護ステーション開設
平成9年	2月	災害拠点病院指定
平成9年	9月	オーダリングシステム稼働
平成10年	9月	広電・JA広島病院前駅開業式
平成10年	10月	新館西病棟落成
平成11年	4月	病棟増床59床(489床)
平成11年	11月	居宅介護支援事業所開設
平成12年	4月	病棟増床89床(578床)
平成12年	6月	開放型病床(20床)届出
平成13年	10月	呼吸器外科新設
平成15年	2月	一般病床8床を透析用ベッドに転用(570床)
平成15年	10月	臨床研修指定病院指定
平成16年	8月	地域医療支援病院
平成18年	8月	地域がん診療連携拠点病院指定
平成18年	8月	電子カルテシステム稼働
平成20年	4月	一般病床9床を外来化学療法用ベッドに転用(561床)
平成21年	4月	DPC対象病院
平成22年	4月	センター制度の導入(救急センター、循環器・呼吸器疾患センター、一般外科治療センター、健康管理センター、急性期リハビリテーションセンター)神経内科新設
平成23年	4月	地域救命救急センター開設(19床)
平成23年	9月	へき地医療拠点病院
平成25年	2月	糖尿病センター開設
平成25年	4月	医療福祉支援センター開設
平成25年	4月	脊椎脊髄センター開設
平成25年	10月	内視鏡センター開設
平成26年	4月	電子カルテシステム更新
平成26年	10月	廿日市市地域医療拠点等整備に関する基本協定調印
平成26年	11月	第3駐車場運用開始
平成28年	10月	救命センターHCU病床の高規格化(ICU整備)のため、3床一般病床へ変更
平成28年	11月	老朽化に伴い医師住宅・看護師宿舎解体(平面駐車場整備)
平成30年	4月	総合診療科開設
平成30年	9月	外来化学療法治療室を東8階へ移設
平成30年	10月	病棟減少30床
令和元年	8月	第1駐車場へ立体駐車場建築工事開始
令和2年	3月	立体駐車場運用開始に伴い第3駐車場閉鎖
令和2年	4月	廿日市休日夜間急患センター開設







# 総合診療科

## ■ スタッフ

主任部長 溝岡 雅文 (1986年自治医科大学卒業)  
日本内科学会総合内科専門医  
日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医  
非常勤医師 小林 知貴 (2010年広島大学卒業)  
日本プライマリ・ケア連合学会家庭医療専門医

## ■ 診療科紹介

2018年4月に内科に新設された診療科です。当院の内科では、消化器内科・循環器内科・呼吸器内科・糖尿病代謝内科・腎臓内科などの臓器別専門科が高度医療を提供していましたが、紹介状を持参されていない発熱、腹痛などの軽症患者さん、あるいはどの診療科にかかればよいのかわからない患者さんを円滑に診療するために開設されました。2019年には総合診療専門医プログラム専攻医1人を含む3人に増員されましたが、退職・転勤などもあり2020年からは1人体制になっています。2021年度からは臨床研修での外来研修が必修となり、初期臨床研修医が診療チームに参加しています。外来診療は研修医と指導医の2人体制で、入院診療は内科専門医プログラムの専攻医の協力を得て3人体制で担当しています。

総合医として、1) 特定臓器に偏った診療ではなく、患者さんの疾患背景や家族背景なども考慮した包括的な医療を提供します。2) 病歴聴取、身体診察も重視します。3) 患者さんの個別の状況に応じて、専門医、多職種と協同しながら診療しています。

・2021年4月からは新型コロナ流行もあり初診外来の完全予約制を導入し、急患および救急の受入調整をしています。

・対象年齢は高校生以上です。  
・原因不明の発熱、痛みなどの症状、および原因不明の検査値異常などの精査を行います。どの診療科を受診してよいかわからない場合も診療いたします。診察で疾患の専門診療科が決まった場合には、院内もしくは院外の専門科にご紹介します。病状が

安定した場合には、地域のクリニックの先生方にご紹介しています。

## ■ 診療実績

2018～2021年の4年間の外来(表1)、入院(表2)の実績は後述に示します。

表1 年度別 総合診療科外来患者数

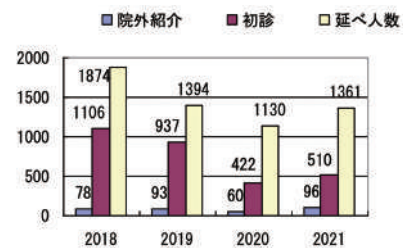
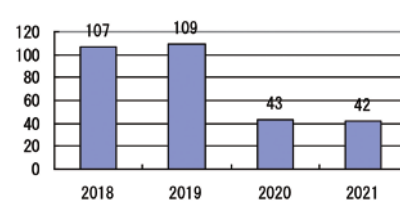


表2 年度別 総合診療科入院患者数



2021年度入院患者の実数は41人でした。入院経路は外来からが23人、ERからの転科が18人でした。転帰は自宅退院31人、院内転科5人、転院6人でした。最も多い疾患カテゴリーとしては、感染症が21人と最も多く、ツツガムシ病や感染性心内膜炎、急性HIV感染と診断された方もいました。2番目に多いカテゴリーは膠原病疾患が11人で、高齢発症RA、リウマチ性筋痛症、偽痛風などでしたが、希な巨細胞性動脈炎、VEXUS症候群、血球貪食症候群の方もいました。残りの方は食欲不振、腰痛、貧血の精査などの高齢者でよくみられる老年病でした。

## ■ 研究活動

・遺伝性血管浮腫の疫学的解析(広島大学病院との共同研究) 2020年8月から2022年5月

・診療の状況・転帰: 外来診療、夜間急患センターの受診患者さんの診断名、再受診・緊急入院率などを登録しています。

# 呼吸器内科

## ■ スタッフ

診療部長、呼吸器内科主任部長、内科専攻科部長

近藤 丈博 (Tomohiro Kondo) 1998 年卒

日本呼吸器学会専門医・指導医

日本内科学会総合内科専門医

呼吸器内科部長

大月 鷹彦 (Takahiko Otsuki) 2007 年卒

日本呼吸器学会専門医

日本内科学会総合内科専門医

医 員 長谷川 博 司 (Hiroshi Hasegawa) 2018 年卒

医 員 藤 田 俊 (Suguru Fujita) 2018 年卒

## ■ 診療科紹介／トピックス

呼吸器内科の診療スタッフは総勢 4 名となっています。当科では肺がん代表される悪性腫瘍の診療だけでなく、多様な呼吸器疾患に伴う急性、慢性の呼吸不全や生理学的な呼吸機能障害、能力障害、社会的ハンディキャップに対する広い意味での医療的な支援形成を目指しています。今後は急性期にとどまらず、慢性期の治療とケア、リハビリテーション、在宅呼吸ケアなどと広がる有機的な支援体制が一層必要となってきています。「包括ケア」というキーワードは、このような状況から必然性を持って浮上してきました。この 10 年余りで ICU、一般病棟、在宅での人工呼吸が大きく変遷しつつあります。1990 年代半ばから非侵襲陽圧換気療法 (NPPV) の導入が始まり、現在では慢性呼吸不全急性増悪時の人工呼吸の第一選択が NPPV となり、スタッフの習熟とともに、一般呼吸器病棟でも当たり前のように入られるようになりました。そのような状況を背景として今後、急性期から慢性期にかけて「包括的呼吸ケア」という概念は今後一層の重要性を増してくるものと考えます。当科ではこのような時代の要請に合わせて、医師だけでなく病棟スタッフの教育・指導を行っています。

当科では以下のように呼吸器疾患の加療にあたっています。

### 【肺がん】

肺がんの治療法はここ数年でめざましい進歩を遂げています。分子標的薬剤は、耐性遺伝子を標的とした第 3 世代の EGFR-TKI (タグリッソ) の時代を迎え、また、ALK 阻害薬もアレセンサを始め、めざましい生存期間延長をもたらしています。さらに 2016 年から臨床現場で使用可能となった免疫チェックポイント阻害薬 (オプジーボ、キイトルーダ) は、医療経済的な問題をはらんでいるものの、従来 EGFR-TKI や ALK 阻害薬の恩恵にあずかることのなかった扁平上皮癌の患者さんを中心に、大きな利益をもたらすこととなりました。当科ではこれらの新規薬剤を積極的に導入し、全国的に見ても高い水準の肺がん治療が行える体制を整えています。また、当院では初診から治療まで呼吸器外科と放射線治療部と連携し、最速で 2 週間程で診断後治療に入れます。市内の大病院では治療まで一ヶ月前後かかるにも関わらず、まだまだこの地域の患者さん達は市内の病院へ目を向けていると思われれます。当院も市内と変わらないレベルの治療を行うことができることを知っていただき、もっと当院で肺がんの方を診てあげることができればと思います。

さらに、当院では局所麻酔下胸腔鏡、超音波気管支鏡ガイド下針生検 (EBUS-TBNA) などの最新の診断・治療技術を積極的に導入しています。

### 【感染症】

当科で扱うのは主に肺炎です。高齢化の影響で誤嚥性肺炎なども多く、繰り返される傾向にあり最近では治療に難渋する傾向があります。また、肺結核を早期診断し、外来加療を行うとともに結核病棟のある病院への紹介もしています。また、最近増加している非結核性抗酸菌症の加療も行っています。

### 【気管支喘息】

吸入ステロイドの普及に従い、10 年前と比べ喘息死は半数以下となっていますが、まだまだ吸入ステロイドは普及していないように思います。大学などと連携し、この地域の喘息患者さんに良い治療が

あることを知ってもらうことが大事だと思っています。

#### 【COPD（慢性閉塞性肺疾患）、肺気腫、慢性気管支炎など】

マスクミを通じての啓発運動により、ここ数年でだんだんこの疾患名も知られてきました。日本人の場合は喫煙が原因です。当院では早期診断し、吸入薬などによる加療や必要に応じて在宅酸素療法の導入を行っています。

#### 【びまん性肺疾患】

特発性間質性肺炎などです。早期診断し、薬物が効くタイプを鑑別するのが大事ですが、当科では気管支鏡や画像診断で早期発見に努めています。

#### 【睡眠時無呼吸症候群】

外来または入院でPSG検査を行い、耳鼻咽喉科とも連携しつつ、CPAP等の導入を行っています。最近ではCPAP治療に対応できる開業医の先生方も増えて来られたので逆紹介も増やしていきたいと思っています。

#### 【新型コロナウイルス感染症】

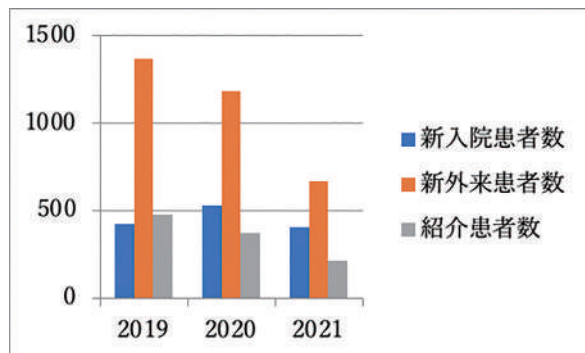
2019年暮れに中国武漢で確認され、その後全世界に広がった新型コロナウイルス感染症は日本でも猛威をふるい、コロナ専用病棟を立ち上げて呼吸器内科を中心に治療に当たっています。当院では新型コロナウイルス感染症の呼吸不全に対し、ハイフローネーザルカニューラなどの最新の呼吸補助機器を積極的に導入し、良好な治療成績をあげています。

その他にも様々な分野の呼吸器の疾患がありますが、当科は広島大学病院呼吸器内科や市中の病院の呼吸器科と連携を図り、最新の知見を吸収しつつ広島県西部地区の医療に貢献できればと思っています。

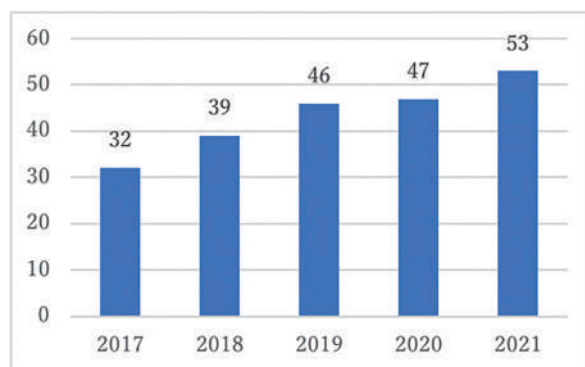
#### 【過去3年間の呼吸器内科患者数の推移】

新型コロナウイルス感染症流行の影響を受け、2020年と2021年は外来患者、紹介患者数の減少が見られていますが、入院患者数は横ばいで推移して

います。



#### 【過去5年間の肺がん化学療法導入患者の推移（呼吸器内科のみ）】



2020年、2021年とコロナ禍にも関わらず、化学療法導入患者は増加傾向となっています。

# 循環器内科

## ■ スタッフ

主任部長 前田 幸治  
日本循環器学会専門医  
CVIT 指導医  
主任部長 (心臓カテーテル室担当)  
荘川 知己  
日本循環器学会専門医  
日本内科学会専門医  
主任部長 (不整脈担当)  
渡邊 義和  
日本循環器学会専門医  
日本不整脈心電学会専門医  
部長 藤原 敬士  
日本循環器学会専門医  
部長 新田 和宏  
日本循環器学会専門医  
医員 吉富 勇輝  
心臓血管内治療科主任部長  
辻山 修司  
日本循環器学会専門医

## ■ 診療科紹介

令和3年4月現在、総勢6+1名の科です（日本循環器学会専門医6名・日本心血管インターベンション治療学会指導医1名）。また、日本循環器学会認定循環器および心血管インターベンション学会研修施設です。

対象となる主な疾患は、心筋梗塞・狭心症などの冠動脈疾患、心不全、高血圧、高脂血症、不整脈などの循環器疾患の診断と治療を行っています。

バイパス術、弁置換術など外科的治療が必要な場合は、心臓血管外科医との合同カンファレンスで治療方針を検討しています。また、開業医の先生方との病診連携に重点を置き、年2回の病診連携の会や開業医の先生向けの講演会を開催し、その連携を深めていました（コロナで一部中止）。

心臓いきいき推進事業の中核病院の一つとしての活動も継続しています。

また、地域に貢献出来るよう急性期循環器疾患に対して夜間も待機体制をとり、地域救命救急センターの循環器領域を担っています。

## 【診療実績】

令和3年度の当科の実績を表に示します。令和3年度は心臓カテーテル検査（診断を含）254例を施行し、そのうち経皮的冠動脈カテーテルインターベンション（PCI）症例169例で、急性心筋梗塞例も45件含まれています。また、PCI時には狭窄部の形態・プラーク性状分析、適切なステント留置・薬剤溶出性バルーンのため、血管内超音波（IVUS）をほぼ全症例で使用しています。

高度の冠動脈石灰化病変に対して Rotablator も施行しています。大動脈内バルーンパンピング（IABP）、経皮的心肺補助装置（PCPS）も重症例には施行しています。

不整脈では特に、心房細動に対してのカテーテルアブレーションを積極的に施行しています。

	令和3年度
年間延べ入院患者数	774
急性心筋梗塞	60
【生理学的検査】	
運動負荷試験	49
ホルター心電図	72
経胸壁心エコー	5,887
経食道心エコー	152
【心臓カテーテル検査】	
心臓カテーテル検査総数	254
緊急カテーテル治療（PCI）	81
待機的PCI	88
【末梢血管カテーテル治療】	
経皮的末梢血管形成術（PTA）	8
経皮的腎動脈形成術（PTR）	0
【不整脈関連】	
カテーテルアブレーション	101
ペースメーカー（ICD含）植込み	54
【非侵襲的冠動脈検査】	
心臓核医学検査	409
冠動脈CT	551
【心臓リハビリ】	
急性心筋梗塞/心不全	852

また、非侵襲的検査も多数実施しています。心臓CT検査（551例）、心臓核医学検査（409例）を施

行し、カテーテル検査の補助診断として活用しています。また、5,887件の心臓超音波検査や152例の経食道心エコー検査、ホルター心電図の検査も72例施行しています。

また、渡邊医師を中心に、特に心房細動を中心としたカテーテルアブレーションも101例施行し、近隣からの相談・紹介も増えてきました。

また、心臓いきいき推進事業の柱として心臓リハビリを積極的に進め、新規に852例の実績でした。

#### 【将来展望】

心臓いきいき推進事業の中核病院の一つとして、現在も循環器領域の救急患者に対応しており、今後適切かつ積極的な医療活動を行っていきます。

# 腎臓内科

## ■ スタッフ

主任部長 山内 崇 宏 (2004年広島大学卒業)  
 日本内科学会・腎臓学会 (専門医・指導医)  
 日本透析医学会 (専門医・指導医)

部長 下田 大 紀 (2009年関西医科大学卒業)  
 日本腎臓学会 専門医・指導医  
 日本透析医学会 専門医

医師 山村 恒 平 (2017年関西医科大学卒業)

医師 薬師寺 諒 (2019年広島大学卒業)

## ■ 診療科紹介

2021年度より荒川医師、藤井医師が他施設に異動となり、新たに山内、薬師寺医師が着任しました。当院は日本腎臓学会研修施設および日本透析医学会教育関連施設です。広島西医療圏の医療機関から多くの患者さんを紹介していただいています。原発性糸球体疾患・尿細管間質性疾患・嚢胞性腎疾患などの一次性腎疾患、高血圧・糖尿病・膠原病・血液疾患に伴う二次性腎疾患、およびその結果としての進行した慢性腎臓病はもちろん、急性腎障害、高血圧、電解質異常などに対し幅広く診療に当たっています。

経皮的腎生検や画像診断に基づく疾患特異的な治療介入を行います。また、進行した慢性腎臓病に対しては薬剤科・栄養科と協力し、進展抑制に心がけています。慢性腎臓病の方の生命予後に関わる、循環器疾患の予防および悪性疾患の拾い上げも積極的に行っています。

救急・集中治療科のバックアップで急性腎障害や重症患者の血液浄化療法も可能です。急性腎障害からの慢性腎臓病の移行・増悪を防止するという観点から、適切なマネージメント、フォローアップを心がけています。



当科での腎生検

血液透析においては、14床の透析ベッドを臨床工学科とともに運用しています。高齢化を反映して高齢での導入例が増加していますが、一方で非導入を希望する患者さんもおられ、腹膜透析などのオプションも十分に説明し、看護科と協力して情報提供と話し合いに基づいた意思決定 (SDM: Shared decision-making) を支援しています。多くの看護師が腹膜透析の知識・経験を持ち、関わってくれています。希望する患者さんには腎移植についても情報提供し、専門施設に紹介しています。

## ■ 診療実績

### 2021年度実績

腎生検数	41例
血液透析導入数	39名
血液透析件数 (延べ)	4,229件
腹膜透析患者数	22名
シャント血管内治療	43件

## ■ 教育・研修活動

コロナ禍で規模は縮小されていますが、研究会および全国学会への聴講および発表、若手に対するセミナーなどへの参加を奨励しています。



# 糖尿病代謝内科・糖尿病センター

## ■ スタッフ

副院長・主任部長

石田 和 史 (1986年卒、1988年4月～)

部 長 平 田 久美子 (1993年卒、2021年4月～)

副 部 長 由 田 彩 佳 (2014年卒、2018年4月～22年3月)

上 野 裕 衣 (2019年卒) 2021年4月～

日本糖尿病療養指導士：19名

## ■ 診療状況

**糖尿病** 外来定期通院患者実数 計 3,108名 (平均年齢 69.1歳、平均罹病期間 18.7年、平均通院期間 12.5年、インスリン治療者の割合 34.6%)

(1型糖尿病 8.1%、2型糖尿病 91.0%、その他 0.9%)

糖尿病入院患者 66名 / 他科周術期管理 394名

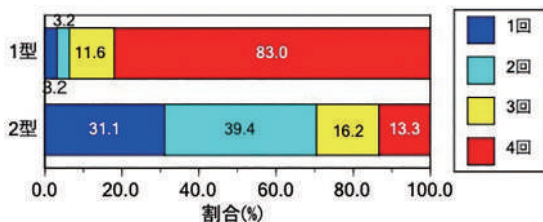


図1 インスリン注射回数の内訳 (1型には緩徐進行型も含む)

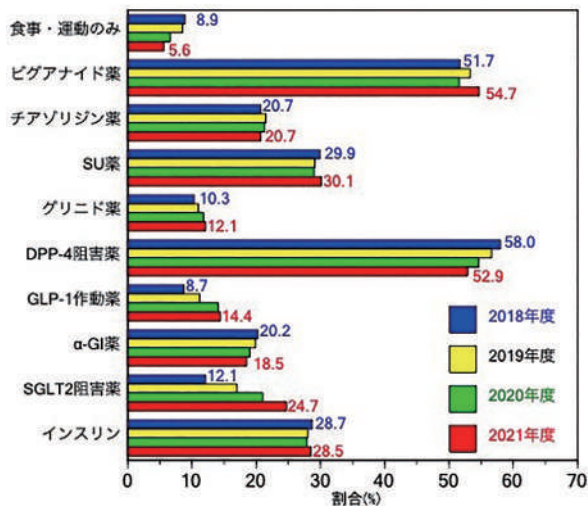


図2 2型糖尿病における治療内容の内訳 (重複有り)

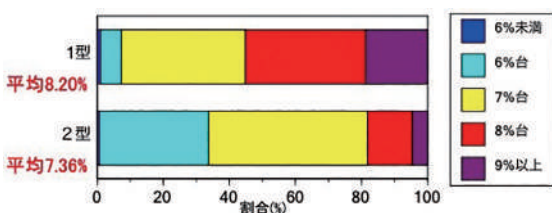


図3 年間平均HbA1cの内訳

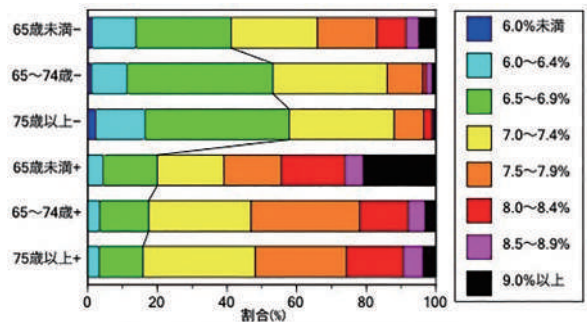


図4 2型糖尿病における年代別治療状況 (SU薬 and/or インスリン使用：有→+、無→-)

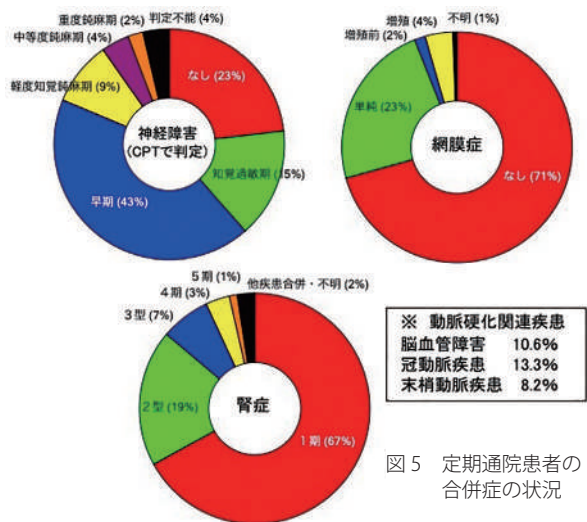


図5 定期通院患者の合併症の状況

**甲状腺疾患** 630名 (バセドウ病、慢性甲状腺炎のみ / 糖尿病合併例を含む) ※甲状腺腫瘍病変は他科で取り扱い

**副腎疾患** 124名

## ■ 研究活動

研究テーマ

- 1) 電流知覚閾値検査 (CPT) を用いた糖尿病神経障害の病期および治療効果の評価 (実臨床におけるインクレチン関連薬の神経障害進展阻止作用、高血圧が神経障害発症・進展に及ぼす影響)
- 2) 体組成分析 (インピーダンス法) を用いた臨床研究 (体組成に着目した適正な糖尿病治療薬選択の究明)
- 3) SMBG・CGM を用いた各種インスリン製剤の臨床効果の比較
- 4) シスタチンCを用いたSGLT2阻害薬の糖尿病腎症に対する臨床効果の評価
- 5) 糖尿病患者における膀胱癌早期発見指標の探究

# 消化器内科

## ■ スタッフ

診療部長、消化器内科主任部長、内視鏡センター長、肝臓内科主任部長

相坂 康之 (Yasuyuki Aisaka) 1990 年卒

消化器病学会専門医・指導医

肝臓学会専門医・指導医

膵・胆道内科主任部長、消化器内科部長

藤本 佳史 (Yoshifumi Fujimoto) 1993 年卒

消化器病学会専門医・指導医

膵臓学会認定指導医

食道・胃腸内科主任部長、内視鏡副センター長、消化器内科部長

古土井 明 (Akira Furudoi) 1993 年卒

消化器病学会専門医・指導医

消化器内視鏡学会専門医・指導医

肝臓内科主任部長 (光学医療担当)

野中 裕広 (Michihiro Nonaka) 1997 年卒

消化器病学会専門医・指導医

肝臓学会専門医・暫定指導医

消化器内科部長

趙 成大 (Songde Cho) 1998 年卒

消化器病学会専門医

消化器内視鏡学会専門医・指導医

消化器内科部長

吉福 良公 (Yoshikazu Yoshifuku) 2008 年卒

消化器病学会専門医

消化器内視鏡学会専門医

消化器内科部長

森 豪 (Takeshi Mori) 2010 年卒

消化器病学会専門医

医員 進藤 源太郎 (Gentaro Shindo) 2017 年卒

医員 山下 未紗 (Misa Yamashita) 2017 年卒

医員 平岡 敬一 (Keiichi Hiraoka) 2019 年卒

## ■ 診療科紹介とトピックス

当科の診療スタッフは総勢 10 名となっています。消化器といっても多数の臓器があり、消化器内科が担当する疾患は多岐にわたります。当科では各臓器領域の専門指導医がスタッフ間で連携を取りながら診療にあたっており、すべての消化器疾患に適切に対応することができる体制となっています。

当科は近隣の病院やクリニックとの連携に力を入れており、様々な勉強会、研究会、共同活動を行っています。主な活動をあげると、RIGID Net (固い絆：地域相互消化器医師ネットワーク)、膵がん胆

道がん教室、広島胃瘻と経腸栄養療法研究会 (広島ページェント) などです。これらの情報は末尾の JA 広島総合病院消化器内科フェイスブックから確認できます。これらの活動に加えて、廿日市市、佐伯地区医師会と共同で開始した、廿日市市胃内視鏡検診があります。これは業務委託を受けた佐伯地区医師会とともに、当科が住民の胃がん検診を精度高く行おうとする事業です。

当科では「膵臓がん胆道がん教室」という、患者さんやご家族を対象とした患者支援事業を行っています。当院医師や地域の先生方のみならず、多職種専門職とともに毎月 2 回、全 4 回のシリーズで様々な催しを行っていましたが、今年度はコロナの為に中止を余儀なくされました。

肝臓領域では C 型肝炎に対する内服による抗ウイルス薬が引き続き行われており、8 週間から 12 週間という短い期間の治療で治療効果は慢性肝炎から非代償期肝硬変に関わらず、ほぼ 100% の高率になっています。また、非アルコール性脂肪性肝疾患 (NAFLD) や非アルコール性脂肪性肝炎 (NASH: ナッシュ) に対して、NASH 専門外来を開設し診療しています。さらに、全国多施設での共同研究を進めるとともに、糖尿病薬による NASH 改善の多施設共同の臨床研究なども進めています。

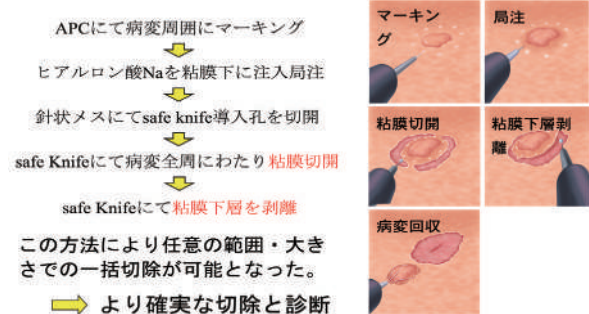
消化器内科の様々な検査処置を行う場である内視鏡センターでは、充実した内容の診察をしています。

内視鏡診断においては、新しい内視鏡の導入により、特殊光による観察や拡大観察が可能となり、色素散布と併せて用いる事により、微小病変の発見と共に診断の精度の向上に貢献しています。また、検診などでは経鼻内視鏡 (細径内視鏡) など人に優しい内視鏡機器を使用しています。処置などの時には安楽な内視鏡処置を目的として、二酸化炭素送気による検査や鎮静麻酔下なども積極的に行っています。

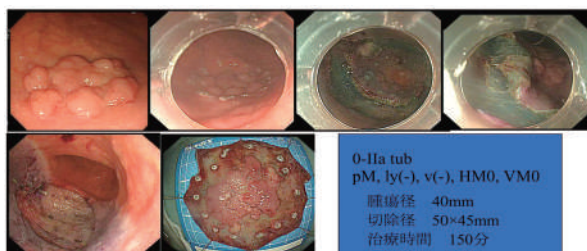
食道、胃腸といった消化管の分野では、早期癌等

に対して内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）という侵襲の少ない革新的な方法で癌切除を行っており、多くの患者さんに貢献しています。

内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）



80歳代男性（体下部大彎 40mm大IIa）



また、胃瘻に関しては全国的に先進的な取り組みを行っている施設として知られています。

■ 研究活動

当科は実地臨床の中で積極的に臨床研究を行い、本誌別記のごとく学会発表や論文での報告を行っています。

■ 検査実績

消化器内科・内視鏡センター検査処置件数（2021年度）	
上部消化管内視鏡検査（含小腸内視鏡）	4,698
上部消化管内視鏡処置（含 EUS）	544
十二指腸内視鏡検査処置（ERCP 等）	389
小計	5,631
下部消化管内視鏡検査	1,509
下部消化管内視鏡処置治療	939
小計	2,448
全消化管検査処置合計	8,079
腹部超音波検査（含造影 US）	1,648
腹部超音波下処置	71
超音波関連検査処置合計	1,719
その他（造影等）	102
消化器内科検査処置合計	9,900



フェイスブック <https://www.facebook.com/GH.JAHGH>

# 小児科

## ■ スタッフ

診療部長、主任部長

辻 徹 郎 (平成 5 年卒)

日本小児科学会専門医・指導医

日本アレルギー学会専門医

部 長 藤 井 寛 (平成 8 年卒)

日本小児科学会専門医・指導医

日本腎臓病学会専門医

部 長 二 神 良 治 (平成 20 年卒)

日本小児科学会専門医

部 長 森 本 彩 (平成 23 年卒)

日本小児科学会専門医

嘱託医師 中 畠 千恵子 (昭和 45 年卒)

日本小児科学会専門医・指導医

嘱託医師 岡 畠 宏 易 (昭和 55 年卒)

日本小児科学会専門医・指導医

日本アレルギー学会専門医・指導医

## ■ 診療科紹介

当科は、常勤医師 4 名、嘱託医師 2 名の計 6 名が外来、病棟診療を行っています。6 名全員が日本小児科学会専門医資格を有し、さらにサブスペシャリティとして、日本アレルギー学会専門医、日本腎臓病学会専門資格を有する医師が在籍しています。従って、感染症診療などの一般的な小児科診療に加え、アレルギー疾患、腎・泌尿器疾患領域においては特に専門性の高い診療が可能です。

### 【気管支喘息】

気管支喘息診療に関しては、県内でもトップクラスの肺機能検査実施件数を誇り、呼気 NO 濃度測定や気道過敏性検査なども数多く実施しています。さらに呼吸抵抗の測定も可能となり、これまでは肺機能の客観的評価が困難であった低年齢児での肺機能評価も可能となり、反復性喘鳴を呈する症例のより正確な鑑別診断を行います。その他、重症喘息症例に対する生物学的製剤の投与も行っています。

### 【アトピー性皮膚炎】

アトピー性皮膚炎診療に関しては、生後早期からの保湿剤を用いたスキンケアの導入による発症予防

を積極的に心がけています。発症後の治療に関してもアレルギーマーチ進行を抑制する観点から、ステロイド外用剤による積極的な寛解導入と、プロアクティブ療法により、新たな抗原感作の予防や食物アレルギーの合併対策を行っています。

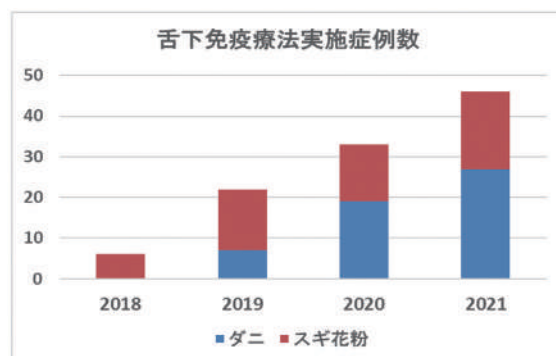
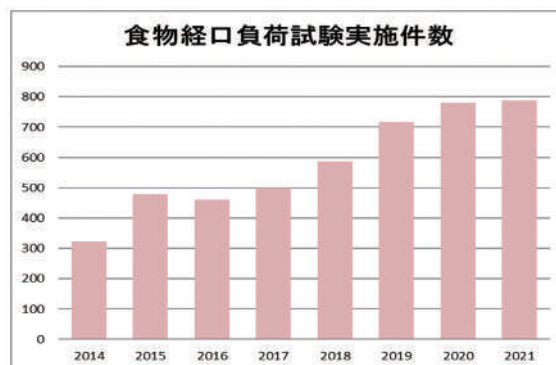
### 【食物アレルギー】

食物アレルギー診療に関しては、経口負荷試験による正確な原因食物の診断及び必要最低限の除去を行い、栄養面での問題を最小限にするとともに、近年は早期の耐性獲得を目的として、原因食物を普段から少量ずつ継続摂取する経口免疫療法も行っています。

### 【アレルギー性鼻炎】

既存の抗ヒスタミン薬などによる治療に加え、近年はアレルギー性鼻炎の根治を目指した舌下免疫療法の症例が増えています。スギ花粉症に対する舌下免疫療法実施症例については、治療開始後最初の花粉飛散シーズンより、自覚症状の改善が認められています。

## ■ 診療実績



# 外科

## ■ スタッフ

副院長、医療福祉支援センター長

中 光 篤 志 (1982年卒)  
日本外科学会専門医  
日本消化器外科学会認定医

診療部長、一般外科センター長、肝・胆・膵外科主任部長

佐々木 秀 (1991年卒)  
日本消化器外科学会専門医・指導医  
日本肝胆膵外科学会高度技能指導医

消化管外科主任部長

香 山 茂 平 (1993年卒)  
日本消化器外科学会専門医・指導医  
日本内視鏡外科学会技術認定医 (大腸)

腹部救急治療科および緩和ケア科主任部長

田 崎 達 也 (1997年卒)  
日本消化器外科学会専門医・指導医  
日本内視鏡外科学会技術認定医 (ヘルニア)

消化管外科主任部長 (上部消化管外科担当)

杉 山 陽 一 (1997年卒)  
日本消化器外科学会専門医・指導医  
日本内視鏡外科学会技術認定医 (胃)

消化管外科部長

埜 越 宏 幸 (2004年卒)  
日本外科学会専門医

消化管外科部長

河 毛 利 顕 (2009年卒)  
日本消化器外科学会専門医

消化管外科部長

山 口 拓 朗 (2009年卒)  
日本消化器外科学会専門医

一般外科治療センター部長

清 戸 翔 (2012年卒)  
日本外科学会専門医

一般外科治療センター副部長

田 原 俊 哉 (2014年卒)  
日本外科学会専門医

一般外科治療センター副部長

土 井 寛 文 (2015年卒)  
日本外科学会専門医

## ■ 診療科紹介

上部消化管 (杉山・河毛)、下部消化管 (香山・埜越)、肝・胆・膵 (佐々木・山口)、ヘルニア (田崎) の臓器別チームに分かれ、安全な手術と周術期管理をこころがけています。各チームリーダーはそれぞれの領域で、県下で数少ない日本内視鏡外科学会技術認定医資格 (胃、大腸、ヘルニア)、日本肝

胆膵外科学会高度技能指導医資格を有しています。各学会の評議員として活躍し、治療成績を積極的に論文・学会発表をするとともに、次世代の高度技能専門医、内視鏡外科技術認定医を育成すべく、後輩の指導にあたっています。



## ■ 診療実績

主な手術件数は以下のとおりです。(カッコ内は内視鏡手術)

### ・ 上部消化管外科

食道癌手術 4 例 (4 例)、胃・十二指腸潰瘍 9 例 (4 例)、胃悪性腫瘍手術 86 例 (64 例)

### ・ 下部消化管外科

大腸悪性腫瘍手術 172 例 (141 例)、小腸悪性腫瘍 4 例、腸管良性疾患 6 例、虫垂疾患 70 例 (64 例)、その他の腸疾患 (腸閉塞、腹膜炎など) 83 例、直腸・肛門良性疾患 (痔核・痔瘻・ポリプ・直腸脱など) 36 例

### ・ 肝・胆・膵外科

肝切除 13 例 (10 例)、膵頭十二指腸切除 22 例、膵体尾部切除 4 例 (4 例)、膵全摘 3 例、胆嚢摘出 152 例 (腹腔鏡 145 例)、総胆管結石手術 2 例

### ・ 鼠径部・腹壁ヘルニア外科

鼠径部ヘルニア 194 例 (143 例)、腹壁ヘルニア 16 例 (6 例)、閉鎖孔ヘルニア 3 例

## ■ 研究活動

日本外科学会、日本消化器外科学会、日本肝胆膵外科学会、日本外科感染症学会の修練・認定施設です。

全国学会、広島臨床腫瘍外科研究グループなどが主催する多施設共同臨床研究に登録、参加しています。

日本環境感染学会および厚生労働省による手術部位感染サーベイランスに参加しています。

# 乳腺外科

## ■ スタッフ

主任部長	大原 正 裕 (2000 年卒)
	日本外科学会専門医・指導医
	日本乳癌学会専門医・指導医
部 長	梶 谷 桂 子 (2001 年卒)
	日本乳癌学会専門医
	人類遺伝学会 臨床遺伝専門医
部 長	佐々田 達 成 (2002 年卒)
	日本外科学会専門医
	日本乳癌学会専門医・指導医

## ■ 診療科紹介

2017 年から引き続き 2021 年度も上記 3 名体制で診療を行いました。これまで通り、外来診療は 2 つの診察室にて行い、少しでも待ち時間が短縮できるように留意しております。年間 360 名の初診患者さんに来院いただきました。

乳房超音波・マンモグラフィは、すべて女性技師が担当しており、女性患者さんの心的配慮を行っております。

周術期の治療方針についても、放射線治療科・診断科・多職種とのカンファレンスにて決定いたしました。適応のある患者さんには BRCA 遺伝子検査を行い、必要時には遺伝子診療部に紹介し、患者さんに不利益のないように遺伝性乳癌卵巣がん症候群の診療にも貢献しております。

積極的に地域連携パスの運用を行い、100 件程度の算定をすることができました。患者さんに継ぎ目・待ち時間のない診療を提供すべく努力しております。

広島西部においても他と遜色ない乳腺診療が行えるように診療情報を更新していきます。今後はがんゲノム医療・臨床腫瘍学会認定施設としてさらに症例を集積していければと考えております。

## ■ 診療実績

### <手術>

乳腺悪性腫瘍手術	
胸筋温存乳房切除術	94
皮膚温存乳房切除術	4
乳頭温存乳房切除術	4
乳房部分切除術	52
腫瘤摘出術	1
小計 (件)	155
腋窩リンパ節郭清	20
センチネルリンパ節生検	
→腋窩リンパ節郭清	2
センチネルリンパ節生検	116
乳房再建	
エキスパンダー	5
インプラント	1
腹直筋皮弁	7
植皮術	0
乳腺再発手術	
小計 (件)	5
乳腺良性手術	
小計 (件)	9
その他	
小計 (件)	0
合計 (件)	167

### <外来化学療法>

術前化学療法	14
術後化学療法	20
進行再発化学療法	38
合計 (名)	72

# 整形外科

## ■ スタッフ

名誉院長、非常勤医師

藤本吉範 (昭和 54 年卒)  
日本整形外科学会専門医  
日本脊椎脊髄病学会認定脊椎脊髄外科指導医

診療部長、脊椎・脊髄センター長

山田清貴 (平成 11 年卒)  
医学博士、日本整形外科学会専門医

主任部長 橋本貴士 (平成 12 年卒)  
日本整形外科学会専門医

主任部長 水野尚之 (平成 13 年卒)  
日本脊椎脊髄病学会認定脊椎脊髄外科指導医  
日本骨粗鬆症学会認定医

主任部長 平松武 (平成 10 年卒)  
日本整形外科学会専門医  
日本脊椎脊髄病学会認定脊椎脊髄外科指導医

部長 宇治郷諭 (平成 17 年卒)  
医学博士、日本脊椎脊髄病学会認定脊椎脊髄外科指導医

部長 土川雄司 (平成 23 年卒)  
日本整形外科学会専門医

医員 小野翔一郎 (平成 29 年卒)

医員 村上欣 (平成 30 年卒)

## ■ 診療状況

当科は 8 名が常勤として勤務しています。当科は広島県西部地区の基幹病院として地域の病院、医院の先生方と密接に連携を取りながら診療を進めています。2021 年度の初診患者数は 1,329 名で、コロナ禍にも関わらず多くの患者さんを紹介していただいております。地域医療支援病院紹介率は 119.2% でした。また、当院で手術した患者さんは再び地域の先生にご加療いただいております。

2021 年度の手術件数は 1,347 例でした。そのうち脊椎手術が 891 例と、脊椎・脊髄疾患の手術が多いのが当院整形外科の特徴です。広島県内のみならず、中四国地方、関西、関東からも藤本名誉院長のもとで紹介されて来られる患者さんも多くおられます。

当科では経皮的椎体形成術を先進医療として、中四国厚生局から認可された唯一の施設として積極的に行ってきました。2011 年からは経皮的後弯矯正術 (BKP) として保険診療が可能となり、継続して

多く行っています。2021 年度の BKP 手術例は 168 例でした。当院では脊椎脊髄疾患に対しては顕微鏡下手術を基本術式としていますが、新しい手術方法である全内視鏡下椎間板ヘルニア摘出術、椎間板内酵素注入療法も行っております。

2013 年に開設した脊椎・脊髄センター (センター長：山田清貴、部長：宇治郷諭) は、脊椎・脊髄疾患の治療を医師とコメディカルが密接な連携を取りながらチームとしてより集学的に行うことを目標としています。脊髄損傷や化膿性脊椎炎など重篤な障害の治療も積極的に行っています。

さらに 2019 年からは側弯症外来を開始しており、学童期に多い成長期の側弯症 (特発性側弯症) や、成人脊柱変形 (変性側弯症) の患者さんに対して専門的な治療を行っております。

また、整形外科診療の大きな柱のひとつである人工関節置換術については、橋本主任部長が中心となり股関節・膝関節の治療を積極的に行っています。地域の先生方から患者さんをご紹介いただくことも多く、手術症例数は年々増加しています。

骨折や靭帯損傷など整形外科の基本的な外傷は、2011 年に当院に開設された地域救命救急センターの医師と互いに協力しつつ、多くの患者さんの治療にあたっています。当院には多数の救急搬送がありますが、救命救急医による全身管理の上で、整形外科的外傷に対して質の高い治療を行うよう心がけています。また大腿骨頸部骨折の手術と後療法については、アマノリハビリテーション病院、廿日市記念病院、大野浦病院と当院で地域連携診療を行っており、円滑に治療が進むように努めています。

手術症例数が多いのが当科の特徴です。しかし一方で学会や研究会での活動も大切と考え積極的に行っており、国際学会にも演題が採用され発表の機会が増えています。当科の治療成績は良好なものと思われませんが、学会・研究会で発表し、評価を受けながら常にこれを向上させる姿勢を持ち続けていきたいと考えています。

# 形成外科

## ■ スタッフ

部長 長谷川 美 紗 (2003年広島大学卒業)  
医学博士  
日本形成外科学会領域指導医

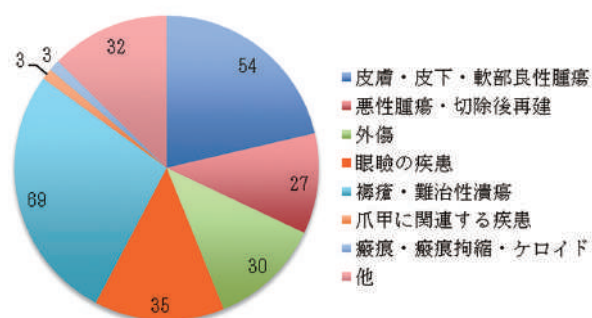
## ■ 診療科紹介

形成外科は身体に生じた組織の異常や変形、欠損、または整容的な不満足に対して、あらゆる手法や特殊な技術を駆使し、機能のみならず形態的にもより正常に、より美しくすることによって、患者さんの生活の質の向上に貢献する外科系の専門領域です。特定の臓器や部位が治療対象な訳ではありませんので、対象症例は多岐にわたります。

2012年より一人体制で診療に当たって参りましたが、昨年より広島大学形成外科医局より週1回ではありますが手術援助の人員派遣も開始され、若手の育成にも力を注いでおります。

## ■ 診療実績

初診患者数	341 例
手術症例数	計 253 件
内訳 全身麻酔	75 件
腰麻・伝麻	34 件
局所麻酔	144 件



症例の内訳は褥瘡・難治性潰瘍、皮膚・皮下・軟部腫瘍、眼瞼の疾患が三大柱で、例年と大きな差異はありませんでした。外傷や乳房再建などの再建手術が昨年より1.5倍程度増加していました。褥瘡・難治性潰瘍は虚血肢に関連する手術がほとんどを占

めており、褥瘡は手術的治療をすることはほとんどなく、保存的治療で縮小傾向にあり治癒の最後の後押しのような立場で行うようにしています。

## ■ 研究活動

第65回日本形成外科学会総会・学術集会で「眼瞼下垂症手術前の抗凝固・血小板薬休止における検討」という演題で発表いたしました。眼瞼下垂症の術前に抗凝固・血小板薬を中止するのが形成外科領域ではほぼルーチン的に行われているのが現状です。極少ない症例数ではありますが、術後出血により失明した症例が報告されているためです。しかし、冠動脈ステント留置後や弁置換術後など厳密な血栓予防が必要な症例が含まれており、個人的には休薬は慎重に行うべきであると考え、他科から公表されているガイドラインを引用して、全例で休薬することへの危険性を指摘いたしました。当科ではほぼ全例休薬することなく手術に臨み、術後出血の予防策としては、術後は入院の上での安静と冷却、頭を下げないなどの注意を主治医が直接行うことを大切に、現在までに視力低下などの重篤な術後合併症は生じていません。



# 脳神経外科

## ■ スタッフ

脳神経外科主任部長、副院長

黒木 一彦 (1991年広島大学卒)  
日本脳神経外科専門医・技術指導医  
日本脳卒中学会認定医

脳神経外科部長

築家 秀和 (2007年愛媛大学卒)  
日本脳神経外科専門医  
日本脳神経血管内治療学会認定専門医

医員 竹石 雄介 (2016年広島大学卒)

日本脳神経外科専門医  
日本脳神経血管内治療学会認定専門医

上記のスタッフで地域市民の脳を24時間体制で守っています。

## ■ 診療科紹介

当科では脳梗塞、一過性の虚血発作、脳血管狭窄、脳出血、くも膜下出血、脳動静脈奇形、脳腫瘍、頭部外傷、髄膜炎、原因不明の意識障害、顔面けいれんや三叉神経痛、水頭症など多岐にわたって診療、治療をおこなっています。2021年では487人の入院がありました。2021年手術数は197例；脳動脈瘤手術33例（clipping 14例、コイル塞栓19例）、頸動脈ステント留置術（CAS）6例、脳腫瘍摘出術30例、血栓回収25例、開頭血腫除去術16例、慢性硬膜下血腫35例でした。

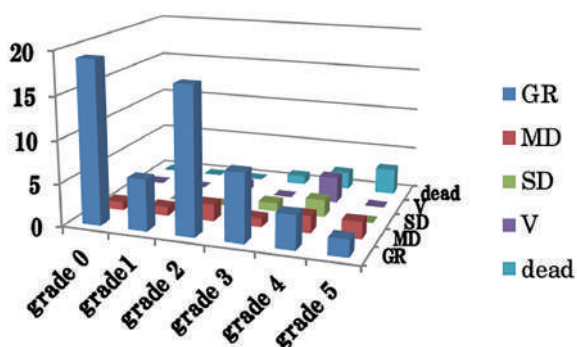
代表的な疾患である脳梗塞、脳出血、くも膜下出血、脳腫瘍における最近の治療について簡単に説明したいと思います。

【脳梗塞】大きく分けて脳塞栓症と脳血栓症に分類できます。脳塞栓症は心房細動などが原因となり、心臓などで形成された血栓が太い脳血管を閉塞する疾患です。致死的になることが多く、予防が極めて重要と考えています。最近の抗凝固薬は副作用の出血率が低く、他の薬との併用や食事に制限が必要なく、内服しやすくなっています。また、発症4時間30分以内では遺伝子組み換え組織型プラスミノゲン・アクティベータ（rt-PA）の投与、発症8時間以内で条件を満たす疾患であればカテーテルによる

血栓除去も可能となっています。最近のデータでは発症から24時間以内でも、状態によっては適応となる症例もあることがわかってきました。いずれにしても脳梗塞は時間との闘いになります。救急部の医師と連携し迅速に対応しています。rt-PAは時間経過だけでなく、出血既往や手術既往、血圧や血糖、血小板数など禁忌項目も多く、適応を判断しつつ、内頸動脈や中大脳動脈閉塞症例では同時にカテーテルによる血栓除去治療の準備を行います。そのため発症早期の脳梗塞患者が搬送されると担当脳神経外科医が速やかに来院し、治療に取り組んでいます。このため3人の医師が24時間常に待機状態を強いられる過酷な勤務状況です。働き方改革に逆行するような仕事ぶりですが、幸い皆仕事に大きな情熱を持っている医師ばかりなので前向きに仕事に取り組んでいます。

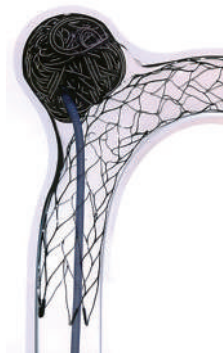
また、一過性脳虚血発作などで発症する頸部内頸動脈狭窄病変が増加傾向にあります。血管内壁にアテロームといわれる粥腫が塞栓源となったり、血流低下が症状の原因となったりします。頸部を切開し、アテロームを切除する頸動脈内膜剥離術（CEA）という治療やカテーテル治療による血管拡張術（CAS）を行っています。血栓の状態や病変の位置などで治療方法の適応を判断しています。また、中大脳動脈狭窄も一過性脳虚血発作の原因として多くみられる疾患です。この病態に対しては、浅側頭動脈を頭蓋内血管と吻合する浅側頭動脈-中大脳動脈吻合術が予防治療として有効です。

【脳出血】高血圧管理に対する関心が高まり、開頭手術を要する脳出血の頻度は少なくなっています。出血量が多い場合には救命目的の開頭手術、中等量であれば機能改善を目的とした定位血腫除去を行っています。最近の症例は小出血が多く、点滴・降圧剤投与による保存的加療を行う症例が多くを占めています。小出血であっても錐体路に障害が及ぶと後遺症は必発です。予防的治療、生活習慣の是正が何より重要だと考えています。



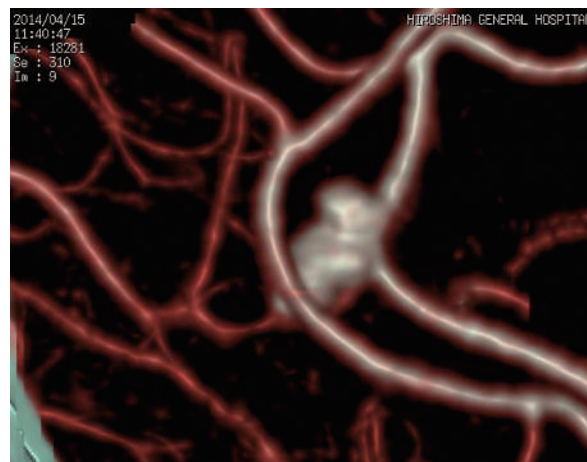
(grade0；無症状、grade Vは昏睡状態です)  
開頭クリッピング術治療成績

【くも膜下出血】脳動脈瘤が破裂を起こすことで生じる疾患で、発症時の重症度によって軽度の頭痛から突然死まで、その症状には差がみられます。治療の目的は再出血予防であり、開頭クリッピング術と血管内コイル塞栓術があります。重症度、年齢、合併症、動脈瘤の部位・大きさ・形状により治療法を選択します。椎骨脳底動脈瘤や前床突起近傍動脈瘤はコイル塞栓術のよい適応です。以前はwide neckな動脈瘤はコイル塞栓術が困難でしたが、最近ではステントアシストコイルという新たな方法を用いることにより、治療の幅が広がっています。



ステントアシストコイルの模式図

開頭クリッピング術は症例の蓄積のある確立された治療法です。いびつな形状の瘤やwide neck、血腫を伴うくも膜下出血は開頭クリッピング術が適応となります。一般的に入院時重症度の高い症例や高齢者は予後も不良となる傾向が強いのですが、当科での治療成績は非常に良好であると自負しており、積極的に手術をお勧めしています。



遠位前大脳動脈瘤破裂  
脳動脈瘤クリッピング前後の3D-CT画像

【脳腫瘍】脳腫瘍の発生率は1年間に10万人あたり10人くらいといわれ、そのほとんどが原因不明です。種類も細別すると100種類くらいありますが、70%は髄膜腫、神経膠腫、下垂体腫瘍です。脳腫瘍の多くは手術が必要と判断されますが、その目的には①腫瘍の種類を確認するため（生検）、②腫瘍の体積を減らし、放射線治療や化学療法を併用して治療する、③全摘出で治癒を目指す、と大別することができます。腫瘍の部位、広がりや神経機能を総合評価し、治療方針を個々に検討します。脳内に発生する神経膠腫はgrade I-IVまでありますが、浸潤性に発育するため治癒が困難であり、特にgrade IVにおいては30年以上にわたり治療成績の目立った改善がみられない難治腫瘍であり、今後の更なる研究が待たれるところです。

これまで当科では、年齢を考慮し手術治療を選択してきましたが、高齢者が以前より体力的に向上していること、手術技術、麻酔技術、術後管理が進歩していることから高齢者でも手術をためらう必要性は乏しいと感じています。

実際、手術成績も他施設と比較し遜色はないと自負しています。

【慢性硬膜下血腫】頭部外傷後1か月くらい経過して発症することが多い疾患です。硬膜下に徐々に血腫が貯留し、脳を圧迫することで歩行障害や手の巧緻運動障害、認知症などの症状を呈し、認知症と誤認されることもあります。穿頭洗浄術という簡単な手術で症状の改善がみられ、脳神経外科領域では最も多くみられる疾患です。



# 呼吸器外科

## ■ スタッフ

主任部長 渡 正 伸 (2022年1月未迄)  
呼吸器外科専門医・指導医、外科学会専門医・指導医  
部 長 三 隅 啓 三 (2004年卒) (2022年2月から主任部長)  
呼吸器外科専門医、外科学会専門医  
副 部 長 中 島 千 佳 (2012年卒)  
外科専門医  
医 員 佐々井 隆 真 (2017年卒)

## ■ 診療科紹介

当科は、日本において癌死亡の最大の原因である肺癌を中心に外科治療を行っております。肺悪性病変に対する手術療法や、気胸（血気胸）や膿胸に対する手術・ドレナージを中心に進行再発・再発または術後補助療法として、抗癌剤治療・外傷後の患者に対する治療などを行っております。2021年度は例年同様全170件の手術を行いました。広島県西部唯一の呼吸器外科病院として広く患者様を受け入れ治療に当たっております。

## ■ 主な対症疾患

### 原発性肺癌

肺末梢の小型肺癌に対しては、これまで標準治療であった肺葉切除より切除範囲の小さい縮小手術（リンパ節郭清を伴う区域切除または部分切除）を胸腔鏡下で施行しております。

また、中枢性肺癌や局所進行肺癌に対しては、他科との合同手術や術前後の化学療法、放射線療法を組み合わせ治療を行っております。当科での原発性肺癌に対する手術件数は毎年約100件です。

### 気胸

再発症例や保存的に軽快しない症例に対し、完全胸腔鏡下に肺嚢胞切除や肺縫縮術を行っております。

### 縦隔腫瘍

縦隔にできる胸腺腫や神経鞘腫を中心に主に胸腔鏡下に切除しています。

### 肺転移

大腸癌、腎癌などの肺以外の悪性腫瘍の肺への転移病変を胸腔鏡下に切除しております。

当科では手術以外に下記にも力を入れております。

### 胸部 CT 検診

喫煙者に対するCT検診の有用性は国際的なランダム化試験で世界的に認められており、当科では手術以外にも肺癌の早期発見、早期治療の為に人間ドックのオプションとして行っております。

### 防煙教育

無償での社会貢献として、診療の合間にボランティアで近隣の小学校で喫煙防止教室の授業を行っています。一番重要な予防医療と認識して活動を継続していきます。

# 心臓血管外科

## ■ スタッフ

主任部長 濱 本 正 樹 (1995年卒)  
心臓血管外科修練指導医、外科学会指導医  
主任部長 (血管外科担当)  
小 林 平 (1999年卒)  
心臓血管外科修練指導医、外科学会指導医  
医 員 岡 崎 孝 宣 (2016年卒)  
弾性ストッキングコンダクター  
医 員 友 田 真 由 (2019年卒)

## ■ 診療科紹介

### 心臓疾患

心臓疾患は弁膜症と冠動脈疾患の2つが代表的です。

2021年の弁膜症手術は24件でした。大動脈弁疾患では弁置換術、僧帽弁疾患では弁形成術が主な術式となっています。患者の平均年齢は77歳と高齢で、弁置換では全例生体弁が使用されました。大動脈弁狭窄症に対する右前方開胸による低侵襲大動脈弁置換術を1例に実施しました。2021年の単独冠動脈バイパス術は11件でした。半数(6件)は心拍動下体外循環非使用下に行いましたが、低心機能症例や急性冠症候群に対する緊急手術症例では体外循環補助下に実施しました。3件(約30%)が緊急手術となっています。

近年ではMICS (minimally invasive cardiac surgery) という正中切開を実施しない低侵襲心臓手術が実施されるようになってきました。

### 胸部大動脈疾患

2021年の胸部大動脈疾患に対する手術数は14件でした。そのうちStanford A型急性大動脈解離に対する緊急手術は8件(上行置換3件、上行弓部置換5件)、真性遠位弓部大動脈瘤に対する定期上行弓部全置換術を3件、上行置換術後仮性動脈瘤破裂に対する緊急修復術を2件、大動脈基部拡張に対する定期基部置換術が1件でした。14件のうち、手術死亡は急性大動脈解離の1件で、それ以外は前例自宅退院となっています。胸部大動脈疾患に対する術式は定型化しており、手術成績の安定化を目標としています。

### 腹部大動脈疾患

腹部大動脈瘤は自覚症状はありませんが、破裂すると致命的な病気です。治療法として、開腹下での人工血管置換術もしくはステントグラフト内挿術があります。それぞれ長所・短所があるため、解剖学的な条件、年齢、基礎疾患、全身状態などを考慮し治療法を決めています。最近では穿刺のみでのステントグラフト内挿術にも積極的に取り組んでおり、ほとんどの症例で穿刺のみで行いました。2021年の腹部大動脈手術症例は12件(人工血管置換術:7件、ステントグラフト内挿術:5件)でした。

### 末梢動脈疾患

重症下肢虚血は動脈硬化を背景とした下肢切断に至る可能性もある疾患です。外科的血行再建、血管内治療、血管新生療法など様々治療を組み合わせ、他職種での集学的治療により8割以上の症例で下肢救済ができるようになってきました。2021年は重症下肢虚血に対する下腿動脈バイパス62例を含む93例の外科的血行再建を施行し、血管内治療は341例に施行しました。総大腿動脈病変に対してはウシ心膜パッチ形成を積極的に行っており、良好な成績が得られています。2020年度のDPC統計では末梢動脈疾患に対する外科的血行再建数は全国3位、血管内治療数は全国14位でした。



手術室での下肢血行再建の様子

# 皮膚科

## ■ スタッフ

主任部長	梅田直樹 (2007年卒)
	資格：皮膚科専門医、熱傷専門医
	専門：皮膚科一般、皮膚外科（腫瘍、熱傷、創傷治療等）
医員	江川舞華 (2015年卒)
	専門：皮膚科一般
医員	石田貴子 (2018年卒)
	専門：皮膚科一般
非常勤医師	吉屋直美 (2001年卒)
	資格：皮膚科専門医
	専門：皮膚科一般

## ■ 診療科紹介

皮膚科の診療内容としては湿疹・皮膚炎群などの炎症性疾患、带状疱疹・蜂窩織炎などの感染症、皮膚の自己免疫疾患、良性・悪性の皮膚腫瘍など、皮膚疾患を全般的に扱っております。

外来は初診、再診を曜日ごとに完全に分けることで、患者さんの待ち時間をより少なく、効率よく診療できるようになりました。地域連携を通してご紹介いただくと、初診の患者さんでもほとんどお持たせすることなく、対応できるかと思えます。その一方で地域連携を通さず、直接受診いただくと、かなりのお時間をお待ちいただくことになり、その日の予約状況によってはお受けできないこともあります。そのため、お手数ですが必ず地域連携を通してご紹介いただくようお願いいたします。

急患については、曜日ごとの初診担当医にお電話いただければ可能な限り対応させていただきます。火曜日の急患については梅田に問い合わせいただければ対応させていただきます。

### 外来担当医表

		月	火	水	木	金
外来診療前		朝の病棟カンファレンスおよび病棟処置				
午前	初診	梅田	手術 (手術室)	江川	梅田	石田
	再診	江川		梅田	江川	梅田
		石田		石田	石田	江川
		吉屋		吉屋		吉屋
午後	外来手術		外来手術			

## ■ 皮膚科領域のトピックス

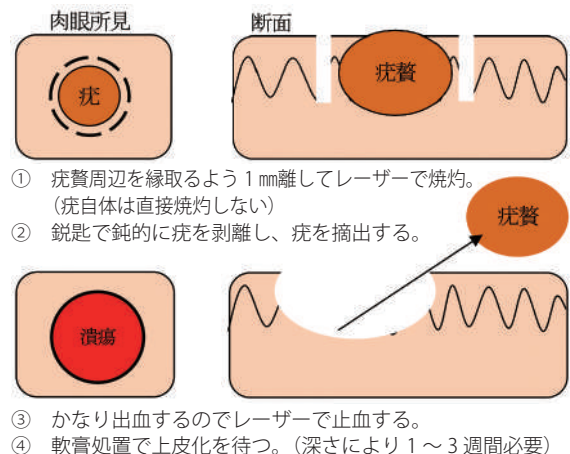
近年、尋常性乾癬、アトピー性皮膚炎、じんま疹、化膿性汗腺炎に対して様々な生物学的製剤が使用可能となっております。抗アレルギー薬の内服やステロイドの外用でも難治であるアトピー性皮膚炎やじんま疹に対しては劇的な効果が期待できます。尋常性乾癬については効き方に個人差がありますが、現在11種類の生物学的製剤が使用可能であり、治療の選択肢が広がっています。化膿性汗腺炎については重症度に応じて手術と生物学的製剤を組み合わせで治療します。

## ■ 当科での最近の試み

### ・尋常性疣贅に対するレーザーいぼ剥ぎ法

尋常性疣贅はありふれた疾患ですが、万人が完治する有効な治療法はありません。液体窒素療法やサリチル酸ワセリンの外用などで加療されることが多いですが、何年も治療を継続しても難治な方も多数おられます。そのような方に対して2020年7月より炭酸ガスレーザーを使用したいぼ剥ぎ法を行っています。数年来治療をするも難治である方を中心にいぼ剥ぎを行っておりますが、現在のところ、7割程度の方で術後の再発なく経過しています。難治性の疣贅の方がいらっしゃいましたら、是非、ご紹介ください。(局所麻酔が必要で痛みを伴います)

レーザーいぼ剥ぎ法のシエーマ



# 泌尿器科

## ■ スタッフ

主任部長	加藤 昌生 (1996年卒)
	日本泌尿器科学会専門医・指導医 日本泌尿器科学会・日本泌尿器内視鏡学会腹腔鏡技術認定医
部長	上田 晃嗣 (2008年卒)
	日本泌尿器科学会専門医 日本泌尿器科学会指導医
部長	藤井 照護 (2011年卒)
	日本泌尿器科学会専門医
医員	田坂 晋作 (2016年卒)
顧問	松原 昭郎 (1985年卒)

## ■ 診療科紹介

多くの手術を開腹手術から腹腔鏡手術に移行し、腹腔鏡技術認定医2人体制で、質の高い腹腔鏡手術を実践しております。

腎癌の手術は、腎機能温存のために可能な限り腹腔鏡下腎部分切除を行っております。

浸潤性膀胱癌の手術は、腹腔鏡下膀胱全摘除術を行っております。高齢の患者様に対しても適用範囲が広がりました。

前立腺癌の手術は、腹腔鏡下前立腺全摘除術を行っております。術後の早期尿禁制を図るために、適用症例に対しては可能な限り神経温存を意図した手術を行っております。

女性泌尿器科にも積極的に取り組んでおります。腹圧性尿失禁に対する中部尿道スリング手術(TVT)、骨盤臓器脱に対する腹腔鏡下仙骨脛固定術(LSC)を行っております。

## ■ 診療実績 (2021年 手術件数)

・前立腺		
	腹腔鏡下前立腺全摘除術	83
	経尿道的前立腺切除術	24
・腎尿管副腎		
	腹腔鏡下副腎摘除術	1
	腹腔鏡下腎摘除術	12
	腹腔鏡下腎尿管全摘除術	10
	腹腔鏡下腎部分切除術	21
	腹腔鏡下腎盂形成術	2
・膀胱		
	経尿道的膀胱腫瘍切除術	194
	腹腔鏡下膀胱全摘除術	16
・結石		
	体外衝撃波結石破砕術	111
	経尿道的尿管結石破砕術	55
	経尿道的膀胱結石破砕術	14
・陰茎・陰囊		
	陰囊水腫手術	5
	包茎手術	8
・女性泌尿器科		
	LSC	22
	TVT	1
	尿道脱切除術	2



加藤 藤井 田坂 上田

# 産婦人科

## ■ スタッフ

主任部長	中西慶喜 (1984年卒)
	日本産科婦人科学会専門医・指導医 女性ヘルスケア専門医・暫定指導医
部長	高本晴子 (1996年卒)
	日本産科婦人科学会専門医・指導医 母体保護法指定医師
部長	佐々木美砂 (2005年卒)
	日本産科婦人科学会専門医・指導医 母体保護法指定医師
医員	竹石直子 (2016年卒)
	日本産科婦人科学会専門医
医員	宮原新 (2019年卒)
	日本産科婦人科学会専攻医

## ■ 診療科紹介

2021年3月末で三浦医師が退職し、4月から宮原医師が赴任しました。竹石医師は2021年12月から産休に入り、2022年3月時点では4名で診療に当たっています。

診療内容は平日午前中に外来診療を行い、月・水・金曜日の午後に手術をしています。火曜日と木曜日の午後には子宮鏡や子宮卵管造影などの検査を行っています。当院はセミオープンシステムを導入しており、大竹市ではシルククリニックとレディースクリニックとよしま医院、廿日市市では青葉レディースクリニックとかとうレディースクリニック、広島市では鈴峰今中医院とさくらウィメンズクリニックに妊婦健診ができるかかりつけ医として健診をお願いしています。休日・夜間等の緊急時にかかりつけ医に連絡が取れない時は、最終的に当院が受け入れ病院となるシステムを広島県西部地域保健対策協議会で2012年に構築しました。また産婦人科病棟には開放病床があり、さくらウィメンズクリニックの天下先生が毎週水曜日に手術をされています。

産科に関しては、2021年は394件の分娩がありました。広島西圏域（大竹市、廿日市市）で分娩ができる施設は江川レディースクリニックと当院のみとなりましたが、2施設で年間約800件の分娩があ

ります。母体搬送は51件あり、県内でも有数の母体搬送受け入れ病院となっています。但し当院にはNICUがなく、35週未満での早産が予想される場合には他院に搬送をしています。2021年は大学病院に5件、県立広島病院に3件、広島市民病院、土谷総合病院、岩国医療センターにそれぞれ1件、計11件を医師同乗で母体搬送しました。また他院からの母体搬送では、36週に入れば紹介元のクリニックに逆紹介して良好な病診連携を保っています。

婦人科に関しては、悪性腫瘍では手術・化学療法・放射線治療等で集学的治療を行っています。また良性疾患に対しては積極的に腹腔鏡下手術を取り入れており、2021年は良性疾患（子宮筋腫や卵巣嚢腫など）で104例、全手術の約半数が腹腔鏡下手術となっています。また骨盤臓器脱には積極的に手術療法を勧めており、2021年は23件の子宮脱手術を行いました。新型コロナウイルス感染症蔓延のため、2020年度に比べて婦人科手術件数は若干減少しました。

女性医学の分野では、中西が女性ヘルスケア専門医を取得しており、クリニックでの治療が困難な患者さんの相談に当たっています。

## ■ 診療実績

分娩数	394件 (2020年度410件)
手術数	264件 (2020年度292件)
悪性腫瘍	子宮頸癌 1例
	子宮体癌 5例
	卵巣癌 14例

## ■ 研究活動

広島大学病院産科婦人科との共同研究「妊娠の生理と病態におけるsFLT-1/PIGF比の動態」を2020年3月から開始しました。



# 眼科

## ■ スタッフ

主任部長 二井 宏 紀 (1986年卒)

資格 眼科専門医

専門 緑内障、白内障

部長 河野 竜 馬 (2016年卒)

専門 眼科一般

## ■ 診療科紹介

眼科スタッフは医師は昨年同様、当院が23年目の私(二井)と、新任の河野竜馬先生の2診体制です。他は、看護師が3名、視能訓練士が3名、事務が1名です。

## ■ 診療実績

午前は外来診療、手術は週3回午後から行っており、概ね一日4～5例行っております。

2021年度手術件数は、白内障259例、緑内障169例(緑内障単独手術77例、緑内障・白内障同時手術92例)、緑内障手術の内訳は、線維柱帯切開術が29例( $\mu$  LOT)、線維柱帯切除術が24例、白内障手術併用線維柱帯切開術が88例、白内障手術併用線維柱帯切除術が1例、白内障手術併用隅角癒着解離術が4例、MMC併用濾過胞再建術24例、翼状片6例、その他10例、計444例と緑内障手術が年々増加傾向です。最近調べたところ、当院で緑内障点眼を3剤以上投薬している緑内障患者さんが50%もおられ、緑内障点眼を減少させQOLの向上を目指し、2016年末から合併症の少ない極小切開緑内障手術(低侵襲緑内障手術)であるマイクロフック線維柱帯切開術眼内法( $\mu$  LOT)を積極的に行っており、良好な結果を得られています。この術式では入院期間も概ね1週間以内で済み、早期の通常生活への復帰が可能です。白内障手術は、極小切開白内障手術(切開幅2.2mm)を行っています。幸い2021年度も白内障手術・緑内障手術ともに、最も忌むべき合併症である術後感染や駆逐性出血は経験しておりません。レーザーは118件(後発白内障切開術24件、網膜レーザー75件、緑内障レー

ザー19件(選択的線維柱帯形成術19件)でした。他に、糖尿病網膜症・加齢黄斑変性症・網膜静脈閉塞症に対するマキユエイドテノン嚢下注射とルセンチス・アイリーア硝子体注射を合わせ、119例に施行しています(術後感染の可能性を少しでも減らすため手術室で行っています)。

## ■ 研究活動

手術症例の多い緑内障・白内障をメインに学会報告・論文発表を行っています。

# 耳鼻咽喉科

## ■ スタッフ

主任部長 高本 宗男 (1992年卒)  
 日本耳鼻咽喉科学会専門医・専門研修指導医  
 気管食道科学会専門医

部長 長 陽子 (2001年卒)  
 日本耳鼻咽喉科学会専門医

医師 有木 雅彦 (2011年卒)  
 日本耳鼻咽喉科学会専門医

## ■ 診療科紹介

2021年度も2019年7月より、上記耳鼻咽喉科医師の3人体制にて耳鼻咽喉科全般の診療にあたりました。現在の3人体勢となり、ほとんど毎日当日初診の診療内容や入院中診療のカンファレンスを行い、共同して病院診療にあたっています。

## ■ 診療実績

診療体制自体の大きな変化はありませんでしたが、2021年度は当科も新型コロナ肺炎の蔓延による、いわゆるコロナ禍の影響は続いています。感染予防対応は当たり前として今までと同様の診療対応が継続されました。

コロナ前まで増加していた診療件数も2020年度はかなり減少しましたが、2021年度もあまり回復していませんでした。

### 耳鼻咽喉科手術件数

2021年度	160件
2020年度	157件
2019年度	253件
2018年度	190件



図1 内視鏡下鼻内副鼻腔炎手術



図2 嚥下造影検査



図3 甲状腺など頸部のエコー検査

# 放射線治療科

## ■ スタッフ

主任部長 伊 東 淳 (1995年卒)

日本医学放射線学会および日本放射線腫瘍学会共同認定放射線治療専門医

日本がん治療認定医機構認定がん治療認定医

診療放射線技師は3名体制で、海老谷京子（科長・放射線治療品質管理士）、中村哲之（放射線治療専門技師）、砂田研二が常勤で担当しています。他にローテーションの技師が1名です。

看護師は河野佐代子（がん放射線療法看護認定看護師）と9月より高橋志保が加わり2名体制に、受付は奥田志帆です。以上8名で診療に当たっています。

## ■ 診療科紹介

放射線治療は手術、抗がん剤とならぶ、癌治療の3本柱です。

メスを入れずに癌を治療する、したがって体にやさしい治療であることが放射線治療の特徴です。また、臓器を残す（温存する）ため、機能・形態が温存可能というメリットがあります。

また、（治癒をめざした）根治照射から（症状軽減のための）緩和照射まで、その役割は多岐にわたります。

全身のあらゆる疾患が対象になるので

月曜日：放射線治療カンファレンス（当科医師、大学病院医師、診療放射線技師、看護師）

火曜日：緩和ケアカンファレンス（呼吸器内科・循環器内科・外科・精神科・栄養科・リハビリ・薬剤部・地域連携・当科）

水曜日：cancer board（消化器内科・外科・画像診断部・当科）

水曜日：呼吸器カンファレンス（呼吸器内科・呼吸器外科・画像診断部・当科）

水曜日：乳腺カンファレンス（乳腺外科・画像診断部・当科）

金曜日：頭頸部癌カンファレンス（耳鼻咽喉科・当科）と院内でもカンファレンスが多いのも当科の特徴です。

他には（昨年とあまり変わりませんが）、

1. IMRT、体幹部定位照射といった高精度放射線治療をおこなっている一般病院である。
2. 化学放射線療法では抗癌剤の効果を最大限に活かすよう時間調整している。
3. 毎回 EPID で写真を撮り、より正確な照射を行うよう取り組んでいる。  
などが、当科の特徴といえるかと思います。  
今後も、がん拠点病院における放射線治療部門として、広島県西部の癌治療に貢献していきたいと考えています。

## ■ 診療実績

1) 脳・脊髄	3
2) 頭頸部	15
3) 食道	10
4) 肺・気管・縦隔	39
4) のうち肺	38
5) 乳腺	76
6) 肝・胆・膵	9
7) 胃・小腸・大腸	11
8) 婦人科	0
9) 泌尿器系	45
9) のうち前立腺	34
10) 造血器・リンパ系	1
11) 皮膚・骨軟部	1
12) その他（悪性）	1
13) 良性疾患	2

2021年度の新患数は213人（昨年度218人）、のべ治療患者数は242人（昨年度243人）です。新患の原発巣別内訳は上記の如くです。

高精度放射線治療としては、前立腺癌のIMRTを6人（昨年度7人）に、体幹部定位照射を1人（昨年度1人）に施行しています。定位照射（脳）は0人（昨年度0人）でした。

他に前立腺癌の骨転移に対し塩化ラジウム内用療法を開始し、良好な症状改善効果を得られています。

## ■ 研究活動

2001年4月更新の直線加速器を使用しており、機器の更新時期を迎えていること、医師1人体制のためマンパワー不足もあり、対外的な活動に手が回らない状況です。

## 画像診断部

### ■ スタッフ

主任部長 西原 礼介 (1995年卒)

放射線診断専門医

部長 海地 陽子 (2003年卒)

放射線診断専門医

医師 岸田 直孝 (2014年卒) 6月30日退職

医師 東堀 遥 (2015年卒)

医師 森 拓也 (2017年卒)

医師 坂原 朝子 (2019年卒)

### ■ 診療科紹介

- CT、MRI、核医学等各種検査の画像診断や、胃透視の読影をしています。
- 新型コロナウイルス感染症患者の胸部CTを撮影し、病態の評価を行いました。
- IVRは、肝細胞癌に対するTACE、膀胱癌動注のためのリザーバ留置、救急での外傷、動脈出血に対する塞栓術などを行っています。
- Nonvascular IVRとして、CTガイド下生検、CTガイド下膿瘍ドレナージを行っています。
- 検診では、脳ドックを行い、希望者には結果説明や頸動脈エコーも行ってきます。また乳腺マンモグラフィーの一次読影を行っています。
- 開業医から依頼されたCT、MRIや骨塩定量、マンモグラフィーなどの検査や画像診断を行っています。
- 救急外来から依頼された時間外読影をiPadを利用して在宅で行っています。
- 呼吸器内科・呼吸器外科・放射線治療科の三科カンファレンスへの参加、乳腺カンファレンスや整形外科カンファレンスへの参加、救命救急センターとの画像カンファレンスを毎週行っています。
- 2017年11月に導入された256列 Revolution CTで dual energy 撮影が可能になり、物質の弁別など従来と異なるCTを施行しています。

### ■ 診療実績

2021年度 読影、IVR 業務

CT	17,954 件
MRI	6,581 件
核医学	335 件
Vascular IVR	83 件
Non-vascular IVR	
CT 下生検	24 件
CT 下ドレナージ	50 件

### Radiation House



# 麻酔科

## ■ スタッフ

主任部長	大下 恭子 (1992年卒)
	日本麻酔科学会麻酔指導医 日本ペインクリニック学会専門医
主任部長	新澤 正秀 (1993年卒)
	日本麻酔科学会専門医 臨床研修指導医
主任部長	本多 亮子 (1998年卒)
	日本麻酔科学会麻酔指導医 臨床研究指導医
主任部長	村上 俊介 (1998年卒)
	日本麻酔科学会専門医
主任部長	石橋 優和 (1998年卒)
	日本麻酔科学会指導医
副部長	原木 俊明 (2001年卒)
	日本麻酔科学会麻酔指導医 臨床研修指導医
副部長	河本 佐誉子 (2008年卒)
	日本麻酔科学会認定医
副部長	佐々木 陽子 (2012年卒)
	日本麻酔科学会認定医
医員	宮地 くる実 (2018年卒)
医員	本池 芹佳 (2015年卒)
	(歯科麻酔科)

## ■ 診療科紹介

2021年度の総手術件数は5,094例で、うち麻酔科管理は3,976例で、中央部門として大きな役割を果たしています。

	全症例 (%)	麻酔科管理 (%)
総数	5,094	3,976
予定	3,622 (71.0)	2,804 (70.5)
追加	924 (18.1)	682 (17.2)
当日緊急	548 (10.8)	490 (12.3)

麻酔科管理症例3,976症例のうち、3,863症例(97.1%)が全身麻酔症例でした。診療科別内訳は、外科964、整形外科1,302、泌尿器科503、産婦人科309、心臓血管外科178、耳鼻科175、乳腺外科166、呼吸器外科174、脳神経外科80、口腔外科53、形成外科46、皮膚科43、眼科10症例となっています。

- ① 質の良い麻酔管理を行うために、術後回診を徹底しフィードバックを行うことで、術中だけでなく術後も見据えた麻酔管理を目指しています。

特に術後鎮痛の充実や術後悪心・嘔吐の予防に力をいれています。また、4月から1名増員となったため、日替わりで手術室の責任者を1名置くことができるようになり、緊急手術対応やスケジュール管理がスムーズになりました。

- ② ペインクリニック外来には院内および地域の先生から86名の新患の紹介をいただきました。慢性痛の有病率は高く、適切な治療を受けられていない患者さんがまだまだ数多くいらっしゃいます。帯状疱疹関連痛をはじめとする神経障害痛や遷延性術後痛、がん性慢性痛など様々な原因の痛みに対応していますので、今後ご紹介をお願いします。2022年度からはペインクリニック認定指導施設に認定されます。
- ③ 全身麻酔に区域麻酔を併用することで、術後鎮痛を見据えた麻酔管理が可能となります。特に超音波ガイド下末梢神経ブロックは近年のトピックスの一つであり、当院も体表面の解像度の高い超音波装置が導入され、適応症例には積極的に行っています。学会主導のハンズオンセミナーで新しい手技について学び、より快適な周術期を送ることができるよう工夫しています。
- ④ 研究活動としては、筋弛緩モニター TOF Watch®を用いた筋弛緩薬の効果消失のシミュレーション、新規麻酔薬レミマゾラムの使用方法などについての検討を行い、学会等で発表しました。麻酔覚醒におけるレミマゾラムとプロポフォルのランダム化比較試験も開始しています。



## 歯科・口腔外科

### ■ スタッフ

主任部長 島 末 洋 (H8 年卒)  
日本口腔外科学会専門医・指導医  
臨床歯科医研修指導医

部長 原 田 直 (S61 年卒)  
日本口腔外科学会専門医・指導医  
臨床歯科医研修指導医

副部長 大 井 尚 志 (H26 年卒)  
日本口腔外科学会認定医

### ■ 診療科紹介

当科は、歯科医師 3 名、歯科衛生士 3 名、事務職員 3 名の体制で診療を行っております。

業務内容は、口腔外科がメインであるため虫歯治療や義歯作成等の一般歯科診療は行っておりませんが、顎顔面の外傷・骨折、悪性腫瘍（口腔がん、唾液腺腫瘍）、顎骨腫瘍・嚢胞、難拔牙（埋伏智歯、有病者の拔牙等）、歯性感染症（蜂窩織炎、膿瘍、薬剤性顎骨壊死、上顎洞炎等）、顎関節症等の顎顔面領域の疾患を取り扱っております。月曜・木曜日は全身麻酔での手術、火曜・水曜日は外来手術を行い、年間約 2,000 件の手術を行います。2021 年度は新型コロナウイルスの影響で予定手術の延期および外来診療の中止により手術件数や患者数は減少しましたが、少しずつ回復しつつあります。

また、2013 年より全身麻酔の手術や化学療法を受ける患者の全身管理の一環として、口腔ケア（周術期口腔機能管理等）を行っております。外科や麻酔科を始めとする様々な診療科と連携し周術期口腔管理を行っています。

### ■ 診療実績

2021 年度 全身麻酔手術

埋伏歯抜歯術	15 件
顎骨腫瘍・嚢胞摘出術	30 件
舌悪性腫瘍切除術（舌癌）	3 件
口蓋悪性腫瘍切除術	2 件
下顎骨骨折観血的整復整復術	1 件
頸部リンパ節群郭清術	1 件
唾石摘出術	1 件

外来小手術：骨内埋伏歯、水平埋伏歯抜歯術、顎骨嚢胞摘出、創傷処理、口腔内外消炎術、唾石摘出術、腐骨除去術、歯槽骨観血的整復術、腫瘍摘出術（口唇、頬粘膜、舌、顎骨）等  
1782 件

### ■ 研究活動

日本口腔外科学会認定研修施設であり、口腔外科疾患調査や口腔がん登録に参加しています。



# 救急・集中治療科

## ■ スタッフ

地域救命救急センター長、主任部長

吉田 研一 (1984年卒業)  
医学博士 日本救急医学会専門医

主任部長 (集中治療部)

櫻谷 正明 (2006年卒業)  
日本救急医学会専門医  
日本集中治療医学会専門医

部長 河村 夏生 (2010年卒業)  
日本救急医学会専門医

部長 高場 章宏 (2011年卒業)  
日本救急医学会専門医  
日本集中治療医学会専門医

医員 前澤 俊憲 (2016年卒業)  
日本救急医学会

医員 岩田 和佳奈 (2017年卒業)  
日本救急医学会

医員 波多間 浩輔 (2019年卒業)  
日本救急医学会

年間重篤患者数 (2021年4月～2022年3月)

表1) 救急・集中治療科実績 (厚生労働省報告)

(人)

番号	疾病名	患者数	生存退室	死亡
1	病院外心肺停止	14	8	6
2	重症急性冠症候群	75	67	8
3	重症大動脈疾患	26	21	5
4	重症脳血管疾患	79	68	11
5	重症外傷	13	12	1
6	重症熱傷	0	0	0
7	重症急性中毒	7	6	1
8	重症消化管出血	26	26	0
9	重症敗血症	109	98	11
10	重症体温異常	7	7	0
11	特殊感染症	6	6	0
12	重症呼吸不全	35	34	1
13	重症急性心不全	45	42	3
14	重症出血性ショック	13	13	0
15	重症意識障害	15	14	1
16	重篤な肝不全	1	1	0
17	重篤な急性腎不全	7	6	1
18	その他の重症病態	70	64	6
合計		802	14	8

※上記のなかには敗血症、横紋筋融解症、各種ショックなど含まれない疾患もあります。

## ■ 診療科の紹介

2021年度、当科は総勢7名で救急・集中治療の診療を施行しました。また当院は日本救急医学会認定救急専門医研修基幹病院(専攻医3名)でもあります。

救急・集中治療科は、内科系、外科系を問わず呼吸、循環、代謝その他の重篤な急性機能不全の患者を収容し、強力かつ集中的に緊急治療・看護を行うことにより、その効果を期待する部門です。

2011年4月から地域救命救急センターとして組織変更し、いわゆる三次救急体制を正式に発足しました。地域に愛され信頼される急性期病院として、さらに設備と体制の整備をすすめていく計画です。御支援をよろしくお願ひします。

## ■ 診療実績

2021年度

年間救急搬送患者数 3,617台

年間救急来院患者数 6,942人

2021年度の年間重篤患者数を表1に示します。

## ■ 研究活動

### ① 重症感染症(敗血症)患者の救命率の向上

重症感染症(敗血症)は、細菌によって引き起こされた全身性炎症反応症候群(SIRS)です。細菌感染症の全身に波及したもので非常に重篤な状態であり、無治療ではショック、DIC、多臓器不全などから早晩死に至ります。もともとの体力低下を背景としていることが多く、治療成績も決して良好ではありません。当院でもその死亡率は高く、28-38%(2008-2015年)の患者さんが亡くなられています。

Surviving Sepsis Campaign Guideline 2021では循環管理だけでなく感染対策、続発する臓器不全や周辺病態に対しての集中治療が示されています。当院では特に初期蘇生の循環管理について積極的に推し進めています。

### ② 脳低温療法の導入

脳低温療法とは、脳が障害を受けた際に脳の障害がそれ以上進行することを防止するため、体温を低く保つ治療法です。通常、脳が重大な障害を受けた際には脳組織に浮腫が起こるほか、カテコールアミンやフリーラジカルなどが放出され、進行的に組織が破壊されていきます。救急の脳障害においては、この進行的な脳組織の破壊を抑制することで救命率・機能予後の向上が見込まれ、またそれを抑制する事が重要な課題となっています。

蘇生ガイドライン 2020 でも脳低温療法が新たに加えられたことを契機に、当院でも水冷式ブランケットを用いて患者の体温を 34℃程度に下げること、代謝機能を低下させて、脳内での有害な反応の進行速度を抑え、蘇生後脳症の治療成績の向上に努めています。

### ③ オートプシー・イメージングの検討

オートプシー・イメージング (Autopsy imaging、Ai) とは、狭義では死亡時画像診断のことです。コンピュータ断層撮影 (CT) や核磁気共鳴画像法 (MRI) などによって撮影された死後画像により、死体にどのような器質的病変を生じているのかを診断することによって、死亡時の病態把握、死因の究明を目的とします。

当院では 2007 年よりオートプシー・イメージングを導入し画像診断部の支援のもと、Ai 認定施設 (クラス A) となっています。救急搬送された患者のうち、340 例近くの Ai 施行にて、約 4 割の患者の死亡原因の診断・推定に役立ちました。

救急搬送される症例には、自宅での服毒自殺や幼児虐待などの外因死の可能性のある症例が含まれます。体表の情報からこれらを判断するには限界があり、Ai を取り入れることにより正確な判断が可能になる可能性があります。外因死などが疑われる場合には、所轄の警察署へ届け出るとともに、今後も死因究明のため積極的に Ai を施行します。



# 健康管理センター

## ■ スタッフ

診療部長・センター長／主任部長／臨床研究検査科部長

碓井 裕史 (1977年卒業)

日本人間ドック学会認定医・産業医

課長(事務職) 山根 保博

主任 生田 佑子

保健師 4名、看護師 1名、事務 3名、派遣職員(健診処理担当) 2名、(運転管理業務) 1名、業務委託(受付・予約) 4名、臨時職員(医師 5名、看護師 6名、助手 1名、臨床検査技師 2名)

## 【取得資格】

人間ドックアドバイザー 6名

第一種衛生管理者 1名

## 【所属学会】

日本人間ドック学会、日本癌学会、日本農村医学会

## 【担当事務局】

広島県農村医学研究所、広島県農村医学研究会

日本農村医学会

## ■ 概要

当センターでは、厚生連の基本理念に基づき、JAグループ・行政・医師会との連携によって広島県西部地域のJA組合員、住民の健康管理活動の推進に努めています。病院併設型の機能を活かし、診療部門、臨床研究検査科、中央放射線科など優れたスタッフの協力により精度の高い健診活動に取り組んでいます。

## ■ 主な活動内容

### 1. 施設内健診

当院独自の人間ドックに加え、廿日市市、広島市、大竹市、各健康保険組合等の委託ドック、各種がん検診他、10月第3日曜日にJMSマンモグラフィーサンデー(11回目)を行いました。希望された方には乳腺エコー検査を実施し、好評でした。

### 2. 巡回健診

JAグループ、廿日市市、佐伯地区医師会等の委託健診を中心に実施しています。

### 3. 地域の健康教育活動

JA組合員健康教室やJA広報誌の執筆活動も行っています。健診後には結果の報告会を実施し、健康相談も行っています。

## ■ 事業の紹介

当センターでは、ホスピタリティマインドを大切に健診を心がけており、受診者ひとりひとりの健康に関する心配事に目を向けています。日頃の生活習慣を見直し、より健康的な習慣に取り組むきっかけになれるような健診をめざしております。

前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染拡大予防対策を講じながら事業を行いました。緊急事態宣言が発令されている間は健診事業を中止することになり、肺機能検査の中止、受診者人数の制限など感染予防対策を徹底し、健診事業を行いました。契約している事業所、健保組合、市町の担当者と打ち合わせを行い、安全に安心して受けていただけるように協力し実施しました。

健診を受けていただくだけでなく、精密検査が必要であると診断された方には、医療機関へ受診していただけるように健診結果書と一緒に紹介状を発行しています。未受診、未把握の方には4か月後に再度受診を促す手紙を郵送しています。精検受診率をあげるための対策として、消化器内科、内科外来の協力のもと、2018年7月より大腸がん検診で精密検査が必要である受診者に対しては、人間ドック当日に当院での受診を勧めています。希望された方は内科外来へ案内し、大腸カメラの予約をとって帰宅しています。人間ドック当日に精密検査の予約ができることで、受診者の通院回数や待ち時間を減らすことができ、受診者からも好評です。そして、大腸がん検診の精検受診率も向上しています。

生活習慣病の早期発見およびその予防、がんの早期発見だけでなく、地域に寄り添った活動ができるようにスタッフ一同、心をこめて事業を展開したいと思います。

## ■ 2021 年度活動実績

### ○施設内健診

	受診者数 (人)
入院ドック	19
外来ドック	2,540
協会けんぽ健診	1,297
原爆 (一般・がん・二世)	110
脳ドック	298
肺ドック	149
膵ドック	42
個別子宮がん検診	76
個別乳がん検診	91
個別大腸がん検診	23
健康診断 (一般・簡易)	470
当院職員健康診断	1,429
個別特定健診	55
骨密度検診	129
計	6,728

### ○巡回健診

	実施日数 (日)	受診者数 (人)
生活習慣病予防健診	19	475
職員健診	60	3,177
健康診断	6	622
特定・後期高齢者健診	5	371
大腸がん検診	5	345
肝炎検査	5	25
計	100	5,015

### ○保健指導

	受診者数 (人)	
特定保健指導	30	
施設内保健指導	2,530	
	実施回数 (回)	受診人数 (人)
健康教育	1 回	7 人
巡回健診後の事後指導	7 回	76 人

## ■ 2021 年度がん検診部位別精密検査受診状況

### ○施設内健診

		受診者数 (人)	要精検者数 (人)	要精検率 (%)	精検受診者数 (人)	精検受診率 (%)	がん発見数 (人)	がん発見率 (%)
胃部	バリウム	948	19	2.0	6	31.6	0	0.00
	カメラ	2,206	147	6.7	126	85.7	6	0.27
胸部	レントゲン	4,251	168	4.0	109	64.9	2	0.05
	C T	149	8	5.4	5	62.5	0	0.00
大腸 (便潜血反応)		3,650	149	4.1	94	63.1	1	0.03
乳部		1,097	45	4.1	36	80.0	1	0.09
子宮頸部		959	58	6.0	40	69.0	0	0.00
前立腺 (P S A)		468	22	4.7	17	77.3	6	1.28

### ○巡回健診

		受診者数 (人)	要精検者数 (人)	要精検率 (%)	精検受診者数 (人)	精検受診率 (%)	がん発見数 (人)	がん発見率 (%)
胃部間接レントゲン		0	0	0	0	0.0	0	0.00
胸部レントゲン		4,288	20	0.5	11	55.0	0	0.00
大腸 (便潜血反応)		1,413	65	4.6	31	47.7	1	0.07
前立腺 (P S A)		339	11	3.2	4	36.4	0	0.00

※ 2020 年度より巡回胃がん検診は中止

# 病理診断科・病理研究検査科

## ■ スタッフ

主任部長	台丸	裕
科長	高田	愛
医師	1名	
臨床検査技師	6名	
事務	1名	

## ■ 取得資格

病理専門医	1名
細胞診専門医	1名
病理解剖資格	1名
細胞検査士	4名
国際細胞検査士	2名
二級甲類臨床病理技術士	4名
	(病理学4)
診療情報管理士	1名
医療情報技師	1名
認定病理検査技師	2名
特化物四アルキル鉛等作業主任者	3名
がんゲノム医療コーディネーター	2名

## ■ 所属学会

- 日本病理学会
- 日本臨床細胞学会
- 日本臨床衛生検査技師会

## ■ 業務内容

病理組織検査・細胞診検査・病理解剖

検査件数 (2021年度)

組織検査	5,632件	(2020年度 5,731件)
術中迅速検査	357件	( " 307件)
細胞診検査	6,237件	( " 6,106件)
迅速細胞診	217件	( " 203件)
病理解剖	3件	( " 1件)

## ■ トピックス

〈がんゲノム医療連携病院になりました〉

2021年4月、がんゲノム医療連携病院として指

定されました。中核拠点病院である岡山大学病院や拠点病院である広島大学病院と連携し、がん遺伝子パネル検査を当院から提出できるようになりました。がん遺伝子パネル検査に提出するためには、組織の固定時間などの管理が重要になります。各科の先生方のご協力のもと、検体の品質の向上に励んでいます。

〈マイクローム更新〉

病理組織のプレパラート作製に欠かせない機器であるマイクロームが新しくなりました。マイクロームとは、組織片を薄い切片にする機械です。このマイクロームを使って組織片を薄く切る操作を薄切といいますが、切片の厚みは室温や、薄切時のマイクローム刀を動かすスピード等に左右され、薄切は非常に繊細な作業です。1枚の切片の厚さは3～4 μm (一般的なラップの厚みは約10 μm) で、風が吹けば切片はすぐに飛んで行ってしまいます。

病理研究検査科ではマイクロームを用いて、病理診断用、免疫染色用、外注検査用を含め年間50,000枚の切片を作製しています。



〈台丸先生退職〉

1996年から26年間、当院の病理診断を担っておられた doctor's doctor、病理医の台丸先生が2022年3月に退職されました。2月からは広島大学の先生方に、病理診断をお願いしています。

## 研修医室

### ■ スタッフ

#### 〈2年次初期研修医〉

折出純、折出ゆうか、島田幸鴨、中木優羽、  
新山敏信、松島大地、松原佑吾、光延仁雄、  
森田峻介、横崎美遼

#### 〈1年次初期研修医〉

小野倫枝、小田麻央、武市一輝、手嶋真里乃、  
中西勇輝、宗近源太郎、村井智一、  
安村沙矢加、吉岡勇人、前田徳也、宮重直弥

### ■ 概要

初期臨床研修医2年次10名、1年次11名の計21名が所属しています。それぞれが当院の初期臨床研修プログラムに沿って、各診療科をローテーションする研修を行っています。

### ■ 活動内容

1年次は内科6ヶ月、外科系1ヶ月、麻酔科2ヶ月、救急集中治療科2ヶ月の計11ヶ月が必修科となります。残りの1ヶ月は自由に選択することができます。

2年次は産婦人科1ヶ月、小児科1ヶ月、精神科1ヶ月、地域医療1ヶ月が必修科となり、残りの期間が自由選択となります。精神科と地域医療に関しては、院外の医療機関で研修をさせていただいています。

研修内容は各診療科によって異なりますが、指導医の先生方のもとで外来での初期対応や病棟に入院している患者様の診療に携わっています。外科系の診療科では、手術に縫合やカメラ持ちなどを行う助手として参加させていただいています。麻酔科では、入室前の薬剤の準備、静脈路確保、喉頭鏡を用いた気管挿管、麻酔導入から維持、覚醒までの一連の管理を麻酔科医の指導のもと行います。

日々の診療に加えて、救命救急センターにて夜間・休日の日当直業務を行っています。救急医1名と一般当直医1名に加えて、1年次・2年次研修医が1名ずつの計4名で診療時間外に救急外来を受診

された患者様の対応をしています。これまでに得た知識や経験を活かしながら、目の前の患者様に対して適切な初期治療を行うことを意識しています。上級医として救急医もしくは一般当直医が必ずいるため、受診される患者様にとってはもちろんのこと、私たち研修医にとっても安心できる環境です。当院救命救急センターは、年間救急搬送件数が3,000件以上、年間来院患者数が5,000人以上であり、研修医にとっての日当直業務は、軽症から重症まで幅広い症例を経験する貴重な機会でもあります。

毎週火曜日にはEarly Bird Lectureという研修医のための勉強会が開かれています。そこでは研修医が15分ほどの発表を行います。発表の練習になるだけではなく、スライド作成の過程で症例を深く理解することにもつながっています。また、研修医発表に加え、各診療科の先生方や薬剤師などをお招きして30分ほどの講義をいただいています。参考書を読むだけでは学ぶことのできない最新の知見を学ぶことができます。

また、JPTEC・JATEC・BLS・ACLSといった若手医師にとって必要な資格を取得するための講習会には、病院の補助をいただいて参加することができます。

COVID-19感染症で様々は活動が制限されていますが、上級医の指導を仰ぎながら学会発表をするチャンスもあります。

そのほかの特徴として、初期臨床研修を修了した後の3年目からも後期臨床研修医として当院での勤務を希望する先生が数多くいることが挙げられます。これは、指導熱心で信頼できる先輩方のもと、働きやすい環境で2年間充実した研修期間を送ることができたからだと思います。



## 看護部長室

### ■ スタッフ

看護部長 藤本 七津美  
 看護副部長 佐藤 澄香  
 久保 知子  
 村中 好美 (総合医療福祉相談室兼務)

### ■ 概要

看護科職員数は703名(2021年4月1日現在)で病院内最大の人員数です。今年度は看護科目標を、「心と心の通い合うハートふるナーシング～Let's～Try 地域包括ケア～」とし、質の高い看護の提供に努めています。

### ■ 看護部の活動

#### 1. 看護の質向上に関する活動

##### ○看護実践能力の開発支援

広島厚生連3病院共通のクリニカルラダー認定制度を推進し、今年度はラダーⅠ60名、ラダーⅡ38名、ラダーⅢ1名の認定を受けました。

##### ○e-ラーニングによる学習支援

クリニカルラダー取得に際しては研修受講を必須とするなど看護の質を確保するための教育も重視しています。また、認知症ケア研修や看護補助者研修にも活用しています。

#### 2. 看護職員の職務満足の向上に関する活動

##### ○チャレンジ

今年度は広島県版自己点検ツール「チャレンジ」へ参加し、看護職の職場環境づくりを促進しました。

#### 3. 助産師の交流事業

今年度も山口厚生連周東総合病院に当院の助産師が出向し、相互支援・助産技術の向上を図る等の機会を得ています。

#### 4. 看護の普及啓発に関する活動

##### ○ふれあい看護体験

今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催中止となりました。

##### ○看護の出前事業

広島県看護協会からの依頼で広島県立宮島工業高等学校25名、広島市立美鈴が丘中学校270名を対象に助産師による命の大切さ、こころとからだについて授業を行いました。

#### 5. 看護の人材確保と定着推進活動

##### ○るんるん広場(ママ友会)

育児休暇中の看護職員の復帰支援を目的に毎年開催しておりますが、今年度はコロナ禍の影響を受け、7月と11月にメッセージカードと育児・復職についてのリーフレットを郵送しました。

##### ○病院見学会

今年度は4月～5月の4日間で感染防止対策を取り、対面方式あるいはWEB方式で開催し、計200名の看護学生の参加がありました。オンライン上では看護部長による病院概要の説明、先輩看護師による部署紹介や病棟の様子も視聴いただくなど創意工夫し、参加者から「看護師や病棟の雰囲気が感じられてよかった」などの声をいただきました。

##### ○次年度看護職員採用者の懇親会、インターンシップの開催

新人看護師が就職後にリアリティショックなくスムーズに医療現場に入れるように、12月18日に看護師国家試験応援エールを兼ねた内定者懇親会、3月にはインターンシップを行い、病棟の業務や先輩看護師との交流を体験していただきました。

##### ○新人看護職員のリフレッシュ研修

コロナ禍でのリフレッシュ研修(院外)としてアロマセラピーの講師をお迎えし、ハンドマッサージの演習を行いました。タッチングやアロマの香りで身も心も満たされ、明日の活力になったようです。

##### ○看護科紹介動画の作成

今年度は専門業者と各病棟から協力者を募り、看護部の紹介動画を作成することが出来ました。当院の魅力や職場の雰囲気、教育体制などを分かりやすく述べていただいていますこの紹介動画はホームページやマイナビ、病院見学会など広報活動に活用しています。

#### 6. その他

##### ○夜間看護補助者体制の新設

令和4年1月より一般病棟に夜間看護補助者体制を新設しました。これは昨今の働き方改革を背景に夜勤時間帯に看護補助者を配置し、看護職員の負担軽減、看護補助者との業務分担・協働推進を目的に取り組んでいます。

# 外来

## ■ スタッフ

科 長	中 元 美 恵 (糖尿病センター)
	新 田 克 己 (外科系・外来科長室)
	本 山 敏 恵 (内科・中央採血室)
	槌 谷 滋 乃 (内視鏡センター・中央検査処置室・ 地域救命救急センター)
主 任	益 田 尚 恵
	平 舛 仁 美 (外科系・外来科長室)
	坂 手 友 子 (内視鏡センター)
	槌 井 美 穂 (中央検査処置室)
	辻 幸 枝 (地域救命救急センター)
副 主 任	米 田 直 美 (中央採血室)
	武 重 知 香 (内視鏡センター)
	松 室 美 智 子 (地域救命救急センター)

他 外来看護師数 96名 看護助手 2名

## ■ 概要

外来部門は糖尿病センターと各診療科、地域救命救急センターがあり、内視鏡センター・中央検査処置室・中央採血室の検査部門で看護を行っています。

近年、高齢化社会の延長や入院期間の短縮化により、外来患者の高齢化や重症度も高くなっています。外来での検査・治療・在宅治療に向けて指導の場面も増えています。地域病院と連携を取り、他職種や地域連携室と情報共有を行うことで地域の住民の方に安心して受診して頂けるよう努力しています。また患者満足度向上のために、外来の診察の待ち時間短縮に向けてワーキンググループを立ち上げました。他職種を含めて話し合い、2022年4月から新患ファックス紹介の予約診療がスタートする予定です。

2021年度：1日の平均外来患者数 617.7名  
 年度延べ外来患者数 225,454名  
 初診患者数 22,857名

## ■ 看護

外来診療部門では短時間勤務者とパート勤務者など雇用形態の異なる看護師が多く勤務しています。

ヘルシーワークプレイスの視点から外来科長室チームが応援体制を緻密に設定し、各診療科にサポートに入ることで、各診療科スタッフの時間外削

減や休憩時間の確保、急な休みの対応をしています。

来院前の検温などの患者指導を行うことで with コロナを見据えた行動が外来では日常化してきています。

## ■ 教育

2021年度は、RST委員を中心にAEDの勉強会を行いました。また、患者やその家族にとって最善の看護が提供できるよう倫理カンファレンスを外来全体で行い看護の質の向上に努めています。

内科外来では、大腸内視鏡検査準備の向上に向けてサレプレップ(経口腸管洗浄剤)の説明会を受け、検討会を行いました。またリウマチ膠原病科での自己注射の注射方法について勉強会を行いました。

中央採血室ではリユープリン皮下注射の勉強会を行いました。日頃実施している薬剤ではありますが、注意事項を見直す機会になりました。急変対応の振り返りなど勉強会も行いました。

内視鏡センターでは内視鏡検査、治療に関する勉強会や接遇の勉強会を行いました。

がんゲノム医療に関する各科での勉強会や専門性に合わせオンラインセミナーを受講するなど、各部署が専門知識を深めスキルアップをして、質の高い看護の提供ができるよう積極的に勉強会を行っています。

## ■ 院内における研究・発表

2021年度院内研究発表会

脳卒中初期診療における当院救急外来の看護師が感じた課題～振り返りシートから見えたこと～

研究者：○佐々木開生 (地域救命救急センター)  
 山崎克仁 (中央検査処置室)



地域救命救急センタースタッフ

# 外来治療センター

## ■ スタッフ

科 長	中 元 美 恵
主 任	伊 藤 昭 範
他 透 析 室	9 名
化学療法治療室	7 名
放射線治療科	2 名
病棟兼務看護助手	1 名

## 【資格取得】

がん薬物療法看護認定看護師	奥 村 麻 美
がん放射線療法看護認定看護師	河 野 佐 代 子

## ■ 概要

透析室は東 8 階に透析室 14 床で、外来と入院患者さんの血液透析を行っています。化学療法室は 17 床を有し、外来患者さんの治療を行います。放射線治療科は、1 階 MR 棟に隣接し外来・入院患者さんの治療を行います。

外来治療センターでは医師・臨床工学技士・薬剤師・診療放射線技師・医療事務等のメディカルスタッフと常に連携しチーム医療を行っています。患者さんの異常の早期発見、急変対応など、速やかに対処できるよう協力し合い、患者さんの安心・安全に努めています。

## ■ 看護

透析室は部署目標として「安心・安全を提供する看護」を掲げ、患者に安心して治療を受けてもらえるように透析室の温度など環境を整えています。また血液透析中は血圧低下や疼痛の増強、上肢や下肢のこむらがりや起こすなど様々な身体の変化が起きやすくなるため、頻繁に一人ひとりの観察を行い、看護師がすぐ対処できるようにしています。患者さんの不安なことや思いを聞くことで精神的なサポートも行っています。慢性腎不全の外来患者さんに、腹膜透析か血液透析または腎移植が必要となった場合に、どういった治療にするか介入すること（腎代替療法）で、その人にあった選択が行えるように支援しています。

外来化学療法治療室は、治療する患者さんが年々増加傾向にあり、年間 5000 件を上回ってきています。治療時間が集中し待ち時間で疲れないように時間調整を行います。治療を行う患者さんとその家族に寄り添い、患者さんが少しでもリラックスして安全に治療が受けられるように努めています。

放射線治療科では、患者さんの生活（身体的・精神的・経済的・社会的）に、できるだけ負担や支障が少なく、それぞれの患者さんの治療目的が達成できるような支援を目指しています。根治的・予防的・緩和的など治療目的は患者さん毎に異なりますが、患者さんやご家族としっかり話し合い、思いに寄り添っていきたいと考えています。

## ■ 教育

外来治療センターでは、異動で来たスタッフに対し経験豊富なスタッフが丁寧に指導しています。日々の業務・質問・不安点に対し、ミニレクチャーの開催や話しやすい環境作りを頑張っています。またスタッフ各々が専門分野の自己学習・勉強会の参加を行い、自己研鑽に努めています。

2021 年度からは毎月 1 回定期的に倫理カンファレンスを実施しています。日々の看護の中で疑問に思ったことを倫理的な視点で考え、少しでも患者さんのよりよい看護に役立てるよう取り組んでいます。

看護学生の実習では、日本赤十字広島看護大学 3・4 年生成人看護学実習の受け入れをしています。短期間でも理解しやすい指導を心がけています。



# 地域救命救急センター 救命病棟

## ■ スタッフ

科長 岡本信子

主任 畝 小百合、山本 はずき

他 看護師 26名 看護助手 1名

## ■ 概要

2011年に地域救命救急センターが開設され、救急外来・病棟として救急患者の受け入れを行ってききましたが、2018年4月より、地域救急救急センター救命病棟として新たにスタートしました。病床数8床（個室1床）を有し、救命救急加算対象患者を中心に受け入れています。小児、産科を除く全科の救急患者が入室可能であり、2021年は、年間入室患者数534名、平均滞在日数1.5日でした。定期手術後患者入室・ICU満室時の転床受け入れもあり、救命救急加算対象患者は入室患者数の21%でした。

## ■ 看護

4:1の看護体制をとっており、安心・安全な看護を効果的に提供できるようにしています。日勤帯ではチームナーシングでスタッフ間で協力し合いながら、重症度が高い症例に対応しています。救急外来で処置を終えて入室となる患者が多いため、「患者家族看護」に重点を置き、家族の気持ちに寄り添う看護の提供を心がけています。患者やその家族の権利や意志決定の尊重を守ることを目指して、最適な看護介入ができるように倫理カンファレンスを行っています。

## ■ 教育

新人看護師教育はプリセプターが中心となり、年間の教育計画を立てて評価しながら、個人の成長に合わせて進めています。日常生活援助から疾患・検査など根拠から丁寧に指導をしています。また定期的にプリセプター会議を行い新人の成長を確認し、必要時は勉強会の企画や教育計画の修正を行います。2021年度は、新人看護師に出来たことや頑

張ったこと、スタッフはできたことを褒めるメッセージ交換の場を休憩室の掲示板に設け、コミュニケーションを図る場所としました。

スタッフ全体教育では、呼吸器・循環器・脳外科・整形外科でグループを作り企画して運営を行いました。各チームでスタッフにアンケートをとり、勉強会の企画・運営を行ないました。また卒後2年目のスタッフは、自ら学んだ事の中で勉強会を行いました。希望の多かった院外研修会は伝達講習会を行いました。

COVID-19感染重症患者の受け入れを行う中で、感染看護の知識や技術の獲得、感染対策への意識の向上にむけ取り組んでいます。また他部署からの異動者には病棟内のゾーニング・防護服の着脱方法の勉強会を行いました。そして患者と看護師の安全を守るように、適宜マニュアルを修正していきました。

リリーフナースとして病棟応援にも力を入れました。他部署の応援はペアで行き、看護ケアの手伝いを行うようにしました。自部署では経験の少ないケアや処置などを実践的に学ぶことで、ジェネラリストとして活躍出来るように日々奮闘しています。



## ■ 研究発表

廿日市支部看護研究発表会

令和3年度院内看護研究発表会

「救命病棟看護師の身体拘束に対するアセスメントの視点と意識変容について」

研究者：徳永春香



# ICU

## ■ スタッフ

科長 吾郷 志津枝 (医療メディエーター)  
 主任 岩藤 美穂、門内 美鈴  
 大野 真由美  
 副主任 川岡 めぐみ  
 他 看護師 30名

## ■ 病棟の概要

ICUは、生命維持装置・患者監視装置などを用いての診療を必要とする患者の集中治療・看護を行う病棟です。対象は緊急入院患者・大手術後患者・院内急変患者であり、その治療に全力で対応をしています。

ICUは特定集中治療室管理料3を取得しています。病床数は8床で2対1の看護体制です。

## ■ 看護

看護師の勤務形態は病院内で唯一の3交代制であり、24時間2対1で切れ目のない看護を行っています。

今年は5つの病棟活動チームを編成しテーマごとに活動しました。どのチームもリーダーを中心にチーム活動を積極的に行いました。

### 1. 医療安全チーム

毎月発生したインシデントを集計・提示し、なぜなぜ分析を積極的に行いました。カンファレンスを開き対策や改善点を話し合い、マニュアルの遵守や確認の徹底を意識づけています。

### 2. 業務改善チーム

申し送りの時間を短縮し患者へのケア充実を目標に、申し送り内容の見直しを行いその結果、申し送り内容が簡潔になり、情報収集や看護ケアの時間が増えたとスタッフの半数以上が実感していました。また手書き経過表も廃止し、タイムリーな記録の入力に取り組みました。

SPDのカード紛失、休日前のSPD物品在庫確認不足などスタッフに意識改善を促しています。

### 3. 家族ケアチーム

COVID-19拡大のため家族の面会制限が続いており、ICUダイアリーの内容を充実したものになりたいと考え、PICS-Fの勉強会を開催しました。また倫理カンファレンスを定期的で開催し、医療や看護上の問題を倫理的視点で捉え考える機会を設けました。

### 4. 合併症予防チーム

早期離床や合併症予防を目的に、早期にリハビリ介入を行うため、元々導入していたベッドサイドリハビリ表の運用を見直しました。リハビリ処方がされていない患者でも、全身状態をアセスメントしながら毎日リハビリが出来るように意識付けを行っています。

VAP（人工呼吸器患者の肺炎）に関してはポジショニング講習を新人や異動者に行い、スタッフ全員が背面開放など適切な看護が提供できるよう指導できました。

### 5. 栄養管理チーム

早期栄養管理加算による毎週水曜日の栄養カンファレンスは定着し、医師・薬剤師・管理栄養士・ICUリーダー看護師・受け持ち看護師が意見を出し合い実践できています。ICUで使用する経腸栄養の種類と特徴、合併症の勉強会を全スタッフへ行い、急性期の栄養について理解することができました。

2021年度は院内初となる臓器提供が行われました。ご家族は悲しみの中で決断され、最終的に患者家族の意向に沿い、希望の光を繋ぐことが出来たことを喜んでおられました。初めてのことで医療者側も戸惑いが多くありましたが、生命倫理についてより深く考える機会にもなりました。

## ■ 教育

新人教育はプリセプター制を取っています。プリセプターは心に寄り添ってもらおうお姉さんの役割で、新人に声をかけ悩みや思いを聞いてくれています。技術については病棟全体で基本的な看護技術だけでなく、集中治療領域で必要なアセスメント能力や技術を指導しています。新人は1年間日々を振り返る用紙を使用して、指導者と日々の看護を振り返り学びを深めています。

COVID-19のため歓迎会を行えなかったため新採用者4名にスタッフ全員からメッセージカードを送りました。



## 西 4 階病棟

### ■ スタッフ

科 長 丸 澤 葉志子  
主 任 前 田 智 子、植 野 祐 子  
副 主 任 下 谷 恵 子、中 村 由 香 里

他 看護師 11 名 助産師 21 名 看護補助者 3 名

### ■ 概要

産婦人科と乳腺外科を主とする当院で唯一の女性入院病棟です。病床数は 46 床、病床稼働率は 73.5%で、平均在院日数 7.7 日です。看護必要度は 43.2%でした。

産婦人科では、2021 年度の分娩件数は 392 件（経膈分娩 294 件、帝王切開 96 件、中期中絶 2 件）と過去 10 年間で 40%減少しています。少子高齢化によるハイリスク妊婦の増加に伴い、市町村の保健師さんへの要育児支援情報提供の件数も増えてきています。



乳腺外科では、手術化学療法目的の入院患者が多くを占めていますが、緩和ケア介入症例も増えていきます。

毎週月曜日の医師・看護師（病棟・外来）・臨床検査技師・管理栄養士での多職種カンファレンスにて、入院前の患者と入院中の患者の情報共有をしています。

### ■ 看護

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、妊婦の感染者も増え、感染疑い患者（濃厚接触者）の出産を 1 件経験しました。感染マニュアルに準じて ICT と相談しながら、分娩室は使用せず個室で陣痛から分娩介助を行いました。母子共に健康で感染もなく無事退院できた経験から、産婦人科病棟における新型コロナウイルス感染の妊婦対応のマニュアルを整備しました。

### ■ 教育

2021 年度は、看護師の新卒 2 名と助産師 2 年目の 3 名のスタッフが新しく加わりました。助産師は卒後 1 年間は、他部署で基礎看護技術を習得した後、西 4 階に異動となるため、助産師の技術は新人として教育計画を立案しています。プリセプター制を取っており、個々の進行状況にあわせて教育をし、看護師は 12 月には夜勤独り立ち、助産師は 2 月から独り立ちする事ができました。

### ■ 看護研究

院内発表

「産婦人科における病棟・外来一元化による継続看護の現状と課題」

発表者：前田智子

共同研究者：中村由香里 須谷麻衣子 植野祐子  
丸澤葉志子

## 西 5 階病棟

### ■ スタッフ

科 長 西 村 留 美  
 主 任 高 野 正 義、島 津 加 奈 子  
 副 主 任 美 濃 智 子、中 田 恵 梨  
 他 30 名

### ■ 病棟の概要

診療科は整形外科で主に脊椎疾患患者の看護、急性期の看護を行っています。病棟スタッフは看護師30名、看護助手3名、夜間補助者2名で構成されており、勤務体制は2交代勤務です。

2021 年度

整形外科手術件数：1,256 件

病床稼働率：88.4%

平均在日数：14.1 日

### ■ 看護



当病棟では固定チーム＋受け持ち制を行っており、入院時に患者さんへ受け持ち看護師が挨拶し、入院から退院まで責任をもって継続した看護を提供することに努めています。

また今年度は「腰椎パス」「経皮的椎体形成術パス」を作成しました。標準的な治療経過をもとに、医療の効率化や質の向上などを図るだけでなく、個別性のある看護を提供することを心がけています。今年度のパス利用率は9.44%であり、今後は利用率を向上していきます。

学会認定運動器看護師が2名在籍しており、中心となって開発的な看護を実践しています。

倫理カンファレンスを月1回開催し、よりよい看護のあり方は何かをスタッフ全員で摸索し、毎日の看護実践をより良いものにするのを心がけています。

### ■ 教育

コロナ下で参加出来る研修に限りがありますが、個人の趣味・感心に基づきWeb研修会に参加しています。

スタッフ全員のキャリアラダー認定合格を目指すと共に、リーダーや実習指導者を育成しスタッフがさらに成長できるよう支援を続けています。

「整形外科看護にやりがいを持ち、働きやすい職場作り」を病棟目標の一つに挙げ、新人看護師とリーダー育成にペアナーシング制度を取り入れ、安心・安全な看護を提供しています。

今年度はコロナの影響もあり、他科の受け入れも積極的に行いました。幅広い知識や看護が求められるため、分からないことはマニュアルや他科の看護師に確認し、安全に看護実践するよう心がけています。



### ■ 院内における研究

院内看護研究発表、佐伯区医学会発表  
 整形外科病棟における退院支援の実態調査  
 ～看護師へのアンケートを通して～  
 研究者・発表者：藤本真衣 大島綾佳

## 西 6 階病棟

### ■ スタッフ

科 長 古 井 良 子  
 主 任 岡 崎 裕 美、麻 川 真 代  
 副 主 任 小 田 浩 子、田 中 猛  
 有 本 ま い  
 他看護師 37 名 看護補助者 3 名

### ■ 概要

【診療科】 消化器外科他

【病床数】 60 床

消化器外科周術期から終末期まで幅広い看護を提供しています。2021 年度の平均病床稼働率は 88.4%、平均在院日数は 13.7 日となっています。また在宅復帰率は 92.0%となっています。

消化器外科の年間手術件数は 816 件となっています。

### ■ 看護

2021 年度の病棟目標は

- ① ペアの連携と支援体制を強化し看護実践力の向上に取り組み、安全な看護が提供する
- ② 患者・家族の意向を踏まえ多職種と協働し退院支援をする
- ③ 業務の見直し・改善を行い、経済的意識を持って行動する

と設定し日々の看護に励んでいます。

外科周術期看護、抗がん剤治療や緩和ケアを中心に看護を展開しています。「外科看護に特化した病棟」であるため、周術期医療・看護では専門性を強化してクリニカルパスを導入し、術後の合併症予防や皮膚・排泄ケア認定看護師と協働しながらストーマセルフケア指導に力を入れています。また、術後早期よりリハビリテーションの介入を行いながら地域連携室など多職種と連携をとり、早期より退院支援に取り組んでいます。

がん看護に対する抗がん剤治療や症状緩和では、薬剤導入時や食事摂取困難な患者に対して、薬剤師や管理栄養士と協働し個別性のある看護を提供しています。

また、自律性を守るように倫理的視点を踏まえたカンファレンスを毎日行っています。これからも患者のニーズに対応できるよう支援していきます。

看護体制は 6 月より固定チーム・デイパートナー方式を導入しています。固定チーム継続受け持ち方式を基本として看護師が 2 人 1 組となり、パートナーシップを発揮しながら日々の看護ケアを提供しています。ペアで業務をすることでタイムリーな患者対応と切れ目ない看護ケアの提供が可能となりました。今後も安全で質の高い看護を提供出来るようにスタッフ育成をしていきます。

### ■ 教育

2021 年度は 5 名の新人看護師を迎えました。アソシエイトとプリセプターが中心となり年間計画を基に月間目標を立案し、勉強会の開催や OJT を行いました。コロナ禍で実習に制限があり、患者とのコミュニケーションや看護技術に不安を抱えていました。しかし、アソシエイトやプリセプターが新人看護師一人ひとりに合わせた指導方法を考え、それを他のスタッフと共有し指導することにより、新人看護師が「サポートされている」という安心感を得て日々成長し、基本的な看護実践ができるようになりました。また、新人教育を通して新人看護師だけでなく、アソシエイトやプリセプターも自己の看護を振り返る機会となり、看護師としての成長も見られました。これからもスタッフが相互に影響し合い、成長できるような教育体制を実践していきます。



### ■ 研究発表

第 35 回中国・四国ストーマリハビリテーション研究会で発表しました。

研究者：○三上理恵 岡崎裕美

今後も看護研究に取り組んでいきます。

# 西 7 階病棟

## ■ スタッフ

科 長 村 中 ひろみ  
 主 任 竹 村 美 鈴、森 田 敬 子  
 副 主 任 立 石 久 子  
 他 看護師 29 名 日勤看護補助者 3 名  
 夜間看護補助者 1 名

## ■ 概要

当病棟は病床数 55 床、個室（院内唯一の特別室 1 床を含む）7 室、4 人部屋 12 室を有する内科病棟で、消化器内科、呼吸器内科患者さんを中心に受け入れています。

消化器疾患では胃・胆・肝・膵・大腸疾患の診断、治療のための内視鏡検査を行っています。呼吸器内科では肺炎・肺癌の患者さんが多く、化学療法や放射線療法などの治療を行っています。2021 年度平均在院日数は 11.7 日です。

## ■ 看護

看護体制は固定チームナーシングをとっており、それぞれ毎朝ミニカンファレンスを行い情報共有してから 1 日をスタートしています。内視鏡検査・治療は入院当日に行い緊急入院も多いため、限られた時間の中で協力し合って看護を提供しています。安心・安全な看護を提供するために毎月リーダー会を行い、課題解決に向けて話し合い業務改善に取り組んでいます。

また毎月倫理カンファレンスを行うことで看護の振り返りをし、必要な症例があれば地域連携室や院外の医療スタッフを交えてデスクンファレンスを行っています。

コロナ禍のため「膵がん・胆道がん教室」を集団指導から個別指導へ変更しました。社会情勢の変化に伴うものですが、質を落とすことがないよう看護研究という形で評価を行っています。

## ■ 教育

2021 年度は消化器内科経験豊富な看護師が講師を務め内視鏡検査と看護について、また呼吸器内科から

異動してきた看護師が講師となり呼吸器内科疾患と看護について勉強会を行いました。臨床工学科に講師をお願いし呼吸器管理の勉強会も開催しました。新人教育についてはプリセプターが中心になり独自のプログラムを作成し、それに沿って「腹水穿刺・還元」等シミュレーションを交えた勉強会を行っています。

## ■ 研究発表

「院内研究発表」

A 病棟における癌患者の在院日数延長に関する要因の実態調査

～ DPC 期間 II 超えの患者を対象として～

○吉川真美 徳田綾乃 松原美季 竹村美鈴

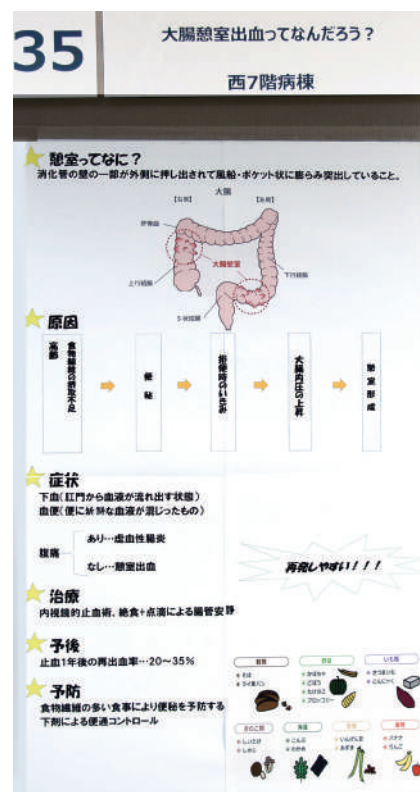
「院外研究発表」

第 70 回日本農村医学会学術総会

消化器内科病棟におけるせん妄患者に対する看護師のケア対応の違い

○正平由依 村中美希 立石久子 森田敬子

院内ポスター展



## 西 8 階病棟

### ■ スタッフ

科長 宮本 英美  
主任 石田 恵美、土井 紘子  
副主任 萩原 久美子  
他 看護師 26名 看護補助者 3名

### ■ 病棟の概要

当病棟は呼吸器内科をはじめとする3つの診療科の混合病棟でしたが、COVID-19感染拡大に伴い2020年8月より病床数18床のCOVID-19感染患者専門病棟として稼動し、軽症から中等症IIの患者を受け入れています。2021年度の新規入院患者数は月平均34人(図1)でした。またCOVID-19感染患者の入院が少ない時期は病棟のゾーニングを変更し、疑い患者の一時的な受け入れ病床としても稼動していました。

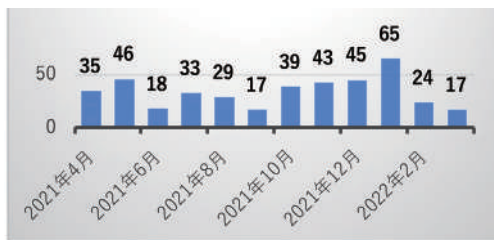


図1 2021年度 新規入院患者数

### ■ 看護

看護方式はパートナーシップ・ナーシング・システムを取り入れています。感染患者が療養するエリア(通称レッドゾーン)では看護補助者や清掃の委託業者によるサービスの提供が行えないため、病棟内や病室内の環境清掃や衣類の洗濯といった業務も看護師が行っています。

また少しでも住み慣れた自宅や施設への退院を後押しする事を目的に、業務開始時に療養支援ミニカンファレンスを開催し、患者のADLや睡眠の状況、退院に向けた不安要素や介入すべきポイントの確認などを行っています。

### ■ 教育

COVID-19感染患者の看護に従事するにあたり、PPE(Personal Protective Equipment: 個人防護具)の適切な着脱方法をはじめとした感染予防対策について、マニュアルに沿って正しい手順で実践できるよう取り組みました。

また、新しく異動してきたスタッフも安全に患者対応できるようにマニュアル作成と修正を行い、異動者への教育・支援を行っています。また病棟内で定期的に勉強会やシミュレーション研修を開催し、知識の共有を行いました。

### ■ 院内における研究・発表

感染病棟における看取り時の看護師のジレンマ～インタビュー結果から見える今後の課題と取り組みについて～

◎正田琴美、下前敦子、田中美穂

### ■ 2021年度ポスター展

～免疫力を高めて健康的な毎日を通しましょう～

**食 免疫力を高める食事**

**肉・魚・卵・大豆製品**

タンパク質は体の組織や免疫物質を作るために必要な成分。不足すると体全体の組織的な免疫力が落ちてしまいます。タンパク質をとることで免疫の働きを維持できます。

**緑茶・ココア・赤ワイン・果実**

抗酸化物質であるポリフェノールが多く含まれています。白血球の働きを高め、健康的な免疫力を整えて健康を維持します。

**緑黄色野菜**

緑黄色野菜には、ビタミン・C・Eが豊富です。ビタミンは健康的な免疫力を高める働きがあります。

**きのこ**

きのこには食物繊維に加え、βグルカンという成分が含まれています。βグルカンは健康的な免疫力を高める働きがあります。

**発酵食品**

納豆や漬物、ヨーグルト、みそ、しょうゆといった発酵食品には、腸内の善玉菌の増加と悪玉菌を抑制する働きがあります。

**睡 睡眠で免疫力アップ**

①お風呂のお湯はぬるめに！ 冬は38度～40度お湯に浸かることで体温が上昇すると血流が全身に循環し、血圧と免疫細胞の循環がよくなります。

②寝る前はリラックスして過ごす カフェインレスの温かい飲み物や、目を温めたりするのも効果的です。

③室内環境を整える 室温は20～22℃程度、冬は17～20℃程度、かつ湿度を50%程度に保ち、乾燥を防ぐようにしましょう。布団の中も温めておくより良いです。

**運 運動が大切!**

①ウォーキング 免疫力アップには、じんわりと軽い汗をかき程度の軽い有酸素運動がおすすめです。1日8000歩ほど歩くのが理想です。

②下半身の筋力トレーニング おすすめはスクワットです。

③上半身のストレッチ 上半身の筋肉をほぐす運動も取り入れて全身で免疫力アップをめざしましょう。ストレッチにはリラックス効果もあるので、副交感神経を優位に導くことができます。

人それぞれ体調は異なります。自身の体調にあった、食事・睡眠・運動を見つけるための参考にしてみてください!

## 東 3 階病棟

### ■ スタッフ

科 長 川 村 洋 子

主 任 松 浦 美由紀、杉 中 知 子

副 主 任 小 野 直 子

他 看護師 35 名 看護補助者 4 名

### ■ 概要

東 3 階病棟は、循環器内科・心臓血管外科を主とする混合病棟です。循環器内科では心筋梗塞・狭心症のカテーテル検査や治療、不整脈や心不全の患者、心臓血管外科では心臓弁膜症・虚血性心疾患の外科的治療が必要な患者が入院されます。

### ■ 看護

#### 【アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の推進】

明日どうなるのかは誰にも分からないため、将来自分自身が判断できなくなった時に自分がどうしたいのかを準備しておくことで、医療において自分の希望をみんなに知ってもらうことができます。当病棟も高齢患者の緊急入院が多く、入院時に患者自身が自分の考えや希望を伝えることが困難な場合が多くみられます。患者の意志決定が困難な場合には、代理者として家族が患者本人の意向を踏まえて「本人だったらこう希望するであろう」という代理意志決定をするケースも多くあります。看護師は医師や他職種と連携をとり、代理意志決定をする家族が「患者の希望はなにか？」を十分に考えることができるようにサポートしていきます。

今年度は患者や家族が満足のいく看護ができることを目標に、ACP 介入の推進を図りました。パンフレットを用いて介入したケースは 7 件ありました。高齢者の心不全末期患者では、自宅に帰りたい患者の希望を把握し、家族や主治医と連携をとり、在宅診療や訪問看護へ繋ぎ、自宅で家族が最後を看取ることができました。認知症のある高齢者では、心身の状態が落ち着いた時間を作り、患者の希望を把握することにも力を入れました。

病棟では看護職員で ACP 推進チームを作り、参加した研修内容を部署内で伝達講習を行い、日々知識の習得に取り組みました。

#### 【倫理カンファレンスの充実】

主任・副主任がスタッフの倫理観育成を目標に、スタッフの「気づき」を大切に倫理カンファレンスを開催しています。スタッフが感じた違和感や気づきを「言語化・主題化」できるようにサポートをしています。その結果年間 31 回開催でき、多職種交えてのカンファレンスも開催できました。多職種における価値観の違いを知る機会となりました。また幅広い視点でのカンファレンスとなり、治療や看護に活かすことができました。



#### 【実践を重視した研修】

医師の協力のもと心筋梗塞や狭心症、心臓手術を受ける患者の看護について研修会を開催しました。実践を重視した研修で、治療や処置を受ける患者の看護に活かすことが出来ました。



#### 【院内における研究・発表】

「A 病棟での倫理カンファレンスの定着に向けた取り組みと課題」 松浦美由紀

## 東 4 階病棟

### ■ スタッフ

科 長 鶴 谷 理 恵  
主 任 手 島 未 貴、坂 井 真理子  
副 主 任 山 崎 美 佳  
他 看護師 36 名 看護補助者 4 名

### ■ 病棟の概要

東 4 階病棟は病床数 43 床の耳鼻科・小児科・眼科・泌尿器科を主とし、いろいろな診療科の受け入れも行っている混合病棟です。小児入院加算の算定病棟でもあり 15 才未満の様々な疾患の子どもを受け入れています。

2021 年度の平均稼働率は 84.3%でした。

### ■ 看護

2021 年は昨年度から導入したペアナースを活用し、看護師間のスムーズなコミュニケーションにより情報共有など効率よく業務が実施でき、お互いに補完し協力し合ってケアを行っています。

クリニカルパスを多く導入し、統一した看護の提供や手術前・後などの治療やケアの内容を示したスケジュールを患者さんへ手渡し説明することで、不安の軽減や異常の早期発見となり、安心・安全な看護を目指しています。

その他、臨床倫理のアプローチとして、治療やケアの選択に悩む本人、家族をどのように支援援助を行っているか、他職種とカンファレンスを行い患者さんにとっての最善というゴールに向かって共に考えています。

看護業務の中で疑問に思うことがある場合、様々な事象を整理し問題と捉え、倫理的課題の解決のため、患者さんにとっての最善に向かう話し合いを繰り返し行っています。そうすることで、倫理的葛藤が生じたとき、看護職としてどう考え行動するか、看護師一人一人が患者さんにとってのよい方法を考えていく機会となり、日々前向きに看護を行っています。

### ■ 教育

急性期における看護が提供できるよう、日々技術研修・勉強会を行っています。その中で急変時の対応をシミュレーションする事で、急性期の病状変化や重症化した患者に対応できる知識や技術の習得はもちろんのこと、情報収集やアセスメント能力の向上に努めています。

各委員会リンクナースが病棟内で活動し、業務改善や勉強会なども主体的に実施しています。

感染症の流行により実習受け入れが難しい時期もありましたが、より多くの学生に臨地で学ぶことを学校と共に考え、未来の看護師育成を行うため小児看護学領域の実習を受け入れています。



### ■ 院内・院外における発表・研究

2021 年度 広島県看護協会 廿日市支部  
研究発表会

「A 病棟の汚物処理室における不快なにおいの実態調査と消臭対策の検討」

○緒方千咲都 佐久間知子



## 東 5 階病棟

### ■ スタッフ

科 長 岡 崎 祐 也

主 任 岡 本 真 里、岩 崎 文 江

副 主 任 大 峯 珠 己、中 村 香 織

### ■ 病棟の概要

東 5 階病棟は脳神経外科・歯科口腔外科・皮膚科の混合病棟です。2021 年度の平均病床稼働率 79.2%、1 日あたりの平均患者数は 41.2 人でした。病棟では主科だけに関わらずどの診療科でも受け入れる体制で、空床があれば緊急入院を受け入れています。

### ■ 看護

2021 年度は 2 つの病棟目標を掲げました。

病棟目標

1. 予期せぬ急変、合併症がなく退院・転院につながる看護が提供できる
2. 働きやすい環境を整え健康で働きがいのある職場をつくる

今年度東 5 階は職場環境改善に向けて、いくつかの取り組みを行いました。その 1 つとして、看護方式を「ディペアナーシング」から「セル看護提供方式」へ変更しました。

セル看護提供方式は飯塚病院看護部が考案した看護体制で、ナースの「動線」に着目し、動線のムダを省き「患者のそばで仕事ができる＝患者に関心を寄せる」を実現する看護サービス提供方式です。具体的にはスタッフがナースステーションを基点に業務を遂行するのではなく、リー

ダー看護師を廃止し各 3 ブロックのスタッフが患者のベットサイドで看護を提供できる体制を取り入れました。

その結果、3 つの改善効果がありました。

1 つ目は労働時間の改善です。



2021 年 11 月よりセル看護提供体制を開始し、スタッフの平均時間外労働時間の減少傾向がみられました。

2 つ目は医療の質の改善です。看護師が患者の側で看護業務を行うことで、日勤帯の転倒転落や点滴・胃管の自己抜去件数が減少しました。これまでセンサーコールを含めたナースコールが鳴り止まない病棟でしたが、ナースコールは 5 ～ 10 回 / 時間、対応までの時間は 3.75 秒程度で対応できています。

3 つ目は看護スタッフの成長です。これまでリーダー看護師が医師からの指示を統括しメンバーに伝えていたため、メンバーはリーダーに報告することが業務となっていました。セル看護提供体制に変更しスタッフ一人ひとりが患者の状態をアセスメントすることで、医師やその他コメディカルと患者の治療や看護方針について情報共有ができるようになりました。

今後も働きやすい環境を整えるとともに、患者にとって安全・安心な医療・療養環境が提供できるようスタッフ一丸となって取り組んでいきます。



## 東 7 階病棟

### ■ スタッフ

科 長 今 本 紀 生  
 主 任 加賀美 昌 美、平 野 有 紀  
 阿 部 伸 也  
 副 主 任 大 浦 真 美、安 藤 知 佳  
 他 看護スタッフ 35 名、看護助手 2 名  
 うち、感染管理認定看護師 1 名、糖尿病看護認定  
 看護師 1 名、糖尿病療養指導士 5 名

### ■ 概要

- 主たる診療科
  - 心臓血管外科：閉塞性動脈硬化症、腹部大動脈瘤、  
下肢静脈瘤
  - 呼吸器外科：肺癌、気胸、膿胸、縦隔気腫
  - 糖尿病代謝内科：糖尿病教育入院、血糖コント  
ロール、内分泌検査、糖尿病性ケトアシドーシス
  - 腎臓内科：血液透析、腹膜透析、慢性腎不全、ネ  
フローゼ症候群 他
- 病床数：52 床（うち重症個室 3 床を含む）
- 看護方式：固定チームナーシング
- 勤務体制：変則 2 交替制
- 2021 年度病棟管理データ
  - 平均在院日数：16.5 日
  - 平均病床稼働率：89.0%
  - 看護必要度：28.5%

### ■ 看護

当病棟では多職種連携に力を入れており、それぞ  
 れの主たる診療科別で多職種合同カンファレンスを行  
 っています。

火曜日：心臓血管外科  
 水曜日：糖尿病代謝内科  
 木曜日：腎臓内科  
 金曜日：呼吸器外科

カンファレンスは医師を中心に、それぞれの職種  
 が情報提供を行いながら、患者さんの治療の方向性  
 を共有しています。また糖尿病センターに病棟看護  
 師が療養指導に行くことで、外来でかかりつけの患  
 者さんが病棟へ入院することになっても情報が途切  
 れないよう、病棟・外来の一元化を図ってよりシ

ムレスな関わりができるようにしています。

また下肢血管疾患やステロイド治療などの疾患や  
 治療の影響もあり、急性期病院でありながら在院日  
 数が長期化することもあることから、総合医療相談  
 室とも協力しながら在宅への退院支援や、近隣の医  
 療機関とも連携して転院を行うなど、長期化する在  
 院日数の短縮に日々奮闘しています。

その他にも新型コロナウイルス感染症だけではなく、  
 多剤耐性菌等の院内感染を減らしていくため、  
 感染対策委員会を中心に就業前に正しい手指消毒の実  
 演を行ったり声かけをしたりすることで、スタッフ  
 全員に感染対策を意識づけていきました。その結果  
 手指消毒回数が増加し、目標値を大幅に更新するこ  
 とができました。

### ■ 教育

新人看護師への教育では教育年間計画を作成し、  
 1 年間を通じて新人看護師を部署全体で育てていけ  
 るように関わっています。中でも 3 年目看護師は  
 プリセプターとして新人看護師のことを特に気にか  
 け、悩みや学習等の相談の架け橋になってくれてい  
 ます。また現任教育としては、病棟内では主任が中  
 心となり倫理カンファレンスを定期的に行うように  
 しました。看護者として、患者さんやそのご家族の  
 方との日々の関わりの中での疑問や迷いなど、看護  
 者の倫理綱領を参考にしながら看護者としてのあり  
 方、関わり方について相互に活発な意見交換を行っ  
 ています。また主たる診療科が 4 科あることから、  
 それぞれの診療科別チームを立ち上げ、マニュアル  
 の改訂やオンラインでの勉強会の企画・運営を行い、  
 コロナ禍でも患者さんへの看護に貢献できるようス  
 キルアップができる環境を模索しています。



# 手術室

## ■ スタッフ

科長 山村 健二  
 主任 加藤 智恵、後藤 友美  
       中村 多恵子  
 副主任 黒河 拓矢  
 看護師 50名 臨床工学士 2名  
 委託業者（日本ステリ、清掃・滅菌・中材業務）

## ■ 病棟の概要

当院手術室は13診療科の手術を行っており、2021年度の年間手術件数は5,574件でした。急性期病院の手術室として患者さんが安心して手術を受けられ、安全で円滑に手術が進行するように知識・技術の習得に励んでいます。

近年の医療環境の変化に伴い、手術室看護師に求められるスキルも多様化・高度化してきました。新型コロナウイルス感染拡大により、手術を必要としている陽性患者さんも増加しており、十分な感染対策を行いながら陽性患者さんの手術を安心・安全に行う事が必要となります。すべての患者さんの手術に対応するため、ICT・麻酔科医師・各科医師・病棟看護師とミーティングを行いCOVID-19手術対応マニュアルを作成しました。作成したマニュアルを基に関連部署とシミュレーションを重ね、陽性患者さんの手術を実施しています。



## ■ 看護

今年度の部署目標

- 1) 病院機能に準じた周術期看護を実践しよう
  - ・療養支援を活かし、患者さんの生活を見据えた周術期看護を実践しよう

- 2) 看護専門職として豊かな感性と倫理観を備え、自ら考えて行動しよう
  - ・カンファレンスの場を持ちどのような看護を行ったのか振り返り共有し、倫理的感性を磨こう
- 3) 将来につながる健全な病院経営に参画する
  - ・現有の資源を大切にし、1人1人の経済的意識を高めよう



## ■ 教育

新人・病棟からの異動者に対しては“みんなで育てよう”をスローガンにスタッフ一丸となり育成に取り組んでいます。教育資料に関しても毎年スタッフが分担して見直し、作成しています。手術につくまでの1ヶ月間は座学による学習や実施トレーニングを行い、実施後には振り返りを行うことで安心して手術業務や看護を実践できるよう取り組んでいます。

夜勤2交代制の導入に伴い、手術が行われていない時間は手術関連病棟への療養支援を実施しています。療養支援を通し術中看護だけではなく、術後も患者さんと関わることができる体制が確立したことは、外科系看護師のキャリアデザインの構築にも繋がっています。今後は地域包括ケアシステムを意識し患者さんの生活を見据え、周術期という一連の流れで手術室看護師が患者さんやご家族と関わり、看護実践出来る体制構築を目指していきます。

## ■ 研究発表

学会発表に向け、1件取り組み中です。



# 訪問看護ステーション

## ■ スタッフ

管理者 村中好美(兼務)

副主任 本賀邦子

他 看護師 6名

## ■ 概要

当訪問看護ステーションは急性期病院である JA 広島総合病院に併設しており、医療依存度の高い方やがん末期の方、化学療法を継続しているため転院が難しい方の利用が多くあります。また居宅介護支援事業所も併設していることから、在宅生活をする中で訪問看護が必要となった方も受け入れ、利用者の皆様が住み慣れたご自宅で安心して過ごせるように支援させていただいています。

月曜日から土曜日の営業ですが、その他の夜間および休日は待機制をとり、24 時間 365 日電話対応・緊急訪問を行っています。

### 【実績】

利用者数の増加に伴い訪問件数も増加し、特に介護保険による利用割合が大きく伸びています。感染管理の面から入院や施設入所は面会が制限されていることもあり、在宅を選択される方が多かったことも背景にあると思われます。

	2021 年度	2020 年度	2019 年度
利用者数	104 人	86 人	76 人
新規利用者数	58 人	57 人	43 人
訪問件数	3,270 件	2,526 件	2,156 件
在宅看取り	16 件	16 件	14 件
介護保険割合	69.9%	64.5%	50.7%
医療保険割合	30.1%	35.5%	49.3%

## ■ 看護

訪問看護は医療保険・介護保険での利用ができ、医師の指示により個々の状況に応じた計画を立案しています。週に数回から月に数回在宅療養者宅を訪問し、病状観察や清潔ケア、医療処置などを行います。1 回の訪問時間はケア内容に応じて 30 分～1 時間 30 分以内となります。

実施する身体的なケアには「病状の観察」「人工

肛門の管理や指導」「入浴介助などの清潔援助」「在宅酸素の管理」「床ずれ予防・処置」「在宅での看取り援助」などがあります。また当ステーションの利用者の病名は、がん・循環器疾患・呼吸器疾患が 8 割近くを占めています。このため先の身体ケアに加え、薬剤管理に関連した指導介入を行うことも多くあります。

またコロナ禍により訪問に際しての確認事項も明確にしました。利用者の皆様の理解もあり「朝から熱が出ている」といった連絡が入ることもあり、事前に対応を検討しての訪問となることもあります。利用者の皆様だけでなく同居のご家族様の感染状況を確認し、発熱等感染の可能性がある場合は病院での対応同様に適切な感染予防策を取りながらの訪問とさせていただきます。

## ■ 教育

今年度は特定行為研修・領域別パッケージ研修「在宅・慢性領域」を受講中の看護師がいます。次年度研修修了後は地域で活躍できる環境を整えたいと思います。その他介護支援専門員実務研修や広島県保健師助産師看護師実習指導者講習会(特定分野)を受講するなど、コロナ禍での制約はありますが自己研鑽に努めています。

他者への教育として本年度は院内留学 1 名を受け入れました。院内の看護師ですが、他部署から訪問看護に目を向けてもらう機会を得る事ができました。また看護学生の実習についてはコロナ禍のため、感染対策レベルにより期間や時間を制限して受け入れを行いました。

# 薬剤部

## ■ スタッフ

部長 橋本佳浩  
 科長 中島恵子  
 科長補佐 磯貝明彦、松本里恵  
 主任 大原由希子、正嶋和美  
 白井敦史、角井碧  
 平井俊明、吉廣尚大  
 薬剤師 計37名（産休2名含む）事務5名

### [人員配置]

西4、西5、西6、西7、西8、東3、東4、東5、東7、HCU、ICU病棟に病棟薬剤師を配置  
 がん化学療法専任 3名 ICT専任 1名  
 NST専任 1名 緩和ケア専任 1名  
 DI専従 1名

チーム医療への参画（ICT、NST、医療安全管理、RST、緩和ケア、認知症ケアサポート、心臓リハビリテーション）、糖尿病教室、心臓病教室、各診療科カンファレンスへの参画

## ■ 業務内容

調剤業務：外来 402.5枚/日（院外処方箋発行率 0%）

入院 307枚/日

注射調剤 813件/日

TDM（VCM・TEIC・ABK）16症例/月

TPN調製 45件/月 院内製剤 48品目

抗がん剤無菌調製：外来 20.7件/日 入院 3.4件/日

がん指導管理料3算定（薬剤部のみ）275件/年

薬剤管理指導算定件数 512件/月 治験7件/年

持参薬鑑別 199件/月 実務実習 6名/年

薬品管理、医薬品情報（DI）、後発医薬品選定、抗がん剤レジメン構築・管理



TPN混合調製は薬剤部無菌室内クリーンベンチで清潔操作・正確な調製を行っています。抗がん剤調製は抗がん剤調製室内安全キャビネットでの閉鎖式システムを活用し、安全、適切かつ正確に調製しています。

## ■ その他活動内容

プレアボイド：131件/年（外来・入院合計）

委員会事務局：（院内感染対策委員会、薬事委員会、治験委員会、がん化学療法運営委員会）

薬剤部 定期勉強会・症例検討会 約1回/月

\*全病棟に専任薬剤師を配置。医師・看護師等、他職種と協働し地域連携にも目を向けた情報提供を心がけ、患者の入院時から退院後までのシームレスで適切な薬学的管理に努めています。

外来患者に対しても全処方監査し、疑義照会や情報提供および患者への服薬指導を通じて薬剤師の専門職能を活かし、多岐にわたる医薬品適正使用のゲートキーパーとして日々の業務を遂行しています。

また医薬品の出荷調整や欠品についてタイムリーな情報収集による在庫管理を行い、適正かつ安全な薬物治療の実現に大きく貢献しています。

### [主な取得資格（認定、世話人等）]

救急認定薬剤師1名、医療薬学専門薬剤師1名、外来がん治療認定薬剤師3名、がん薬物療法認定薬剤師1名、緩和薬物療法認定薬剤師2名、感染制御認定薬剤師2名、抗菌化学療法認定薬剤師1名、周術期管理チーム薬剤師1名、小児喘息アレルギーエデュケーター1名、心臓リハビリテーション指導士1名、病院薬剤師会認定指導薬剤師2名、研修センター認定実務実習指導薬剤師5名、糖尿病療養指導士5名、NST専門療法士3名、スポーツファーマシスト2名、ICLSインストラクター1名、危険物取扱者1名など

全国厚生連病院薬剤長会議理事1名、県病院薬剤師会理事1名、県病院薬剤師会委員会（医薬品情報委員1名、地域医療連携支援検討委員1名、専門薬剤師委員（感染）1名、（がん緩和）2名、（糖尿病）1名、薬剤業務委員1名



# 臨床研究検査科

## ■ スタッフ

主任部長	石田和史 (兼務)
部長	碓井裕史 (兼務)
精度管理部長	藤井隆
科長	福岡達仁
科長補佐	三舛正志、小松浩基
主任	長尾専、山本加代子
	藤岡朋子、池部晃司
	荒瀬美幸
副主任	嶋田恵美、池田光泰
	北村紀恵、霜津宏典
医師 (兼務含む)	3名
臨床検査技師 (役職者含む)	43名
助手	2名

## 【資格取得】

認定管理検査技師 1名 認定輸血検査技師 1名  
 認定臨床化学者 1名 認定血液検査技師 1名  
 認定一般検査技師 1名 認定心電図検査技師 3名  
 感染制御認定微生物検査技師 1名 DMAT 隊員 1名  
 認定臨床微生物検査技師 1名 上級バイオ技術者 2名  
 日本糖尿病療養指導士 1名 細胞検査士 1名  
 認定化学・免疫化学精度保証管理検査技師 1名  
 超音波検査士 8名 (泌尿器 2・循環器 3・消化器 2・体表臓器 1) 血管診療技師 4名 医療情報技師 3名  
 認定認知症領域検査技師 1名 聴力測定士 1名  
 JHRS 認定心電図専門士 1名 緊急臨床検査士 4名  
 術中モニタリング認定技師 2名 衛生管理者 1名  
 認定 POC コーディネータ 1名 POCT 測定認定士 1名  
 二級臨床検査士 17名 (血液 6・循環生理 4・脳神経 1・呼吸生理 2・病理 1・微生物 1・免疫血清 1・臨床化学 1)  
 第 1 種・第 2 種消化器内視鏡技師 1名  
 医療環境管理士 1名 衛生工学衛生管理者 1名  
 毒物劇物取扱責任者 5名 危険物取扱者 2名  
 特別管理産業廃棄物管理責任者 1名  
 ひろしま肝疾患コーディネータ 3名

## 【施設基準】

日本臨床衛生検査技師会 精度保証施設認証  
 同 標準化事業 基準基幹施設

## 【論文・学会】

学会発表：10 題、講演・発表：7 題、研究会座長：1 題

## ■ 主な業務実績

『生理検査』	件数		件数
心電図	22,966	CAVI	3,253
超音波検査	15,888	OPE 室関連	226
『検体検査』	検体数		検体数
血算	107,014	凝固	21,462
生化学	135,269	輸血	2,405
尿一般	58,781	尿沈査	27,433
『微生物検査』	検体数		検体数
細菌培養	8,279	血液培養	4,031
抗酸菌培養	669	COVID-19PCR	9,149

## 【部門内定期研修会】

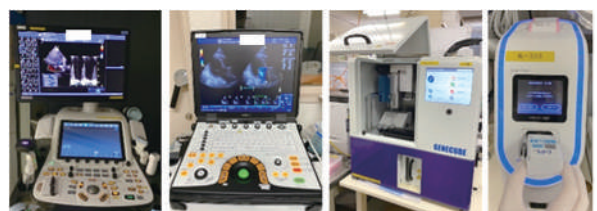
\* 血球分析装置エラーについて \* 検体採取について  
 \* 脂質異常症の診断と治療 \* 虚血性心疾患について  
 \* 赤痢アメーバーについて \* 臓器移植と脳死判定  
 \* EKG・尿フォトサーベイの解説 \* HbA1c について  
 \* 自動分析装置の反応過程について  
 \* 新型コロナウイルス抗体検査について  
 \* あなたと輸血検査の距離を縮める日  
 \* 腎・尿路系の解剖学と尿沈査成分

## 【外部精度管理調査報告】

- 1) 日本臨床衛生検査技師会 100.0 点 (257 / 257)
- 2) 日本医師会 99.2 点 (650 / 655)
- 3) 広島県医師会 100.0 点 (112 / 112)

## ■ トピックス

新型コロナ感染拡大持続による緊急事態に対して、入退院・転院前、内視鏡等検査前、発熱患者等の COVID-19 診断検査及び変異株分析を院内感染対策と連携し、平日と時間外の区別なく緊急対応しました。また、新型コロナワクチン接種による抗体獲得と推移に関する研究を目的に、希望する院内職員を対象に抗体検査を実施し、結果解釈のお知らせと共に報告しました。設備では心臓超音波画像診断装置 (GE ヘルス) 2 台の更新及び全自動遺伝子解析装置 (東洋紡)、簡易 PCR 装置 1 台が追加整備されました。



# 放射線科

## ■ スタッフ

主任部長 西原 礼介 (兼務)  
 科 長 山口 裕之  
 科長補佐 本山 貴志  
 主 任 高畑 明  
 主 任 砂田 研二  
 主 任 下土居 一  
 主 任 柳井 環  
 副主任 中河 聖司  
 副主任 池田 将敏

診療放射線技師 (役職者含む) 24 名

### 【取得資格】

第 1 種放射線取扱主任者	4 名
エックス線作業主任者	5 名
ガンマ線透過写真撮影作業主任者	3 名
第一種作業環境測定士 (放射線)	1 名
検診マンモグラフィ撮影認定技師	2 名
核医学専門技師	1 名
救急撮影認定技師	1 名
X線 CT 認定技師	4 名
医療情報技師	2 名
肺がん CT 検診認定技師	2 名
医用画像情報管理士	1 名
臨床実習指導教員	2 名
Ai 認定診療放射線技師	3 名
放射線管理士	1 名
放射線機器管理士	1 名
ICLS プロバイダー	1 名
ISLS プロバイダー	1 名
画像等手術支援認定診療放射線技師	1 名

### 【所属学会】

日本診療放射線技師会	日本放射線技術学会
日本乳癌検診学会	オートプシーイメージング学会
日本核医学技術学会	日本 CT 技術学会
日本超音波検査学会	日本磁気共鳴医学会
日本医療情報学会	日本乳腺甲状腺超音波学会

### 【世話人等】

公益社団法人 日本診療放射線技師会 代議員

公益社団法人 広島県診療放射線技師会 副会長  
 公益社団法人 広島県放射線技師会 西部地区理事  
 日本核医学技術学会 中国・四国地方会理事  
 広島臨床画像研修会 幹事 (事務局)

## ■ 認定施設基準

日本乳がん検診精度管理中央機構認定 マンモグラフィ検診施設画像認定施設

## ■ 部内研修会 (1 回 / 月)

2021 年度は新型コロナウイルス感染症のため中止

## ■ 業務内容 (トピックス)

2020 年 12 月より広島県からの要請で新型コロナウイルス感染者に対するトリアージが当院でも始まり、中央放射線科では CT 撮影で協力しています。2021 年 9 月からは、時間内で対応できる放射線治療科で CT 撮影が行われるようになりました。中央放射線科と放射線治療科で行われた 2021 年度のトリアージ件数は 94 件となっています。



トリアージで撮影された新型コロナ肺炎の CT 画像



# 臨床工学科

## ■ スタッフ

主任部長 吉田 研一  
科長 瀬尾 憲由  
主任 荒田 晋二、平野 恵子

臨床工学技士（CE）15名（役職者含む）

### 【認定資格取得】

- ・体外循環認定士：3名
- ・3学会合同呼吸療法認定士：6名
- ・透析技術認定士：2名
- ・不整脈治療専門臨床工学技士：1名
- ・呼吸治療専門臨床工学技士：1名
- ・消化器内視鏡技師：4名

### 【所属学会】

日本臨床工学会・日本体外循環技術医学会  
日本集中治療医学会・日本呼吸療法医学会  
日本人工臓器学会・日本高気圧環境医学会  
日本呼吸ケアリハビリテーション学会  
日本透析医学会・日本消化器内視鏡技師学会

## ■ 部門紹介

臨床工学技士は、医師や看護師とチームを組んで「生命維持管理装置の操作や各種医療機器の保守点検・修理」を行います。当科は現在15名で様々な業務を行っており、手術室・人工透析室・集中治療室・心臓カテーテル検査室・内視鏡センター・一般病棟など院内の様々な分野に従事させていただいています。

## ■ 業務内容

### 『手術室業務』

- ・人工心肺症例数：47例
- ・整形外科立ち会い症例  
頸椎・脊椎固定：89例 上肢・下肢：223例  
下肢関節置換：104例

### 『EVT 立ち会い業務』

- ・EVT 症例数：359例

### 『救急・集中治療業務』

- ・急性血液浄化症例数  
CHDF：91例 アフェレーシス：10例
- ・補助循環業務  
VA・VV—ECMO：7例 IABP：27例

### 『循環器業務』

- ・心臓カテーテル検査・治療  
CAG：423例 PCI：169例
- ・不整脈検査・治療  
PMI：42例 PMR：18例 ICD：4例  
ABL：107例

### 『血液浄化業務』

- ・慢性血液透析症例数：4249例

### 『高気圧酸素治療業務』

- ・症例数：358例  
主な疾患：突発性難聴・末梢循環障害など

### 『内視鏡業務』

- ・ESD・ERCP・EMR 各症例数  
ESD：172例 ERCP：390例 EMR：567例

### 『慢性期・在宅医療支援業務』

- ・HOT 導入症例数：48件

## ■ トピックス

### 『慢性血液透析装置更新』

2003年4月より使用していた透析装置を2021年11月に更新していただきました。最新機器に更新していただき、すでに透析施設では一般的になっている透析液を使用したプライミング・返血・オンライン透析が当院でも可能になり、近隣の透析施設とやっとう肩を並べることができるようになりました。これからは当院で今まではできなかった治療方法ができるようになり、患者さんにも多施設に引けをとらない治療が提供できるようになると思います。



# リハビリテーション科

## ■ スタッフ

センター長 小林 平 (兼務)  
 部長 黒木 一彦 (兼務)  
 部長 橋本 貴士 (兼務)  
 部長 藤原 敬士 (兼務)  
 科長 村上 嘉章  
 主任 小林 恭子、本間 智明  
       折手 祐一、飛鷹 恵理  
       上田 雅美  
 副主任 井場 和敏

理学療法士 13名 (役職者含む)

作業療法士 5名 (役職者含む)

言語聴覚士 4名 (役職者含む)

## 【認定資格取得】

がんリハビリテーション研修修了者	18名
リンパ浮腫複合的治療技術者	2名
3学会合同呼吸療法認定士	12名
心臓リハビリテーション指導士	3名
日本糖尿病療養指導士	3名
腎臓リハビリテーション指導士	1名
認知症ケア専門士	1名
児童発達支援士	1名
発達障害コミュニケーションサポーター	1名
認定理学療法士 (代謝・循環器領域)	4名
認定言語聴覚士 (摂食・嚥下領域)	2名
日本摂食・嚥下リハビリテーション学会認定士	1名
実習指導者講習会受講	1名

## ■ 部門紹介

当科では入院患者さんを中心に院内全科からのリハビリテーションの依頼を受けており、入院直後や手術後早期の超急性期から終末期まで、多種多様な疾患をもたれた患者さんに介入しています。障害や疾患を持つ方々の残存機能を最大限に高めながら、その人らしい生活を実現するために理学療法士・作業療法士・言語聴覚士がそれぞれの専門性を活かしてリハビリテーションを実施しています。

## 【認定施設基準】

運動器リハビリテーション料 (1)

呼吸器リハビリテーション料 (1)

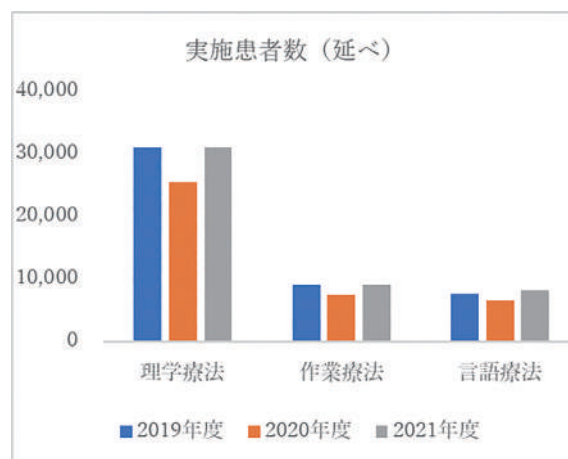
脳血管疾患等リハビリテーション料 (1)

心大血管リハビリテーション料 (1)

がん患者リハビリテーション料 (1)

リンパ浮腫複合的治療料

## ■ 業務実績



## 【所有管理機器】

自転車エルゴメーター・トレッドミル・渦流浴・ホットパック・起立台・低周波・スパイロメーター・心臓リハビリテーション専用モニター

## ■ トピックス

今年度に消化器外科チーム (消化器外科医師、外科病棟看護師、リハビリテーション科スタッフ) で「がんリハビリテーション研修会」を受講しました。それに伴いカンファレンスを実施して今後の方針の話合いなどを行ったことで、外科病棟での体制が整い患者さんにとってより良いリハビリテーションが提供できるようになりました。



# 栄養科

## ■ スタッフ

主任部長 香山 茂平 (兼務)

科長 河本 良美

主任 上村 真由美

他 9名

委託 (調理部門) (株) 日米クック

### [人員配置]

外来指導担当 常時 3名

病棟担当 各 1名

NST専従 1名 (上村 真由美)

### [取得資格]

病態栄養認定管理栄養士 4名

日本糖尿病療養指導士 3名

NST専門療法士 3名

がん病態栄養専門管理栄養士 1名

暫定臨床栄養代謝専門療法士 1名

### [所属学会]

日本病態栄養学会 7名

日本静脈経腸栄養学会 4名

日本糖尿病学会 1名

心臓リハビリテーション学会 1名

## ■ 業務内容

### [栄養指導]

栄養食事指導では、患者さんの食生活・食習慣などを考慮した個別指導や集団指導を実施しています。

< 2021年度実績 >

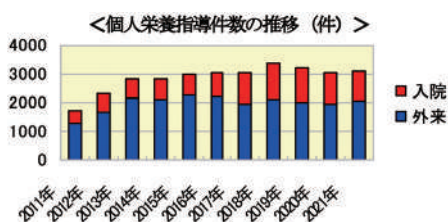
#### ・個別指導

外来 2,073件		入院 1,035件	
糖尿病	1,229件	心血管疾患	510件
心血管疾患	252件	糖尿病	88件
その他	592件	その他	437件

#### ・集団指導 10件

糖尿病教室 1回/週 (毎週 火曜日)

腎臓病調理実習 (感染対策のため中止)



### [給食]

調理部門の協力のもと、安全で美味しい食事の提供を心がけています。

< 2021年度実績 (月平均) >

一般食 10,403食/月 特別食 15,574食/月

## ■ 施設基準

入院時食事療養 (I)

## ■ その他活動内容

患者サービス：行事食、全国统一献立

参加チーム活動：NST、褥瘡、緩和ケア、認知症ケア、RST (2021年度は感染対策のため以下中止)

集団栄養教育：妊産婦教室、心臓病教室

その他：心臓いきいきキャラバン

## ■ トピックス

栄養科では「日本摂食嚥下リハビリテーション学会 嚥下調整食 2021」の改訂を受け、当院の嚥下調整食 (嚥下ペースト食・嚥下きざみ食) を学会分類にあった内容となるよう変更に取り組んでいます。調理部門である委託会社やリハビリテーション科の言語聴覚士の協力も得て、嚥下食用食品の選定や調理方法を検討しながら献立を作成しています。この取り組みは2022年度に完成予定です。嚥下障害のある方も含め、すべての患者さんに安心して美味しい給食を提供していきたいと思っています。



# 診療情報管理科

## ■ スタッフ

科長 村上正芳

他 8名

### 【資格取得】(科長を含む)

診療情報管理士 5名

院内がん登録実務中級認定者 2名

院内がん登録実務初級認定者 2名

医療情報技師 2名

### 【所属学会】

日本診療情報管理士会

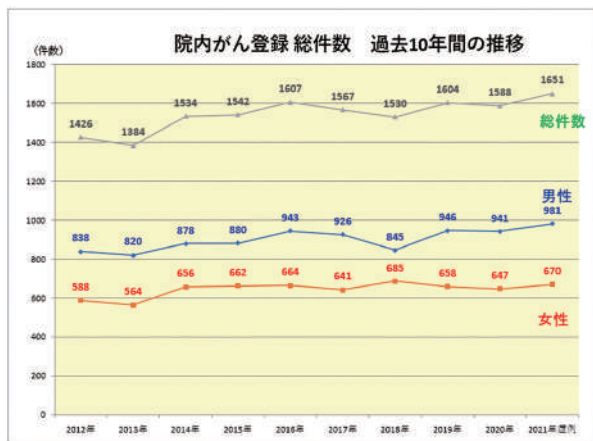
日本医療情報学会

## ■ 活動報告

### <がん登録業務>

地域がん診療連携拠点病院として「院内がん登録は国へ」、「全国がん登録は県へ」データ提出を行っています。

2021年は過去10年間で一番登録件数が多い年となりました。これからも院内がん登録業務のさらなる精度向上を目指し、引き続き研鑽に励みます。



### 2021年院内がん登録 局在別内訳：1651件

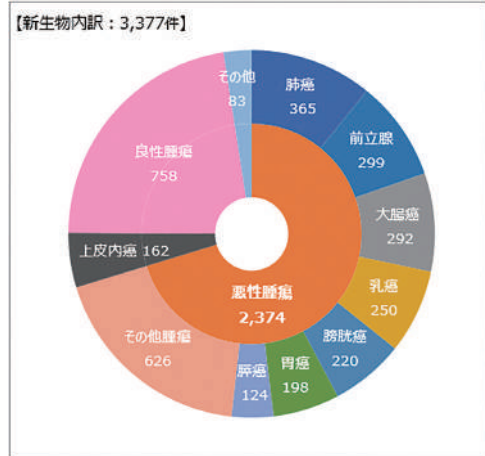
大腸	333	肝	41	卵巣	17
肺	195	食道	39	甲状腺	9
乳腺	184	子宮	38	腎盂・尿管	9
前立腺	192	脳(頭蓋内)・ 中枢神経	36	鼻腔・副鼻腔	4
胃	167	胆道	30	原発不明	4
膀胱	88	腎	27	その他	80
膵臓	86	咽頭・喉頭	20		
皮膚	44	口腔	18		

### <サマリ業務>

医師の退院時サマリを基にして国際疾病分類によるコーディングを行っています。

### 2021年度(総件数：13,195件(転科を含む))

順位	病名(大分類)	件数
1	新生物 (C00-D48)	3,377
2	循環器系の疾患 (I00-I99)	1,847
3	消化器系の疾患 (K00-K93)	1,584
4	損傷、中毒およびその他の外因の影響 (S00-T98)	1,032
5	筋骨格系および結合組織の疾患 (M00-M99)	966
6	呼吸器系の疾患 (J00-J99)	899
7	腎尿路生殖器系の疾患 (N00-N99)	886
8	妊娠、分娩および産じょく<褥> (O00-O99)	526
9	感染症及び寄生虫症 (A00-B99)	464
10	その他の疾患	1,614



### <Medoc スキャン業務>

当科へ搬入された同意書等は内容点検後、一兩日中(不備分を除く)にスキャンし、不備分は都度対応を行っています。スキャン後の同意書等は6ヶ月保管し、その後破棄処分しています(タイムスタンプが付与され電子データの原本性が担保されるため)。

また同意書等の記載不備が減少するよう可視化し、各部署へデータ還元を行っています。

### <量的監査・点検>

毎月全退院患者に対しての量的監査、2ヶ月に一度量的点検を行っています。内容に不備があった場合は医師・看護科・関係する各部署へデータの還元を行い、また委員会や医局会でも報告し、診療録の改善に努めています。

# 医療安全管理室

## ■ スタッフ

室長 中光 篤志 (兼務)

次長 黒木 一彦 (兼務)

科長 松下 理恵

専従リスクマネージャー

主任 竹野 香織 (2021年10月より)

## ■ 部門紹介

医療安全管理室は「患者さんが医師・医療機関を信頼し、医療提供者も安心して医療提供できるシステム構築をめざし、患者さんと医療提供者双方の安心・安全の確保につなげる」ことを目標に、医療事故防止対策委員会や院内 RM 管理部会を中心に、安全な医療が提供できるよう各部門と連携し活動しています。

## ■ 活動内容

[院内 RM 管理部会]

\*毎週月曜日 16:10～17:00 開催。提出されたインシデント報告書を元に事案発生の原因、対策に関する提言を行います。事案によって各部署・部門対応とするのか組織対応とすべきかの検討を行います。また、各部署における職員の安全意識の向上等、医療安全管理の推進に向け取り組んでいます。

\*メンバー紹介

中光 篤志 (副院長・医療安全管理室長)

黒木 一彦 (副院長・医療安全管理室次長)

松下 理恵 (医療安全管理室科長)

近藤 文博 (診療部長)

村中 好美 (看護部副部長・医療安全管理担当)

鶴谷 理恵 (看護科長)

角井 碧 (薬剤師:薬剤部主任、医療安全研修修了)

荒田 晋二 (臨床工学技士:臨床工学科主任)

藤岡 朋子 (臨床検査技師:臨床研究検査科主任)

池田 将敏 (診療放射線技師:放射線科副主任)

村上 嘉章 (理学療法士:リハビリテーション科長)

乃美 嶺司 (総務課係長)

[医療事故防止対策委員会]

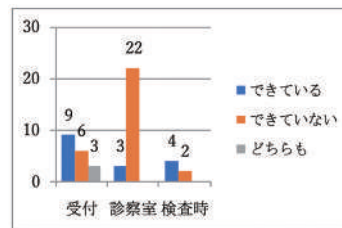
\*委員は上記の院内 RM 管理部会メンバーと各部門長等により構成されています。

\*定例委員会は毎月第3木曜日 17:00 開始で、医

療安全管理室からの提案事項の検討、本委員会関連事項の検討、医療安全研修会の企画実施、委員会の伝達を担っています。

\*委員会では毎年テーマを決めて活動していますが、誤認に関する件数は減少がみられず、2021年度も継続して取り組む必要があると考え、「高めよう!安全への意識、守ろう!患者確認と院内ルール」というテーマで取り組みました。

また、医療安全推進週間には院内 ROUND により現場の状況確認を行っています。ROUND は6担当あり、その一つである患者誤認防止対策チームでは「患者誤認防止対策の実態調査」をテーマに、ポスター掲示での啓蒙や診察室での名前確認の実施状況をラウンドし、患者アンケートを実施し、ポスターの見直しを行いました。



転倒・転落防止チームは、院内の危険箇所や安全な環境についてラウンドを行い、車椅子や歩行器具の点検状況を確認しました。ラウンドではタイヤの空気圧やブレーキ不良がみられたため、今後も定期的にラウンドを実施し、安全に使用できるような備品管理を行っていきたいと考えています。

## ■ 認定施設基準

・医療安全対策加算 1

・医療安全対策地域連携加算 1

加算 1 との施設においては「患者誤認防止への取り組み」をテーマに相互評価を行いました。相互評価を通して、確認行動が根付くよう今後も継続して働きかけていきたいと考えています。

## ■ 医療安全研修

2020 年度より集合研修から動画視聴による研修へと変更し、2021 年度の実践率は 97.6% でした。今後も受講率向上に向けた取り組みを行っていきたいと考えています。

## 地域医療連携室

### ■ スタッフ

センター長 中 光 篤 志 (兼務)  
 室 長 村 中 好 美 (兼務)  
 係 長 寺 岡 みゆき  
 事務職 2名

### 【認定資格取得】

- ・社会福祉士
- ・精神保健福祉士
- ・認定医療メディエーター B

### 【所属学会】

- ・日本社会福祉士会
- ・日本医療メディエーター協会
- ・広島県医療ソーシャルワーカー協会

### ■ 部門紹介

当院は「地域の医療機関と密接に連携した医療を提供する」という基本方針に基づき、広島西医療圏及び広島市西部を中心とした地域の医療機関と連携を図り医療を提供しています。また地域医療支援病院として、紹介患者さんに対する医療提供や医療機器等の共同利用を通じた「かかりつけ医の支援」や「地域医療従事者への研修機会の提供」などの役割も担っています。

地域医療連携室は、地域と連携する病院の窓口として他医療機関等からの患者紹介を受けた際、患者さんをスムーズにお受け入れするための前方連携の業務全般を行っています。紹介いただいた患者さんの情報収集や院内の調整等を行い、紹介元の医療機関と連携を取っています。また、今年度は紹介患者さんのデータ管理をスムーズに行うために「地域連携システム」を導入し運用の確立を図っています。その他、地域住民・行政・介護保険施設等とも連携させていただいています。後方連携については「総合医療相談室」が担当し、患者さん・ご家族の意向と医療の必要性等から療養先を検討させていただいています。

### 【医療連携】

顔の見える連携を目指し近隣の医療機関への訪問や医師懇話会の開催を行っていましたが、感染流行を受けて2020年度より中止している状況です。

2021年度は感染状況を確認しながら一部の医療機関へ訪問させていただきました。訪問時頂いたご意見は現場にフィードバックしています。また、WEB会議の開催も始めており、関係機関の皆様とのより一層の連携強化に努めています。

### 【紹介率・逆紹介率の推移】

	紹介率	逆紹介率
2019年度	92.7%	99.2%
2020年度	95.4%	106.7%
2021年度	94.9%	111.6%

### ■ 研修会等

#### 【医療従事者】

本年度の地域医療従事者研修会はすべて期間限定でのYouTube配信としました。録画配信のため双方向での意見交換とはなりませんでしたが、頂いた質問へは紙面での回答をさせていただきました。閲覧件数が多かった研修会テーマを以下に示します。

- ・認知症の人の想いを聴いていますか？
- ・ストーマケアに必要なフィジカルアセスメント
- ・高齢者糖尿病患者の注意点
- ・認知症の方の食べるを支える ①認知症の摂食障害と特徴

#### 【市民公開講座】

本年度は「ソナエント君と聴こう、救急医療のいろんなはなし」のテーマでオンデマンド配信にて市民公開講座を行いました。これは、2020年度より温めていたテーマであり2年越しの内容です。当初は参集での開催を検討しておりましたが、会場を確保した時期に感染対策レベルが引き上げられるなどの状況となり、録画による配信といたしました。救命措置や救急車を呼ぶときのポイントなど“いざという時”の備えを理解する機会としていただきたいと企画しました。

# 総合医療相談室

## ■ スタッフ

センター長 中 光 篤 志 (兼務)  
 室 長 村 中 好 美 (兼務)  
 主 任 中 村 希 (看護師)  
 桐 山 葉 子 (社会福祉士)

他 看護師 7名 社会福祉士 3名

### 【認定資格取得】

- ・認定医療メディエーター B
- ・認定がん専門相談員

### 【所属学会】

- ・日本医療社会福祉協会
- ・日本社会福祉士会
- ・日本医療ソーシャルワーク学会

## ■ 部門紹介

当院で急性期の治療を終えられた患者さんは、リハビリテーションを中心とする回復期病床や療養病床・在宅療養へと生活の場が変わります。その際総合医療相談室の相談員は、患者さんがその人らしく安心して生活できるように医療・福祉の両面から個々の状況に合わせた支援を行っています。入院早期より患者さん・ご家族と面談し、退院に向けた支援が必要と判断された場合は、担当の相談員である看護師・社会福祉士が介入させていただき、意向を確認した上で療養先（自宅を含む）を調整します。回復期病床への転院以外に、入院を機に施設入所を希望される方やご家族の居住地近くへの転院を希望される方、在宅でのサービスを利用し自宅退院を希望される方と様々です。また、療養環境以外にも様々な思いを抱いておられるため相談も受けています。

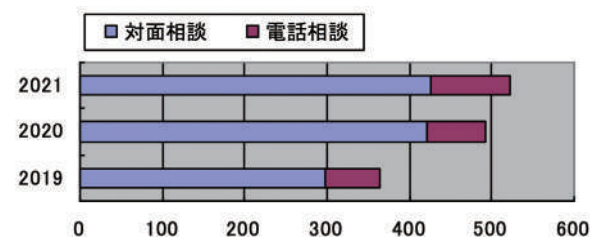
### 【相談件数（総合医療相談室）】

心理・社会的	2,225 件
退院援助	10,922 件
社会復帰援助	19 件
受診・受療援助	885 件
経済的援助	485 件
その他	293 件
がん相談 (地域がん診療拠点病院報告分 以外)	962 件

また、当院は地域がん診療連携拠点病院であり「がん相談支援センター」も有しています。本年度は、AYA 世代（思春期から若年成人）の方のがん

相談にも対応できるよう相談時間の延長なども行いました。がん相談での上位内容は、①医療費・生活費・社会保障制度 ②在宅医療 ③ホスピス・緩和ケア ④不安・精神的苦痛 ⑤受診方法・入院となっており、在宅医療に関する相談が前年度より上位となっています。また、件数は少ないものの当院以外の患者さんからの相談もお受けしています。

### 【相談件数（地域がん診療拠点病院報告分）】



### 【相談者の受診状況】

	2021 年度	2020 年度	2019 年度
自施設通院中	354 件	304 件	202 件
自施設入院中	150 件	175 件	131 件
他施設通院中	13 件	16 件	4 件
他施設入院中	7 件	3 件	0 件
その他	1 件	2 件	3 件

## ■ 研修会等

「おしゃべりサロン（がん患者サロン）」は、がん患者さん・ご家族や友人の皆様が病気や生活など気になる事を相談し何でも話せる場として年に複数回開催しています。今年度は12月に当院感染管理認定看護師の平本廉昂さんに「基本的なコロナ対策のお話し」をしていただきました。同じように病気を抱えた方々との対話により、自身の思いを表出し涙される参加者もおられ、患者さんにとってサロンが果たす役割を確認する機会となりました。

### 【おしゃべりサロンの風景】



# 人事課

## ■ スタッフ

課長 森井 克成  
係長 山下 雄三  
他 人事担当者 4名

## ■ 業務概要

### ○ 人事・労務に関する事項

- \* 各部署の要員計画策定及び採用活動
- \* 給与・賞与計算
- \* 採用退職・休職・復職等人事発令に関する業務
- \* 職員勤怠管理
- \* 税金及び社会保険関係
- \* 医師の働き方改革関係

### ○ 安全衛生・福利厚生に関する事項

- \* 衛生管理委員会の開催
- \* 職員健康診断の実施・労働基準監督署への報告
- \* ストレスチェックの実施
- \* インフルエンザ・コロナワクチン予防接種  
B型肝炎予防接種

### ○ 業務委託・人材派遣に関する事項

- \* 委託及び派遣業務の管理・契約

### ○ その他

- \* 永年勤続表彰・職員表彰

## ■ 活動内容

人事課は課長含め6名の職員で業務を行なっています。

要員計画に基づいて採用試験を実施し、適正な人員管理に努めています。

職員の給与・賞与計算及びそれに付随する税金や社会保険関係の手続きを行っています。職員一人ひとりの標準報酬月額に応じた社会保険料の決定及び徴収、住民税徴収と納付、一年間の源泉所得税精算を行なう年末調整も人事課の重要な業務です。

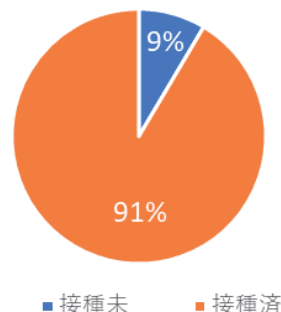
また、採用退職や休職等の人事発令に関する業務も行なっています。院内の事務処理だけでなく、健康保険組合・年金事務所・公共職業安定所・各自治体等への申請も必要に応じて行ないます。

安全衛生面では、健康管理センターや各検査部門と連携して職員健康診断を実施しています。また、インフルエンザ・コロナワクチン・B型肝炎予防接種の調整を行い、職員の感染管理にも従事しています。

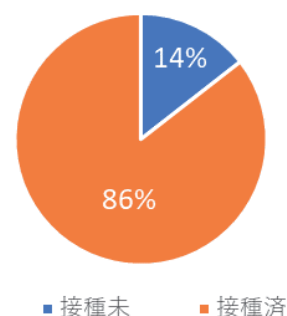
2021年度は夜間急性期看護補助体制加算の算定のため看護科と協力し準備を行ない、次年度に算定開始できるよう努めました。

適切・迅速な事務処理を行なうのはもちろんのこと、誠実な対応を常に心掛け日々の業務にあたっています。

コロナワクチン（2回目）接種状況



コロナワクチン（3回目）接種状況





## 情報企画課

### ■ スタッフ

課長 見島 賢一  
係長 森田 祐規  
他 6名

### ■ 業務概要

- ・医療情報システムに関する問い合わせ対応
- ・各種ソフトウェア、ハードウェア問い合わせ対応
- ・システムの導入・更新対応
- ・医療情報データの可視化
- ・マスタメンテナンス
- ・FileMaker、Access 等を使用したツール開発
- ・講習会パンフレット、院内ホームページ web デザイン
- ・BSC 活動

### ■ 業務詳細

医療情報システムの管理を主業務とし、その他電子カルテ・Excel・FileMaker・セキュリティについての講習会の開催や、情報の可視化を目的としてDWH（データウェアハウス）より抽出したデータの提供、日々追加される電子カルテ・医事会計マスタの更新、院内ホームページの編集等を行っています。

医療情報システムの運用面について問題が発生した場合は、該当部署にヒアリングの実施及び改善提案を行います。必要に応じて運用の変更を行っており、運用変更の可否は電子カルテベンダー SE との定例会にて仕様のすり合わせを行い、現場へフィードバックをする運用となっています。

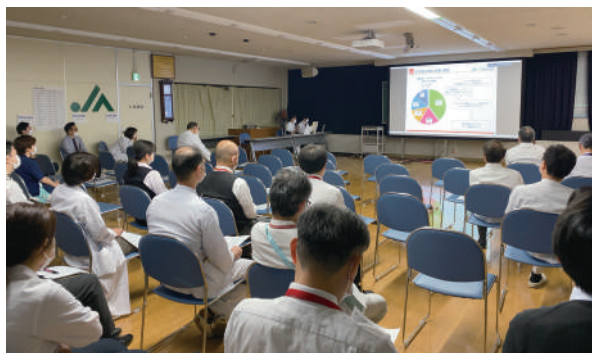
またシステムのみならず、BSC（バランススコアカード）活動の事務局として当院の理念・ビジョン・戦略を明確化し、各部署の行動計画（アクションプラン）の取りまとめや院内ホームページの編集など様々な業務を行っています。

### ■ 活動内容

#### 【BSC 発表会】

今年度の自部署 BSC 活動成果や次年度以降の目標・構想を発表していただくことにより、部署間の相互理解を深めることを目的に毎年 BSC 発表会を開催しています。

今年度もコロナ禍での開催となりましたが、2日間で67部署の発表がありました。サテライト会場を用意し少しでも多くの方に参加していただけるように、また録画したものを後日院内掲示板にてアーカイブ配信するなどして、毎年工夫しながら開催しています。



#### 【新サーバー室の設置】

2022年5月に医療情報システムの更新を行うにあたり、新しいサーバーを置く場所が必要になるためサーバー室を新設しました。

併せて扉には入室管理システムを導入し、セキュリティの強化を図りました。



# 災害対策ワーキングチーム（DMAT）

## ■ DMAT

Disaster Medical Associate Team

災害や事故などの現場に48時間以内に活動できる機動性をもった、専門的な訓練を受けた医療チームのことです。



## ■ DMAT チームメンバー

医師、看護師、診療放射線技師、臨床検査技師、事務

## ■ 活動内容

2021年度は災害現場への出動はありませんでしたが、近年、豪雨による土砂災害も頻発しており、広島県の災害対策本部から有事に備えてメールでの連絡を取り合える体制にしています。

また、有事の際にはロジスティクスメンバーによりEMIS（Emergency Medical Information System）への入力を行い、各医療機関と情報の共有ができるようにしています。

チームメンバーとして有資格を維持するためには、5年間で指定の研修を受けることや災害現場での実働などが求められますが、COVID-19の感染拡大に伴いオンラインによる訓練となる中で、各自研鑽に努めています。

さらに今年度は『備え』に対して、資機材点検の時期や方法の見直しを行い、3ヶ月毎に実施することでチームの活動に応じた内容を検討することに繋がりました。

## ■ 災害対策ワーキングチーム

災害対策ワーキングチームは、2011年3月11日

に発生した東日本大震災を契機に防災・減災対策の重要性を再認識し、同年に発足したチームです。

## ■ チームメンバー

医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、事務、診療放射線技師、臨床検査技師、臨床工学技士

## ■ 活動内容

当院は近年起こるとされている南海トラフの大地震や、最大震度：7を引き起こす可能性のある活断層が近隣に存在しています。当院が災害拠点病院として自施設と地域全体を守る役割を果たすために、集団・災害救護体制委員会の下部組織に位置づけられています。

現在、COVID-19の感染拡大によりミーティングやラウンド、地域防災訓練への参加などが行えておりませんが、有事の際には有志によって積極的に活動できるよう備えておきたいと考えています。

災害医療に関心をお持ちの方は何方でも参加可能ですので、いつでもお声かけ下さい。

（DMAT 看護師 竹野香織）



# 栄養サポートチーム (NST)

## ■ チーム概要

栄養サポートチーム (NST) は、栄養管理における専門的な知識を持つ多職種により構成されるチームで、当院では 2005 年 4 月より活動しています。

NST は栄養状態不良の方、経管栄養や経静脈栄養を行っている方、嚥下障害のある方など、特に栄養管理が治療上必要と考えられる患者様に対して回診やカンファレンスを行い、専門的な立場から最善の栄養管理に向けた提案を行っています。

## ■ NST メンバー

- ・ 医師：香山茂平
- ・ 歯科医師：大井尚志
- ・ 看護師：藤本七津美
- ・ 薬剤師：中島恵子、埋橋賢吾、下角晃範
- ・ 管理栄養士：上村真由美（専従）、河本良美
- ・ 臨床検査技師：池田光泰、村田竜也、小野溪
- ・ 作業療法士：石井葵
- ・ 言語聴覚士：上田雅美、新川すずか
- ・ 歯科衛生士：大森志穂

## ■ 活動内容

- ・ NST カンファレンス・ラウンド (NST メンバー)  
毎週木曜日 14:30～15:00 (カンファレンス)  
15:00～ (ラウンド)

NST 介入全患者に対しラウンド・カンファレンスを実施し、ラウンド後は栄養管理についてのコメントの記載、提案を行っています。

栄養サポートチーム加算算定件数  
2021 年度算定件数：延べ 840 件 (患者数 234 名)



- ・ 食事ラウンド (管理栄養士、作業療法士)  
毎週水曜日 12:00～

栄養量 UP や誤嚥・褥瘡予防など適切な栄養管理を行うための環境調整目的に、週 1 回数名訪室、食事時の動作サポートやポジショニング調整の提案を行っています。



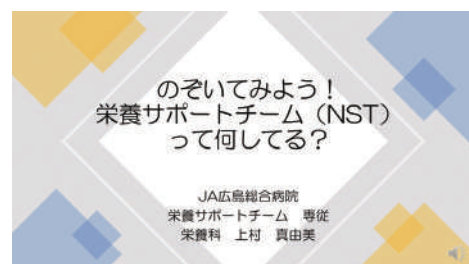
- ・ NST-TPN カンファレンス (薬剤師、管理栄養士)  
毎週水曜日 15:00～

高カロリー輸液投与中の患者を対象に、代謝性合併症や感染予防のため血糖値・肝機能・電解質・投与速度等の確認を行い、適正な輸液内容や管理についての提案を行っています。

- ・ 栄養管理推進委員会：毎月最終木曜日
- ・ ラダーII 研修：年 1 回
- ・ 院内 NST 研修会

感染防止対策により集合研修が難しいため、2021 年度より動画による研修会を開始しました。

【2021 年度 第 1 回 NST 研修会 (動画)】



## 呼吸療法サポートチーム (RST)

人工呼吸器からの早期離脱を第一目標に、集中治療室から在宅まで多職種で人工呼吸器装着患者さんをサポートしています。

### ■目的

集中治療室（以下ICU）で人工呼吸管理を行なった症例のうち約5%はICUにて呼吸器離脱できず、一般病棟にて呼吸療法サポートチーム (Respiratory Support Team) 呼吸管理を継続しなければなりません。また、人工呼吸器装着患者さんの転院は受け入れ先が限られていることから、決定までに時間がかかってしまう、かといって、在宅移行を選択されるケースが多いかということ、残念ながら介護力の問題から断念されるご家族が多いのも現状です。このような現状から当院ではICUでの人工呼吸管理開始と同時に、呼吸器離脱を見据え多職種と連携し患者さんのサポートを行なっています。

また、人工呼吸療法は医療者の不安や負担も多い治療です。呼吸管理に慣れていない病棟でもRSTラウンドを通じて、少しでも業務負担の軽減に繋がるようなサポートを心がけています。



### ■メンバー

医師、看護師、理学療法士、歯科衛生士、管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師、臨床工学技士、医療事務

### ■活動内容

毎週木曜日に人工呼吸器装着患者さんの病室を訪問し、人工呼吸器周辺の環境整備や人工呼吸器離脱に向けての方向性について多職種で話し合います。人工呼吸器からの離脱は、設定だけを調整すればいいというわけではありません。呼吸に関する筋力やそれを維持する栄養、また薬剤による原疾患のコントロールなど様々な視点から患者さんの状態を評価する必要があります。

昨今、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点からラウンド活動が思うようにできず、現場の皆様のご期待にお答えできていない状況もありますが、質問などありましたらRSTメンバーに気軽にお声かけいただければと思っています。



# 感染防止対策室 (ICT)

## ■ スタッフ

室長 渡 正 伸 (～2022年1月)  
 近 藤 丈 博 (兼任) (2022年2月～)  
 主任 平 本 廉 昂

## ■ 取得資格、所属学会

[取得資格]

Infection Control Doctor : ICD  
 感染管理認定看護師

[所属学会]

日本環境感染学会  
 日本感染管理ネットワーク学会

## ■ 部門紹介 (概要)

感染防止対策室は患者さんや医療従事者の安全確保を第一の目標として、院内感染対策委員会・ICT (院内感染対策チーム)・看護科感染対策委員会を中心とした各組織・部門と連携し、感染防止活動を支援する部門として機能しています。特に ICT とは密に連携を図り、ラウンドや研修会など多くの業務を共同しています。

また、2018年度から感染管理に関連する新たな診療報酬として『抗菌薬適正使用支援加算』が加わりました。これに伴い ICT メンバーが抗菌薬適正使用支援チーム (AST) を兼務し、院内活動を行っています。

2021年度より、感染防止対策室の専従感染管理看護師 (ICN) が今本から平本へ変更となり、また、ICD についても 2022年2月より渡から近藤へ変更となっています。

## ■ ICT・AST コアメンバー紹介

渡 正伸 (呼吸器外科医師、感染防止対策室長、ICD)  
 近藤 丈博 (呼吸器内科医師)  
 正島 和美、角井 碧  
 清上 和也 (感染制御認定薬剤師)  
 池部 晃司 (臨床検査技師)  
 今本 紀生、平本 廉昂 (感染管理認定看護師)  
 堤 昂志 (事務：医事課)

## ■ 認定施設基準

・「感染防止対策加算1」：8つの連携施設と年4回

の合同カンファレンスを開催

- ・「感染防止対策地域連携加算」：広島西医療センター ICT と連携し、年1回の相互ラウンドを実施
- ・「抗菌薬適正使用支援加算」：抗菌薬の使用や検査の適正利用の為に体制整備による質の向上・評価や院内研修会を開催

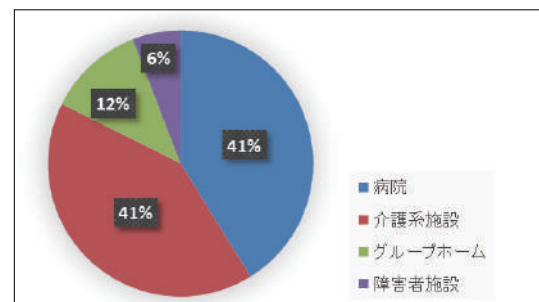
## ■ 広島県感染症医療支援チームでの活動

今年度より、ICN2名 (今本、平本) は広島県感染症医療支援チームでの活動を開始しました。

“広島県感染症医療支援チーム”とは、広島県内で新興感染症等が発生した場合において当該感染症の対応に当たる医療機関に対して、感染症医療の支援を行う医療従事者で構成されるチームのことです。

今年度は広島県からの派遣要請を受け、17施設、計27回、近隣のコロナクラスター発生施設に向し「ゾーニングの確認」・「PPE (個人防護具) の適切な着脱」・「周囲環境の整備」など基本的な感染対策指導の支援を行いました。様々な施設の特性に合わせ活動する中で、自施設における感染対策についても改めて見直すことが出来ました。

<訪問施設別割合>



## ■ 2021年度の活動 (Topics)

<新型コロナウイルス感染症への対応>

全国で新型コロナウイルス感染症が拡大する中、2020年度以降当院も感染症協力医療機関として病棟を編成し、現在も新型コロナウイルス感染症病棟の運用を継続しています。職員の感染対策の徹底や面会規制、各種対応マニュアルの整備など、「院内クラスター防止」に向けた活動についても継続的に行い、今年度は病院職員の皆様の協力のおかげで院内クラスターが発生することなく無事に1年を終えることが出来ました。

## 緩和ケアチーム

### ■メンバー紹介

主任部長：田崎 達也（外科・緩和ケア科）  
 部長：大下 恭子（麻酔科・緩和ケア科）  
 部長：伊東 淳（放射線治療科・緩和ケア科）  
 部長：大月 鷹彦（呼吸器内科・緩和ケア科）  
 精神科医師（非常勤）：吉村 朋範  
 緩和ケア認定看護師：岡田恵美子 高原さおり  
 がん放射線療法看護認定看護師：河野佐代子  
 薬剤師：磯貝 明彦、藤原 俊輔  
 理学療法士：小林 恭子  
 言語聴覚士：後藤 優佳  
 公認心理師：佐藤 亜弥  
 管理栄養士：松下 有紀  
 社会福祉士・がん相談員：正島 忠貴  
 がん相談員：益村 勇子 など



### ■主な活動紹介

#### 【チームカンファレンス】

毎週火曜日にカンファレンスを開催し、多職種で治療方針を共有しています。2021年からは山根クリニック 山根宏昭先生にもカンファレンスに参加していただき、在宅医療にスムーズに移行できるよう心がけています。

#### 【薬剤調整】

個々の患者が使用する薬剤につき主治医と連携し調整し、症状緩和の必要な患者に対して患者・家族の理解が得られるよう薬剤指導を行っています。

#### 【がん患者リハビリテーション】

がんを抱える患者の日常生活動作に対応します。2021年、緩和ケアチーム介入患者のうち65名にリハビリを行い、そのうち24名にがんリハビリを実施しました。

#### 【栄養相談】

管理栄養士が個々の患者に合う食事の工夫を患者・家族へ指導します。

#### 【がんサロン】

従来、隔週月曜日に行っていたおしゃべりサロンは、コロナ禍のため2021年は1回しか開催できませんでした。6人の患者さんに参加していただきました。

#### 【がん相談】

療養場所や在宅で受けられるサービスについて等、各種の相談に対応します。2021年の相談件数は526件で、多い順に1) 医療費・生活費・生活保障制度 2) 在宅医療 3) 緩和ケア 4) 不安・精神的苦痛 5) 受診・入院相談でした。

#### 【生活のしやすさに関する質問票】

がん患者への苦痛スクリーニングを行っています。

2021年度 苦痛スクリーニング

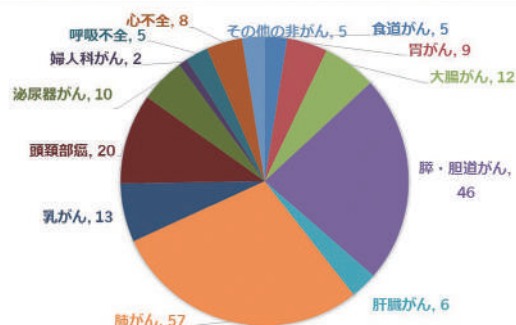
総件数 3,283件  
 外来 2,178件  
 病棟 1,105件

#### 【がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会開催】

2021年は7月に開催しました。外部講師として、明石内科クリニック酒井亮先生に「療養場所の選択と地域連携」を担当していただきました。在宅医療の実践について勉強させていただきました。

### ■緩和ケアチーム実績（2021年度）

#### 2021年度緩和ケアチーム依頼内容



PEACE 緩和ケアチームの活動に関する調査と評価のための臨床的実践 UJDM

# 心臓リハビリテーションチーム

活動報告

## ■ 設立趣旨

近年、増加する心血管疾患（狭心症、急性心筋梗塞、心臓弁膜症、胸・腹部大動脈瘤、末梢動脈疾患など）を有する患者さまに対し、包括的心臓リハビリテーション（以下、心リハ）を提供することを目的に活動しています。包括的心リハとは、心血管疾患を有する患者さまにおける社会復帰および再発予防を目的とし、運動療法や食事療法、薬物療法などの患者教育、生活指導などを包括した治療手段です。当院では2010年度よりチームアプローチを展開しています。

## ■ メンバー紹介

(\* 心臓リハビリテーション指導士、\*\* 慢性心不全看護認定看護師)

医師：小林 平、藤原 敬士、長谷川 美紗  
理学療法士：本間 智明\*、河野 裕美、小島 輝久\*、  
西谷 喜子、高桑 翼\*、内山 明子、  
井場 和敏  
看護師：東3階病棟、東7階病棟、内科系外来、  
外科系外来、正木 博之\*\*  
薬剤師：向井 一樹\*、大原 由希子、  
井上 沙緒里、吉次 紗也加、  
無漏田 香穂、島田 萌美  
栄養士：森田 菜津美、前田 梨沙、叶丸 采花  
相談員：浅川 由佳、石崎 敬子、工藤 あすか  
その他：臨床検査技師、義肢装具士、臨床工学技士

## ■ 活動内容

東3：循環器内科多職種カンファレンス  
心臓血管外科多職種カンファレンス  
東7：心臓血管外科多職種カンファレンス及び回診  
外来：循環器内科多職種カンファレンス

心リハに関する活動	2021年度 (件)	2020年度 (件)	2019年度 (件)	
入院	開心術・大血管術後心リハ	49	60	113
	急性心筋梗塞後心リハ	60	76	68
	末梢動脈疾患手術後心リハ	94	96	95
	心不全心リハ	229	283	285
外来	心リハ通院（新規エントリー）	43	32	51
	服薬支援	28	47	46
	栄養指導	176	164	164
その他	心肺運動負荷試験	4	25	29
	日本心臓リハビリテーション学会発表	1	3	5

## — 閉塞性動脈硬化症パンフレットの変更 —

2021年6月より閉塞性動脈硬化症の手術を行った患者さまに使用するパンフレットを変更しました。治療や術後のケアはチーム発足当初と比べて変化しており、パンフレットにも反映しました。患者さまが退院後にも「病気とうまく付き合いながら足を守る」ために、できるだけ分かりやすい内容に修正しています。



パンフレット

## — 心リハ外来の継続 —

2021年度も感染予防措置（1セッションあたりの患者数制限、開窓や空調による室内換気、使用機器の清拭や手指消毒）を図りながら心リハ室での運動療法を行い、2021年12月まで心リハ外来を継続することができました。2021年12月現在で、心リハ外来通院にエントリーした患者さまは延べ270名となりました。安全に配慮しながら治療後の患者さまに対して、心リハの効果を高められるように運営を継続しています。



心リハ室

# がん化学療法チーム

## ■ 概要

当該がん種に対して標準的治療もしくはそれに準ずる化学療法によるがん治療を安全・確実・安楽に実施されることを目的としています。多職種の専門性を持って、がん患者のQOL維持向上と副作用対策に寄与しています。地域連携がん拠点病院の承認を認可しています。

## ■ 専従・専任スタッフ

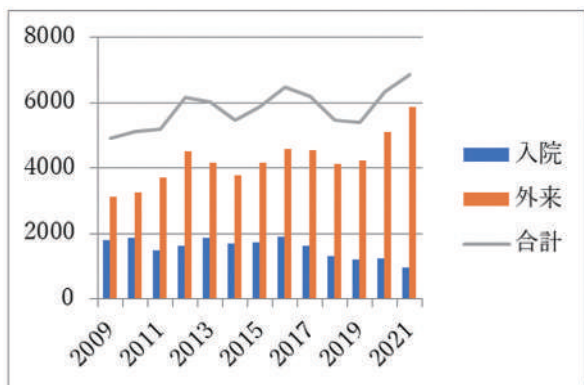
がん化学療法委員長 : 佐々木 秀  
 がん化学療法看護認定看護師 : 野村 昌代  
 // : 奥村 麻美  
 薬剤部長補佐 : 中島 恵子  
 がん薬物療法認定薬剤師 : 平井 俊明  
 外来がん治療認定薬剤師 : 白井 敦史  
 // : 埋橋 賢吾  
 // : 藤原 俊輔  
 看護師 : 岡田 佳奈子、岩本 春美、三浦 弥生、  
 田原 奈緒子、山本 磨央

## ■ 実績

2021 年度

外来治療件数	5,884 件
外来 1 日平均件数	24 件
入院治療件数	9,64 件

年間推移



がん患者指導管理料算定 (旧がん患者カウンセリング料)

2021 年度

がん患者登録	1,651 件
がん薬物療法	6,848 件
指導管理イ	334 件
指導管理ロ	221 件
指導管理ハ	534 件
認定薬剤師	275 件

## ■ 活動報告

- 1) がん化学療法運営委員会…4 回  
 レジメン迅速審査…4 回  
 現行登録レジメン：292 件  
 承認： 22 件、削除： 0 件  
 更新： 4 件
- 2) その他
  - ・毎週水曜日：消化器がんボード開催
  - ・毎月第 1・3 水曜日：膵臓がん教室開催
  - ・毎月第 1 水曜日：乳腺カンファレンス

## ■ トピックス

- ・外来化学療法室のスタッフ増員。外来担当：奥村 認定看護師・病棟担当：野村認定看護師になりました。入院での相談対応は野村認定看護師に相談ください。
- ・がん教室は集合開催を中止し病棟入院患者に対し個別対応にて実施中。
- ・化学療法運営委員会にて irAE 対応マニュアル作成。

## ■ 教育

[院内]

- ・新人看護師研修
- ・看護リーダー研修
- ・日本赤十字大学成人看護学Ⅲ実習指導

[院外]

- ・日本臨床腫瘍学会 irAE マネージメントセミナー WEB 開催チーム参加。



## 「膵がん・胆道がん教室」運営チーム

### ■はじめに

2012年から院内で開催しています「膵がん・胆道がん教室」ですが、今年でついに10年目を迎えました。記念すべき2021年度でしたが、残念ながら2020年の冬から始まったCOVID19感染症のパンデミックにより、教室の中断と、再開を模索する1年になってしまいました。現在でも病院では面会謝絶が続いています。このような情勢中で私たちが今年度教室の再開のために行ってきた活動についてご報告させていただきます。

### ■メンバー紹介（主要メンバー）

医師：藤本佳史、森 豪、佐々木秀

看護師：野村昌代、奥村麻美、平野有紀、

立石久子、田中真美

薬剤師：埋橋賢吾、白井敦史、藤原俊輔

栄養科：河本良美、上村真由美、松下有紀

リハビリテーション科：小林恭子

M S W：正島忠貴

新しいメンバーとして、新規に着任した消化器内科の森先生にも加わっていただきました。西7階の病棟看護師スタッフも異動によって大きく変わりました。

### ■活動内容

患者様とご家族を支える為に続けてきました当院の膵癌教室は、教育的な勉強会・グループワーク・気分転換のヨガ・地域連携を重視した往診医との連携を主な目的としていました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の波が繰り返される中で最も大切にしてきた対面での対話が困難となってしまい、多くの分野で教室の継続が困難となりました。2021年春からは、さらに団体活動の自粛命令が病院から出されたため約半年間の活動停止に追い込まれました。その後ワクチン接種が始まったため、ようやく秋には世間が落ち着き始め、教室の再開を目指して医療者グループ内だけのミーティングを

開催しました。そこで個別対応での教室を提案し、冬頃からの教室の再開にこぎつけました。

a) 新たな教室ではまず、開始当初の教室のように対象を膵癌と胆道がんだけに絞りました。密集を避けるための少人数開催をめざして、他の癌（肺癌や乳癌など）患者様への声掛けは行いませんでした。

b) さらに個別対応とするため、1人の患者様とそのご家族だけを対象とした「個別な教室」として事前予約制を始めました。電子カルテ上に各30分の膵癌教室の予約枠を設けて開始しました。c) 入院時に「教室対応患者様」と掲示板に記載し、病棟で担当する看護師メンバーが教室の冊子を事前にお渡しするとともに、冊子の内容についてのアンケート調査を行いました。アンケートには個別教室で特に聞きたい内容をチェックしていただき、患者様が聞きたい内容を事前に知ることによって専門の担当者がそれを中心に説明を行いました。d) 開催場所は地域医療連携室の談話室とし、アクリル板を設置するなど感染に注意して行いました。1患者様とご家族ごとに入れ換え制としました。このような「個別な教室」では家族関係など個人情報を理解しやすくなるため、より深い対応や指導ができるようになりました。

### ■まとめ

コロナ禍でのチーム活動について報告させていただきました。現在個別教室の効果を解析中です。今後の新しい教室運営に生かしたいと考えていますのでご期待ください。

# 認知症ケアサポートチーム

## ■メンバー紹介

認知症ケアサポートチーム専任医師：

副院長、脳神経外科主任部長 黒木 一彦

認知症看護認定看護師：大峯 珠己

認知症看護認定看護師：有本 まい

医療ソーシャルワーカー：林 理恵

管理栄養士：八幡 謙吾

薬剤師：石津 克紘

作業療法士：西田 花穂里

## ■チーム概要

認知機能が低下した高齢者の方々は入院による環境変化や身体的苦痛が負担となり、行動・心理症状を発症しやすくなります。

入院中の認知症による行動・心理症状や意思疎通の困難さが見られ身体疾患の治療への影響が見込まれる患者さんに対し、認知症に特化した専門チームが関与することで、行動・心理症状の悪化を予防・緩和し円滑に治療が受けられることを目的として活動しています。

## ■活動内容

週に2日、主に火曜日と水曜日が活動日となっております。水曜日には多職種の様々な視点を取り入れてチームカンファレンスを行い、その後病棟ラウンドを行っています。

認知症をもつ、またはせん妄状態にある高齢者の方々の対応や環境の提案・内服薬の調整・病棟でできるリハビリテーションの提案・認知症に関連した嚥下障害や食欲不振による食事内容の相談等をそれぞれの専門分野からアドバイスを行っています。

院内では各部署の看護師と協働し、定期的な研修会やカンファレンスを開催して、認知症ケアの質の向上に努めています。

地域では野村病院と協力し、認知症初期集中支援チームの一員として、地域の認知機能が低下した高齢者が地域で安心して過ごす事ができるよう活動しています。

チーム

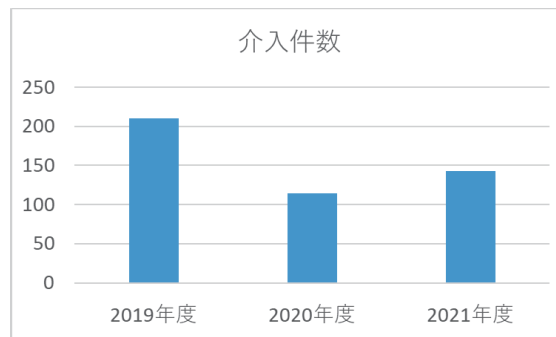


カンファレンスの様子

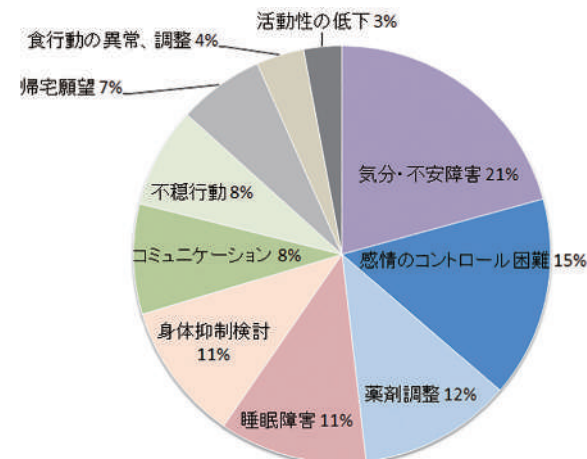


## ■介入件数

2021年4月～2022年3月 延べ143名



## ■介入内容



# 各種委員会

## 治験審査委員会

委員長 溝岡雅文

### A. 設立主旨

#### 1) 治験審査委員会の責務

- (1) 治験審査委員会は、「治験の原則」に従って全ての被験者の人権の保護、安全性の保持及び福祉の向上を図ることを目的としています。また社会的に弱い立場にある者を被験者とする可能性のある治験には特に注意を払っています。
- (2) 治験審査委員会は、倫理的、科学的及び医学的・薬学的観点から治験の実施及び継続等について審査を行っています。

#### 2) 治験審査委員会名簿

委員長：溝岡雅文、副委員長：中光篤志

委員：黒木一彦、橋本佳浩、福岡達仁、

寺岡康治郎、凝重衛、磯貝明彦、

向井恵子（外部委員）、藤田照美（外部委員）

書記：磯貝明彦

オブザーバー：松原昭彦、川上多聞

### B. 活動内容

#### 1) 治験審査委員会の開催

治験審査委員会は原則として1ヶ月に1回開催します。

#### 2) 2021年度治験審査委員会開催概要

- ・第1回（2021/4/28）  
審議事項2件（継続審査2件）  
報告事項1件
- ・第2回（2021/6/29）  
審議事項1件（継続審査1件）  
報告事項1件
- ・第3回（2021/9/29）  
報告事項3件
- ・第4回（2021/10/15）  
報告事項2件
- ・第5回（2021/11/19）  
審議事項1件（継続審査1件）  
報告事項1件

- ・第6回（2021/12/17）

報告事項2件

- ・第7回（2022/2/22）

報告事項1件

- ・第8回（2022/3/18）

報告事項1件

#### 3) 2021年度の実施治験総件数：7件

- (1) 前年度からの継続治験（3件）

①中等症から重症の活動性潰瘍性大腸炎の被験者を対象としたTD-1473を用いた寛解導入療法及び寛解維持療法の有効性及び安全性を評価する第2b/3相、多施設共同、ランダム化、二重盲検、反復投与、プラセボ対照、並行群間試験

（テラバンス バイオファーマ）

②潰瘍性大腸炎（UC）患者を対象としたTD-1473の安全性及び忍容性を評価する3年間の多施設、長期安全性（LTS）試験

（テラバンス バイオファーマ）

③ノボ ノルディスク ファーマ株式会社の依頼による非アルコール性脂肪肝炎患者を対象としたNN9535の第III相試験

（ノボ ノルディスク ファーマ）

- (2) 2021年度からの新規治験（4件）

①糖尿病性多発神経障害患者を対象としたONO-2910の前期第II相試験（小野薬品）

②ノボ ノルディスク ファーマ株式会社の依頼による非アルコール性脂肪肝炎患者を対象としたNNC0194-0499とセマグルチド併用の第II相試験

（ノボ ノルディスク ファーマ）

③急性心筋梗塞患者を対象としたエンパグリフロジンの第III相試験

（ラボコープ・ディベロップメント・ジャパン）

④日本新薬株式会社の依頼によるNS-304の後期第II相試験（日本新薬）

- (3) 2021年度の終了治験（2件）

①中等症から重症の活動性潰瘍性大腸炎の被験者を対象としたTD-1473を用いた寛解導入療法及

び寛解維持療法の有効性及び安全性を評価する  
第2b/3相、多施設共同、ランダム化、二重盲検、  
反復投与、プラセボ対照、並行群間試験

(テラバンス バイオフーマ)

②潰瘍性大腸炎 (UC) 患者を対象とした TD-1473  
の安全性及び忍容性を評価する3年間の多施設、  
長期安全性 (LTS) 試験

(テラバンス バイオフーマ)

## 薬事委員会

委員長 溝岡 雅文

### 1. 目的

当委員会は院内で使用する全ての医薬品に関わる諸問題について検討協議を行い、薬事全般にわたる病院長の諮問事項を審議、報告する機能と義務を負い、医薬品の安全かつ効率的な使用をはかることを目的としています。

### 2. 任務

- 1) 新規採用申請薬品の審議
- 2) 薬品の適切な使用方法の協議と啓発
- 3) 在庫薬品の適切な管理と運用
- 4) 医薬品情報の衆知活動
- 5) その他の医薬品に関する事項

### 3. 委員

委員長及び委員は病院長が任命した者であり、病院幹部 (病院長代行・副院長)、各診療科代表 (センター長・主任部長)、看護部副部長、院内リスクマネージャー、医事課長、薬剤部長等で構成されています。

### 4. 委員会の開催

委員会の開催は原則として月1回となっています。

### 5. 新規医薬品

- 1) 医薬品の採用は a) 一般採用医薬品 b) 用時購入医薬品 c) 患者限定医薬品に分類され、a) b) は委員会の審議が必要となります。
- 2) a) b) に関し採用を希望する場合、所属長の

承認の元、「新規医薬品購入申請書」に必要事項を記入し事務局 (薬剤部) に提出していただき、当委員会で審議することとなります。

3) c) は「患者限定使用許可申請書」を事務局に提出、迅速審議の上、委員長が許可し次回の委員会にて薬剤部長より報告されます。

4) 薬事委員会は採用の可否を審議決定しますが、1増1減を原則とし、適正な在庫数になるよう努めています。

### 6. 医薬品の安全管理

医薬品安全性情報が新たに発布された場合、全医師に迅速に連絡、注意喚起を行います。医薬品の適正使用に係わるトピックスがあれば全スタッフに向け注意喚起のための情報を発信し、医薬品の適正使用に貢献しています。

また、先発品・ジェネリック医薬品ともに自然災害による被害に相当する欠品・自主回収・出荷調整の状況が続いており、情報を迅速に入手、精査し、院内へ医薬品使用量についての協力要請も含めた適切な情報提供を続け、安全な薬物治療の実現のための在庫管理を指揮しています。

### 7. ジェネリック医薬品

当院の環境や薬剤使用状況を十分に考慮した上でジェネリック医薬品の採用を検討しています。2021年度は13件採用に至りました。(但し2021年度は在庫確保などの理由から、これらとは別の2件が先発品への変更を余儀なくされました。)

現在ジェネリック医薬品の採用については、製薬会社の出荷調整が相次いでいるため情報収集能力を最大限発揮し、可能な限りでの後発医薬品係数取得を励行しています。

### 8. 2021年度実績

2021年度はCOVID-19関連薬の使用状況を毎回報告しました。また、医療事故防止対策委員会と協働し、当院の不眠時指示薬・病棟定数配置薬に併用禁忌のないデビゴ錠 2.5mg 錠を提案、運用を取り決めました。

院内全体の薬剤の適正使用と安全管理のために、今後も情報提供・使用状況の監視と是正に努めます。

2022年3月31日時点での当院の医薬品採用数

一般採用		特定患者限定	105
内服薬	718		
注射薬	525		
外用薬	305		
その他	11		
一般採用 計	1559		
用時購入 保険適応	77	RI 医薬品	113
その他 (ワクチン類)	15		
採用品数合計			1784
ジェネリック医薬品			321

2021年度 医薬品の総新規採用件数・総削除件数

医薬品	総新規採用件数	71
医薬品	総削除件数	82

## 倫理委員会

委員長 中 光 篤 志

### 1. 設立主旨

当院で行われる様々な研究について、ヘルシンキ宣言における倫理的原則や臨床研究に関する倫理指針等に基づいて、インフォームド・コンセントや個人情報保護などを評価し、被験者となる患者さんの権利を保護しながら研究が医学の進歩に寄与することを目的として設立されました。委員会の構成は、医師7名、看護師3名、パラメディカル3名、事務4名です。外部委員3名にも参加していただき、多方面から臨床研究の評価を行っています。

### 2. 活動内容

委員会の開催は1ヶ月に1回、第3金曜日に行っており、2021年度の審査実績は新規77件、継続4件、薬剤の適応外使用・保険外診療3件でした。

今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から書面開催が多い年でしたが、今後も倫理的・医学的妥当性の観点から研究等の実施及び継続等について審査を行っていきます。

院内に臨床倫理委員会が新たに発足したこともあり当委員会規約の見直しを行い、名称も広島総合病院（研究）倫理審査委員会に4月から変更予定としています。

ています。

## 臨床検査適正委員会

委員長 藤 井 隆

### 1. 設立趣旨

この委員会は臨床検査に関する問題と併せてその適正な運用に関する問題を審議し、臨床検査業務を円滑に行うことを目的としています。

そのために以下の事項について審議します。

- ※臨床検査に関する調査、情報収集に関すること
- ※臨床検査部門内外で発生した臨床検査に関すること
- ※臨床検査の適正な使用に関すること
- ※その他必要と思われる事項

### 1) 委員会の構成メンバー

医師6名、看護師2名、臨床検査技師7名、事務部門2名

### 2) 活動内容（感染症蔓延防止のため書面報告・審議を含む）

#### 2021年

#### 5月：感染症予防のため書面による報告・審議

- T-SPOT 外注委託先・採血管の変更について
- クオンティフェロン予約検査移行について
- HIV 抗原 / 抗体キットの生産中止について
- 呼吸機能検査時の気管支拡張剤投与の運用変更

#### 6月：感染症予防のため書面による報告・審議

- 血液ガス採取用シリンジの変更について
- BRCA 依頼方法変更のお知らせ

#### 7月：通常開催

- 凝固検査項目 FM 外注化について
- 大型連休の輸血用血液供給体制について
- 新型コロナウイルス抗原検査用綿棒の変更について

#### 9月：感染症予防のため書面による報告・審議

- HIV 抗原 / 抗体迅速検査中止について（IC法）
- CK-MB 院内測定開始のお知らせ
- 外注検査変更について

## 10月：通常開催

- 医療機能評価およびISO15189で求められるパニック値連絡の手順について
- 凝固機能検査における追加受託の許容時間について

## 11月：通常開催

- EGFR遺伝子変異解析v.2.0検査結果について
- 前回の適正化委員会について
- 血小板第4因子(PF4)の予約検査移行について
- 保存検体の保管期間について

## 12月：通常開催

- 肺機能データ誤報告について
- proGRP、シフラの院内検査化について
- 2021年度年末年始業務について

## 2022年

## 2月：通常開催

- ケトン(3HB)測定機器変更予定のお知らせ
- 血液標本から疑う血液造血管腫瘍の対応について
- 2021年度日臨技臨床検査精度管理調査の結果報告

## 3月：通常開催

- Baby-Gulの中止について
- 風疹抗体検査試薬の変更について
- ケトン(3HB)測定機器変更予定のお知らせ(追記)
- 外注検査内容変更のお知らせ
- HIV確認検査変更のお知らせ
- EGFR遺伝子変異一席報告方法変更のお知らせ
- 2022年2月16日 医局会病理検査に関する注意点について
- COVID-19関連検査の感度について
- PCR検査運用について
- 令和3年度第55回医師会臨床検査精度管理調査について

## 診療録管理委員会

委員長 石田和史

## 1. 設立主旨

診療情報管理業務の円滑な運営のため、診療情報管理および診療記録に関する事項を検討・討議することを目的として、診療録管理委員会が設立されました。

## 【診療録管理委員会の構成】

オブザーバー：病院長、事業局長、看護部長、  
委員長：医師

委員：医師5名、薬剤師1名、看護師4名  
事務部門2名、診療情報管理士2名(計18名)

## 2. 主な活動内容

## &lt;退院時サマリ2週間以内記載率&gt;

診療録管理体制加算1を取得しており、要件の1つである退院後2週間以内のサマリ記載率90%以上を維持するため、毎週医師への記載依頼を行っています。

また、委員会・医局会への報告、院内ホームページへの掲載など普段から目に触れる機会を増やし、記載状況の把握や記載について意識してもらうための積極的な活動を行っています。

## 診療科別 退院時サマリ2週間以内記載率

2021年4月～2022年3月退院分 13,195人(転科を含む)

診療科	2週間以内記載率	診療科	2週間以内記載率
総合診療科	100.0%	呼吸器外科	99.7%
呼吸器内科	97.0%	心臓血管外科	99.6%
循環器科	92.7%	皮膚科	100.0%
腎臓内科	99.1%	泌尿器科	99.9%
糖尿病代謝内科	91.4%	産婦人科	100.0%
消化器内科	99.2%	眼科	93.9%
小児科	100.0%	耳鼻咽喉科	98.9%
外科	99.1%	放射線治療科	100.0%
整形外科	98.9%	歯科口腔外科	100.0%
形成外科	98.6%	緩和ケア科	
乳腺外科	99.1%	救急・集中治療科	100.0%
脳神経外科	95.2%		
平均科別2週間以内記載率			98.5%

### ＜質的監査、量的点検＞

質的監査は、医師同士で「日々の診療の判断材料の根拠となる診療情報」が正しく記載されているか監査を行っています。電子カルテと退院時サマリの監査を年3回ずつ、年間計6回行っています。今年度も監査を行い発生した問題点は委員会で話し合い、必要な場合は現場に赴き対応しています。また、新たな取り組みとして多職種による質的監査を開始しました。

量的点検は、医師による日々の経過が記載されているか確認を行っています。

監査および点検結果は、医師へ還元すると共に委員会・医局会でも報告し、診療録の改善を担っています。

### ＜量的監査＞

算定に基づいた必要な記載、書類が揃っているかを目的に全退院患者の監査を行っています。結果は関係部署へ配布すると共に、各部署に働きかけ改善に取り組んでいます。手術同意書・検査同意書は、主任部長会・医局会で院内ルールの見直しを行い、前年度と比較し不備が減少しました。他に、監査結果配布時には今後に役立ててもらうため、詳細を記載したものを添付しています。

### ＜その他の業務改善の内容＞

#### 同意書申請

- ・新規申請部数 7
- ・院外同意書確認部数<sup>\*</sup> 11

※院外で作成した全国的に使用している同意書の院内把握

現行の運用で生じる様々な問題点を委員会で検討し、業務の改善を図っています。

## 衛生管理委員会

委員長 松原 昭郎

労働安全衛生法第17条及び第18条に基づき衛生管理委員会を設置し、原則毎月1回委員会を開催しています。

### ＜衛生管理委員会構成メンバー＞

委員長：病院長

委員：産業医、診療部長3名、薬剤部長、臨床工学科長、臨床研究検査科長、放射線科長補佐、放射線科副主任、栄養科長、感染防止対策室科長、事務部長、施設資材課長、臨床研究検査科、看護科長（東4階）、看護科長（西4階）、看護科長（東7階）、看護科主任（西7階）、看護科主任（東3階）、健康管理課長、看護科（手術室）、栄養科、人事課長、人事課

オブザーバー：事業局長・看護部長・看護部副部長

### ＜2021年度の主な取り組み事項＞

#### 1. 過重労働対策について

職員の超過勤務時間を毎月調査し、委員会で報告しています。月に80時間以上の超過勤務があった職員に対し、産業医による面接指導の案内を文書で行っています。また当院の36協定における上限である月45時間以上超過勤務した職員数の報告も併せて行っています。

#### 2. 職員のメンタルヘルス対策について

職員に対し毎年1回ストレスチェックを実施する事が義務づけられており、8月にストレスチェックを実施しました。高ストレス者へは面接勧奨文書を発布して外部医師による面接の実施や部署ごとの集団分析結果の検証等を行い、職場環境改善に向けて検討しました。

また、当院の公認心理師によるメンタルヘルス相談、メンタルヘルス不調者や新採用職員（研修医・看護職員）等に対して面談を行っています。

#### 3. 感染症検査及びワクチン接種等の状況

職員の入職時に麻疹、風疹、水痘、ムンプス、

HBs 抗原・抗体検査、HCV 抗体検査を実施しています。B 型肝炎対策として、在職者および新入職者の中で必要かつ希望する者にワクチン接種を行いました。

さらにインフルエンザの流行に備えて、職員のうち希望者を対象に 10 月にインフルエンザワクチン接種を実施しました。職員の接種率は 85.6% となっています。

#### 4. 結核患者接触職員の対応について

結核患者に接触した職員の追跡として、事例があるごとに状況・検査結果・今後の検査予定等の報告をしています。また、結核患者接触のハイリスク部署の職員に対し、T スポット検査および年 2 回胸部 X 線検査を実施しています。

#### 5. 職員健康診断について

職員健康診断の受診率を向上させるため、健康管理課と対策を話し合い、各部署の所属長への声かけを積極的に行っています。その結果、職員健康診断の受診率は夏期が 98.6%、冬期が 96.9% と、昨年度に引き続き高水準を維持しています。また、パソコンの使用頻度が高い者（事務職員・臨床検査技師・診療放射線技師・画像診断部医師・検査科医師）に対し VDT（Visual Display Terminals）健康診断を、フィルムバッチ着用者を対象に電離放射線健康診断を実施しました。

#### 6. その他

作業環境測定（病理研究検査室・解剖室・滅菌保管室）を年に 2 回実施し、その結果を委員会で報告しています。結果は全て「適切である」となっています。

## 地域がん診療連携拠点病院運営委員会

委員長 佐々木 秀

### 1. 設立主旨

がんに関する自施設の診療機能や診療実績、地域連携に関する実績や活動状況の他、がん患者さんの療養生活の質について把握・評価し、課題認識を院内関係者で共有した上で、組織的な改善策を講じるためにがん診療連携拠点病院運営委員会を設置しています。

その他にも広島県がん診療連携協議会や評価・改善部会において、都道府県がん診療連携拠点病院や地域がん診療連携拠点病院等と情報共有や相互評価を行っています。

### 【地域がん診療連携拠点病院運営委員会の構成】

委員長：医師

副委員長：医師、看護師

委員：医師、看護師、薬剤師、診療放射線技師、管理栄養士、医療ソーシャルワーカー、事務等

### 2. 活動内容

がん診療連携拠点病院として、

- 集学的治療の提供体制
- 緩和ケアの提供体制
- 地域の医療機関との連携
- がん治療に関する専門的知識・技能を有する職員の配置
- がん相談支援センターの設置
- セカンドオピニオンの提示体制
- 院内がん登録
- がん医療に携わる医療従事者への研修体制

上記の体制をより一層推進するために院内外の調整及び広島県がん診療連携協議会へ参加し、国のがんに関する現状や今後の展開について情報収集を行い、広島西医療圏のがん拠点病院としての機能を果たすべく取り組みを行っています。

2021 年 4 月よりがんゲノム医療連携病院に指定されました。（がんゲノム医療拠点病院：広島大学病院）



## 輸血療法委員会

委員長 香山茂平

本年度も、輸血療法に関し安全性の確保ならびに適正使用の促進に向けた取り組みを行いました。(6回開催うち書面決議3回)

月別の診療科別輸血製剤使用単位数・アルブミン使用量報告、院内輸血マニュアルや輸血関連業務の運用の見直しについて継続的に審議しました。輸血療法に伴うインシデント事例は昨年同様、医療安全管理室と連携し、内容・発生要因・改善策について検討を行いました。

### 【今年度の主な取り組み】

- ・製剤使用単位数報告・廃棄単位数報告
- ・輸血副反応報告・事例検証報告
- ・アルブミン製剤使用分析
- ・輸血製剤・特定生物由来製品の適正使用の検討
- ・院内輸血療法マニュアル一部改訂および周知徹底
- ・輸血関連インシデントレポート

### 【院内合同研修会】

コロナウイルス蔓延防止対策により中止となりました。

昨年度に引き続き、輸血製剤の使用状況より集計分析等で適正使用に向け取り組み、輸血管理料・輸血適正使用加算の値を満たすことができました。今年度はコロナウイルス蔓延防止対策として、やむを得ず委員会の開催が書面決議となることもありましたが、院内輸血療法マニュアルおよび同意書の一部改訂など輸血関連業務の運用見直しを行い、院内への周知徹底に努めました。

来年度も、輸血製剤・特定生物由来製品が適正に使用されているかを検討し、各診療科へフィードバックしていきます。また、廃棄血につきましては今後も削減に向けて取り組みます。

2021年度 輸血用製剤 使用単位数・廃棄単位数・廃棄率

製剤名	使用単位数	廃棄単位数		使用単位数合計	廃棄率
Ir-RBC-LR2	3244	92	RBC	3244	2.7%
Ir-WRC-LR2	0	0			
FFP-LR240	566	8	FFP	566	1.3%
FFP-LR480	0	0			
Ir-PC-LR5	25	0	PC	1980	2.0%
Ir-PC-LR10	1910	40			
Ir-PC-LR15	15	0			
Ir-WPC-LR	30	0			

2021年度 自己血使用数・廃棄数

科別	貯血単位数	使用単位数	廃棄単位数
整形外科	36	24	12
産婦人科	4	2	2
合計	40	26	14

2021年度 特定生物由来製品使用状況

製 品	本 数
20% アルブミン	497
グロベニンI 2.5 g	14
グロベニンI 5 g	126
ケイセントラ静注用 1000	6
テタノブリン筋注 250 国際単位	48
ハプトグロビン静注	42
抗D人免疫グロブリン筋注	0
乾燥 HB グロブリン筋注	1
献血ノンスロン	48
フィプロガミンP	30
タコシール 3 × 2.5cm	96
タコシール 9.5 × 4.8cm	37
ベリプラス P 組織接着用 1ml	22
ベリプラス P 組織接着用 3ml	133
ベリプラス P 組織接着用 5ml	49
アブラキサン点滴静注 100mg	1014
5%アルブミン 250 ml	366

## 臨床研修委員会

委員長 西原礼介

臨床研修委員会は初期臨床研修医の充実した研修を実現するため、基本的臨床能力の獲得・向上の支援、学術活動や生活面・精神面のサポートなど行っています。

本年度も新型コロナウイルス肺炎蔓延のため、例年のような活動ができませんでした。

<院内研修>

- ・Early Bird Lecture：毎週火曜日午前7時15分

～8時 研修医のプレゼン、上級医のレクチャー

- ・オープンカンファレンス：毎月第3水曜日、研修医の症例発表
- ・基本的臨床能力評価試験（1月）

<セミナー開催>

- ・イブニングセミナー（3/15）（WEB開催）  
広島大学病院 脳神経内科 松原知康先生

<学術活動>

- ・第33回佐伯医学会総会（2月）発表 新山敏信、前田徳也、松原佑吾、横崎美遼、森田竣介、宮重直弥、吉岡勇人、小野倫枝、手嶋真里乃（敬称略）

<院外実習>

- ・地域医療研修（廿日市記念病院、吉和診療所、コールメディカルクリニック、日高徳洲会病院、やまと病院）
- ・精神科研修（草津病院、メープルヒル病院）
- ・ERアップデート 開催されず
- ・ハワイ大学 SimTiki 研修 参加なし

<研修医サポート>

- ・メンター制度：研修医1人ずつに上級医1人をメンターとして指名し、研修医のアドバイスやサポートを行う。
- ・臨床心理士との面接（7月）
- ・西原委員長との面接（9月、2月）
- ・臨床研修科 Facebook にて、研修医の活動を広く世界に紹介。

<学生勧誘>

- ・オールひろしま臨床研修病院オンライン合同説明会（2月）
- ・レジナビフェア 開催されず

<表彰>

- ・アカデミー学術賞研修医部門：折出ゆうか
- ・基本的臨床能力評価試験 優秀賞：新山敏信、前田徳也
- ・Early Bird Lecture 最多出席賞：横崎美遼、安村沙矢加
- ・研修医が選ぶベストオブ指導医：波多間浩輔医師



研修風景



マッチング試験

## 広報委員会

委員長 藤井 隆

### ◆設立の目的

院内における各部署の活動を院外に周知することを目的として設立されました。各部署についての詳細な業績集としては年報がありますが、タイムリーな話題の広報も必要です。そのための手段の1つが広報誌「せと」であり、もう1つが「ホームページ」です。この2つを作成・管理するのが本委員会です。

### ◆委員会活動

委員会は年3回、広報誌「せと」の発行時期に合わせて開催し、ホームページについても検討を行っています。

#### 1. 広報誌「せと」

病院広報誌である「せと」は年3回（新年号・

春夏号・秋冬号) 発行しています。短時間で気軽に目を通すことができる小冊子で、新年号では年始の病院長挨拶、春夏号と秋冬号では新任医師の紹介、院内のインフォメーション等を掲載しています。その他に診療科やメディカルスタッフ、チーム医療の紹介、看護科や医療福祉支援センターからのお知らせ、病院行事の案内や院内での出来事等をコンパクトにまとめて構成しています。

2021年は、春夏号でリアルタイムPCR装置について紹介しました。秋冬号では市民公開講座のオンデマンド配信の案内、市道総合病院連絡線の開通、新年号では日本赤十字広島看護大学の学生からいただいたクリスマスカードの紹介、正面玄関前駐車場の利用開始のお知らせについて掲載しました。各科紹介では耳鼻咽喉科・リウマチ膠原病科・歯科口腔外科・麻酔科・腎臓内科を紹介しました。

## 2. ホームページ

その時に応じた最新の話題や病院としてのイベント情報を盛り込んだトピックスを定期的に更新するように努めています。2022年1月より各部署が輪番制で記事の原稿を作成し、1か月に2回トピックスを更新しています。2022年1月は看護科と栄養科、2月は薬剤部と健康管理センター、3月は看護科と放射線科がトピックスを掲載しました。また、ホームページは毎年アクセス回数等の解析を行っています。2021年の4月から1年間のベスト10医療ニュースアクセスランキング(表1)に示します。時世を反映し、ランキング中に新型コロナウイルスに関するお知らせが2項目ランクインしました。

次に2020年度と2021年度の閲覧者数の推移(図1)を示します。2020年度に比べ今年度のホームページ閲覧者数は19%増加しました。新型コロナウイルスに関する情報や各診療科によって作成された医療ニュースを定期的に更新した結

果だと考えます。

今後はホームページ内の相互リンクを増やすことで使用しやすい形式を目指し、現在よりも多くの方々にアクセスしていただけるホームページにしていく所存です。

表1 医療ニュースアクセス数ランキング  
(2021年4月1日～2022年3月31日)

1	救急・集中治療科	お腹の痛みについて
2	麻酔科	気管挿管とビデオ咽頭鏡の導入
3	心臓血管外科	近年の大動脈瘤の治療(特にステントグラフト内挿術; TEVER・EVER)について
4	歯科口腔外科	多発するビスホスホネート製剤による顎骨壊死の情報です
5	ニュース・お知らせ	新型コロナウイルスに関する当院の対応
6	循環器内科	超悪玉コレステロールに関して
7	循環器内科	心筋梗塞とPCI/ステント治療
8	ニュース・お知らせ	当院職員からの新型コロナウイルス感染症発生について
9	眼科	最近の緑内障手術について
10	栄養サポートチーム(NST)	消化管を使うことの意味は?

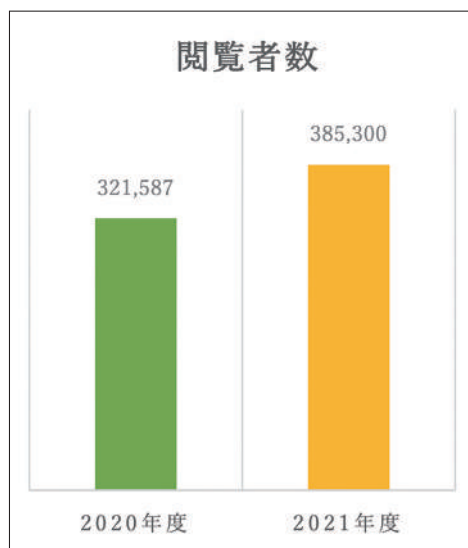


図1 当院のホームページ閲覧者数

## アカデミック委員会

委員長 渡 正 伸

### 1. 設立趣旨

当院の医療および医療学術活動の質をレベルアップし、院外研修や学会発表の奨励を行う目的で2010年に設立されました。

### 2. 活動内容

①学術奨励賞の設定 ②病院年報の充実 ③国内・国際学会発表、論文作成等、学術活動の活性化および支援活動 ④他施設との情報交換、人的交流の促進と支援です。

今年度は委員会を4回開催し、下記の事項について協議しました。

#### (1) 第12回ふれあいポスター展

2021年12月27日～2022年2月18日、各部署が趣向を凝らして作成したポスター46作品を院内に展示し、地域住民等から選出された5作品を表彰しました。

#### ◆表彰作品

賞	部門	部署
	最優秀賞	地域救命救急センター-外来
優秀賞	医局部門	呼吸器外科
	看護部門	西6階病棟
	コメディカル部門	栄養科
	チーム部門	認知症ケアチーム
	住民投票部門	栄養科

#### (2) 第12回アカデミー学術賞

学会・研究等において優れた論文を発表した職員を表彰しました。

#### ◆最優秀賞受賞者

部門	診療科	氏名
医局	外科	田崎 達也
	救急・集中治療科	櫻谷 正明
コメディカル	リハビリテーション科	本間 智明
	栄養科	森田 菜津美
研修医	臨床研修科	折出 ゆうか

#### (3) 国内・国際学会発表等の支援活動

学会への参加者等に「アカデミック研修費」を支給し、学術活動の支援を行っています。

#### ◆各診療科への支援状況

部署	件数
泌尿器科	4
整形外科	13
外科	10
糖尿病センター	2
乳腺外科	2
消化器内科	1
循環器内科	2
形成外科	1
救急・集中治療科	8
小児科	2
画像診断部	2
呼吸器内科	1
脳神経外科	1
合計	49

## クリニカルパス委員会

委員長 藤本佳史

### 1. 設立主旨

当院における良い医療、良い看護の提供ができ、社会生活復帰が適切な期間で可能となり、患者サービスの意識改革とレベルアップを図ることを目的にクリニカルパス委員会を設置しています。

#### 【クリニカルパス委員会の構成】

委員長：藤本佳史

副委員長：川村洋子

委員：石田和史、黒木一彦、辻山修司、山田清貴、大原正裕、杉山陽一、加藤昌生、小林平、古井良子、村中ひろみ、橋本佳浩、角井碧、山本加代子、河本良美、村上嘉章、下土居一、見島賢一、堤昂志、川村理美

#### 【行動目標】

- ◆患者さんが十分な説明を受け理解し、納得した医療を行える環境を作る
- ◆治療の開始と達成目標を明確にしたチーム医療を構築する
- ◆治療に関するすべての工程をチーム医療に関わるすべてのスタッフが確認する。
- ◆一定の治療レベルの質を確保し、教育の場も提供する

## 2. 活動内容

- クリニカルパスを作成する
- クリニカルパスを実践する
- クリニカルパスを評価する

2021年度より上記体制を一層強化すべく、改めてクリニカルパス作成方法の勉強会を実施し、パス作成から承認のフローを円滑にするために申請書類の見直し、担当者の配置、役割分担を明確にしました。

病院全体としてクリニカルパスの重要性を再認識し、医師・病棟看護師を中心に徐々にパス作成件数も増加しております。

また、定期的に作成したパスの適用率やバリエーション調査を行い、適用率の低い診療科に対してはヒアリングやクリニカルパス作成依頼、バリエーションが発生しているパスについてはアウトカムの修正等を促しております。

院内での理解が進んだことで2021年度パス適用率は39.7%となり、2020年度パス適用率35.8%に比べておよそ4%向上させることができました。

パス導入のメリットはチーム医療を可視化し、医療ケアを標準化するだけでなく、医療の質向上やスタッフの業務改善など多岐にわたります。

これからも引き続きスタッフ一同、クリニカルパスの理解を深め実践・評価を繰り返し、患者さんへ良質な医療を提供したいと思います。



## 著書・論文

### 循環器内科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
Factors Influencing Cardiac Sympathetic Nervous Function in Patients With Severe Aortic Stenosis: Assessment by 123I-Metaiodobenzylguanidine Myocardial Scintigraphy	Nitta K, Fukuda Y, Takahari K, Takeda A, Higashihara T, Morita Y, Watanabe N, Ikenaga H, Utsunomiya H, Ishibashi K, Kurisu S, Takahashi S, Awai K, Nakano Y	Heart, Lung and Circulation	May; 31: 671-677	2022

### 消化器内科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
当院における大腸悪性狭窄に対する内視鏡的ステント留置術の現況	石橋一樹 古土井明 進藤源太郎 山下未紗 趙 成大 野中裕広 藤本佳史 兵庫秀幸 相坂康之 徳毛宏則	日本農村医学会	2021年69巻5号 506-509	2021

### 外科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
後期研修医が執刀した、鼠径部ヘルニアに対する鼠径部切開法の短期成績	柴田祥之 田崎達也 新原健介 海気勇氣 岡本暢之 佐々木秀 香山茂平 杉山陽一 高橋信也 中光篤志	日本ヘルニア学会誌	7・1・9-15	2021
Laparoscopic transabdominal preperitoneal repair for recurrent groin hernia after failed anterior-posterior repair	Tazaki T, Sasaki M, Kohyama M, Sugiyama Y, Yamaguchi T, Takahashi S, Nakamitsu A	Asian Journal of Endoscopic Surgery	14・3・470-477	2021
抗血栓薬内服症例に対する緊急胆嚢摘出術の安全性の検討	岡本暢之 田崎達也 佐々木秀 新宅谷隆太 山口拓朗 香山茂平 杉山陽一 平野利典 高橋信也 中光篤志	広島医学	74・8・359-363	2021
It is not acceptable to injure external iliac vessels during a laparoscopic inguinal hernia procedure even if you have the skills to repair it laparoscopically.	Poudel S, Tazaki T.	Asian Journal of Endoscopic Surgery	15・2・476-477	2022
Current treatment strategies and future perspectives for gastrointestinal stromal tumors	Sugiyama Y, Sasaki M, Kohyama M, Tazaki T, Takahashi S, Nakamitsu A	World Journal of Gastrointestinal Pathophysiology	13・1・15-33	2022
A single surgeon's experience of 1000 consecutive transabdominal preperitoneal repair cases and measures to prevent recurrence	Tazaki T, Sasaki M, Kohyama M, Sugiyama Y, Yamaguchi T, Takahashi S, Nakamitsu A	International Journal of Abdominal Wall and Hernia Surgery	5・2・69-76	2022
腹壁ヘルニアに対する Mini- or Less-open Sublay Operation の導入	田崎達也 清戸 翔 佐々木秀 香山茂平 高橋信也 中光篤志	日本臨床外科学会雑誌	83・3・466-472	2022
Effects of Proximal Gastrectomy and Various Clinical Factors on Postoperative Quality of Life for Upper-third Gastric Cancer Assessed using the Postgastrectomy Syndrome Assessment Scale-45 (PGSAS-45): A PGSAS NEXT Study.	Kunisaki C, Yoshida M, Matsumoto S, Arigami T, Sugiyama Y, Akiyama Y, Oshio A, Nakada K.	Annals of Surgical Oncology	Jun; 29 (6): 3899-3908	2022
Distal gastrectomy for Symptomatic Stage IV Gastric Cancer Contributes to Prognosis with Acceptable Safety Compared to Gastrojejunostomy	Fujikuni N, Tanabe K, Hattori M, Yamamoto Y, Tazawa H, Toyota K, Tokumoto N, Hotta R, Yanagawa S, Saeki Y, Sugiyama Y, Ikeda M, Shishida M, Fukuda T, Okamoto K, Nishihara M, Ohdan H	Cancers	Jan 13; 14 (2): 388	2022

### 乳腺外科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
乳房温存術後放射線療法により生じた乳房皮膚血管肉腫の1例	折出ゆうか 佐々木達成 梶谷桂子 大原正裕 田中友里恵 梅田直樹 台丸 裕 川淵義治	広島医学	74 5 219-220	2021

## 著書・論文

## 整形外科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
脊椎のスポーツ診療のすべて 「腰椎椎間板ヘルニア」	山田清貴 井場和敏	日本医事新報社	p261-285	2022
Long-Term Outcome of Targeted Therapy for Low Back Pain in Elderly Degenerative Lumbar Scoliosis.	Yamada K, Nakamae T, Nakanishi K, Kamei N, Hiramatsu T, Okuda T, Hashimoto T, Ujigo S, Morisako T, Tsuchikawa Y, Maruyama T, Fujikui H, Adachi N, Shimbo T, Olmarker K, Fujimoto Y.	Eur Spine J	30 (7): 2020-2032	2021

## 呼吸器外科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
Transcription factor FOXF1 identifies compartmentally distinct mesenchymal cells with a role in lung allograft fibrogenesis.	Braeuer PR, Wal; er NM, Misumi K, et al.	J clin Invest.	131 (21): e147343.	2021 Nov. 1
Interleukin 6 trans-signaling is a critical driver of lung allograft fibrosis.	Wheeler DS, Misumi K, Walker NM, et al.	Am J Transplant.	21 (7): 2360-2371.	2021 Jul

## 心臓血管外科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
Prognostic Significance of Intraoperative Graft Flow in Distal Bypass on Long-Term Outcomes in Patients with Chronic Limb-Threatening Ischemia.	Kobayashi T, Hamamoto M, Okazaki T, Tomota M, Fujiwara T, Hasegawa M, Takahashi S	Annals of Vascular Surgery	82: 156-164	2022
Efficacy and Safety of Ultrasound-Guided Repeat Access and Repeat Closure With anExoSeal Vascular Closure System in Patients With Peripheral Arterial Disease.	Kobayashi T, Hamamoto M, Okazaki T, Tomota M, Fujiwara T, Yoshitomi Y, Takahashi S	Vascular Endovascular Surgery	56 (1): 24-28	2022
Does the Global Limb Anatomic Staging System Inframalleolar Modifier Influence Long Term Outcomes of Chronic Limb Threatening Ischaemia after Distal Bypass?	Kobayashi T, Hamamoto M, Okazaki T, Tomota M, Hasegawa M, Takahashi S	European Journal of Vascular and Endovascular Surgery	62 (4): 590-596	2021
Effectiveness of continuous unsupervised exercise therapy after above-knee femoropopliteal bypass.	Kobayashi T, Hamamoto M, Okazaki T, Honma T, Iba K, Harada T, Takahashi S	Vascular	29 (3): 387-395	2021
Effectiveness of combined superficial femoral artery endovascular therapy with popliteal-to-distal bypass: A paradigm shift in surgical open bypass for chronic limb-threatening ischemia.	Kobayashi T, Hamamoto M, Okazaki T, Hasegawa M, Fujiwara T, Takahashi S	Vascular	29 (6): 907-912	2021
Clinical Impact of Stent Graft Thrombosis in Femoropopliteal Arterial Lesions.	Ichihashi S, Takahara M, Iida O, Suzuki K, Yamaoka T, Maeda K, Tobita K, Kobayashi T, Nakama T, Shingaki M, Ozaki S, Akagi D, Soga Y, Iwakoshi S, Fujimura N, Kichikawa K.	JACC Cardiovasc Interv	14 (10): 1137-1147	2021
Open Abdominal Aortic Repair to Treat Perigraft Seroma after Endovascular Aortic Repair with Endologix AFX2 Endograft.	Ozawa M, Hamamoto M, Kobayashi T	Annals of Vascular Disease	14 (4): 411-414	2021
Early Clinical Outcomes of the Active Seal Technology of the AFX Endovascular Aortic Aneurysm System With VELA Cuff for Patients With a Conical Proximal Neck.	Fujimura N, Obara H, Nagano T, Ogawa Y, Kobayashi T, Ohmine T, Ozeki Y, Sakaguchi S, Yamaoka T, Ueda H, Sumi M, Taniguchi S, Ichihashi S	Journal of Endovascular Therapy	on line ahead DOI: 10.1177/1526602821107971	2022

## 眼科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
Responsiveness to ripasudil may be a potential outcome marker for selective laser trabeculoplasty in patients with primary open-angle glaucoma	Baba T, Hirooka K, Nii H, Kiuchi Y	Scientific Reports Nature-research	11・5812・1-17	2021
症例で学ぶ斜視・弱視の患者さん ②外斜視の患者さん	川地里佳	眼科ケア メディカ出版	300・197-216	2021



## 著書・論文

## 耳鼻咽喉科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
小児鼻腔逆生菌の1例	有木雅彦	広島医学別冊	Vol. 75 No. 6 270-273	2022

## 画像診断部

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
神経浸潤病変 IgG4 関連疾患、アミロイドーシスと悪性リンパ腫（神経リンパ腫症）	海地陽子 坂原朝子 森 拓也 東堀 遥 西原礼介 粟井和夫	臨床放射線・金原出版	Vol. 66 No. 11: 1279-1287	2021

## 麻酔科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
ICD-11 時代のペインクリニックー国際疼痛学会 (IASP) 慢性疼痛分類に学ぶ	森脇克之 大下恭子 堤 保夫	日本ペインクリニック学会誌	28 巻 6 号 91-9	2021
胆道閉鎖症手術後に超音波ガイド下傍脊椎ブロックを施行し術後早期の鎮痛を試みた新生児の一例	梶川陽子 田口志麻 加藤貴大 大下恭子 濱田 宏 堤 保夫	日本臨床麻酔学会誌	41 巻 1 号 47-53	2021
肩関節手術後の持続斜角筋間ブロック中に肺塞栓を併発した1例	片岡宏子 大下恭子 田口志麻 加藤貴大 濱田 宏 堤 保夫	日本臨床麻酔学会誌	41 巻 4 号 322-6	2021
肥大型閉塞性心筋症合併患者の足関節固定術の麻酔経験ー硬膜外麻酔と坐骨神経ブロックによる疼痛管理	福井晴香 大下恭子 原木俊明 加藤貴大 神崎理英子 野田祐子 濱田 宏 堤 保夫	麻酔	71 巻 1 号 91-5	2021
硬膜外自己血パッチが著効を示した小児の硬膜穿刺後頭痛の1症例	山口佳奈 大下恭子 中村隆治 濱田 宏 堤 保夫	麻酔	71 巻 2 号 139-41	2021
汎用 Macintosh 喉頭鏡ブレードに 3.9mm 細径カメラを装着したビデオ喉頭鏡・録画システムの試作	中尾正和 新澤正秀 本多亮子 村上俊介 石橋優和 河本佐誉子 佐々木陽子 宮地くる実 本池芹佳 満谷尚子 前 雄平 望月さや 渡辺るみ 原田 彩	麻酔・集中治療とテクノロジー	2021 巻 1 号 6-7	2021

## 救急・集中治療科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
Hepatic portal vein gas after the ingestion of household laundry bleach containing diluted hydrogen peroxide	Toshinori Maezawa	Acute Medicine & Surgery	2021 Sep 16; 8 (1): e697. doi: 10.1002/ams2.697.	2021
Clinical prediction scores and early anticoagulation therapy for new-onset atrial fibrillation in critical illness: a post-hoc analysis.	Sakuraya M, Yoshida T, Sasabuchi Y, Yoshihiro S, Uchino S.	BMC Cardiovasc Disord.	volume 21 • issue 1 • page 423	2021
Efficacy of non-invasive and invasive respiratory management strategies in adult patients with acute hypoxaemic respiratory failure: a systematic review and network meta-analysis.	Sakuraya M, Okano H, Masuyama T, Kimata S, Hokari S.	Crit Care.	volume 25 • issue 1 • page 414	2021
くも膜下出血後の脳血管攣縮と遅発性脳虚血	櫻谷正明	日本集中治療医学会雑誌	28 巻・6 号・509-519	2021
HFNC、NPPV	櫻谷正明	呼吸器ジャーナル	69 巻・4 号・605-613	2021
Q19 呼吸 ECMO 中の人工呼吸器設定はどのようにすべきか？・呼吸 ECMO のすべて Q&A	櫻谷正明	中外医学社	106-112	2021
ARDS の人工呼吸・「呼吸管理 FAQ 2022'23 ー研修医からの質問ー」	櫻谷正明	『救急・集中治療』	33 巻 4 号	2021
小児脳神経外科・The Neuro ICU book（翻訳）	櫻谷正明	メディカル・サイエンス・インターナショナル	581-610	2021
ここだけおさえて！グラフィックの見方・読み方	櫻谷正明	みんなの呼吸器 Respica・メディカ出版	1 号・29-35	2022
Accuracy evaluation of mainstream and sidestream end-tidal carbon dioxide monitoring during noninvasive ventilation: a randomized crossover trial (MASCAT-NIV trial).	Sakuraya M, Douno E, Iwata W, Takaba A, Hadama K, Kawamura N, Maezawa T, Iwamoto K, Yoshino Y, Yoshida K.	J Intensive Care.	volume 10 • issue 1 • page 17	2022

## 著書・論文

Review of: Effectiveness of amiodarone versus digitalis for heart rate control in critically ill patients with new-onset atrial fibrillation	Sakuraya M	Qeios	<a href="https://doi.org/10.32388/TRXOGB">https://doi.org/10.32388/TRXOGB</a>	2022
--	------------	-------	---	------

## 薬剤部

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
Linagliptin inhibits interleukin-6 production through toll-like receptor 4 complex and lipopolysaccharide-binding protein independent pathway in vitro model	Hiroshi Saito, Yuya Nakamura, Masahiro Inagaki, Shiho Yamadera, Hideo Misawa, Naoki Sato, Tatsunori Oguchi, Takae Inagaki, Yuya Tsuji, Mayumi Tsuji, Isao Ohsawa, Hiromichi Gotoh, and Yuji Kiuchi	Journal of Inflammation Research	14, 5681-5686	2021

## リハビリテーション科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
重症下肢虚血患者に対する下腿バイパス術後の歩行リハビリテーションが潰瘍治癒に及ぼす影響—後方視調査から考える—	本間智明 小林 平 長谷川美紗 井場和敏 小島輝久 高桑 翼 村上嘉章	日本フットケア・足病医学会誌	2・3・114-120	2021年

## 書籍・雑誌編集

### 外科

担当者	書籍・雑誌名	担当	巻・号 (Volume, number)	出版元
田崎達也	日本ヘルニア学会誌	査読 (学会誌委員)		
Tasuya Tazaki	Asian Journal of Endoscopic Surgery	査読		

### 心臓血管外科

担当者	書籍・雑誌名	担当	巻・号 (Volume, number)	出版元
濱本正樹	日本血管外科学会雑誌	③ (JSVS-D-21-00007)		Medical Tribune Inc.
濱本正樹	日本血管外科学会雑誌	③ (JSVS-D-21-00065)		Medical Tribune Inc.
濱本正樹	Annals of Vascular Diseases	③ (AVD-D-21-00013)		Medical Tribune Inc.
濱本正樹	Annals of Vascular Diseases	③ (AVD-D-21-00119)		Medical Tribune Inc.

### 麻酔科

担当者	書籍・雑誌名	担当	巻・号 (Volume, number)	出版元
中尾正和	日本臨床麻酔学会誌	査読		

### 救急・集中治療科

担当者	書籍・雑誌名	担当	巻・号 (Volume, number)	出版元
櫻谷正明	日本集中治療医学会雑誌	副編集委員長	2018年から現在	

### 病理診断科・病理研究検査科

担当者	書籍・雑誌名	担当	巻・号 (Volume, number)	出版元
高田 愛	広島臨床検査	編集	第10巻	一般社団法人広島県臨床検査技師会

### リハビリテーション科

担当者	書籍・雑誌名	担当	巻・号 (Volume, number)	出版元
井場和敏	脊椎のスポーツリハビリテーション	腰椎椎間板ヘルニア	P129-143	日本医事新報社

## 学会発表

## 呼吸器内科

演題	発表者名・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
肋間仮性動脈瘤破裂により血胸を来した von Recklinghausen 病の一例	発表者：近藤丈博 協同研究者：長谷川博司 中村貴志 大月鷹彦	第 61 回日本呼吸器学会 学術講演会	2021 年 4 月 23 ~ 25 日	WEB 開催
NPPV による CO2 コントロールが困難でハイフローセラピーにて経過を見た間質性肺炎の一例	発表者：近藤丈博	第 34 回非侵襲的換気療法研究会	2021 年 6 月 26 日	WEB 開催

## 循環器内科

演題	発表者名・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
Substrate への通電が有効であった unmappable AT の一例	渡邊義和 吉富勇輝 新田和宏 藤原敬士 莊川知己 前田幸治 辻山修司 藤井 隆	中四国不整脈学会地方会	2021 年 10 月 9 日	広島
経皮的冠動脈インターベンション中に生じた冠動脈大動脈解離を保存的に加療し得た一例	新田和宏 寺本知生 藤原敬士 渡邊義和 莊川知己 前田幸治 辻山修司 藤井 隆 濱本正樹	第 30 回日本心血管インターベンション治療学会 学術集会	2022 年 7 月 21 ~ 23 日	横浜・ハイブリッド
右冠動脈から生じた医原性大動脈解離を保存的に治療し得た一例	新田和宏 寺本知生 藤原敬士 渡邊義和 莊川知己 前田幸治 辻山修司 藤井 隆 濱本正樹	第 120 回日本循環器学会 中国・四国合同地方会	2022 年 5 月 28 ~ 29 日	広島

## 腎臓内科

演題	発表者名・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
透析患者の大腿骨近位骨折における在宅復帰に影響を与える因子の検討	山内崇宏 山本高嗣 村岡史朗 草野真琴 川岡孝一郎 寺元秀文 中島 歩 正木崇生	第 66 回日本透析医学会 学術集会	2021 年 6 月 4 ~ 6 日	横浜 / ハイブリッド
同居親族の存在は協働意思決定後から透析導入までの期間に影響を与えるか	山内崇宏 山本高嗣 村岡史朗 草野真琴 川岡孝一郎 中島 歩 正木崇生	第 64 回日本腎臓学会学術総会	2021 年 6 月 18 ~ 20 日	Web 開催
血液透析患者における抗菌薬関連脳症 (AAE) の 1 例	山村恒平 薬師寺諒 下田大紀 山内崇宏	第 125 回日本内科学会中国地方会	2021 年 11 月 6 日	Web 開催
カラードプラー法を用いた腎臓超音波検査によるフォローが有用であった急性巣状性細菌性肺炎の 1 例	薬師寺諒 山村恒平 下田大紀 山内崇宏	第 125 回日本内科学会中国地方会	2021 年 11 月 6 日	Web 開催

## 糖尿病代謝内科

演題	発表者名・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
CPT で追跡した糖尿病神経障害に対する ARI と DPP-4 阻害薬の 5 年間投与による神経線維別臨床効果の比較	石田和史 濱岡 彩 由田彩佳 山本祐太郎	第 64 回日本糖尿病学会 年次学術集会	2021 年 5 月 20 ~ 22 日	WEB 開催
肥満を有するインスリン治療患者における SGLT2 阻害薬併用の有効な臨床像を探る	由田彩佳 山本祐太郎 濱岡 彩 石田和史	第 64 回日本糖尿病学会 年次学術集会	2021 年 5 月 20 ~ 22 日	WEB 開催
インスリンデグルデクスの投与時間帯の変更は 1 型糖尿病患者の血糖変動パターンに如何なる影響を及ぼすか？	山本祐太郎 由田彩佳 濱岡 彩 石田和史	第 64 回日本糖尿病学会 年次学術集会	2021 年 5 月 20 ~ 22 日	WEB 開催
シスタチン C を用いた eGFR で評価した SGLT-2 阻害薬の 2 年間投与が腎機能へ与える影響の検討 ~ クレアチニンを用いた eGFR との違いは何か？ ~	濱岡 彩 山本祐太郎 由田彩佳 石田和史	第 64 回日本糖尿病学会 年次学術集会	2021 年 5 月 20 ~ 22 日	WEB 開催
糖尿病発症早期の神経機能異常に影響する高血糖以外の要因を探る	石田和史 平田久美子 由田彩佳 上野裕衣	第 59 回日本糖尿病学会 中国四国地方会	2021 年 10 月 22 ~ 23 日	岡山市・ハイブリッド
投与量の視点から検証した持効型インスリン製剤から IDeg/Lira への切り替えの有用性	上野裕衣 平田久美子 由田彩佳 石田和史	第 59 回日本糖尿病学会 中国四国地方会	2021 年 10 月 22 ~ 23 日	岡山市・ハイブリッド
SGLT2 阻害剤は高齢糖尿病患者の筋肉量を低下させるか？ ~ InBody を用いた検討	平田久美子 上野裕衣 由田彩佳 石田和史	第 59 回日本糖尿病学会 中国四国地方会	2021 年 10 月 22 ~ 23 日	岡山市・ハイブリッド

## 学会発表

## 消化器内科

演題	発表者名・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
Hot AXIOS system が有効であった感染性臍仮性嚢胞の1例	山下未紗 藤本佳史 平岡敬一 進藤源太郎 森 豪 吉福良公 趙 成大 野中裕広 古土井明 相坂康之	第125回内科学会中国地方会	2021年11月6日	広島市
メサラジン不耐症の一例	吉岡勇人 古土井明 山下未紗 平岡敬一 進藤源太郎 森 豪 吉福良公 趙 成大 野中裕広 藤本佳史 相坂康之	第32回佐伯医学会総会	2022年2月6日	廿日市市
ダビガトラン起因性食道炎の一例	平岡敬一 吉福良公 山下未紗 進藤源太郎 森 豪 趙 成大 野中裕広 藤本佳史 古土井明 相坂康之	第32回佐伯医学会総会	2022年2月6日	廿日市市

## 外科

演題	発表者名・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
年齢を考慮した女性鼠径部ヘルニアに対する治療方針・術式選択	田崎達也 佐々木秀 香山茂平 杉山陽一 埜越宏幸 山口拓朗 清戸 翔 岡本暢之 土井寛文 柴田祥之 中光篤志	第121回日本外科学会定期学術集会	2021年4月8～10日	WEB開催
閉塞性大腸癌に対する術前ステント治療の短期および中期的成績	香山茂平 佐々木秀 田崎達也 杉山陽一 埜越宏幸 山口拓朗 清戸 翔 土井寛文 岡本暢之 柴田祥之 石田聖幸	第121回日本外科学会定期学術集会	2021年4月8～10日	WEB開催
当院における大腸癌腹水細胞診陽性症例の検討	土井寛文 香山茂平 杉山陽一 石田聖幸 柴田祥之 山口拓朗 清戸 翔 土井寛文 埜越宏幸 田崎達也 佐々木秀 中光篤志	第121回日本外科学会定期学術集会	2021年4月8～10日	WEB開催
甲状腺癌の手術法と予後：1958年からの手術法の変遷と病理、TNM・Stage分類（UICC）、術後10年生存率の関係ー広島から	武市宣雄 土肥雪彦 野宗義博 奥道恒夫 田崎達也 伊藤利夫 安井 弥	第121回日本外科学会定期学術集会	2021年4月8～10日	WEB開催
TAPP法1000例1222病変の手術成績ー後半500例で何が変わったかー	田崎達也 佐々木秀 香山茂平 杉山陽一 埜越宏幸 山口拓朗 清戸 翔 土井寛文 中光篤志	第19回日本ヘルニア学会学術集会	2021年5月21～22日	WEB開催
ヘルニア門が小さな腹壁ヘルニアに対して、開腹での腹腔内メッシュ留置法は適切か	田崎達也 佐々木秀 香山茂平 杉山陽一 埜越宏幸 山口拓朗 清戸 翔 土井寛文 中光篤志	第19回日本ヘルニア学会学術集会	2021年5月21～22日	WEB開催
右肋弓下腹壁癒痕ヘルニアに対して、Ventralex STを用いて腹腔鏡補助下に修復した1例	田崎達也 佐々木秀 香山茂平 杉山陽一 埜越宏幸 山口拓朗 清戸 翔 土井寛文 中光篤志	第19回日本ヘルニア学会学術集会	2021年5月21～22日	WEB開催
Anterior preperitoneal repair 後再発に対する TAPP法は安全に施行可能である	田崎達也 佐々木秀 香山茂平 杉山陽一 埜越宏幸 山口拓朗 清戸 翔 土井寛文 中光篤志	第19回日本ヘルニア学会学術集会	2021年5月21～22日	WEB開催
若手外科医のための手術動画ギャラリー「TAPP法」	田崎達也	第19回日本ヘルニア学会学術集会	2021年5月21～22日	WEB開催
当科での腹壁癒痕ヘルニア修復術の治療成績	清戸 翔 田崎達也 佐々木秀 香山茂平 杉山陽一 埜越宏幸 山口拓朗 土井寛文 中光篤志	第19回日本ヘルニア学会学術集会	2021年5月21～22日	WEB開催
年齢を考慮した女性鼠径部ヘルニアに対する術式選択	土井寛文 田崎達也 佐々木秀 香山茂平 杉山陽一 埜越宏幸 山口拓朗 清戸 翔 土井寛文 中光篤志	第19回日本ヘルニア学会学術集会	2021年5月21～22日	WEB開催
当科における Persistent Descending Mesocolon を伴う左側大腸癌4症例の検討	柴田祥之 佐々木秀 香山茂平 田崎達也 杉山陽一 埜越宏幸 山口拓朗 岡本暢之 清戸 翔 中光篤志	第76回日本消化器外科学会総会	2021年7月7～9日	京都・ハイブリッド
TAPP	Tatsuya Tazaki	Laparoscopic Inguinal Hernia Repair Surgery Video Contest organized by ELSA	2021年9月1～30日	WEB開催
成人への LPEC 法適応拡大を考えるー成人において、LPEC 法の適応可能症例ほどの程度存在するかー	田崎達也 佐々木秀 香山茂平 杉山陽一 埜越宏幸 山口拓朗 河毛利顕 清戸 翔 田原俊哉 土井寛文 中光篤志	第83回日本臨床外科学会総会	2021年11月18～20日	東京・ハイブリッド

## 学会発表

2度の緊急開腹手術を施行した進行性骨化性線維異形成症の1例	岡本暢之 平野利典 香山茂平	田崎達也 新宅谷隆太 佐々木秀	柴田祥之 杉山陽一 中光篤志	第83回日本臨床外科学会総会	2021年11月18～20日	東京・ハイブリッド
転移リンパ節分布によるStage III 結腸直腸癌に対するオキサリプラチン併用補助化学療法の検討	埜越宏幸 佐々木秀 河毛利顕 田原俊哉	香山茂平 田崎達也 山口拓朗 土井寛文	中光篤志 杉山陽一 清戸翔	第76回大腸肛門病学会学術集会	2021年11月11～12日	広島・ハイブリッド
原発巣非切除で治療を開始したstage IV 大腸癌症例の検討—原発巣の転帰について—	香山茂平 杉山陽一 河毛利顕 土井寛文	佐々木秀 埜越宏幸 清戸翔 中光篤志	田崎達也 山口拓朗 田原俊哉	第76回大腸肛門病学会学術集会	2021年11月11～12日	広島・ハイブリッド
Laparoscopic transabdominal preperitoneal repair for recurrent groin hernia after failed anterior-posterior repair	Tatsuya Tazaki			16 <sup>th</sup> International Congress of the Asia Pacific Hernia Society	2021年10月28～31日	Changhai, China・ハイブリッド
当科で経験した残脾癌切除症例の検討	山口拓朗 田崎達也 河毛利顕 土井寛文	佐々木秀 杉山陽一 清戸翔 中光篤志	香山茂平 埜越宏幸 田原俊哉	第83回日本臨床外科学会総会	2021年11月18～20日	東京・ハイブリッド
後期研修医が執刀した、鼠径部ヘルニアに対する鼠径部切開法の短期成績	柴田祥之 香山茂平 山口拓朗 土井寛文	田崎達也 杉山陽一 岡本暢之 中光篤志	佐々木秀 埜越宏幸 清戸翔	第83回日本臨床外科学会総会	2021年11月18～20日	東京・ハイブリッド
経時的な画像フォローにより動脈瘤の改善を認めたSAMの1例	清戸翔 香山茂平 山口拓朗 土井寛文	杉山陽一 田崎達也 河毛利顕 中光篤志	佐々木秀 埜越宏幸 田原俊哉	第83回日本臨床外科学会総会	2021年11月18～20日	東京・ハイブリッド
自己免疫性溶結性貧血を合併した盲腸 MALT リンパ腫の1切除例	土井寛文 田原俊哉 山口拓朗 杉山陽一 中光篤志	香山茂平 清戸翔 埜越宏幸 佐々木秀	下村壮司 河毛利顕 田崎達也 壘丸裕	第83回日本臨床外科学会総会	2021年11月18～20日	東京・ハイブリッド
義歯による腸管気腫症の一例	森田峻介 田原俊哉 山口拓朗 香山茂平	土井寛文 清戸翔 埜越宏幸 佐々木秀	杉山陽一 河毛利顕 田崎達也 中光篤志	第83回日本臨床外科学会総会	2021年11月18～20日	東京・ハイブリッド
Pathophysiology and treatment of recurrent abdominal wall hernias — Utility of laparoscopic intraperitoneal onlay mesh repair —	Tatsuya Tazaki			15 <sup>th</sup> Asia-Pacific Congress of Endoscopic and Laparoscopic Surgeons of Asia	2021年11月18～20日	Hong Kong・ハイブリッド
初発内鼠径ヘルニアに対するTAPP法とTEP法の成績比較—TAPP法習熟後にTEP法に取り組む意義とは—	田崎達也 杉山陽一 河毛利顕 土井寛文	佐々木秀 埜越宏幸 清戸翔 中光篤志	香山茂平 山口拓朗 田原俊哉	第34回日本内視鏡外科学会総会	2021年12月2～4日	兵庫県神戸市・ハイブリッド
前立腺全摘後鼠径ヘルニアに対するTAPP法と鼠径部切開法の成績比較	田崎達也 杉山陽一 河毛利顕 土井寛文	佐々木秀 埜越宏幸 清戸翔 中光篤志	香山茂平 山口拓朗 田原俊哉	第34回日本内視鏡外科学会総会	2021年12月2～4日	兵庫県神戸市・ハイブリッド
腹壁ヘルニアに対するMILOS (Mini or Less open Sublay Operation)	田崎達也 香山茂平	清戸翔 杉山陽一	佐々木秀 中光篤志	第74回広島医学会総会	2021年11月14日	広島・ハイブリッド
腹腔鏡下鼠径部ヘルニア修復術TAPP法1000例1222病変の手術成績	田崎達也 杉山陽一 河毛利顕 土井寛文	佐々木秀 埜越宏幸 清戸翔 中光篤志	香山茂平 山口拓朗 田原俊哉	第32回佐伯医学会総会	2022年2月6日	廿日市
義歯による腸管気腫症の一例	森田峻介 清戸翔 山口拓朗 香山茂平	土井寛文 田原俊哉 埜越宏幸 佐々木秀	杉山陽一 河毛利顕 田崎達也 中光篤志	第32回佐伯医学会総会	2022年2月6日	廿日市
胆嚢十二指腸瘻孔を有する患者が胆石イレウスをきたした一例	宮重直哉 香山茂平 埜越宏幸 田原俊哉	清戸翔 杉山陽一 山口拓朗 土井寛文	佐々木秀 田崎達也 河毛利顕 中光篤志	第32回佐伯医学会総会	2022年2月6日	廿日市
The significance of postoperative adjuvant therapy for gastric cancer patients in 80 years and older	Yoichi Sugiyama, Koumo Toshiaki, Hirofumi Doi, Syunya Tahara, Sho Kiyoto, Takuro Yamaguchi, Hiroyuki Taogoshi, Tatsuya Tazaki, Mohei Kohyama, Masaru Sasaki, Atsuh Nakamitsu			第94回日本胃癌学会総会	2022年3月2～4日	神奈川県横浜市・ハイブリッド

## 学会発表

局所制御目的に卵巣切除を行った根治切除不能胃癌の一例	清戸 翔 杉山陽一 土井寛文 田原俊哉 河毛利顕 山口拓朗 埜越宏幸 田崎達也 香山茂平 佐々木秀 中光篤志	第 94 回日本胃癌学会総会	2022 年 3 月 2～4 日	神奈川県横浜市・ハイブリッド
A case of gastric cancer with portal vein thrombosis	Hirofumi Doi, Yoichi Sugiyama, Syunya Tahara, Sho Kiyoto, Koumo Toshiaki, Takuro Yamaguchi, Hiroyuki Taogoshi, Tatsuya Tazaki, Mohei Kohyama, Masaru Sasaki, Atsuh Nakamitsu	第 94 回日本胃癌学会総会	2022 年 3 月 2～4 日	神奈川県横浜市・ハイブリッド
最小限の腸管切除により短腸症候群を防止できた ileosigmoid knot の 1 例	宮重直弥 田原俊哉 河毛利顕 佐々木秀 香山茂平 高橋信也 中光篤志	第 186 回広島外科学会総会および第 42 回日本臨床外科学会広島県支部学術集会	2022 年 3 月 12 日	WEB 開催

## 乳腺外科

演題	発表者名・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
早期トリプルネガティブ乳癌における治療前の血清グロブリン値の意義	大原正裕 佐々田達成 梶谷桂子	第 29 回 日本乳癌学会総会	2021 年 7 月 1～3 日	WEB 開催
乳癌骨転移の治療戦略	佐々田達成 梶谷桂子 大原正裕	第 29 回 日本乳癌学会総会	2021 年 7 月 1～3 日	WEB 開催
BRCA1/2 遺伝子検査を施行した乳癌卵巣癌症例の検討と課題	梶谷桂子 佐々田達成 大原正裕	第 29 回 日本乳癌学会総会	2021 年 7 月 1～3 日	WEB 開催
乳房温存術後に発生した放射線誘発性血管肉腫の 1 例	折出ゆうか 梶谷桂子 佐々田達成 大原正裕 川淵義治	第 29 回 日本乳癌学会総会	2021 年 7 月 1～3 日	WEB 開催
コンパニオン診断として BRCA1/2 遺伝子検査・MSI 検査を施行した症例の検討	梶谷桂子 益田尚恵 佐々田達成 大原正裕 山本弥寿子	第 27 回日本遺伝性腫瘍学会学術集会	2021 年 6 月 18～19 日	WEB 開催

## 整形外科

演題	発表者名・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
手術治療を要した下位腰椎骨粗鬆症性椎体骨折の特徴 — 胸腰椎移行部椎体骨折との比較検討 —	山田清貴 橋本貴士 水野尚之 宇治郷諭 小野翔一郎 村上 欣 藤本吉範	第 50 回日本脊椎脊髄病学会学術集会	2021 年 4 月 22～24 日	京都市
高齢者腰椎変性側弯症の腰痛に対するターゲット療法	山田清貴 中前稔生 中西一義 亀井直輔 橋本貴士 平松 武 水野尚之 宇治郷諭 土川雄司 小野翔一郎 村上 欣 天野純子 安達伸生 藤本吉範	第 29 回日本腰痛学会	2021 年 10 月 22～23 日	東京都
骨粗鬆症性椎体骨折に対する BKP の治療戦略	山田清貴 橋本貴士 水野尚之 平松 武 宇治郷諭 土川雄司 小野翔一郎 村上 欣 藤本吉範	第 11 回最小侵襲脊椎治療学会	2021 年 10 月 29～30 日	東京都
脊髄鞘化におけるマイクロ RNA23 クラスターの役割	土川雄司 亀井直輔 味八木茂 中前稔生 森迫泰貴 原田崇弘 丸山俊明 安達伸生	第 36 回日本整形外科学会基礎学術集会	2021 年 10 月 14～15 日	伊勢市
MicroRNA23 クラスターは脊髄の鞘化を促進する	土川雄司 亀井直輔 味八木茂 中前稔生 森迫泰貴 原田崇弘 丸山俊明 安達伸生	第 50 回日本脊椎脊髄病学会学術集会	2021 年 4 月 22～24 日	京都市
腰椎椎間板ヘルニアに対する椎間板内酵素注入療法の治療成績	小野翔一郎 山田清貴 橋本貴士 水野尚之 宇治郷諭 村上 欣 藤本吉範	第 136 回中部日本整形外科学会・学術集会	2021 年 4 月 9～10 日	WEB 開催
腰椎椎間板ヘルニアに対する椎間板内酵素注入療法の治療成績	小野翔一郎 山田清貴 橋本貴士 水野尚之 宇治郷諭 土川雄司 村上 欣 藤本吉範	第 29 回日本腰痛学会	2021 年 10 月 22～23 日	東京都
脊髄硬膜動静脈瘻の治療経験	村上 欣 山田清貴 橋本貴士 水野尚之 宇治郷諭 土川雄司 小野翔一郎 藤本吉範	第 136 回中部日本整形外科学会・学術集会	2021 年 4 月 9～10 日	WEB 開催
高齢者腰椎変性側弯症：椎間孔狭窄に対する低侵襲治療の開発	宇治郷諭 山田清貴 平松 武 橋本貴士 水野尚之 小野翔一郎 村上 欣 中前稔生 亀井直輔 中西一義 安達伸生 藤本吉範	第 50 回日本脊椎脊髄病学会学術集会	2021 年 4 月 22～24 日	京都市

## 学会発表

高齢者腰椎変性側弯症における椎間孔狭窄に対する低侵襲治療	宇治郷諭 山田清貴 橋本貴士 水野尚之 平松 武 土川雄司 小野翔一郎 村上 欣 中前稔生 亀井直輔 中西一義 安達伸生 藤本吉範	第 29 回日本腰痛学会	2021 年 10 月 22 ~ 23 日	東京都
腰脊柱管狭窄症患者のバランス能力—術前後の比較—	宇治郷諭 山田清貴 橋本貴士 水野尚之 平松 武 土川雄司 小野翔一郎 村上 欣 岸 和彦 藤本吉範	第 29 回日本腰痛学会	2021 年 10 月 22 ~ 23 日	東京都
当院における大腿骨近位部骨折患者に対する骨粗鬆症治療率改善を目的としたアルゴリズム導入の結果	水野 尚之 山田清貴 橋本貴士 平松 武 宇治郷諭 土川雄司 小野翔一郎 村上 欣 藤本吉範 沖本信和	第 23 回日本骨粗鬆症学会	2021 年 10 月 8 ~ 10 日	WEB 開催

## 形成外科

演題	発表者名・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
眼瞼下垂症手術前の抗凝固・血小板薬休止における検討	長谷川美紗	第 65 回日本形成外科学会総会・学術集会	2022 年 4 月 20 ~ 22 日	大阪市

## 呼吸器外科

演題	発表者名・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
術前診断が困難であった胸腔無い巨大肉芽腫の一切除症例	三隅啓三	第 38 回呼吸器外科学会	2021 年 5 月 20 ~ 21 日	web 開催
原発性肺腺癌および扁平上皮癌における術後予後の違い	伊崎 悠	第 38 回呼吸器外科学会	2021 年 5 月 20 ~ 21 日	web 開催
術後有癆性膿胸に対して経鼻胃管栄養を用いた栄養強化療法をおこない保存的加療で治癒した二例	佐々井隆真	第 32 回佐伯医学会総会	2022 年 2 月 6 日	web 開催

## 心臓血管外科

演題	発表者名・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
Ranger, or not Ranger, —that is the question…	小林 平	日本血管外科学会	2021 年 5 月 19 ~ 21 日	名古屋市 ハイブリッド
困ってませんか? ~ CTO 病変~	小林 平	日本フットケア・足病医学会中国四国地方会	2021 年 9 月 4 日	WEB 開催
総大腿動脈慢性閉塞病変に対するウシ心膜パッチ形成を用いた内膜摘除術の短期成績	岡崎孝宣 小林 平 友田真由 濱本正樹	日本血管外科学会中国四国地方会第 51 回総会	2021 年 7 月 24 日	今治市 ハイブリッド
包括的高度慢性下肢虚血に対してウシ心膜パッチ形成を用いた総大腿動脈内膜摘除、大腿膝窩動脈バイパスおよび血管内治療を 1 期的に行った 2 例	岡崎孝宣 小林 平 友田真由 濱本正樹	第 62 回日本脈管学会総会	2021 年 10 月 14 ~ 16 日	札幌市 ハイブリッド

## 皮膚科

演題	発表者名・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
外陰部白板症に生じた疣状癌の 1 例	発表者：石田貴子 協同研究者：江川舞華 梅田直樹	第 149 回日本皮膚科学会 広島地方会	2021 年 8 月 29 日	広島市
基底細胞母斑症候群の 1 例	発表者：江川舞華 協同研究者：石田貴子 梅田直樹	第 149 回日本皮膚科学会 広島地方会	2021 年 8 月 29 日	広島市

## 泌尿器科

演題	発表者名・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
腹腔鏡下に修復した膀胱腔瘻の 1 例	加藤昌生 田坂晋作 藤井照護 上田晃嗣 松原昭郎	日本泌尿器科学会東部総会	2021 年 9 月 3 日	札幌市
腹腔鏡下に修復した膀胱腔瘻の 1 例	加藤昌生 田坂晋作 藤井照護 上田晃嗣 松原昭郎	日本泌尿器内視鏡学会総会	2021 年 11 月 11 日	横浜市
腹腔鏡下に修復した膀胱腔瘻の 1 例	加藤昌生 田坂晋作 藤井照護 上田晃嗣 松原昭郎	泌尿器科再建再生研究会	2021 年 6 月 5 日	広島市



## 学会発表

腹腔鏡下腎摘除術において術中ガス塞栓により脳梗塞を来した1例	上田晃嗣 加藤昌生	田坂晋作 松原昭郎	藤井照護	日本泌尿器科学会総会	2021年12月 8日	横浜市
厚生連広島総合病院における急性腎盂腎炎加療の状況	藤井照護 加藤昌生	田坂晋作 松原昭郎	上田晃嗣	日本泌尿器科学会中部総会	2021年10月 9日	名古屋市
尿路上皮癌に対するペンプロリズマブの治療成績と予後予測因子の検討	田坂晋作 加藤昌生	藤井照護 松原昭郎	上田晃嗣	西日本泌尿器科学会総会	2021年11月 5日	宮崎市

## 眼科

演題	発表者名・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
原発開放隅角緑内障におけるリバスジルはSLTの予後因子である	馬場太郎 廣岡一行 二井宏紀 木内良明	第125回日本眼科学会	2021年10月 6～27日	WEB開催
放射線治療が奏巧した甲状腺眼症の1例	河野竜馬	第294回広島眼科症例検討会	2021年10月 7日	広島市
マイクロフックトラベクロトミーの中長期成績	河野竜馬	第80回広島地方眼科学会	2021年11月 28日	広島市

## 耳鼻咽喉科

演題	発表者名・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
鼻腔内逆性歯の一例	有木雅彦 高本宗男 長 陽子	日本耳鼻咽喉科学会 第46回中国筋骨地方部会 連合学会	2021年7月 10～11日	広島市・ ハイブリッド

## 画像診断部

演題	発表者名・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
Strategies for not overlooking lesions during image reading works	海地陽子	第80回日本医学放射線学会総会	2021年4月 15～18日 (Web開催4月28日～6月3日)	横浜市
高悪性度腎粘液管状紡錘細胞癌の一例	森 拓也	第34回腹部放射線学会	2021年6月 19～20日	福岡市
当院で手術された脊髄腫瘍の画像的特徴とその比較	松島大地 西原礼介	第134回 日本医学放射線学会 中国・四国地方会	2021年6月 25～26日	山口市
COVID-19肺炎患者にTAEを施行した1例	前田徳也 西原礼介	第74回 広島医学会総会	2021年11月 14日	広島市
特発性の脾動脈破裂が胃に穿破した1例	坂原朝子	第135回日本医学放射線学会中国四国地方会	2021年12月 17～18日	高知市
COVID-19肺炎患者にTAEを施行した1例	前田徳也 西原礼介	第135回日本医学放射線学会中国四国地方会	2021年12月 17～18日	高知市
縦隔腫瘍の一例 (anastomosing hemangioma) 回答者	森 拓也	第4回中四国胸部画像研究会	2022年10月 31日	高松市

## 麻酔科

演題	発表者名・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
較正 (CAL) の有無にかかわらず、ロクロニウム投与からの自然回復過程での数1と2出現間隔から次のTOF3、TOF4の出現時間が予測できる	満谷尚子 中尾正和 新澤正秀 村上俊介 石橋優和 宮地くる実	日本麻酔科学会第68回 学術集会	2021年6月 3日～7月9日	WEB開催
低侵襲人工股関節全置換術の術後鎮痛法一問欠ボラス腰方形筋ブロックと持続硬膜外ブロックの比較	田口志麻 加藤貴大 大下恭子 森島智美 佐伯 昇 堤 保夫	日本麻酔科学会第68回 学術集会	2021年6月 3日～7月9日	WEB開催
肺動脈カテーテル挿入時の角度についての検討	宮地くる実 加藤貴大 三好寛二 野田祐子 堤 保夫	日本麻酔科学会第68回 学術集会	2021年6月 3日～7月9日	WEB開催
腹腔鏡下肝切除術後の亜急性期筋・筋膜性疼痛に超音波ガイド下トリガーポイント注射が著効した1症例	蜂須賀瑠美子 田口志麻 大下恭子 梅田絢子 神崎理英子 森脇克之 堤 保夫	第55回日本ペインクリニック学会年次総会	2021年7月 22～24日	富山

## 学会発表

The development of video recording gadgets for McGRATH™ MAC Video Laryngoscope with iPhone™	M Nakao, S Narasaki, M Ishibashi, S Kawamoto, R Honda, S Murakami, Y Sasaki, S Mochizuki, R Watanabe, A Harada, M Soutani, M Nakao	17th World Congress of Anesthesiologists	2021年9月1～5日	WEB開催
The TOF recovery interval from T1 to T2 can predict a spontaneous reappearance of T4 after administration of rocuronium	N Takeno, M Nakao, S Murakami, M Ishibashi, R Honda, S Kawamoto, H Sato	17th World Congress of Anesthesiologists	2021年9月1～5日	WEB開催
側弯症術後の帝王切開において超音波補助下に脊髄くも膜下麻酔を施行した一例	宮地くる実 新澤正秀 河本佐誉子 原木俊明 石橋優和 大下恭子	日本麻酔科学会中国・四国支部第58回学術集会	2021年9月4日～10月4日	WEB開催
レミマゾラムでの全静脈麻酔における覚醒過程、一般病院での開始半年でのラーニングカーブ	中尾正和 石橋優和 村上俊介 河本佐誉子 宮地くる実 本多亮子 大下恭子	第28回日本静脈麻酔研究会	2021年11月26～27日	福井
横隔神経麻痺を合併し呼吸不全を呈した帯状疱疹の一例	佐々木陽子 村上俊介 原木俊明 大下恭子	日本ペインクリニック学会第2回中国・四国支部学術集会	2022年2月19日	WEB開催

## 歯科口腔外科

演題	発表者名・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
パーキンソン病患者の自殺企図による舌咬傷の1例.	発表者：大井 尚志 協同研究者：島末 洋 原田 直	第66回日本口腔外科学会総会・学術大会	2021年11月12～14日	幕張メッセ

## 救急・集中治療科

演題	発表者名・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
Efficacy of non-invasive ventilation according to ventilation modes in adult patients with acute hypoxemic respiratory failure: A systematic review and network meta-analysis	M. Sakuraya, H. Okano, T. Masuyama, S. Kimata, S. Hokari	第34回欧州集中治療医学会学術集会	03-06 October 2021	WEB開催
Ventilation Induced Lung Injury	櫻谷正明	第43回日本呼吸療法医学会学術集会	2021年7月3～4日	横浜
敗血症患者の蘇生輸液量と非蘇生輸液量	櫻谷正明	第49回日本集中治療医学会・学術集会	2022年3月18～20日	WEB開催
重症患者における末梢静脈挿入式中心静脈カテーテル（PICC）の安全性について	前澤俊憲	第49回日本集中治療医学会・学術集会	2022年3月18～20日	WEB開催
非骨傷性頸髄損傷のため救急搬送され、心停止を繰り返したためVA-ECMOを導入して管理した一例	波多間浩輔	第49回日本集中治療医学会・学術集会	2022年3月18～20日	WEB開催
日本におけるPICS-Fの有病率：J-PICS研究より	高場章宏	第49回日本集中治療医学会・学術集会	2022年3月18～20日	WEB開催

## 病理診断科・病理研究検査科

演題	発表者名・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
消化器内科病棟におけるせん妄患者に対する看護師のケア対応の違い	発表者：正平由衣 協同研究者：村中美希 立石久子 森田敬子	第70回日本農村医学会学術集会	2021年10月6～27日	WEB開催

## 西7階病棟

演題	発表者名・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
消化器内科病棟におけるせん妄患者に対する看護師のケア対応の違い	発表者名：正平由衣 協同研究者名：村中美希 立石久子 森田敬子	第70回日本農村医学会学術集会	2021年10月6～27日	WEB開催

## 薬剤部

演題	発表者名・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
当院消化器内科におけるヒドロモルフォンの使用状況について	吉田 玲 磯貝明彦 橋本佳浩	令和2年度広島県病院薬剤師会研究会発表会	2021年12月5日	広島

## 学会発表

末梢動脈疾患患者への薬剤師によるポリファーマシー対策	向井一樹 1) 小林 平 2) 本間智明 2) 吉次紗也加 1) 橋本佳浩 1)	日本心臓リハビリテーション学会学術集会	2021年6月19～20日	LIVE配信 +オンデマンド配信
当院における椎弓切除術及び椎体固定術での術後感染予防抗菌薬変更に伴う影響についての調査	清上和也 角井 碧 小野塚和人 正島和美 山田清貴 橋本佳浩	第91回日本感染症学会 西日本地方会学術集会 第64回日本感染症学会 中日本地方会学術集会 第69回日本化学療法学会 日本支部総会	2021年11月5～7日	オンデマンド
薬剤師が患者救命に関わるために、患者介入のあり方を考える～臨床ガイドラインを読み解いて～	吉廣尚大	第31回日本医療薬学会 年会 メディカルセミナー	2021年10月10日	オンライン
廿日市地区および尾道地区の保険薬局薬剤師のがん診療病院連携研修に対する意識調査	平井俊明 栗原晋太郎 磯貝昭彦 橋本佳浩 堀川俊二 渡邊英晶	日本臨床腫瘍薬学会学術大会2022	2022年3月12～13日	LIVE配信 +オンデマンド配信
尾道地区保健薬局薬剤師における抗がん剤に関連した服薬指導実態の比較調査	栗原晋太郎 平井俊明 比良大介 橋本佳浩 堀川俊二 田辺ナオ 安保圭介	日本臨床腫瘍薬学会学術大会2022	2022年3月12～13日	LIVE配信 +オンデマンド配信
尾道地区保健薬局薬剤師に対する医療用麻薬服薬指導に関する2014年および2021年に行ったアンケート調査の比較検討	佐藤一求 平井俊明 栗原晋太郎 橋本佳浩 堀川俊二 田辺ナオ 安保圭介	日本臨床腫瘍薬学会学術大会2022	2022年3月12～13日	LIVE配信 +オンデマンド配信

実績

## 臨床研究検査科

演題	発表者名・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
血液検査室の診療への貢献	三舛正志 福岡達仁 藤井 隆 石田和史 下村壮司	第32回佐伯医学会総会	2022年2月6日	廿日市市
広島総合病院におけるSARS-CoV-2のPCR検査体制の構築	関 未来 村田竜也 岡田未来依 池田光泰 池部晃司 福岡達仁 碓井裕史	第70回日本農村医学会 学術総会	2021年10月6～27日	WEB開催
SARS-CoV-2 PCR検査体制の構築と取り組み	池田光泰 鹿嶋 聖 平井未来 村田竜也 岡田未来依 池部晃司 福岡達仁 藤井 隆 碓井裕史	第44回広島県農村医学 研究会	2022年2月	WEB開催
当院職員におけるSARS-Cov-2ワクチン接種後の抗体価についての検討	丸山恭平 小原健吾 村田達也 福岡達仁 碓井裕史	第61回日本臨床化学会 年次学術集会	2021年11月5～7日	福岡市
HbA1c測定における採血管の種類と遠心操作の影響	尾川 恵 丸山恭平 横山富子 長尾 専 福岡達仁 藤井 隆 石田和史	第32回佐伯医学会総会	2022年2月6日	廿日市市
Miltenberger 関連抗原に対する抗体を検出した妊婦の一症例	村田竜也 西浦和佳 大田祐美子 岡田未来依 荒瀬美幸 山本加代子 三舛正志 福岡達仁	中四国支部医学検査学会	2021年12月3日～2022年1月28日	WEB開催
血液凝固自動分析装置CP3000導入時妥当性の検証	大田祐美子 西浦和佳 村田竜也 岡田未来依 荒瀬美幸 山本加代子 三舛正志 福岡達仁	中四国支部医学検査学会	2021年12月3日～2022年1月28日	WEB開催
安全な輸血のための体制整備—指針やガイドラインに沿った体制整備するために 当院における取り組みについて	山本加代子	中四国支部医学検査学会	2021年12月3日～2022年1月28日	WEB開催
HBs抗原定量検査とHBV-DNA定量検査の乖離症例に対する調査	鹿嶋 聖 村田竜也 丸山恭平 大西真子 横山富子 長尾 専 福岡達仁	第70回日本医学検査学会	2021年5月15日～	WEB開催
SARS-CoV-2ワクチン接種における抗体検査試薬2社を用いた抗体価の比較検討	小原健吾 鹿嶋 聖 村田竜也 丸山恭平 大西真子 横山富子 長尾 専 福岡達仁	中四国支部医学検査学会	2021年12月3日～2022年1月28日	WEB開催

## 中央放射線科

演題	発表者名・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
消化器内科病棟におけるせん妄患者に対する看護師のケア対応の違い				

## 学会発表

## リハビリテーション科

演題	発表者名・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
デバイス植込み術後の生活上の課題とリハビリテーションによる COPM の変化	藤田 葵 渡邊義和 村上嘉章 折手祐一 黒木一彦	第 55 回日本作業療法学会	2020 年 9 月	web

## 感染防止対策室 (ICT)

演題	発表者名・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
COVID-19 病棟のそのひとらしさを重視する認知症高齢者への看護実践 ～感染対策と日常ケアの継続を支えるケア～	発表：大峯珠己 共同研究：平本廉昂 土井紘子	認知症		

# 学会での座長

## 循環器内科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
中四国不整脈学会地方会	渡邊義和		2021年10月9日	広島
第69回日本心臓病学会学術集会	荘川知己		2021年9月17～19日	米子市

## 小児科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第37回日本小児臨床アレルギー学会	辻 徹郎	一般演題	2021年5月31日～6月16日	WEB開催
第58回日本小児アレルギー学会学術集会	辻 徹郎	一般演題	2021年11月13～14日	横浜市・ハイブリッド

## 外科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第76回大腸肛門病学会学術集会	香山茂平	高齢者大腸癌3	2021年11月11～12日	広島・ハイブリッド
第34回日本内視鏡外科学会総会	田崎達也	腰ヘルニア	2021年12月2～4日	兵庫県神戸市・ハイブリッド
第32回佐伯医学会総会	杉山陽一	一般演題	2022年2月6日	廿日市市
9th Reduced Port Surgery Forum in Okinawa	田崎達也	若手セッション2	2022年2月4～5日	WEB開催
第94回日本胃癌学会総会	杉山陽一	一般演題	2022年3月2～4日	横浜・ハイブリッド

## 呼吸器外科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第32回佐伯医学会総会	三隅啓三	演題14-18	2022年2月6日	web開催

## 皮膚科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
秀道広教授退任記念 第150回日本皮膚科学会広島地方会	梅田直樹	一般演題3	2022年3月5日	広島市

## 麻酔科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
日本麻酔科学会中国・四国支部第58回学術集会	大下恭子	ペイン緩和・局所麻酔	2021年9月4日～10月4日	WEB

## 病理診断科・病理研究検査科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第70回日本医学検査学会	水野誠士	日臨技 品質保証施設認証制度	2021年5月16日	Web開催
2021年度日臨技臨床検査精度管理調査報告会	水野誠士	司会	2021年12月4日	千葉市

## 中央放射線科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第33回日本核医学技術学会中国・四国地方会	高畑 明	特別講演	2021年6月19日	広島市

## 研究会講演・発表

## 循環器内科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
廿日市地区循環器勉強会	当院の不整脈治療	渡邊義和	2021年9月27日	
広島県西部地区循環器勉強会	当院における不整脈治療の実際	渡邊義和	2021年7月14日	
広島市佐伯区学術講演会	抗血栓療法—今日この頃	辻山修司	2022年2月22日 web開催	広島市佐伯区医師会・バイエル薬品
佐伯区心不全懇話会	抗血栓療法—今日この頃	辻山修司	2022年3月2日 web開催	佐伯地区医師会・バイエル薬品
KANEKA Complex Conference	心原性肺水腫を伴う STEMI 症例	新田和宏	2021年8月20日 web開催	カネカメディックス
Saeki Clinician Group 講演会	心不全再考戦略	新田和宏	2021年8月31日 web開催	小野薬品工業
Physiology Conference in Hiroshima 2021	スタチン不耐の若年 OMI 症例	新田和宏	2021年9月27日 web開催	日本ライフライン
第14回日本心臓核医学会中国四国地区地域別教育研修会	スタチン不耐の若年 OMI 症例	新田和宏	2021年9月29日 web開催	
Lipid Frontier Meeting 2nd ~ From the perspective of a young cardiologist ~	small dense LDL-C を中心とした残余リスクについて	新田和宏	2021年11月6日 広島・ハイブリッド	興和株式会社
KANEKA Complex Conference	アプローチ困難な STEMI 症例	新田和宏	2022年1月7日 web開催	カネカメディックス
慢性心不全における病診連携講演会	心不全治療アップデート	新田和宏	2022年1月19日 web開催	大塚製薬
広島市佐伯区学術講演会	心不全 2.0 ~ シンプルな治療戦略 ~	新田和宏	2022年2月22日 web開催	広島市佐伯区医師会・バイエル薬品
佐伯区心不全懇話会	心不全 2.0 ~ シンプルな治療戦略 ~	新田和宏	2022年3月2日 web開催	佐伯地区医師会・バイエル薬品
Saeki Clinician Group 講演会	心不全治療の新しい潮流	荘川知己	2021年6月26日 web開催	小野薬品工業
広島県西部循環器研究会	ただの息切れ？身近に潜む肺高血圧症	荘川知己	2021年9月28日 web開催	ヤンセンファーマ
急性心不全における病診連携講演会	病診連携で診る急性心不全	荘川知己	2021年12月13日 web開催	大塚製薬

## 腎臓内科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
Kowa Web カンファレンス	腎臓病患者の高カリウム血症管理 ~ CKD 治療の忍容性を高めるために ~	山内崇宏	2022年1月18日 TKP ガーデンシティ駅前 大橋、広島市	興和製薬株式会社
佐伯地区クリニシャンズグループ学術講演会	保存期慢性腎臓病における腎性貧血治療	下田大紀	2022年3月16日 廿日市商工会議所	協和キリン

## 糖尿病代謝内科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第37回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	1) 検査が診断・治療に有用となった1型糖尿病の2例 2) 糖尿病診療に必要な検査を整理しましょう	1) 由田彩佳 2) 石田和史	2021年4月14日 廿日市市商工保健会館(広島県廿日市市)	広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会・広島県医師会糖尿病対策推進会議・サノフィ
Diabetes Web Conference	多彩になった経口血糖降下薬をどう使い分けるか？	石田和史	2021年6月11日 WEB開催	日本ペーリンガーインゲルハイム
第38回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	SGLT2 阻害薬投与が裏目に出た糖尿病症例	石田和史	2021年12月8日 廿日市市商工保健会館(広島県廿日市市)	広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会・佐伯地区医師会・広島県医師会糖尿病対策推進会議・MSD
第106回糖尿病を考える会研修会	糖尿病治療薬の作用機序を理解し、服薬指導に活かしましょう！	石田和史	2022年1月23日 WEB開催	NPO 島根糖尿病療養支援機構 糖尿病を考える会

## 研究会講演・発表

## 小児科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第15回関係者のための病弱児セミナー 子どもの喘息・アレルギー講演会	こどものアレルギー疾患 ～集団生活における対応に役立つ病態の理解～	辻 徹郎	2022年1月22日 広島市	主催：広島市、難病対策センター小児難病相談室 後援：広島県教育委員会、広島県

## 外科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第20回同門会研究報告会	抗血栓薬内服症例に対する緊急胆嚢摘出術の安全性の検討	岡本暢之 田崎達也 佐々木秀 香山茂平 杉山陽一 埜越宏幸 山口拓郎 中光篤志	2021年10月16日 広島大学病院・ハイブリッド	広島大学外科学
第20回同門会研究報告会	当院における大腸癌腹水細胞診陽性症例の検討	土井寛文 佐々木秀 香山茂平 杉山陽一 田崎達也 埜越宏幸 山口拓郎 清戸 翔 田原俊哉 中光篤志	2021年10月16日 広島大学病院・ハイブリッド	広島大学外科学
第56回広島内視鏡下外科手術研究会	当院での食道胃接合部癌に対する再建法～mSOFYの導入～	杉山陽一 河毛利顕 土井寛文 田原俊哉 清戸 翔 山口拓郎 埜越宏幸 田崎達也 香山茂平 佐々木秀 中光篤志	2022年1月7日 広島市・ハイブリッド	
第2回論文の書き方勉強会	私が考える「症例報告の書き方」	田崎達也	2022年2月7日 WEB開催	
第47回広島GISクラブ	当科における大腸憩室手術症例の検討	清戸 翔 香山茂平 佐々木秀 田崎達也 杉山陽一 埜越宏幸 山口拓郎 河毛利顕 田原俊哉 土井寛文 中光篤志	2022年3月18日 広島市・ハイブリッド	広島GISクラブ/ジョンソン・エンド・ジョンソン
	胃癌後方治療における薬剤選択と適切な切り替えタイミング	杉山陽一 土井寛文 田原俊哉 清戸 翔 埜越宏幸 山口拓郎 河毛利顕 田崎達也 香山茂平 佐々木秀 中光篤志	2021年8月27日 広島県・ハイブリッド	Gastric cancer forum in Hiroshima

## 乳腺外科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
2021年度第3回生涯教育講座	遺伝性腫瘍についてー遺伝性乳癌卵巣癌を中心にー	梶谷桂子	2021年11月17日 WEB開催	広島件臨床検査技師会

## 整形外科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
Spine Surgery and Osteoporosis Seminar in Hiroshima	骨粗鬆症性椎体骨折に対する手術療法	山田清貴	2021年11月8日 WEB開催	アムジェン株式会社、アステラス製薬株式会社
第8回大分運動器医療セミナー	腰椎変性側弯症に伴う慢性腰痛と骨髄浮腫	山田清貴	2022年3月26日 大分市・ハイブリッド	運動器医療ネットワーク おおいた、久光製薬株式会社
第93回西日本脊椎研究会	高度後側弯変形を呈した小児軟骨無形成症の1例	村上 欣	2021年5月28日 WEB開催	大正製薬株式会社
第52回中国地区脊椎研究会	背部痛を呈した一例	村上 欣	2021年8月28日 WEB開催	帝人ヘルスケア
第94回西日本脊椎研究会	脊髄硬膜動静脈瘤の治療経験	村上 欣	2021年11月13日 博多市	大正製薬株式会社
第53回中国地区脊椎研究会	小児髄内腫瘍の1例	土川雄司	2022年2月19日 WEB開催	帝人ヘルスケア

## 研究会講演・発表

第 237 回広島整形外科研究会	脆弱性仙骨骨折に対する経腸骨経仙骨スクリュー固定の治療経験	村上 欣	2022 年 3 月 19 日 広島市	第一三共株式会社
第 93 回西日本脊椎研究会	思春期特発性側弯症に対する後方矯正固定術の治療成績	宇治郷諭	2021 年 5 月 28 日 WEB 開催	大正製薬株式会社
	急性期病院における骨粗鬆症病診連携を目指して	水野尚之	2022 年 3 月 2 日 広島市	旭化成ファーマ

## 呼吸器外科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第 41 回 広島呼吸器外科カンファレンス	術前診断が困難であった胸腔内肉芽腫の一切除症例	佐々井隆真	2021 年 7 月 20 日 web 開催	

## 心臓血管外科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
LeMaitre Online Vascular treatment Educations	私の Distal bypass	小林 平	2022 年 1 月 18 日 WEB 開催	レメイト・バスキュラー合同会社
What Will Change Our (EVT) Practice?	ウシ心膜パッチ XenoSure は大腿動脈内膜摘除術と EVT の Daily Practice を変えるのか?	小林 平	2022 年 3 月 22 日 WEB 開催	ボストンサイエンティフィック株式会社
Shakespeare の会	静脈グラフト不全に対して DCB は有用か?	友田真由	2021 年 11 月 18 日 WEB 開催	Medtronic
第 66 回広島循環器病研究会	総大股動脈慢性閉塞病変に対するウシ心膜パッチ形成を用いた内膜摘除術の短期成績	岡崎孝宣	2022 年 12 月 11 日 広島市	トーアエイヨー

## 泌尿器科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
地域医療連携を考える会 ～安佐地区泌尿器疾患のマネジメント～	夜間頻尿、過活動膀胱の薬物療法	加藤昌生	2021 年 12 月 2 日 広島市	アステラス

## 耳鼻咽喉科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
大竹市医師会月例会	「当科における甲状腺腫瘍の取り扱い」	高本宗男	2022 年 2 月 18 日 WEB 開催	大竹市医師会主催・杏林製薬(株)後援

## 画像診断部

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第 368 回 広島放射線診断カンファレンス	逆生歯の 1 例	東堀 遥	2021 年 4 月 1 日 広島大学	
第 374 回 広島放射線診断カンファレンス	脊髄終糸症候群の 1 例	坂原朝子	2021 年 6 月 3 日 広島大学	
第 382 回 広島放射線診断カンファレンス	外傷性消化管穿孔の 1 例	森 拓也	2021 年 10 月 7 日 広島大学	
第 384 回 広島放射線診断カンファレンス	頭頸部の間隙について	坂原朝子	2021 年 10 月 21 日 広島大学	
広島県診療放射線技師会 第 2 回研修会	放射線診断医(私)はここを見ているー急性腹症編	西原礼介	2021 年 11 月 3 日 広島大学	広島県診療放射線技師会
GE ヘルスケアファーマ社内 招聘研修会	急性腹症 CT の私の読影法	西原礼介	2021 年 12 月 14 日 広島市	GE ヘルスケアファーマ
第 393 回 広島放射線診断カンファレンス	単形性上皮向性腸管 T 細胞リンパ腫の 1 例	村井智一	2022 年 2 月 3 日 広島大学	



## 研究会講演・発表

## 外来

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
日本脳神経看護研究学会	認定看護師活動報告「AIS 初期診療における時間短縮のための取り組み」	山崎克仁	2021年2月11日 ZOOM (Web)	日本脳神経看護研究学会 認定看護師活動推進委員会
日本脳神経看護研究学会 広島地方部会	脳神経ナースが知っておきたい画像の話	山崎克仁	2021年10月1～30日 YouTube (オンデマンド配信)	日本脳神経看護研究学会

## 薬剤部

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第8回しみず薬局 web 勉強会	抗がん剤を知ろう がん化学療法基礎編	平井俊明	2021年9月8日 しみず薬局	株式会社ドラッグしみず
広島 Biosimilar フォーラム	バイオシミラーの医薬品情報と選択のポイント	橋本佳宏	2021年9月27日 オンライン配信	広島病院薬剤師会・ファイザー株式会社
周術期管理実践セミナー in 中国四国エリア	早期離床を目指した鎮静管理を考える	吉廣尚大	2021年10月27日 オンライン配信	ファイザー株式会社
広島佐伯薬剤師会第225回集合研修会	緩和医療の連携に向けて 疼痛マネジメント	平井俊明	2021年11月25日 佐伯区民センター	広島佐伯薬剤師会

## 臨床研究検査科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
広島県臨床検査技師会 2020年度広島県臨床検査データ標準化事業報告会	2020年度臨床化学部門標準化事業報告1	丸山恭平	2021年5月29日 WEB開催	主催：広島県臨床検査技師会
HCV Elimination e-seminar in Hiroshima	当院の院内連携構築物語～HBV・HCVスクリーニング検査陽性編～	村田竜也	2021年10月19日 WEB開催	アッヴィ合同会社
ELIMINATION LEADERS CONFERENCE in nagasaki	検査室から働きかけた院内連携構築までの物語～HBs抗原・HCV抗体陽性患者拾い上げ編～	村田竜也	2022年3月9日 WEB開催	アッヴィ合同会社
2021年度第1回血液領域研修会	CBC測定装置を使いこなそう！～各メーカーの良いところ不満なところ～	岡田未来依	2021年6月5日 WEB開催	広島県臨床検査技師会
令和3年度第41回広島県臨床検査精度管理向上研修会	尿定性検査・一般フォトサーベイ	荒瀬美幸	2022年2月27日 WEB開催	広島県医師会・広島県臨床検査技師会
令和3年度第41回広島県臨床検査精度管理向上研修会	生理検査フォトサーベイ	霜津宏典	2022年2月27日 WEB開催	広島県医師会・広島県臨床検査技師会
令和3年度第41回広島県臨床検査精度管理向上研修会	微生物検査フォトサーベイ	池田光泰	2022年2月27日 WEB開催	広島県医師会・広島県臨床検査技師会

## 中央放射線科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
令和3年度(公社)広島県診療放射線技師会西部支部研修会	胸部X線を考える	田丸隆行	2021年8月22日 JA広島総合病院 WEB開催	(公社)広島県診療放射線技師会
診療放射線技師のためのフレッシューズセミナー	当直で役立つ救急CTを学ぼう	山口裕之	2021年8月29日 WEB開催	(公社)日本診療放射線技師会

## 栄養科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第4回重症患者栄養管理フォーラム	リフィーディング症候群・排便コントロールについて	八幡謙吾	2021年9月25日 WEB	ネスレ日本株式会社

## 研究会講演・発表

第38回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	コメディカルレクチャー「脂質異常症を合併した糖尿病の食事療法」	森田菜津美	2021年12月8日 廿日市市商工保健会館	広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会 MSD株式会社
広島県栄養士会令和3年度第3回医療事業部勉強会	褥瘡の栄養管理 ～栄養素の働きを理解しましょう～	八幡謙吾	2021年12月16日 WEB	広島県栄養士会

# 研究会座長

## 循環器内科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第6回心不全カンファレンス	荘川知己			2021年5月28日 web開催	大塚製薬
慢性心不全治療検討会	荘川知己	慢性心不全患者に対するイバ ブラジンの有効性と新しいガ イドラインでの位置づけ	國近英樹	2021年9月27日 web開催	小野薬品

## 腎臓内科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
広島西部で腎疾患を考える会	下田大紀	腎性貧血 NEXT STAGE	中山陽介	2021年9月7日 広島サンプラザ	協和キリン

## 糖尿病代謝内科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
WEB セミナー	石田和史	糖尿病患者さんのこれからの 治療を考える～あらたな注射 剤療法の実践～	坂出市立病院 糖尿病内科 部長 大工原裕之先生	2021年4月6日 WEB開催	サノフィ
明日から活かせる糖尿 病診療	石田和史	進化する糖尿病治療 ～基礎 と実臨床の観点から～	熊本大学大学院生命科学研究 部代謝内科学講座准教授 松村 剛先生	2021年6月24日 WEB開催	日本ベーリンガーイ ンゲルハイム
Expert Conference	石田和史	コロナで一変した糖尿病治療・ 指導のかたち ～エンバグリ フロジンの可能性と期待をこ めて～	愛媛大学総合健康センター 教授 古川慎哉先生	2021年7月9日 WEB開催	日本イーライリリー
Diabetes Online ～医 療情勢と新たな選択肢 から考える、これからの 糖尿病治療～	石田和史	1) バイオシミラー製剤の啓発 と病院経営を意識した薬剤 選択について 2) コロナ禍における当院の診 療と配合注射剤新規導入の 位置づけ ～患者さんと職 員を守るため～ いつやる の？	1) 宮崎大学医学部付属病院 薬剤部教授・薬剤部長 池田龍二先生 2) あやめ内科院長 綾目秀 夫先生	2021年7月16日 WEB開催	サノフィ
佐伯地区医師会学術講 演会	石田和史	糖尿病薬物療法を再考する～ Weekly GLP-1RA の活用～	二田哲博クリニック姪浜院 長 下野 大先生	2021年10月26日 廿日市市商工保健会 館(広島県廿日市市)	佐伯地区医師会・日 本イーライリリー・ 大日本住友製薬
ソリクア Webinar	石田和史	糖尿病患者さんのこれからの 治療を考える～あらたな注射 剤療法の実践～	坂出市立病院 糖尿病内科 部長 大工原裕之先生	2021年10月29日 WEB開催	サノフィ
Insulin Online Seminar	石田和史	新時代のインスリン治療と適 切な製剤の選び方	NTT 東日本札幌病院糖尿病 内分泌内科部長 永井聡先 生	2021年11月19日 WEB開催	日本イーライリリー
GLP-1 Update Meeting in Hiroshima	石田和史	セマグルチドによる GLP-1 療 法の新天地～当法人の症例か ら～	医療法人ユスタヴィア多摩 センタークリニックみらい 理事長 宮川高一先生	2022年1月27日 WEB開催	ノボルディスク ファーマ
佐伯地区医師会学術講 演会	石田和史	CKD 診療における早期診断・ 治療の重要性～ダバグリフロ ジンの新規エビデンス	香川大学医学部 循環器・ 腎臓・脳卒中内科学講師 祖父江理先生	2022年3月29日 廿日市市商工保健会 館(広島県廿日市市)	佐伯地区医師会・小 野薬品工業・アスト ラゼネカ

## 消化器内科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
佐伯地区医師会学術講 演会	相坂康之	慢性肝疾患におけるサルコペ ニアと垂鉛の関係	西川浩樹	2021年6月22日 廿日市市	佐伯地区医師会、 ノーベルファーマ
佐伯地区医師会学術講 演会	古土井明	逆流性食道炎と薬剤性胃粘膜 障害の話題	小野川靖二	2021年9月21日 廿日市市	佐伯地区医師会、大 塚製薬、武田薬品工 業

## 研究会座長

## 外科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
シームレスな在宅がん診療を考える会	田崎達也	緩和ケア病棟の診療	小原弘之	2021年12月10日 廿日市市	第一三共株式会社
第47回広島GISクラブ	香山茂平	一般演題「消化管良性疾患の治療経験」「治療に難渋した術後合併症」		2022年3月18日 広島市・ハイブリッド	広島GISクラブ/ ジョンソン・エンド・ジョンソン

## 整形外科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
安佐脊椎 online meeting	山田清貴	日本の医師免許で海外で働くー激動のミャンマー編ー	笠井裕一	2022年2月22日 WEB開催	旭化成ファーマ株式会社

## 心臓血管外科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
VIVA 広島	小林 平	一般演題	医師3名	2021年9月10日 広島市	ボストンサイエンティフィック株式会社
NEXT	小林 平	IN.PACT Admiral, only DCB for De Novo and ISR	藤村直樹	2021年11月5日 奈良県、ハイブリッド	日本メドトロニック株式会社
Shakespeare の会	小林 平	一般演題	医師3名	2021年11月18日 広島市	日本メドトロニック株式会社
広島 CLTI セミナー	小林 平	レオカーナへの期待	松本健吾	2021年12月3日 WEB開催	株式会社カネカメディックス

## 産婦人科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
西部地区産婦人科医学会 学術講演会	中西慶喜	婦人科における鉄欠乏性貧血の治療戦略	太田郁子	2022年3月10日 広島サンプラザ	西部地区産婦人科医学会、佐伯地区医師会、ゼリア新薬工業株式会社

## 画像診断部

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第66回広島IMR研究会	西原礼介	当院でのIMRの現状、ステントグラフト、血管拡張を中心に	佐藤友保	2022年3月18日 広島市	バイエル薬品

## 看護科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第32回佐伯医学会総会	村中好美	一般演題		2022年2月6日 廿日市市商工保健会館	一般社団法人 佐伯地区医師会

## 薬剤部

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
シームレスな在宅がん診療を考える会	磯貝明彦 田崎達也	訪問看護の実際について～痛みのアセスメントも含めて～	古本直子	2021年12月10日 佐伯区医師会館	第一三共株式会社

## 研究会座長

第15回広島がん薬物療法セミナー（基礎コース）	小暮友毅 堀橋賢吾	質の高い外来化学療法のために一病院薬剤師が出来ること、保険薬局薬剤師に託すことー安佐市民病院、胃癌レジメンにおける薬剤師のかかわりHER2陽性胃癌ー新たなエビデンスとマネジメントー	阪田安彦 坂井大介	古谷智裕	2021年11月20日 広島コンベンションホール	広島県病院薬剤師会、第一三共株式会社
広島感染制御薬剤師セミナー基礎コース	栗原晋太郎 角井 碧	環境由来の微生物に対する感染対策 日頃からの感染予防 薬剤師による感染制御と抗菌薬の適正使用	大毛宏喜 矢野貴久	大野公一	2021年4月17日 広仁会館	広島県病院薬剤師会、健栄製薬株式会社
	島田直実 平井俊明	気管支喘息 基礎的知識と最新の話題 吸入指導の極意 吸入指導エデュケーターによる指導法	岩本博志	前田大典	2021年4月17日 オンライン	広島県病院薬剤師会 薬剤業務委員会、杏林製薬株式会社

## 臨床研究検査科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
広島県臨床検査技師会 2021年度第1回生化学分析部門研修会	丸山恭平	コロナ関連 疫学的側面から	田中純子教授	2021年10月6日 WEB開催	共催：広島県臨床検査技師会、オーソ・クリニカル・ダイアグノスティクス株式会社

## 中央放射線科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社	
第19回広島国際フォーラム	山口裕之 秋里恭平	「頭部CT angiography における鎖骨下動脈の向上を可能にした生食後押し用のスパイラルフローチューブの有用性」 「超高精細CTによるCTAは従来の血管造影を凌駕し置換することは可能か？～0.25 isotropic data による血管内治療術前評価～」 「2層検出器CTによる穿通枝3DのDual energyを用いた造影剤低減限界の検討～ファントム実験～」	佐々木翼 富田博信	鷲塚冬記	2021年7月7日 Web配信	広島国際フォーラム バイエル薬品株式会社
令和3年度（公社）広島県診療放射線技師会西部支部研修会	山口裕之	「深層学習のDSAへの応用」	山本めぐみ	2021年8月22日 JA広島総合病院 Web配信併用	（公社）広島県診療放射線技師会	
（公社）広島県診療放射線技師会研修会令和3年度第2回研修会	山口裕之	「放射線診断（私）はここをみているー急性腹症編ー」	西原礼介	2021年11月3日 広島大学病院 Web配信併用	（公社）広島県診療放射線技師会	
（公社）広島県診療放射線技師会研修会令和3年度第3回研修会	山口裕之	「タスクシフト・シェアーによる診療放射線技師の業務以降の実際」	富田博信	2022年1月15日 TKP広島駅前大橋 Web配信併用	（公社）広島県診療放射線技師会	

## 栄養科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第35回NSTを本音で語る会	八幡謙吾	一般演題		2021年10月3日 アボットジャパン合同会社広島支社	共催：日本静脈経腸栄養学会、NSTを本音で語る会、株式会社クリニコ、アボットジャパン株式会社、ニューとリー株式会社、株式会社明治

## 地域活動

## 健康管理センター

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
新しい生活様式と活動力アップのススメ —コロナ禍でもからだを動かそう—	長田恵美子	JA 組合員女性部	2021年7月12日 JA 広島市久地南支店	JA 広島市	7名

## 中央放射線科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
レントゲン習慣イベント	山口裕之 大迫瑞季	市民	2021年11月28日 シャレオ中央広場	(公社) 広島県診療放射線技師会	300人

## 感染防止対策室 (ICT)

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
広島県感染症医療支援チーム派遣	平本廉昂	施設職員	2021年5月27日 有料老人ホームヴィラみずほ	感染症・疾病管理センター	
広島県感染症医療支援チーム派遣	平本廉昂	施設職員	2021年6月25日 西広島リハビリテーション病院	感染症・疾病管理センター	
リフレッシュ研修会 コロナ関連研修	平本廉昂	医療従事者	2021年7月4日 WEB開催	公益社団法人広島県看護協会廿日市支部	
広島県感染症医療支援チーム派遣	平本廉昂	施設職員	2021年7月21日 グループホームふきのとう	感染症・疾病管理センター	
高齢者福祉施設職員等講習	平本廉昂	医療従事者	2021年10月28日 WEB開催	広島県西部地域	
朝ごはん事業感染対策指導	平本廉昂	ボランティア職員	2021年11月5日 阿品台東小学校	NPO 法人広島感染症ネットワーク	
高齢者福祉施設職員等講習	平本廉昂	医療従事者	2021年12月7日 WEB開催	広島県西部地域	
広島県感染症医療支援チーム派遣	平本廉昂	施設職員	2022年1月20日 湯来まつむら	感染症・疾病管理センター	
広島県感染症医療支援チーム派遣	平本廉昂	施設職員	2022年1月20日 湯来保養園	感染症・疾病管理センター	
広島県感染症医療支援チーム派遣	平本廉昂	施設職員	2022年1月21日 松田病院	感染症・疾病管理センター	
広島県感染症医療支援チーム派遣	平本廉昂	施設職員	2022年1月21日 救護院	感染症・疾病管理センター	
広島県感染症医療支援チーム派遣	平本廉昂	施設職員	2022年1月26日 湯来まつむら	感染症・疾病管理センター	
広島県感染症医療支援チーム派遣	平本廉昂	施設職員	2022年2月3日 広島西医療センター	感染症・疾病管理センター	
広島県感染症医療支援チーム派遣	平本廉昂	施設職員	2022年2月10日 さいきせせらぎ園	感染症・疾病管理センター	
広島県感染症医療支援チーム派遣	平本廉昂	施設職員	2022年2月10日 広島西医療センター	感染症・疾病管理センター	
広島県感染症医療支援チーム派遣	平本廉昂	施設職員	2022年2月12日 さいきせせらぎ園	感染症・疾病管理センター	
広島県感染症医療支援チーム派遣	平本廉昂	施設職員	2022年2月12日 阿品土谷病院	感染症・疾病管理センター	
広島県感染症医療支援チーム派遣	平本廉昂	施設職員	2022年2月15日 阿品土谷病院	感染症・疾病管理センター	
広島県感染症医療支援チーム派遣	平本廉昂	施設職員	2022年2月17日 阿品土谷病院	感染症・疾病管理センター	
広島県感染症医療支援チーム派遣	平本廉昂	施設職員	2022年2月22日 佐伯中央病院	感染症・疾病管理センター	
広島県感染症医療支援チーム派遣	平本廉昂	施設職員	2022年2月24日 さいきせせらぎ園	感染症・疾病管理センター	
広島県感染症医療支援チーム派遣	平本廉昂	施設職員	2022年2月26日 廿日市記念病院	感染症・疾病管理センター	

## 地域活動

広島県感染症医療支援チーム派遣	平本廉昂	施設職員	2022年3月5日 ふれあいライフ原	感染症・疾病管理センター	
広島県感染症医療支援チーム派遣	平本廉昂	施設職員	2022年3月5日 廿日市ケアセンターそよ風	感染症・疾病管理センター	
広島県感染症医療支援チーム派遣	平本廉昂	施設職員	2022年3月5日 廿日市記念病院	感染症・疾病管理センター	
広島県感染症医療支援チーム派遣	平本廉昂	施設職員	2022年3月16日 廿日市ケアセンターそよ風	感染症・疾病管理センター	
広島県感染症医療支援チーム派遣	平本廉昂	施設職員	2022年3月17日 ソーシャルインクルホーム広島坪井	感染症・疾病管理センター	
社会福祉法人研修会	平本廉昂	施設職員	2022年3月23日 ハートインハウス	社会福祉法人くさのみ福祉会	
広島県感染症医療支援チーム派遣	平本廉昂	施設職員	2022年3月23日 ココファン廿日市	感染症・疾病管理センター	
広島県感染症医療支援チーム派遣	平本廉昂	施設職員	2022年3月30日 望海の里	感染症・疾病管理センター	

## 雑誌投稿・テレビ・ラジオへの出演

### 健康管理センター

提供者	テーマ・タイトル	出演、掲載物名	依頼社名	放送、掲載日
南浦美樹	大腸がん検診を受けましょう	こいぶみ	JA 広島市	2021年4月号
関 江里	+ 10 はじめてみませんか？	こいぶみ	JA 広島市	2021年5月号
長田恵美子	食中毒に注意しましょう	こいぶみ	JA 広島市	2021年6月号
秋元深雪	熱中症を予防しましょう	こいぶみ	JA 広島市	2021年7月号
南浦美樹	お口のケアで健康を保ちましょう	こいぶみ	JA 広島市	2021年8月号
関 江里	乳がん検診を受けてみませんか？	こいぶみ	JA 広島市	2021年9月号
生田佑子	がん検診を受けましょう	こいぶみ	JA 広島市	2021年10月号
長田恵美子	ゆっくり噛んで食べましょう	こいぶみ	JA 広島市	2021年11月号
秋元深雪	睡眠について悩んでいませんか	こいぶみ	JA 広島市	2021年12月号
南浦美樹	ノロウイルスについて	こいぶみ	JA 広島市	2022年1月号
関 江里	認知症	こいぶみ	JA 広島市	2022年2月号
生田佑子	花粉症とうまく付き合いましょ	こいぶみ	JA 広島市	2022年3月号
南浦美樹	大腸がん検診を受けましょう	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2021年4月号
関 江里	+ 10 はじめてみませんか？	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2021年5月号
長田恵美子	食中毒に注意しましょう	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2021年6月号
秋元深雪	熱中症を予防しましょう	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2021年7月号
南浦美樹	お口のケアで健康を保ちましょう	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2021年8月号
関 江里	乳がん検診を受けてみませんか？	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2021年9月号
生田佑子	がん検診を受けましょう	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2021年10月号
長田恵美子	ゆっくり噛んで食べましょう	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2021年11月号
秋元深雪	睡眠について悩んでいませんか	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2021年12月号
南浦美樹	ノロウイルスについて	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2022年1月号
関 江里	認知症	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2022年2月号
生田佑子	花粉症とうまく付き合いましょ	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2022年3月号

### 看護科

提供者	テーマ・タイトル	出演、掲載物名	依頼社名	放送、掲載日
藤本七津美	入退院支援と地域のネットワーク ～患者・家族・入退院支援そして地域との連携～	Web 講義	学研メディカルサポート	2021年9月1日～ 2022年3月31日



# 合同カンファレンス

## 糖尿病代謝内科

カンファレンス名	代表者	対象者	開催日・開催場所	共催・後援会社
第37回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	石田和史	広島県西部地区糖尿病診療に関わる医師・コメディカル (63名)	2021年4月14日 廿日市市商工保健会館 (広島県廿日市市)	広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会・広島県医師会糖尿病対策推進会議・サノフィ
第1回糖尿病療養支援スキルアップセミナー in Hiroshima	大久保雅通	広島県糖尿病診療に関わる医師・コメディカル (29名)	2021年9月11日 WEB開催	糖尿病療養支援スキルアップセミナーチーム in Hiroshima・日本イーライリリー・広島県医師会糖尿病対策推進会議
スペシャリストのためのインスリンオンラインセミナー	綿田裕孝 (順天堂大学大学院代謝内分分泌学教授)	全国の糖尿病専門医 (約1000人)	2021年12月1日 WEB開催	日本イーライリリー
第38回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	石田和史	広島県西部地区糖尿病診療に関わる医師・コメディカル (77名)	2021年12月8日 廿日市市商工保健会館 (広島県廿日市市)	広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会・佐伯地区医師会・広島県医師会糖尿病対策推進会議・MSD
シンポジウム：糖尿病患者が認知症を発症したとき医療者はなにを想うのか？	谷口晋一 (鳥取大学医学部地域医療学講座教授)	プライマリケア・糖尿病ケアに携わる医療者 (約60名)	2022年2月21日 WEB開催	鳥取大学医学部地域医療学講座

## 放射線治療科

カンファレンス名	代表者	対象者	開催日・開催場所	共催・後援会社
広島県がん診療従事者対象緩和ケア研修会	田崎達也 伊東 淳	医療者	2021年7月9日 当院	なし

## 栄養科

カンファレンス名	代表者	対象者	開催日・開催場所	共催・後援会社
第12回広島西地域連携研修会「栄養士の顔の見える交流会」	河本良美 土井千代美 水津美穂 磯部朋美 奥 悟	廿日市市・大竹市栄養士	2021年12月15日 あまのコミュニティプラザ LaLa	

## 感染防止対策室 (ICT)

カンファレンス名	代表者	対象者	開催日・開催場所	共催・後援会社
広島総合病院・院内感染予防に関する地域連携合同カンファレンス	渡 正伸	連携施設 ICT (8施設)	5月26日、7月7日、9月1日、11月24日 広島総合病院	
感染防止対策地域連携加算 ICT 相互チェック	渡 正伸	広島西医療センター	2021年12月23日 広島総合病院 (WEB開催)	

■ Annual Report 2021 2021年(令和3年)度 年報 ■

---

# クラブ活動



## 伯友会（ゴルフ同好会）

### ■ 活動報告

伯友会は昭和45年に活動を開始しています。大変歴史の長いゴルフ同好会です。年に3回の定期コンペと前夜の親睦会と翌日のコンペを行う1泊2日の地御前オープンが年間定例活動です。ゴルフを通して親睦を図ると共に、地域の医師会、歯科医師や薬剤師ともゴルフコンペを通じて交流を図り病診連携に貢献しています。

8月に小深田義勝先生退職に伴い、9月から画像診断部 西原礼介が幹事を務めています。

優勝 清水裕一（日本ライフライン）  
 準優勝 正島忠貴（総合医療相談室）  
 3位 小深田義勝  
 （OB、アマノリハビリテーション）

### ■ 2021年度の活動

#### 第180回 伯友会コンペ

7月4日 広島西カントリークラブ 19名参加

優勝 竹村秀和（日本新薬）

準優勝 兼見良典（OB、明海耳鼻科）

3位 光山豊文（OB）

#### 第181回 伯友会コンペ

9月23日 広島西カントリークラブ 17名参加

優勝 正島忠貴（総合医療相談室）

準優勝 長岡雄一（Ns）

3位 高野正義（Ns）

地御前オープン中止

新型コロナウイルス感染のため中止

#### 第182回 伯友会コンペ

11月27日 広島西カントリークラブ 8名参加

優勝 清水雄一（日本ライフライン）

準優勝 西原礼介（画像診断部）

3位 小深田義勝

（OB、アマノリハビリテーション）

#### 第183回 伯友会コンペ

3月19日 広島佐伯カントリー倶楽部 8名参加

※華道部、野球部、テニス部、サッカー部、フットサル部、  
バスケットボール部につきましては、新型コロナウイルス  
感染症の対応として2021年度は活動を自粛いたしました。





# 診療科別外来患者数

## 2021年度 月別外来患者数 (4~7月)

科 別	4月(診療日数 21日)				5月(診療日数 18日)			
	旧患	新患	計	1日当	旧患	新患	計	1日当
内科	5,707	690	6,397	304.6	4,829	549	5,378	298.8
(呼吸器内科)	747	92	839	40.0	691	59	750	41.7
(循環器内科)	1,055	181	1,236	58.9	870	131	1,001	55.6
(腎臓内科)	701	34	735	35.0	596	26	622	34.6
(糖尿病代謝内科)	1,397	101	1,498	71.3	1,153	88	1,241	68.9
(消化器内科)	1,639	224	1,863	88.7	1,342	177	1,519	84.4
(神経内科)	78	9	87	4.1	86	15	101	5.6
(緩和ケア科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(血液内科)	9	4	13	0.6	2	10	12	0.7
(総合診療科)	12	10	22	1.0	21	11	32	1.8
精神科	69	35	104	5.0	68	32	100	5.6
小児科	17	10	27	1.3	13	4	17	0.9
外科	567	72	639	30.4	496	69	565	31.4
乳腺外科	1,300	162	1,462	69.6	1,233	71	1,304	72.4
整形外科	493	65	558	26.6	456	24	480	26.7
形成外科	1,223	221	1,444	68.8	1,162	152	1,314	73.0
脳神経外科	265	27	292	13.9	229	24	253	14.1
呼吸器外科	670	82	752	35.8	446	39	485	26.9
心臓外科	266	32	298	14.2	230	163	393	21.8
皮膚科	524	37	561	26.7	404	23	427	23.7
泌尿器科	742	157	899	42.8	617	104	721	40.1
産婦人科	1,983	121	2,104	100.2	1,731	81	1,812	100.7
眼科	963	125	1,088	51.8	853	98	951	52.8
耳鼻科	711	52	763	36.3	689	31	720	40.0
治療科	553	180	733	34.9	478	153	631	35.1
麻酔科	633	23	656	31.2	546	19	565	31.4
救急・集中治療科	41	323	364	17.3	54	273	327	18.2
画像診断部	43	184	227	10.8	54	238	292	16.2
歯口腔外科	17	63	80	3.8	20	45	65	3.6
遺伝子診療部	566	172	738	35.1	499	130	629	34.9
計	0	0	0	0.0	0	1	1	0.1
栗谷診療所	17,284	2,798	20,082	956.3	15,039	2,291	17,330	962.8
合計	17,284	2,798	20,082	956	15,039	2,292	17,331	963

科 別	6月(診療日数 22日)				7月(診療日数 20日)			
	旧患	新患	計	1日当	旧患	新患	計	1日当
内科	5,700	696	6,396	290.7	5,547	722	6,269	313.5
(呼吸器内科)	833	77	910	41.4	810	86	896	44.8
(循環器内科)	1,000	154	1,154	52.5	967	160	1,127	56.4
(腎臓内科)	761	43	804	36.5	704	40	744	37.2
(糖尿病代謝内科)	1,208	93	1,301	59.1	1,275	92	1,367	68.4
(消化器内科)	1,702	226	1,928	87.6	1,583	256	1,839	92.0
(神経内科)	73	12	85	3.9	78	11	89	4.5
(緩和ケア科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(血液内科)	14	12	26	1.2	14	15	29	1.5
(総合診療科)	37	21	58	2.6	40	17	57	2.9
精神科	72	58	130	5.9	76	45	121	6.1
小児科	16	7	23	1.0	12	11	23	1.2
外科	528	81	609	27.7	597	97	694	34.7
乳腺外科	1,405	76	1,481	67.3	1,419	97	1,516	75.8
整形外科	556	29	585	26.6	504	29	533	26.7
形成外科	1,202	195	1,397	63.5	1,293	184	1,477	73.9
脳神経外科	271	24	295	13.4	243	36	279	14.0
呼吸器外科	473	50	523	23.8	437	59	496	24.8
心臓外科	301	28	329	15.0	261	34	295	14.8
皮膚科	506	27	533	24.2	466	24	490	24.5
泌尿器科	695	140	835	38.0	711	153	864	43.2
産婦人科	2,076	110	2,186	99.4	1,864	106	1,970	98.5
眼科	1,064	113	1,177	53.5	1,023	93	1,116	55.8
耳鼻科	709	42	751	34.1	768	36	804	40.2
治療科	574	175	749	34.0	536	169	705	35.3
麻酔科	672	19	691	31.4	531	42	573	28.7
救急・集中治療科	62	299	361	16.4	59	304	363	18.2
画像診断部	38	159	197	9.0	54	258	312	15.6
歯口腔外科	14	72	86	3.9	15	50	65	3.3
遺伝子診療部	522	190	712	32.4	505	160	665	33.3
計	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
栗谷診療所	17,384	2,532	19,916	905.3	16,845	2,664	19,509	975.5
合計	17,384	2,532	19,916	905	16,845	2,664	19,509	975

## 2021年度 月別外来患者数 (8~11月)

科 別	8月(診療日数21日)				9月(診療日数20日)			
	旧患	新患	計	1日当	旧患	新患	計	1日当
内科	5,519	712	6,231	296.7	5,570	624	6,194	309.7
(呼吸器内科)	834	97	931	44.3	841	61	902	45.1
(循環器内科)	956	152	1,108	52.8	1,025	117	1,142	57.1
(腎臓内科)	750	46	796	37.9	700	29	729	36.5
(糖尿病代謝内科)	1,285	83	1,368	65.1	1,199	81	1,280	64.0
(消化器内科)	1,502	263	1,765	84.0	1,584	261	1,845	92.3
(神経内科)	72	11	83	4.0	70	14	84	4.2
(緩和ケア科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(血液内科)	12	7	19	0.9	17	11	28	1.4
(総合診療科)	36	12	48	2.3	53	19	72	3.6
精神科	72	41	113	5.4	81	31	112	5.6
小児科	14	7	21	1.0	11	11	22	1.1
外科	678	87	765	36.4	577	71	648	32.4
乳腺外科	1,380	73	1,453	69.2	1,352	117	1,469	73.5
整形外科	525	34	559	26.6	441	61	502	25.1
形成外科	1,141	170	1,311	62.4	1,231	179	1,410	70.5
脳神経外科	250	23	273	13.0	230	22	252	12.6
呼吸器外科	413	79	492	23.4	389	81	470	23.5
心臓外科	286	109	395	18.8	288	70	358	17.9
皮膚科	422	24	446	21.2	484	23	507	25.4
泌尿器科	661	135	796	37.9	714	158	872	43.6
産婦人科	2,104	117	2,221	105.8	1,961	126	2,087	104.4
眼科	1,008	93	1,101	52.4	1,033	94	1,127	56.4
耳鼻科	813	56	869	41.4	711	49	760	38.0
治療科	519	181	700	33.3	653	163	816	40.8
麻酔科	555	23	578	27.5	567	21	588	29.4
救急・集中治療科	66	309	375	17.9	56	307	363	18.2
画像診断部	53	224	277	13.2	54	181	235	11.8
歯口腔外科	21	41	62	3.0	14	59	73	3.7
遺伝子診療部	532	187	719	34.2	572	147	719	36.0
計	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
栗谷診療所	16,960	2,684	19,644	935.4	16,908	2,564	19,472	973.6
合計	16,960	2,684	19,644	935	16,908	2,564	19,472	974

科 別	10月(診療日数21日)				11月(診療日数20日)			
	旧患	新患	計	1日当	旧患	新患	計	1日当
内科	5,842	760	6,602	314.4	5,639	731	6,370	318.5
(呼吸器内科)	806	100	906	43.1	819	97	916	45.8
(循環器内科)	1,065	169	1,234	58.8	1,038	149	1,187	59.4
(腎臓内科)	750	40	790	37.6	692	36	728	36.4
(糖尿病代謝内科)	1,231	76	1,307	62.2	1,213	81	1,294	64.7
(消化器内科)	1,765	289	2,054	97.8	1,558	282	1,840	92.0
(神経内科)	65	11	76	3.6	163	15	178	8.9
(緩和ケア科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(血液内科)	30	8	38	1.8	18	10	28	1.4
(総合診療科)	65	22	87	4.1	58	13	71	3.6
精神科	65	45	110	5.2	80	48	128	6.4
小児科	14	8	22	1.0	16	6	22	1.1
外科	562	59	621	29.6	561	62	623	31.2
乳腺外科	1,341	150	1,491	71.0	1,352	94	1,446	72.3
整形外科	536	28	564	26.9	475	24	499	25.0
形成外科	1,164	166	1,330	63.3	1,256	211	1,467	73.4
脳神経外科	252	31	283	13.5	314	25	339	17.0
呼吸器外科	388	62	450	21.4	415	84	499	25.0
心臓外科	278	32	310	14.8	280	21	301	15.1
皮膚科	531	30	561	26.7	493	23	516	25.8
泌尿器科	688	152	840	40.0	666	110	776	38.8
産婦人科	1,833	118	1,951	92.9	1,917	110	2,027	101.4
眼科	1,009	105	1,114	53.0	1,016	102	1,118	55.9
耳鼻科	742	51	793	37.8	748	62	810	40.5
治療科	597	189	786	37.4	508	157	665	33.3
麻酔科	593	28	621	29.6	717	57	774	38.7
救急・集中治療科	47	305	352	16.8	58	316	374	18.7
画像診断部	54	196	250	11.9	54	193	247	12.4
歯口腔外科	20	53	73	3.5	18	61	79	4.0
遺伝子診療部	529	162	691	32.9	505	159	664	33.2
計	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
栗谷診療所	17,020	2,685	19,705	938.3	17,008	2,608	19,616	980.8
合計	17,020	2,685	19,705	938	17,008	2,608	19,616	981



## 2021年度 月別外来患者数 (12~3月)

科 別	12月(診療日数21日)				1月(診療日数19日)			
	旧患	新患	計	1日当	旧患	新患	計	1日当
内科	5,749	804	6,553	312.0	5,119	634	5,753	302.8
(呼吸器内科)	829	105	934	44.5	702	82	784	41.3
(循環器内科)	1,011	167	1,178	56.1	921	141	1,062	55.9
(腎臓内科)	769	39	808	38.5	708	45	753	39.6
(糖尿病代謝内科)	1,200	99	1,299	61.9	1,288	103	1,391	73.2
(消化器内科)	1,696	303	1,999	95.2	1,294	195	1,489	78.4
(神経内科)	84	15	99	4.7	63	15	78	4.1
(緩和ケア科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(血液内科)	14	6	20	1.0	9	2	11	0.6
(総合診療科)	72	18	90	4.3	67	17	84	4.4
精神科	74	52	126	6.0	67	34	101	5.3
小児科	16	7	23	1.1	25	8	33	1.7
外科	651	49	700	33.3	486	67	553	29.1
乳腺外科	1,482	99	1,581	75.3	1,302	82	1,384	72.8
整形外科	519	40	559	26.6	454	40	494	26.0
形成外科	1,286	197	1,483	70.6	1,155	167	1,322	69.6
脳神経外科	309	34	343	16.3	257	24	281	14.8
呼吸器外科	412	97	509	24.2	324	67	391	20.6
心臓外科	291	20	311	14.8	251	259	510	26.8
皮膚科	501	30	531	25.3	449	23	472	24.8
泌尿器科	700	131	831	39.6	648	109	757	39.8
産婦人科	2,056	112	2,168	103.2	1,654	81	1,735	91.3
眼科	959	120	1,079	51.4	914	83	997	52.5
耳鼻科	840	66	906	43.1	640	48	688	36.2
治療科	635	188	823	39.2	493	106	599	31.5
麻酔科	640	31	671	32.0	564	25	589	31.0
救急・集中治療科	53	296	349	16.6	51	292	343	18.1
画像診断部	59	203	262	12.5	62	196	258	13.6
歯口腔外科	14	47	61	2.9	12	53	65	3.4
遺伝子診療部	559	142	701	33.4	475	156	631	33.2
計	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
栗谷診療所	17,731	2,713	20,444	973.5	15,335	2,520	17,855	939.7
合計	17,731	2,713	20,444	974	15,335	2,520	17,855	940

科 別	2月(診療日数18日)				3月(診療日数22日)			
	旧患	新患	計	1日当	旧患	新患	計	1日当
内科	5,026	577	5,603	311.3	5,838	760	6,598	299.9
(呼吸器内科)	694	72	766	42.6	825	67	892	40.5
(循環器内科)	878	132	1,010	56.1	1,062	173	1,235	56.1
(腎臓内科)	697	34	731	40.6	782	52	834	37.9
(糖尿病代謝内科)	1,135	74	1,209	67.2	1,366	84	1,450	65.9
(消化器内科)	1,407	186	1,593	88.5	1,557	295	1,852	84.2
(神経内科)	63	17	80	4.4	88	11	99	4.5
(緩和ケア科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(血液内科)	14	7	21	1.2	17	8	25	1.1
(総合診療科)	78	12	90	5.0	74	24	98	4.5
精神科	60	43	103	5.7	67	46	113	5.1
小児科	23	8	31	1.7	29	13	42	1.9
外科	491	49	540	30.0	720	81	801	36.4
乳腺外科	1,235	67	1,302	72.3	1,543	91	1,634	74.3
整形外科	472	30	502	27.9	511	29	540	24.5
形成外科	1,100	150	1,250	69.4	1,143	273	1,416	64.4
脳神経外科	282	28	310	17.2	343	23	366	16.6
呼吸器外科	372	59	431	23.9	492	55	547	24.9
心臓外科	308	14	322	17.9	357	21	378	17.2
皮膚科	390	35	425	23.6	534	32	566	25.7
泌尿器科	614	93	707	39.3	731	147	878	39.9
産婦人科	1,582	78	1,660	92.2	2,178	113	2,291	104.1
眼科	889	82	971	53.9	1,033	91	1,124	51.1
耳鼻科	670	35	705	39.2	691	42	733	33.3
治療科	465	141	606	33.7	676	150	826	37.5
麻酔科	649	12	661	36.7	680	23	703	32.0
救急・集中治療科	60	303	363	20.2	64	334	398	18.1
画像診断部	56	188	244	13.6	54	167	221	10.0
歯口腔外科	16	38	54	3.0	13	55	68	3.1
遺伝子診療部	484	148	632	35.1	548	144	692	31.5
計	0	3	3	0.2	2	0	2	0.1
栗谷診療所	15,184	2,138	17,322	962.3	18,180	2,644	20,824	946.5
合計	15,184	2,141	17,325	963	18,182	2,644	20,826	947

## 診療科別入院患者数

2021年度 月別入院患者数(4~7月)

科 別	4月(診療日数30日)				5月(診療日数31日)			
	入院	退院	計	1日当	入院	退院	計	1日当
内科	281	365	3,860	128.7	280	324	3,500	112.9
(呼吸器内科)	53	70	918	30.6	65	72	992	32.0
(循環器内科)	77	104	775	25.8	71	82	794	25.6
(腎臓内科)	20	37	540	18.0	21	29	466	15.0
(糖尿病代謝内科)	3	4	84	2.8	9	9	70	2.3
(消化器内科)	128	145	1,497	49.9	113	131	1,166	37.6
(神経内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(緩和ケア科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(血液内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(総合診療科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
精神科	0	5	46	1.5	1	1	12	0.4
小児科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
外科	23	25	104	3.5	20	18	86	2.8
乳腺外科	101	101	1,577	52.6	92	108	1,475	47.6
整形外科	22	24	172	5.7	17	21	132	4.3
形成外科	90	108	1,211	40.4	88	85	1,267	40.9
脳神経外科	3	3	40	1.3	4	3	61	2.0
呼吸器外科	20	41	675	22.5	26	36	578	18.6
心臓外科	33	33	507	16.9	19	27	368	11.9
皮膚科	33	36	632	21.1	29	29	595	19.2
泌尿器科	14	18	240	8.0	9	8	164	5.3
産婦人科	95	96	770	25.7	75	92	913	29.5
眼科	75	79	570	19.0	68	70	527	17.0
耳鼻科	27	27	94	3.1	26	22	77	2.5
治療科	29	33	207	6.9	31	35	247	8.0
麻酔科	2	1	44	1.5	1	2	37	1.2
救急・集中治療科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
画像診断部	149	53	465	15.5	136	39	394	12.7
歯口腔外科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
遺伝子診療部	7	5	49	1.6	2	4	52	1.7
計	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
栗谷診療所	1,004	1,048	11,217	373.9	923	923	10,473	337.8
合計	0	0	0	0	0	0	0	0

科 別	6月(診療日数30日)				7月(診療日数31日)			
	入院	退院	計	1日当	入院	退院	計	1日当
内科	289	317	3,578	119.3	256	330	3,506	113.1
(呼吸器内科)	46	69	775	25.8	32	46	669	21.6
(循環器内科)	60	59	669	22.3	65	83	718	23.2
(腎臓内科)	34	31	628	20.9	25	41	627	20.2
(糖尿病代謝内科)	4	5	96	3.2	2	7	68	2.2
(消化器内科)	143	150	1,386	46.2	129	149	1,378	44.5
(神経内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(緩和ケア科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(血液内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(総合診療科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
精神科	2	3	24	0.8	3	4	46	1.5
小児科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
外科	36	29	160	5.3	46	46	224	7.2
乳腺外科	89	105	1,367	45.6	91	85	1,276	41.2
整形外科	24	21	148	4.9	23	28	189	6.1
形成外科	100	113	1,397	46.6	111	121	1,511	48.7
脳神経外科	2	5	26	0.9	6	6	39	1.3
呼吸器外科	36	44	613	20.4	25	32	841	27.1
心臓外科	20	24	363	12.1	21	26	327	10.5
皮膚科	32	38	571	19.0	36	38	505	16.3
泌尿器科	11	12	164	5.5	5	11	184	5.9
産婦人科	89	102	663	22.1	78	86	553	17.8
眼科	75	64	619	20.6	80	81	637	20.5
耳鼻科	27	27	104	3.5	37	40	111	3.6
治療科	32	36	291	9.7	30	28	279	9.0
麻酔科	1	1	38	1.3	2	2	40	1.3
救急・集中治療科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
画像診断部	122	40	299	10.0	165	48	441	14.2
歯口腔外科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
遺伝子診療部	3	2	12	0.4	4	6	34	1.1
計	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
栗谷診療所	988	980	10,413	347.1	1,016	1,014	10,697	345.1
合計	0	0	0	0	0	0	0	0

## 2021年度 月別入院患者数 (8~11月)

科 別	8月(診療日数31日)				9月(診療日数30日)			
	入院	退院	計	1日当	入院	退院	計	1日当
内科	295	311	3,770	121.6	275	356	3,316	110.5
(呼吸器内科)	80	70	1,011	32.6	45	80	854	28.5
(循環器内科)	50	58	768	24.8	58	78	643	21.4
(腎臓内科)	19	35	526	17.0	21	25	368	12.3
(糖尿病代謝内科)	8	5	52	1.7	2	7	127	4.2
(消化器内科)	134	140	1,337	43.1	145	163	1,256	41.9
(神経内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(緩和ケア科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(血液内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(総合診療科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
精神科	4	3	76	2.5	4	3	68	2.3
小児科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
外科	36	40	133	4.3	28	32	146	4.9
乳腺外科	123	122	1,580	51.0	110	128	1,391	46.4
整形外科	22	22	134	4.3	24	23	194	6.5
形成外科	105	114	1,503	48.5	100	104	1,331	44.4
脳神経外科	5	6	31	1.0	6	4	57	1.9
呼吸器外科	25	36	850	27.4	37	43	962	32.1
心臓外科	26	22	323	10.4	23	24	394	13.1
皮膚科	24	23	374	12.1	33	29	573	19.1
泌尿器科	6	8	170	5.5	9	13	127	4.2
産婦人科	73	77	547	17.6	69	71	460	15.3
眼科	69	79	493	15.9	71	64	510	17.0
耳鼻科	30	28	94	3.0	30	23	87	2.9
治療科	43	48	410	13.2	37	38	392	13.1
麻酔科	0	1	39	1.3	1	2	38	1.3
救急・集中治療科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
画像診断部	138	57	479	15.5	119	39	381	12.7
歯口腔外科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
遺伝子診療部	6	6	34	1.1	6	3	36	1.2
計	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
栗谷診療所	1,026	1,000	10,964	353.7	978	996	10,395	346.5
合計	0	0	0	0	0	0	0	0

科 別	10月(診療日数31日)				11月(診療日数30日)			
	入院	退院	計	1日当	入院	退院	計	1日当
内科	281	305	3,185	102.7	278	303	3,392	113.1
(呼吸器内科)	37	44	701	22.6	46	52	784	26.1
(循環器内科)	72	76	679	21.9	65	62	596	19.9
(腎臓内科)	17	20	292	9.4	22	28	413	13.8
(糖尿病代謝内科)	2	3	115	3.7	2	7	110	3.7
(消化器内科)	152	157	1,370	44.2	140	152	1,476	49.2
(神経内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(緩和ケア科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(血液内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(総合診療科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
精神科	1	5	28	0.9	3	2	13	0.4
小児科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
外科	22	23	102	3.3	16	15	71	2.4
乳腺外科	102	113	1,318	42.5	105	111	1,311	43.7
整形外科	30	30	201	6.5	20	21	175	5.8
形成外科	105	118	1,408	45.4	110	126	1,428	47.6
脳神経外科	6	6	53	1.7	4	4	26	0.9
呼吸器外科	25	50	907	29.3	37	46	769	25.6
心臓外科	23	26	424	13.7	23	29	409	13.6
皮膚科	33	39	741	23.9	36	38	731	24.4
泌尿器科	10	14	165	5.3	11	12	166	5.5
産婦人科	91	100	486	15.7	84	89	512	17.1
眼科	75	87	614	19.8	70	58	483	16.1
耳鼻科	31	41	127	4.1	35	33	108	3.6
治療科	27	33	322	10.4	38	31	348	11.6
麻酔科	2	1	30	1.0	1	1	40	1.3
救急・集中治療科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
画像診断部	143	64	394	12.7	155	62	528	17.6
歯口腔外科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
遺伝子診療部	6	7	79	2.5	6	4	123	4.1
計	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
栗谷診療所	1,012	1,057	10,556	340.5	1,029	983	10,620	354.0
合計	0	0	0	0	0	0	0	0

## 2021年度 月別入院患者数 (12~3月)

科 別	12月(診療日数31日)				1月(診療日数31日)			
	入院	退院	計	1日当	入院	退院	計	1日当
内 科	283	366	3,594	115.9	291	309	4,000	129.0
(呼吸器内科)	56	77	889	28.7	72	75	1,105	35.6
(循環器内科)	52	62	674	21.7	70	73	828	26.7
(腎臓内科)	27	36	419	13.5	28	24	709	22.9
(糖尿病代謝内科)	6	10	122	3.9	4	6	117	3.8
(消化器内科)	141	176	1,444	46.6	116	128	1,217	39.3
(神経内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(緩和ケア科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(血液内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(総合診療科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
精 神 科	1	5	46	1.5	1	3	24	0.8
小 児 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
外 科	26	27	153	4.9	27	28	129	4.2
乳 腺 外 科	114	138	1,384	44.6	117	112	1,365	44.0
整 形 外 科	19	21	118	3.8	18	18	115	3.7
形 成 外 科	100	118	1,420	45.8	91	90	1,498	48.3
脳 神 経 外 科	6	6	26	0.8	1	2	20	0.6
呼 吸 器 外 科	35	50	706	22.8	37	39	807	26.0
心 臓 外 科	24	23	285	9.2	30	30	421	13.6
皮 膚 科	39	47	727	23.5	37	28	675	21.8
泌 尿 器 科	7	11	170	5.5	9	7	111	3.6
産 婦 人 科	79	89	570	18.4	76	78	609	19.6
眼 科	70	83	562	18.1	80	71	554	17.9
耳 鼻 科	29	31	90	2.9	28	25	90	2.9
治 療 科	29	41	306	9.9	27	32	246	7.9
麻 酔 科	2	2	20	0.6	0	1	16	0.5
救急・集中治療科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
画 像 診 断 部	145	43	409	13.2	141	40	546	17.6
歯 口 腔 外 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
遺 伝 子 診 療 部	7	10	81	2.6	7	6	56	1.8
計	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
栗 谷 診 療 所	1,014	1,106	10,621	342.6	1,017	916	11,258	363.2
合 計	0	0	0	0	0	0	0	0

科 別	2月(診療日数28日)				3月(診療日数31日)			
	入院	退院	計	1日当	入院	退院	計	1日当
内 科	264	327	3,477	124.2	245	290	3,651	117.8
(呼吸器内科)	63	68	926	33.1	63	87	1,131	36.5
(循環器内科)	58	73	681	24.3	52	62	727	23.5
(腎臓内科)	16	37	589	21.0	17	23	489	15.8
(糖尿病代謝内科)	6	8	115	4.1	2	6	107	3.5
(消化器内科)	119	139	1,138	40.6	110	111	1,187	38.3
(神経内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(緩和ケア科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(血液内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(総合診療科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
精 神 科	2	2	28	1.0	1	1	10	0.3
小 児 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
外 科	17	16	89	3.2	16	12	99	3.2
乳 腺 外 科	95	101	1,331	47.5	107	111	1,487	48.0
整 形 外 科	17	15	106	3.8	27	23	158	5.1
形 成 外 科	90	101	1,376	49.1	84	100	1,598	51.5
脳 神 経 外 科	3	3	22	0.8	8	6	41	1.3
呼 吸 器 外 科	34	43	673	24.0	24	44	765	24.7
心 臓 外 科	21	19	298	10.6	29	29	373	12.0
皮 膚 科	31	33	738	26.4	34	32	917	29.6
泌 尿 器 科	9	10	88	3.1	9	9	152	4.9
産 婦 人 科	74	73	602	21.5	84	86	646	20.8
眼 科	64	71	535	19.1	76	74	566	18.3
耳 鼻 科	30	30	94	3.4	20	19	60	1.9
治 療 科	36	38	243	8.7	35	34	278	9.0
麻 酔 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
救急・集中治療科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
画 像 診 断 部	144	49	530	18.9	129	52	541	17.5
歯 口 腔 外 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
遺 伝 子 診 療 部	4	6	20	0.7	6	5	37	1.2
計	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
栗 谷 診 療 所	933	935	10,222	365.1	933	926	11,369	366.7
合 計	0	0	0	0	0	0	0	0

# 患者数の推移

## 年度別外来患者数

科 別	平成30年度（診療日数244日）				平成31年度（診療日数240日）				令和2年度（診療日数244日）				令和3年度（診療日数243日）			
	旧患	新患	計	1日当	旧患	新患	計	1日当	旧患	新患	計	1日当	旧患	新患	計	1日当
内 科	60,811	9,827	70,638	289.5	59,494	9,452	68,946	287.3	63,512	8,294	71,806	288.8	66,085	8,259	74,344	305.9
精神科・心療内科	166	90	256	1.0	221	105	326	1.4	195	91	286	1.1	206	100	306	1.3
小 児 科	9,590	1,169	10,759	44.1	9,768	1,027	10,795	45.0	7,323	835	8,158	40.8	6,914	844	7,758	31.9
外科・乳腺外科	21,951	1,509	23,460	96.1	15,322	1,060	16,382	68.3	20,253	1,602	21,855	93.3	16,344	1,179	17,523	72.1
整 形 外 科	13,842	2,713	16,555	67.8	12,908	2,763	15,671	65.3	12,323	2,118	14,441	62.4	14,356	2,265	16,621	68.4
形 成 外 科	3,658	364	4,022	16.5	3,083	304	3,387	14.1	2,827	325	3,152	16.0	3,245	321	3,566	14.7
脳神経外科	11,291	1,825	13,116	53.8	11,984	1,779	13,763	57.3	11,107	1,504	12,611	62.3	5,231	814	6,045	24.9
呼吸器外科	3,211	420	3,631	14.9	3,372	350	3,722	15.5	3,340	554	3,894	16.3	3,397	803	4,200	17.3
心臓・血管外科	5,923	469	6,392	26.2	5,682	381	6,063	25.3	5,434	341	5,775	25.3	5,704	331	6,035	24.8
皮 膚 科	14,221	2,035	16,256	66.6	11,227	2,072	13,299	55.4	7,729	1,591	9,320	52.1	8,187	1,589	9,776	40.2
泌 尿 器 科	22,408	1,411	23,819	97.6	23,090	1,347	24,437	101.8	22,522	1,277	23,799	95.8	22,939	1,273	24,212	99.6
産 婦 人 科	12,599	1,420	14,019	57.5	12,348	1,233	13,581	56.6	12,026	1,247	13,273	57.8	11,764	1,199	12,963	53.3
眼 科	9,928	957	10,885	44.6	9,323	746	10,069	42.0	8,892	560	9,452	42.4	8,732	570	9,302	38.3
耳鼻咽喉科	6,783	2,523	9,306	38.1	6,932	2,673	9,605	40.0	5,862	1,753	7,615	39.0	6,687	1,952	8,639	35.6
放射線治療科	9,207	324	9,531	39.1	8,712	307	9,019	37.6	7,720	286	8,006	36.3	7,347	323	7,670	31.6
麻 酔 科	565	3,666	4,231	17.3	533	3,807	4,340	18.1	549	3,454	4,003	19.6	671	3,661	4,332	17.8
救 急 科	812	3,080	3,892	16.0	709	2,890	3,599	15.0	606	2,270	2,876	16.0	635	2,387	3,022	12.4
画像診断部	223	792	1,015	4.2	245	698	943	3.9	229	630	859	4.0	194	637	831	3.4
歯科口腔外科	7,211	1,882	9,093	37.3	7,273	1,961	9,234	38.5	5,556	1,633	7,189	36.0	6,296	1,897	8,193	33.7
遺伝子診療部					0	3	3	0.0	4	3	7	0.0	2	4	6	0.0
計	214,400	36,476	250,876	1,028.2	208,510	35,460	243,970	1,016.5	198,009	30,368	228,377	1,004.8	200,878	30,841	231,719	954
栗谷診療所	627	28	655	2.7	581	18	599	2.0	496	26	522	2.6	487	16	503	2.1
合 計	215,027	36,504	251,531	1,030.9	209,091	35,478	244,569	1,019.0	198,505	30,394	228,899	1,007	201,365	30,857	232,222	955.6

## 年度別入院患者数

科 別	平成30年度（診療日数365日）				平成31年度（診療日数366日）				令和2年度（診療日数365日）				令和3年度（診療日数365日）			
	入院	退院	計	1日当	入院	退院	計	1日当	入院	退院	計	1日当	入院	退院	計	1日当
内 科	3,349	4,187	52,316	143.3	3,187	3,935	52,538	143.5	3,157	3,810	44,569	149.1	3,318	3,903	42,829	117.3
精神科・心療内科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
小 児 科	517	522	3,148	8.6	490	496	3,020	8.3	366	365	2,001	10.4	313	311	1,496	4.1
外科・乳腺外科	1,474	1,586	18,874	51.7	1,495	1,632	21,791	59.5	1,437	1,549	18,196	61.4	1,246	1,335	16,862	46.2
整 形 外 科	1,213	1,336	16,997	46.6	1,147	1,327	18,312	50.0	1,098	1,240	15,580	55.6	1,174	1,298	16,948	46.4
形 成 外 科	69	70	845	2.3	76	76	718	2.0	56	59	713	2.7	54	54	442	1.2
脳神経外科	456	594	11,810	32.4	512	680	14,051	38.4	376	511	10,444	32.5	361	504	9,146	25.1
呼吸器外科	284	345	5,970	16.4	277	325	5,836	15.9	319	341	4,734	13.9	292	312	4,492	12.3
心臓・血管外科	410	457	11,123	30.5	429	465	10,336	28.2	424	462	7,782	28.7	397	410	7,779	21.3
皮 膚 科	196	214	2,528	6.9	154	179	2,001	5.5	142	161	2,021	4.7	109	133	1,901	5.2
泌 尿 器 科	893	978	8,428	23.1	978	1,089	9,796	26.8	988	1,069	8,163	26.3	967	1,039	7,331	20.1
産 婦 人 科	1,078	1,087	8,865	24.3	960	975	8,541	23.3	941	954	6,971	29.8	873	881	6,670	18.3
眼 科	494	491	1,388	3.8	439	436	1,818	5.0	373	379	1,286	3.9	350	346	1,136	3.1
耳鼻咽喉科	383	421	4,177	11.4	499	522	5,687	15.5	383	406	3,625	13.4	394	427	3,569	9.8
放射線治療科	64	69	1,891	5.2	61	64	2,334	6.4	25	30	740	5.1	12	14	342	0.9
麻 酔 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
救急麻酔科	2,295	796	5,804	15.9	2,155	697	5,640	15.4	1,842	582	4,122	16.7	1,686	586	5,407	14.8
画像診断部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
歯科口腔外科	113	108	1,401	3.8	108	114	1,408	3.8	95	96	821	4.2	64	64	613	1.7
計	13,285	13,261	155,563	426.2	12,967	13,012	163,827	447.6	12,022	12,014	131,768	458.3	11,873	11,884	128,805	352.9

# 平均在院日数

## 2021年度 月別 診療科別 平均在院日数

(単位：日数)

科別	月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内科		13.7	13.5	14.0	13.8	14.4	12.2	12.9	13.5	13.1	15.3	13.7	15.3
小児科		4.3	4.5	4.9	4.9	3.5	4.9	4.5	4.9	5.8	4.7	5.4	7.3
外科		17.3	15.6	15.8	16.0	15.0	12.7	13.5	14.0	13.1	13.5	15.0	15.5
整形外科		12.3	14.8	13.4	12.8	13.9	13.3	12.9	12.3	12.9	16.1	14.6	17.9
形成外科		13.3	17.4	7.4	4.3	5.6	12.5	8.8	8.0	4.3	32.0	7.3	5.9
乳腺外科		7.1	6.9	6.9	7.6	6.2	8.8	6.8	8.5	6.1	6.4	7.3	6.3
脳神経外科		20.7	17.9	15.4	28.1	27.8	24.2	25.0	19.0	16.6	21.1	17.7	22.5
呼吸器外科		15.5	16.0	16.6	14.0	13.2	16.3	17.1	15.7	12.6	14.2	14.9	12.0
心臓血管外科		18.8	22.4	16.7	13.9	15.9	19.1	20.3	19.5	17.3	20.8	23.0	27.2
皮膚科		13.1	19.3	15.0	23.0	23.4	12.5	13.1	11.8	15.4	12.1	9.3	16.9
泌尿器科		9.8	13.3	9.1	8.6	8.9	9.0	7.4	8.7	9.8	10.5	11.0	9.7
産婦人科		8.3	9.4	9.9	9.1	7.5	8.5	8.5	8.3	8.5	8.2	9.5	8.7
眼科		4.5	4.6	5.2	4.4	5.3	5.6	4.4	4.9	4.5	5.7	4.0	5.5
耳鼻咽喉科		6.7	7.7	8.6	9.7	9.2	10.5	11.0	10.3	8.8	8.3	6.6	8.1
放射線治療科		38.0	24.7	38.0	20.0	78.0	25.3	20.0	40.0	10.0	32.0		
歯科口腔外科		8.2	17.3	4.8	6.8	5.7	6.9	12.2	24.6	9.5	8.6	4.0	6.0
緩和ケア科		#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
総合診療科		18.4	12.0	9.6	13.1	21.7	19.4	9.3	6.7	15.3	12.0	14.0	10.0
救急科・麻酔科		4.7	4.5	3.8	4.3	5.1	5.0	3.8	5.1	4.5	6.2	5.5	6.1
計		11.9	12.6	11.8	11.6	12.0	11.8	11.5	11.9	11.3	12.9	12.2	13.5

## 2021年度 月別 病棟別 平均在院日数

(単位：日数)

科別	月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
西 病 棟	3 F	16.6	7.3	10.5	10.6	14.3	14.4	11.0	9.9	12.0	14.1	13.0	10.2
	4 F	7.6	7.9	7.9	7.6	6.8	8.3	7.3	8.1	7.3	8.1	8.3	7.7
	5 F	11.0	14.1	12.7	12.4	13.5	11.7	11.6	11.9	12.6	14.5	12.8	16.7
	6 F	15.1	14.9	13.9	13.9	13.4	11.5	11.8	12.1	10.4	12.6	13.2	13.1
	7 F	12.7	10.7	11.9	12.5	10.8	9.8	10.4	12.2	12.0	12.0	11.1	14.3
	8 F	2.7	3.3	2.9	5.2	2.5	3.8	3.9	3.3	3.6	3.3	3.4	2.5
	救命	2.7	2.5	2.5	2.6	2.5	2.9	2.9	3.1	2.6	2.8	2.7	3.4
東 病 棟	3 F	10.7	12.8	11.2	11.0	14.2	10.1	11.6	11.6	11.8	14.3	11.6	13.6
	4 F	6.9	8.2	6.1	6.1	6.8	7.1	5.8	6.9	6.6	7.4	7.4	7.6
	5 F	14.4	12.1	10.8	14.0	15.5	17.4	16.4	14.4	12.3	17.5	10.6	16.1
	6 F	23.2	10.9	6.7	14.9	5.9	3.7	10.0	4.7	11.5	6.8	11.1	8.4
	7 F	16.3	15.9	17.1	13.1	14.9	17.0	17.0	15.5	13.3	17.9	19.1	18.9
計		10.9	11.3	10.6	10.5	10.8	10.5	10.2	10.6	10.0	11.6	10.9	12.2

資料

# 地域医療支援病院紹介率・逆紹介率

2021年度  
地域医療支援病院紹介率（月別）

月別	紹介率
4月	93.2%
5月	92.5%
6月	92.6%
7月	94.9%
8月	91.2%
9月	93.4%
10月	97.5%
11月	97.1%
12月	95.7%
1月	94.3%
2月	94.3%
3月	93.5%
計	94.2%

2021年度  
地域医療支援病院逆紹介率（月別）

月別	逆紹介率
4月	97.2%
5月	102.3%
6月	107.9%
7月	112.1%
8月	106.6%
9月	120.6%
10月	114.5%
11月	111.6%
12月	105.2%
1月	116.5%
2月	127.3%
3月	121.3%
計	111.6%

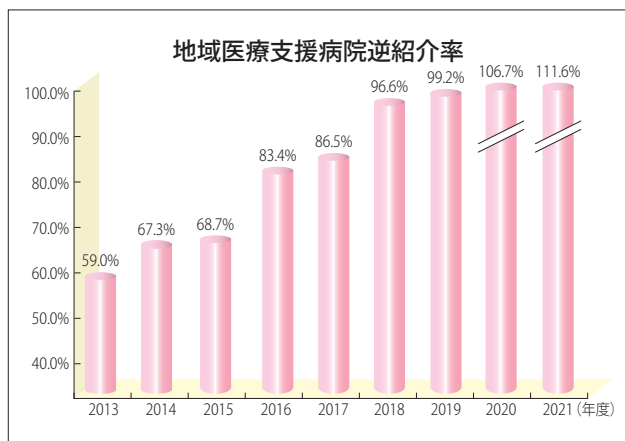
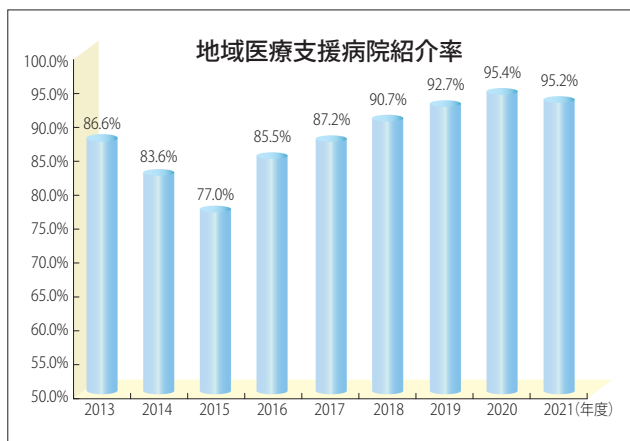
2021年度  
地域医療支援病院紹介率（診療科別）

科 別	紹介率
総合診療科	62.0%
精神・心療内科	#DIV/0!
呼吸器内科	78.4%
循環器内科	95.5%
腎臓内科	93.8%
糖尿病代謝内科・糖尿病センター	96.5%
消化器内科	96.1%
小児科	68.1%
外科	104.3%
整形外科	113.3%
形成外科	102.5%
乳腺外科	103.1%
脳神経外科	102.2%
呼吸器外科	61.5%
心臓血管外科	57.7%
皮膚科	95.8%
泌尿器科	87.9%
産婦人科	85.3%
眼科	116.7%
耳鼻咽喉科	96.6%
放射線治療科	100.0%
麻酔科	21.4%
リウマチ・膠原病科	100.0%
画像診断部	100.2%
歯科口腔外科	52.5%
神経内科	96.4%
緩和ケア科	#DIV/0!
救急・集中治療科	137.1%
合計	94.2%

2021年度  
地域医療支援病院逆紹介率（診療科別）

科 別	逆紹介率
総合診療科	56.9%
精神・心療内科	#DIV/0!
呼吸器内科	159.6%
循環器内科	212.3%
腎臓内科	284.6%
糖尿病代謝内科・糖尿病センター	475.1%
消化器内科	126.2%
小児科	21.6%
外科	200.4%
整形外科	98.7%
形成外科	18.3%
乳腺外科	194.1%
脳神経外科	213.4%
呼吸器外科	266.0%
心臓血管外科	142.7%
皮膚科	35.8%
泌尿器科	50.5%
産婦人科	28.3%
眼科	279.6%
耳鼻咽喉科	47.8%
放射線治療科	185.0%
麻酔科	14.3%
リウマチ・膠原病科	59.0%
画像診断部	129.7%
歯科口腔外科	64.2%
神経内科	225.0%
緩和ケア科	#DIV/0!
救急・集中治療科	-1070.1%
合計	111.6%

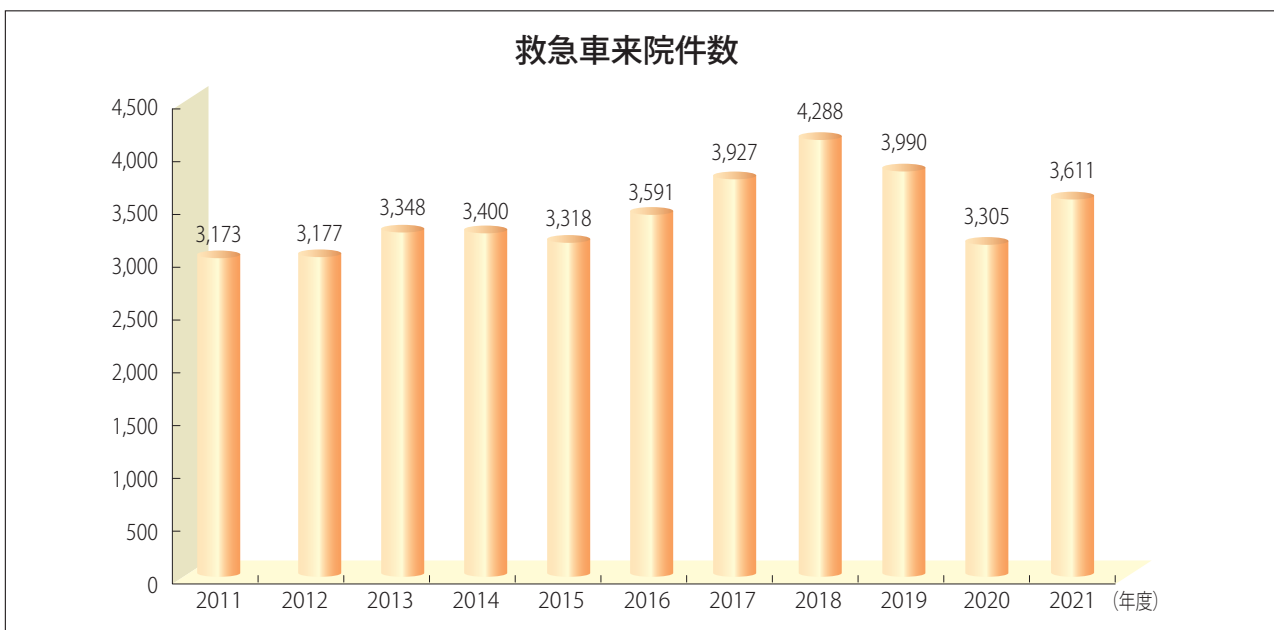
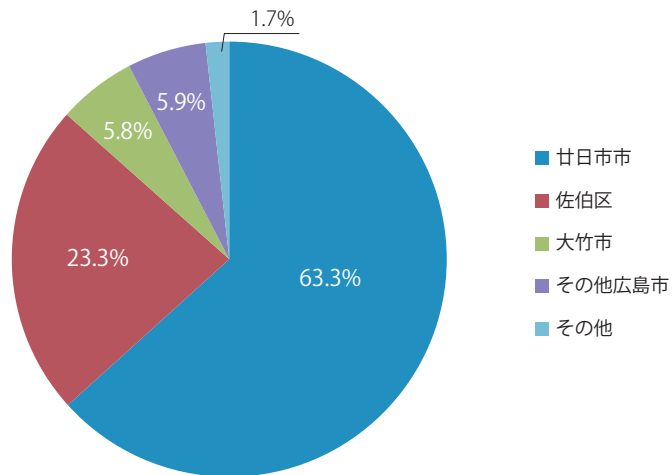
資料



# 救急車来院件数

2021年度  
救急車来院件数（管轄別）

2021年度	
廿日市市	2,286
佐伯区	840
大竹市	210
その他広島市	212
その他	63
計	3,611



資料



# 医療行為統計表

## 2021年度 医療行為統計表

【手術件数】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
内 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小 児 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
精 神 診 療 内 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外 科	90	82	69	71	106	83	84	94	90	86	80	91	1,026
整 形 外 科	100	96	121	121	119	105	120	125	126	101	101	112	1,347
形 成 外 科	10	10	14	15	12	11	13	13	13	7	9	15	142
脳 神 経 治 療 科	9	10	11	7	13	21	7	7	10	11	9	12	127
産 婦 人 科	42	29	36	46	31	33	38	22	36	35	30	31	409
眼 科	49	47	44	48	51	40	50	58	52	42	41	38	560
耳 鼻 咽 喉 科	16	12	10	15	23	17	14	15	18	12	12	18	182
皮 膚 科	14	12	18	19	16	15	9	16	12	14	14	16	175
泌 尿 器 科	50	48	46	39	38	39	49	41	44	39	39	37	509
歯 科 口 腔 外 科	6	2	1	3	5	6	5	5	7	3	3	7	53
救 急 科 ・ 麻 酔 科	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	2
放 射 線 治 療 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
画 像 診 断 部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
心 臓 血 管 外 科	25	21	21	19	14	25	17	20	16	19	17	31	245
呼 吸 器 外 科	22	12	12	14	9	16	16	15	12	14	15	19	176
乳 腺 外 科	14	12	19	15	14	17	10	11	11	13	11	19	166
計	447	393	422	432	451	429	432	442	447	396	381	447	5,119
手術(外来件数)(再掲)	36	38	37	35	40	26	32	40	40	28	27	36	415
( 口 腔 外 科 )	(54)	(73)	(108)	(85)	(117)	(86)	(92)	(93)	(70)	(113)	(112)	(129)	(1132)
ア ン ギ オ 室 手 術	2	3	3	5	10	7	5	6	8	4	4	2	59
内 視 鏡 下 手 術 ( V P P )	146	107	89	100	130	120	126	114	117	116	116	128	1409
全 身 麻 酔 件 数	333	289	314	319	346	324	343	332	341	298	301	352	3,892

【放射線業務】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
一 般 撮 影	3,387	2,984	3,589	3,577	3,688	3,583	3,610	3,576	3,567	3,769	3,302	3,653	42,285
パ ン ト モ	153	116	163	140	165	138	144	135	115	148	149	137	1,703
骨 密 度 測 定	101	80	94	108	95	86	106	102	108	108	110	137	1,235
造 影 透 視 撮 影	106	66	97	90	103	86	96	96	86	82	64	73	1,045
上 部 消 化 管	36	53	106	140	158	89	95	93	80	66	59	55	1,030
注 腸	3	3	2	1	3	1	0	4	1	3	2	1	24
血 管 連 続 撮 影	55	46	55	47	46	39	53	52	55	43	46	39	576
心 臓 血 管 連 続 撮 影	71	64	46	58	39	51	54	48	52	60	43	49	635
C T 各 科	1,743	1,575	1,747	1,803	1,737	1,783	1,864	1,822	1,920	1,760	1,710	1,999	21,463
C T 画 診	31	29	37	22	17	25	29	30	22	28	22	24	316
M R I	599	536	668	632	645	634	669	638	695	567	515	623	7,421
R I	124	93	133	117	122	134	113	140	110	114	26	38	1,264
リニアック(件数)	434	383	436	390	396	407	417	582	443	380	552	457	5,277
リニアック(門数)	2,025	1,666	1,906	1,686	1,751	1,742	1,869	2,483	1,840	1,667	2,150	2,125	22,910

【検査業務】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
心 電 図 検 査	1,665	1,486	1,527	1,591	1,540	1,494	1,691	1,643	1,604	1,605	1,469	1,703	19,018
ト レ ッ ド ミ ル	2	1	3	4	1	1	3	3	2	0	1	1	22
ホ ル タ ー 型	60	35	44	40	52	49	66	55	41	43	42	56	583
心 臓 エ コ ー	659	542	589	550	563	584	617	600	611	568	539	642	7,064
脳 波	22	12	18	31	41	16	20	12	27	24	21	37	281
肺 機 能 検 査	120	85	112	143	142	105	94	112	106	102	80	131	1,332
神 経 伝 達 速 度 ・ 電 流 知 覚 閾 値 測 定	187	139	164	136	144	141	117	136	135	137	131	181	1,748
重 心 動 揺 検 査	3	1	2	3	4	1	2	3	4	1	4	1	29
サ ー モ グ ラ フ ィ ー 検 査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脈 波 図 ・ 心 電 図 ・ ポ リ グ ラ フ 検 査	258	229	255	220	211	225	252	225	238	244	223	32	2,612
体 液 量 測 定	126	110	109	121	114	102	129	111	112	117	122	153	1,426
病 理 組 織 検 査	1,122	969	1,186	1,123	1,084	1,167	1,219	1,100	1,301	1,020	980	573	12,844
解 剖 件 数	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3

【薬剤業務】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	
外 来	処 方 箋 枚 数	9,787	8,964	9,531	9,543	9,728	9,641	9,731	9,288	10,123	8,926	8,410	10,209	113,881
	剤 数 ( 件 数 )	29,496	26,623	28,898	28,587	29,096	28,532	28,938	27,947	30,414	27,279	26,494	31,271	343,575
	延 べ 剤 数	973,159	846,267	920,124	892,097	922,566	902,202	914,001	864,901	964,696	828,763	812,113	1,005,469	10,846,358
入 院	処 方 箋 枚 数	9,466	8,633	9,514	9,256	10,003	9,585	9,492	9,159	9,217	9,099	8,945	9,751	112,120
	剤 数 ( 件 数 )	16,394	14,633	15,902	16,165	17,048	16,511	16,895	16,618	15,940	16,190	15,311	17,039	194,646
	延 べ 剤 数	100,069	87,721	91,983	99,637	95,361	89,370	94,620	98,601	93,400	95,973	86,761	95,189	1,128,685
栗 診 療 所	服 薬 指 導 件 数	437	424	494	485	497	538	540	567	508	555	495	503	6,043
	処 方 箋 枚 数	23	48	51	35	52	43	38	46	36	37	36	41	486
	剤 数 ( 件 数 )	110	271	256	173	236	204	191	240	206	196	183	195	2,461
延 べ 剤 数	2,656	6,842	6,572	2,453	6,224	4,855	4,999	6,416	5,766	5,500	5,026	5,358	62,667	

【その他業務】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
在宅療法指導	65	57	50	59	59	59	77	81	72	73	64	75	791
分娩	29	32	36	42	24	26	34	27	30	30	33	34	377
その他分娩	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2
腎尿管結石破砕	13	13	14	14	13	19	7	14	11	9	7	4	138
化学療法件数(外来)	505	481	512	502	522	500	514	453	486	460	451	498	5,884
化学療法件数(入院)	85	79	88	78	67	82	69	77	70	87	77	105	964
(超音波内訳)													
内 科	231	177	240	234	239	234	253	250	237	223	219	228	2,765
小 児 科	25	20	29	23	14	12	20	15	22	22	19	20	241
精神診療内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外 科	183	173	214	194	204	210	207	188	188	158	147	213	2,279
整形外科	15	14	25	22	18	15	28	22	34	13	17	27	250
脳神経外科	12	16	20	15	14	15	9	12	9	16	15	14	167
産婦人科	354	366	403	355	358	410	400	388	404	341	320	399	4,498
眼 科	0	1	0	0	1	1	0	0	2	0	1	2	8
耳鼻咽喉科	117	101	103	91	77	116	135	82	109	71	81	90	1,173
皮膚科	2	1	0	0	0	2	1	1	0	1	0	0	8
泌尿器科	173	122	176	159	190	181	163	145	142	136	119	190	1,896
歯科口腔外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
救急科・麻酔科	101	102	87	102	95	81	88	108	98	108	101	81	1,152
放射線治療科	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
画像診断部	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
心臓血管外科	39	16	8	6	9	8	5	11	5	8	7	2	124
呼吸器外科	2	2	0	2	1	2	0	2	0	5	0	2	18
健康管理課	51	80	197	205	204	255	258	249	254	225	211	130	2,319
超音波診断計	1,309	1,192	1,502	1,408	1,424	1,542	1,567	1,473	1,504	1,327	1,257	1,398	16,903

【内視鏡業務】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
胃ファイバー検査 内科	255	211	232	231	197	242	267	230	263	202	206	227	2,763
胃ファイバー検査 ドック	84	113	197	180	223	231	248	222	229	186	181	132	2,226
気管支ファイバー検査	12	11	14	10	22	13	15	16	16	15	10	12	166
大腸ファイバー検査	138	110	117	133	124	120	149	142	129	112	92	118	1,484
上部止血(消化管止血術)	16	12	24	22	16	22	17	16	21	25	22	28	241
EVL(食道静脈瘤血紮術)	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	2	1	6
PEG(胃瘻造設術)	3	1	5	3	4	9	6	6	6	3	1	7	54
上部EMR(粘膜切除)、ESD	5	9	13	10	10	10	8	10	6	14	8	7	110
下部ポリープ(ポリープ切除)	28	10	33	20	20	16	22	16	13	12	15	13	218
下部EMR(粘膜切除)	53	50	65	53	58	53	55	50	55	47	47	35	621
ERCP(膵胆管造影)、ERBD	6	5	1	2	2	1	4	5	3	3	2	3	37
E S T(乳頭切開術)	32	29	27	26	34	20	27	34	41	18	25	27	340

【リハビリテーション業務】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
消炎鎮痛等(器具)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
運動器リハビリテーション	768	843	859	882	773	766	767	824	816	759	898	1,084	10,039
脳血管疾患リハビリテーション	1,161	966	1,087	1,282	1,370	1,472	1,526	1,266	1,311	1,128	1,549	1,842	15,960
呼吸器リハビリテーション	512	417	620	478	535	547	479	480	422	514	616	681	6,301
疾患対象外	1,082	845	930	961	918	767	822	937	899	912	782	1,098	10,953
心大血管疾患リハビリテーション	600	476	497	514	496	514	573	543	676	471	490	699	6,549
A D L 加 算													0
早期リハ加算	2,066	1,738	2,015	2,287	2,218	2,437	2,485	2,456	2,321	2,094	881	2,640	25,638
リハビリテーション総合実施計画書	213	206	226	209	191	235	229	265	259	240	194	240	2,707
退院時リハビリ指導	92	76	77	72	65	79	71	77	91	62	69	67	898

【給食業務】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
常食	3,802	3,223	3,002	3,227	3,185	2,723	3,797	3,449	3,189	2,804	2,313	3,032	37,746
全粥	4,165	4,021	3,475	3,717	4,275	3,657	3,079	3,367	3,514	4,266	6,560	8,105	52,201
五分	41	34	81	88	127	159	37	26	20	89	14	33	749
三分	86	9	23	66	31	41	79	83	62	22	83	46	631
重湯	541	495	548	725	412	453	556	395	509	472	15	64	5,185
特別食	18,382	16,608	16,549	16,665	17,582	17,543	17,612	18,302	17,384	18,538	17,824	18,622	211,611
計	27,017	24,390	23,678	24,488	25,612	24,576	25,160	25,622	24,678	26,191	26,809	29,902	308,123

【栄養指導業務】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
外来栄養指導	189	165	178	184	161	156	166	173	182	171	156	195	2,076
入院栄養指導	107	86	86	79	67	85	76	75	111	91	78	88	1,029
集団栄養指導	1	0	0	0	0	1	2	1	1	0	3	1	10

# 医師科別人員／職員数

2021年度 医師科別人員

部署名		2021年4月
総合診療科		1
内科	呼吸器内科	4
	腎臓内科	4
	糖尿病代謝内科	4
	消化器科	11
	循環器内科	7
合計		31
小児科		6
外科		14
整形外科		7
脳神経外科		3
心臓血管外科		4
産婦人科		5
眼科		2
耳鼻科		3
皮膚科		6
泌尿器科		5
歯科		3
放射線治療科		1
画像診断部		6
麻酔科		10
救急・集中治療科		7
精神科		—
形成外科		1
呼吸器外科		4
健康管理科		1
臨床研究検査科		1
病理研究検査科		1
臨床研修医2年次		10
臨床研修医1年次		11
合計		142

職員数

区 分	2020年4月
医師	117
歯科医師	4
臨床研修医	21
専修医	—
医師部門計	142
助産師	32
保健師	118
看護師	519
准看護師	3
看護部門計	672
薬剤師	37
放射線技師	26
臨床検査技師	49
臨床工学技士	16
理学療法士	13
マッサージ師	—
作業療法士	5
管理栄養士	13
歯科衛生士	3
歯科技工士	—
視能訓練士	3
言語聴覚士	4
臨床心理士	1
社会福祉士	4
介護福祉士	—
医療技術部門計	174
事務	85
事務部門計	85
ボイラ技師	1
電気技師	1
運転手	—
調理師	—
保清員	—
保育士	—
看護助手	31
介護員	—
技術助手	6
労務部門計	39
出向	—
合計	1,112

# 学会施設認定

認定種別
日本内科学会認定内科専門医教育関連病院
日本内科学会認定内科専門医制度研修医指導
日本呼吸器学会教育関連施設
日本呼吸療法医学会呼吸療法専門医研修施設
日本消化器内視鏡学会認定指導施設
日本消化器病学会認定施設
日本肝臓学会認定施設
日本胆道学会指導施設
日本糖尿病学会認定教育施設
日本腎臓学会研修施設
日本透析医学会認定施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本小児科学会認定医制度研修施設
日本小児科学会小児科専門医研修施設
日本外科学会認定医制度修練施設
日本外科学会外科専門医制度修練施設
日本外科感染症学会外科周術期感染管理教育施設
日本肝胆膵外科学会認定肝胆膵外科高度技能専門医修練施設 B
日本消化器外科学会専門医修練施設証
日本大腸肛門病学会関連施設
日本乳癌学会認定医・専門医制度認定施設
乳房再建用エキスパンダー・インプラント実施施設
日本脳神経外科学会指定専門医訓練施設
日本脳卒中学会認定研修教育病院
日本整形外科学会認定医制度研修施設
日本整形外科学会専門医制度研修施設
日本脊椎脊髄病学会 椎間板酵素注入療法実施可能施設
日本胸部外科学会（認定医）指定施設
三学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設
日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設
日本皮膚科学会認定専門医研修施設
日本泌尿器科学会専門医教育施設

認定種別
日本眼科学会専門医制度研修施設
日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設
日本女性医学学会専門医制度認定研修施設
日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
日本気管食道科学会専門医研修施設
日本麻酔科学会認定病院
日本ペインクリニック学会ペインクリニック専門医指定研修施設
日本救急医学会認定救急科専門医指定施設
日本集中治療医学会専門医研修施設
日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関
日本老年医学会認定施設
日本呼吸器外科学会指導医制度基幹施設
呼吸器外科専門医制度関連施設
日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設
日本放射線腫瘍学会準認定施設
日本口腔外科学会専門医制度研修機関
日本がん治療認定医機構認定研修施設
日本病態栄養学会認定「栄養管理・NST 実施施設」
日本栄養療法推進協議会認定 NST 稼働施設
日本静脈経腸栄養学会認定 NST 稼働施設
マンモグラフィ検診精度管理中央委員会認定マンモグラフィ検診施設
日本高血圧学会専門医認定施設
PEG・在宅医療研究会専門胃瘻造設施設・管理施設
人間ドック健診施設機能評価認定施設
腹部ステントグラフト実施施設
胸部ステントグラフト実施施設
下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術の実施基準による実施施設
日本脈管学会認定研修指定施設
日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設
日本膵臓学会指導施設
緩和医療専門薬剤師研修施設
日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師研修施設

# 編集後記

2021年度のJA広島総合病院“Annual Report”が完成いたしました。

2021年度の日本における最大のイベントは東京オリンピック・パラリンピック開催でした。2020年COVID-19感染により延期され、開催に関して国内で賛成・反対の意見が交錯する中での開催でした。いずれも無観客での開催となり応援のない中での競技でしたが、日本選手団はオリンピックで史上最多の58個、パラリンピックで史上2番目の51個のメダル獲得を果たしました。国民はテレビでの応援となりましたが、有観客であればどれほど盛り上がったかと考えると残念です。一方で後から明らかになった弁当廃棄や談合・贈収賄などを知ると何のための開催だったのかと考えさせられます。

その他のスポーツではなんと言っても松山英樹選手のマスターズ・トーナメント優勝が一番のビッグニュースです。中嶋常幸などテレビ実況中継放送席の全員が泣き、実況画面に鳴き声だけが流れた光景は感動的でした。女子でも笹生優花が全米女子オープンを制し、男女揃ってメジャー制覇となりました。陸上男子100mで広島出身の山縣亮太選手が日本記録を樹立し、大相撲では怪我と病気で序二段まで地位を下げた元大関照ノ富士が横綱昇進を成し遂げる快挙がありました。一方長年大相撲で抜群の強さを発揮した横綱白鵬が引退し、一時代の終わりを感させました。

脚本家の橋田壽賀子さん、「知の巨人」立花隆さん、“ゴルゴ13”のさいとう・たかをさん、落語家の柳家小三治さん、作家の瀬戸内寂聴さん、歌舞伎役者の中村吉右衛門さんなど2021年度も多くの方が亡くなりました。寂しい限りです。

2020年度から引き続いてのCOVID-19感染を振り返ると、2021年度は“アルファ株”による第4波で幕を開け、その後“アルファ株”より更に感染力の強い“デルタ株”が流行し第5派が生まれました。第5派では感染者の急増及び重症患者増加により自宅で亡くなる方の報告も相次ぎ、医療体制崩壊が叫ばれました。救急医療を担当スタッフの頑張りに依存してギリギリの状態でも運用してきた結果とも考えられます。第5波まで計4回発出された非常事態宣言は“オミクロン株”流行による第6波以降は発出されていません。厳しい行動制限は多くの弊害を生じましたが、その有効性についての効果検証や行動制限の必要性に関する検証はなされているのかよくわかりません。多くの政策が実施されますがその効果検証についての話はあまり聞いたことがなく従来から疑問に思っていました。私達は治療の効果検証をしっかりとしながら診療を進めたいと思っています。

取り留めない話を書き綴りましたが、本年も多くの方の御協力により年報が完成したことを感謝いたします。本年報が地域の方々に我々の診療の実際を知っていただく端緒となれば幸いです。

2023年3月  
年報編集委員会委員長  
辻山 修司

## 年報編集委員会

小林 平	柳井 環	新田 克己	小松 浩基
寺岡みゆき	折手 祐一	荒田 晋二	森下空青羽
中西 勇輝			

**JA広島総合病院 年報 2021年度**

令和5年6月 発行

発 行 広島県厚生農業協同組合連合会  
広島総合病院

広島県廿日市市地御前1-3-3

TEL 0829-36-3111

印 刷 株式会社 デルタプリント

JA 広島総合病院  
JA. HIROSHIMA General Hospital